

教 育 課 程 等 の 概 要															
（異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科 一般）															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
学部 必修 科目	基礎演習A	1前・後	2				○		8	2				オムニバス	
	基礎演習B	1前・後	2				○		8	2					
	異文化コミュニケーション研究入門	1前・後	2			○			13						
	Cultural Exchange	2前	2				○		1	2		4			
	小計（4科目）	—	8	0	0	—			13	6	0	4	0		—
学 び の 精 神	College Life Planning A	1前		2		○			1						
	College Life Planning B	1後		2		○						1			
	小計（2科目）	—	0	4	0	—			1	0	0	1	0		—
基 盤 科 目	コミュニケーションセミナー1（ドイツ語）	1前		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー1（フランス語）	1前		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー1（スペイン語）	1前		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー1（中国語）	1前		2			○					1			
	コミュニケーションセミナー1（朝鮮語）	1前		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー1（ロシア語）	1前		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー2（ドイツ語）	1後		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー2（フランス語）	1後		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー2（スペイン語）	1後		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー2（中国語）	1後		2			○					1			
	コミュニケーションセミナー2（朝鮮語）	1後		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー2（ロシア語）	1後		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー3A-R（英語）	2前		2			○			2		3		兼1	
	コミュニケーションセミナー3B-R（ドイツ語）	2前		4			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー3B-R（フランス語）	2前		4			○							兼2	
	コミュニケーションセミナー3B-R（スペイン語）	2前		4			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー3B-R（中国語）	2前		4			○					1			
	コミュニケーションセミナー3B-R（朝鮮語）	2前		4			○							兼1	
	Seminar in English A	1・2・3・4前		2			○						1		
	Seminar in English B	1・2・3・4後		2			○						1		
	Seminar in English C	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Seminar in English D	1・2・3・4後		2			○			1					
	Seminar in English E	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Seminar in English F	1・2・3・4後		2			○					1			
	Seminar in English G	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Seminar in English H	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	ドイツ語Lecture A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	ドイツ語Lecture B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	フランス語Lecture A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	フランス語Lecture B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	スペイン語Lecture A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	スペイン語Lecture B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	中国語Lecture A	1・2・3・4前		2			○					1			
	中国語Lecture B	1・2・3・4後		2			○					1			
	朝鮮語Lecture A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	朝鮮語Lecture B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	日本語コミュニケーションA	1前		2			○							兼1	
	日本語コミュニケーションB	1後		2			○							兼1	
	日本語コミュニケーションC	1前		2			○							兼1	
	日本語コミュニケーションD	1後		2			○							兼1	
	ビジネス日本語コミュニケーション演習	3後		2			○							兼1	

	キャリア実践演習A	3前		2			○							兼1	共同 共同
	キャリア実践演習B	3後		2			○							兼1	
	諸言語特別演習A	2・3・4後		2			○							兼1	
	諸言語特別演習B	2・3・4前		2			○							兼1	
	サービスマーケティングA	1・2・3・4前		2				○	1			1			
	サービスマーケティングB	1・2・3・4後		2				○	1			1			
	サービスマーケティングC	1・2・3・4後		2				○		1					
	海外フィールドスタディA	1・2・3・4後		2				○	1						
	海外フィールドスタディB	1・2・3・4後		2				○	1						
	国内フィールドスタディA	1・2・3・4前		2				○	1						
	国内フィールドスタディB	1・2・3・4後		2				○	1						
	海外インターンシップ(CIC)A	1・2・3・4後		2				○	1						
	海外インターンシップ(CIC)B	3・4後		2				○	1						
	インターンシップ	1・2・3・4後		2				○						兼1	
	海外留学研修A	2後		12				○	2	1					
	海外留学研修B	2後		14				○	2	1					
	海外留学研修C1	2後		12				○	2	1					
	海外留学研修C2	3前		12				○	2	1					
	Study Abroad in Asia A	2・3・4後		12				○	2	1					
	Study Abroad in Asia B	3・4前		12				○	2	1					
	留学、学びのデザイン、キャリア	3前		2			○			1					
	Japan Studies Program A	1・2・3・4後		4		○								兼1	
	Japan Studies Program B	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	Japan Studies Program C	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	Japan Studies Program D	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	Japan Studies Program E	1・2・3・4前		4		○								兼1	
	Japan Studies Program F	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	言語研究調査法	2・3・4後		2		○								兼1	
	異文化トレーニング演習	2・3・4前		2			○							兼1	
	コミュニケーション研究調査法	2・3・4前		2		○								兼1	
	フィールドワーク	2・3・4後		2			○			1					
	小計（72科目）	—	0	220	0	—			8	4	0	4	0	兼33	—
基礎科目	言語学概論	1・2前		2		○			1						兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
	英語学概論	1・2後		2		○									
	日本語学概論A	1前		2		○			1						
	日本語学概論B	1後		2		○									
	通訳翻訳学概論	1・2後		2		○					1				
	コミュニケーション研究概論	1・2後		2		○			1						
	異文化コミュニケーション概論	2前		2		○			1						
	メディアコミュニケーション概論	1・2後		2		○								兼1	
	国際協力・開発学概論	1・2後		2		○				1					
	文化人類学概論	1・2前		2		○				1					
	カルチュラル・スタディーズ概論	1・2後		2		○								兼1	
	グローバル化とジェンダー	1・2前		2		○			1						
	国際協力・紛争研究概論	1・2後		2		○			1						
	人間環境概論	1・2前		2		○			1						
	多文化共生概論	1・2後		2		○								兼1	
	グローバル化と宗教	1・2後		2		○				1					
	視覚芸術概論	1・2・3前		2		○			1						
	音楽学概論	1・2・3後		2		○			1						
	コンピュータ・リテラシー	1・2前		2			○							兼1	
	小計（19科目）	—	0	38	0	—			9	3	0	1	0	兼6	—

専門科目	心理言語学	3前	2	○										兼1
	社会言語学	3後	2	○										兼1
	認知言語学	3・4前	2	○					1					
	語用論	3前	2	○										兼1
	文化記号論	2・3・4前	2	○					1					
	第1言語習得理論	3前	2	○										兼1
	第2言語習得理論	3後	2	○										兼1
	バイリンガリズム研究	3前	2	○					1					
	英語教育学	2前	2	○										兼1
	英語コミュニケーション教育学	3前	2		○									兼1
	英語科教育研究	3後	2	○					1					
	外国語教育評価論	3後	2	○										兼1
	日本語学特論	3・4後	2	○										兼1
	日本語教授法A	2前	2	○					1					
	日本語教授法B	3前	2	○					1					
	日本語教育実習	3後	4			○			1					兼1
	コミュニケーション文法	3後	2	○										兼1
	言語研究特論	2・3・4後	2	○						1				
	通訳入門	2前	2		○				1					
	逐次通訳	3後	2		○									兼1
	同時通訳入門	4前	2		○									兼1
	翻訳入門	2前	2		○				1					
	翻訳応用実践1	3後	2		○									兼1
	翻訳応用実践2	4前	2		○									兼1
	通訳翻訳実習	4後	2			○					1			
	通訳翻訳特論	1・2・3・4前	2	○					1					
	非言語コミュニケーション論	1・2・3・4後	2	○						1				
	異文化コミュニケーション特論	3・4前	2	○					1					
	対人コミュニケーション論	3・4前	2	○										兼1
	集団コミュニケーション論	3・4後	2	○						1				
	説得コミュニケーション論	3・4前	2	○					1					
	グローバル社会とコミュニケーション	3・4後	2	○					1					
	コミュニケーション・テクノロジーと社会	3・4前	2	○										兼1
	コミュニケーション特論	3・4後	2	○										兼1
	グローバル文化研究特論	2・3・4前	2	○										兼1
	カルチュラル・スタディーズ特論	2・3・4前	2		○				1					
	グローバル化と思想	2・3・4後	2	○					1					
	宗教と文化	2・3・4後	2		○				1					
	エスニシティとナショナリズム	2・3・4前	2	○										兼1
	人と移動	2・3・4後	2	○						1				
	言語文化論	2・3・4前	2	○						1				
	グローバル化と言語	3・4後	2	○					1					
	多文化共生特論	2・3・4前	2		○									兼1
	国際協力・開発学特論	2・3・4前	2		○									兼1
	国際協力・紛争研究特論	2・3・4前	2		○				1					
	自然共生特論	2・3・4前	2		○									兼1
	人間環境特論	2・3・4後	2		○									兼1
	間文化研究	2・3・4前	2	○					1					
	音楽学特論	2・3・4前	2	○					1					
	視覚芸術特論	2・3・4後	2	○					1					
	英語圏文学論	2・3・4前	2	○					1					
	グローバル研究調査法	2・3・4後	2	○										兼1
	子どもの貧困	2・3・4前	2	○						1				
	国際協力とビジネス	2・3・4後	2	○					1					
	Teaching English to Speakers of Other Languages : Basic Principles	3・4前	2	○						1				
	Motivation in Language Learning	3・4後	2	○						1				
	Intercultural Communication in the Language Classroom	3・4後	2	○										兼1
	Communication and Citizenship	3・4前	2	○										兼1
	Transcultural Cinema	3・4前	2	○					1					

	Contemporary Culture in Japan	3・4前		2		○						1			
	Religion and Society in Asia	3・4後		2		○								兼1	
	Japan in Asia	3・4前		2		○								兼1	
	Ethnicity and Globalization In Japan	3・4前		2		○								兼1	
	Multiculturalism in Japan	3・4後		2		○								兼1	
	Language Policy and Multilingualism	3・4前		2		○								兼1	
	Social Movements and Social Change	3・4後		2		○								兼1	
	Advanced Seminar in Intercultural Communication	3・4前		4		○						1			
	Language and Identity	3・4後		4		○								兼1	
	International Organizations and Sustainability	3・4前		4		○				1					
	Gender and Communication	3・4後		4		○				1					
	Globalization and Media	3・4後		4		○						1			
	Special Topics in ICC	1・2・3・4休		2		○								兼1	
	小計（72科目）	—	0	156	0	—			19	6	0	3	0	兼30	—
専 門 演 習 ・ 卒 業 研 究 / 卒 業 課 題	専門演習1	3前後		2			○		21	9					
	専門演習2	4前後		2			○		21	9					
	専門演習3	4前後		2			○		21	9					
	卒業研究	4前後		4			○		21	9					
	卒業課題A	4前後		2			○		2						
	卒業課題B	4前後		2			○		2						
	小計（6科目）	—	0	14	0	—			21	9	0	0	0		—
「一般」学部専門科目合計（175科目）		—	8	432	0	—			21	9	0	4	0	兼66	

教 育 課 程 等 の 概 要															
（異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科 Dual Language Pathway (DLP) ）															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部 必修 科目	Academic Skills A	1前・後	2				○					2		オムニバス	
	Academic Skills B	1前・後	2				○					2			
	Overview of Intercultural Communication Studies	1前・後	2			○			13						
	Cultural Exchange	2前	2				○		1	2		4			
	小計（4科目）	—	8	0	0	—			13	2	0	4	0		—
学 び の 精 神	College Life Planning A	1前		2		○			1						
	College Life Planning B	1後		2		○						1			
	小計（2科目）	—	0	4	0	—			1	0	0	1	0		—
基 盤 科 目	Communication Seminar1 (German)	1前		2			○							兼1	
	Communication Seminar1 (French)	1前		2			○							兼1	
	Communication Seminar1 (Spanish)	1前		2			○							兼1	
	Communication Seminar1 (Chinese)	1前		2			○					1			
	Communication Seminar1 (Korean)	1前		2			○							兼1	
	Communication Seminar1 (Russian)	1前		2			○							兼1	
	Communication Seminar2 (German)	1後		2			○							兼1	
	Communication Seminar2 (French)	1後		2			○							兼1	
	Communication Seminar2 (Spanish)	1後		2			○							兼1	
	Communication Seminar2 (Chinese)	1後		2			○					1			
	Communication Seminar2 (Korean)	1後		2			○							兼1	
	Communication Seminar2 (Russian)	1後		2			○							兼1	
	Communication Seminar3A-R(English)	2前		2			○			2		3		兼1	
	Communication Seminar3B-R (German)	2前		4			○							兼1	
	Communication Seminar3B-R (French)	2前		4			○							兼2	
	Communication Seminar3B-R (Spanish)	2前		4			○							兼1	
	Communication Seminar3B-R (Chinese)	2前		4			○					1			
	Communication Seminar3B-R (Korean)	2前		4			○							兼1	
	Seminar in English A	1・2・3・4前		2			○						1		
	Seminar in English B	1・2・3・4後		2			○						1		
	Seminar in English C	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Seminar in English D	1・2・3・4後		2			○			1					
	Seminar in English E	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Seminar in English F	1・2・3・4後		2			○					1			
	Seminar in English G	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Seminar in English H	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	Lecture in German A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Lecture in German B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	Lecture in French A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Lecture in French B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	Lecture in Spanish A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Lecture in Spanish B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	Lecture in Chinese A	1・2・3・4前		2			○					1			
	Lecture in Chinese B	1・2・3・4後		2			○					1			
	Lecture in Korean A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Lecture in Korean B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	Overseas Study Program A	2後		12				○	2	1					
	Overseas Study Program B	2後		14				○	2	1					
	Overseas Study Program C1	2後		12				○	2	1					
	Overseas Study Program C2	3前		12				○	2	1					
	Study Abroad in Asia A	2・3・4後		12				○	2	1					

	Study Abroad in Asia B	3・4前		12				○	2	1						
	Study Abroad, Study Planning, and Career Development	3前		2				○		1						
	Communication Seminar (Intensive) A	2・3・4後		2				○							兼1	
	Communication Seminar (Intensive) B	2・3・4前		2				○							兼1	
	Service Learning A	1・2・3・4前		2				○	1			1			共同 共同	
	Service Learning B	1・2・3・4後		2				○	1			1				
	Service Learning C	1・2・3・4後		2				○		1						
	Overseas Field Studies A	1・2・3・4後		2				○	1							
	Overseas Field Studies B	1・2・3・4後		2				○	1							
	Domestic Field Studies A	1・2・3・4前		2				○	1							
	Domestic Field Studies B	1・2・3・4後		2				○	1							
	Overseas Internship (CIC)A	1・2・3・4後		2				○	1							
	Overseas Internship (CIC)B	3・4後		2				○	1							
	Japan Studies Program A	1・2・3・4後		4		○									兼1	
	Japan Studies Program E	1・2・3・4前		4		○									兼1	
	Japan Studies Program F	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	Research Methods in Language Studies	2・3・4後		2		○									兼1	
	Seminar in Intercultural Training	2・3・4前		2			○								兼1	
	Research Methods in Communication Studies	2・3・4前		2		○									兼1	
	Fieldwork	2・3・4後		2			○			1						
	Japanese Communication A	1前		2			○								兼1	
	Japanese Communication B	1後		2			○								兼1	
	Japanese Communication C	1前		2			○								兼1	
	Japanese Communication D	1後		2			○								兼1	
	Seminar in Japanese Language Business Communication	3後		2			○								兼1	
	小計 (66科目)	—	0	208	0	—			8	4	0	4	0		兼29	—
基礎 科目	Introduction to Linguistics	1・2前		2		○									兼1	
	Introduction to the Study of English	1・2後		2		○			1							
	Introduction to Translation and Interpreting Studies	1・2後		2		○						1				
	Introduction to Communication	1・2前		2		○				1						
	Introduction to Intercultural Communication	1・2後		2		○						1				
	Introduction to Media Communication	1・2後		2		○									兼1	
	Introduction to International Development and Cooperation	1・2前		2		○									兼1	
	Introduction to Cultural Anthropology	1・2後		2		○									兼1	
	Introduction to Cultural Studies	1・2前		2		○						1				
	Globalization and Gender	1・2前		2		○									兼1	
	小計 (10科目)	—	0	20	0	—			1	1	0	3	0		兼5	—
専門 科目 (D L P 科目)	Psycholinguistics	3前		2		○									兼1	
	Sociolinguistics	3後		2		○									兼1	
	Cognitive Linguistics	3・4前		2		○			1							
	Pragmatics	3前		2		○									兼1	
	Theories of Second Language Acquisition	3後		2		○									兼1	
	Bilingualism	3前		2		○			1							
	Measurement and Evaluation in Language Education	3後		2		○									兼1	
	Teaching English to Speakers of Other Languages : Basic Principles	3・4前		2		○				1						
	Motivation in Language Learning	3・4後		2		○				1						
	Intercultural Communication in the Language Classroom	3・4後		2		○									兼1	
	Introduction to Interpreting	2前		2			○		1							
	Consecutive Interpreting	3後		2			○								兼1	
	Introduction to Simultaneous Interpreting	4前		2			○								兼1	
	Introduction to Translation	2前		2			○		1							
	Intermediate Translation 1	3後		2			○								兼1	
	Intermediate Translation 2	4前		2			○								兼1	
	Translation and Interpreting Practicum	4後		2				○				1				
	Topics in Translation and Interpreting	1・2・3・4前		2		○			1							
	Communication and Citizenship	3・4前		2		○									兼1	
	Transcultural Cinema	3・4前		2		○			1							
	Contemporary Culture in Japan	3・4前		2		○						1				
	Religion and Society in Asia	3・4後		2		○									兼1	

	Japan in Asia	3・4前		2		○								兼1	
	Ethnicity and Globalization In Japan	3・4前		2		○								兼1	
	Multiculturalism in Japan	3・4後		2		○								兼1	
	Language Policy and Multilingualism	3・4前		2		○								兼1	
	Social Movements and Social Change	3・4後		2		○								兼1	
	Advanced Seminar in Intercultural Communication	3・4前		4		○					1				
	Language and Identity	3・4後		4		○								兼1	
	International Organizations and Sustainability	3・4前		4		○				1					
	Gender and Communication	3・4後		4		○				1					
	Globalization and Media	3・4後		4		○						1			
	Special Topics in ICC	1・2・3・4休		2		○								兼1	
	小計（33科目）	—	0	76	0	—			6	3	0	3	0	兼18	—
専門科目 （一般科目）	文化記号論	2・3・4前		2		○			1						
	第1言語習得理論	3前		2		○								兼1	
	英語教育学	2前		2		○								兼1	
	英語コミュニケーション教育学	3前		2			○							兼1	
	英語科教育研究	3後		2		○			1						
	日本語学特論	3・4後		2		○								兼1	
	日本語教授法A	2前		2		○			1						
	日本語教授法B	3前		2		○			1						
	日本語教育実習	3後		4				○	1					兼1	
	コミュニケーション文法	3後		2		○								兼1	
	言語研究特論	2・3・4後		2		○				1					
	非言語コミュニケーション論	1・2・3・4後		2		○				1					
	異文化コミュニケーション特論	3・4前		2		○			1						
	対人コミュニケーション論	3・4前		2		○								兼1	
	集団コミュニケーション論	3・4後		2		○				1					
	説得コミュニケーション論	3・4前		2		○			1						
	グローバル社会とコミュニケーション	3・4後		2		○			1						
	コミュニケーション・テクノロジーと社会	3・4前		2		○								兼1	
	コミュニケーション特論	3・4後		2		○								兼1	
	グローバル文化研究特論	2・3・4前		2		○								兼1	
	カルチュラル・スタディーズ特論	2・3・4前		2			○		1						
	グローバル化と思想	2・3・4後		2		○			1						
	宗教と文化	2・3・4後		2			○		1						
	エスニシティとナショナリズム	2・3・4前		2		○								兼1	
	人と移動	2・3・4後		2		○				1					
	言語文化論	2・3・4前		2		○				1					
	グローバル化と言語	3・4後		2		○			1						
	多文化共生特論	2・3・4前		2			○							兼1	
	国際協力・開発学特論	2・3・4前		2			○							兼1	
	国際協力・紛争研究特論	2・3・4前		2			○		1						
	自然共生特論	2・3・4前		2			○							兼1	
	人間環境特論	2・3・4後		2			○							兼1	
	間文化研究	2・3・4前		2		○			1						
	音楽学特論	2・3・4前		2		○			1						
	視覚芸術特論	2・3・4後		2		○			1						
	英語圏文学論	2・3・4前		2		○			1						
	グローバル研究調査法	2・3・4後		2		○								兼1	
	子どもの貧困	2・3・4前		2		○				1					
	国際協力とビジネス	2・3・4後		2		○			1						
	小計（39科目）	—	0	80	0	—			15	6	0	0	0	兼14	—
専門演習・卒業研究／卒業課題	Advanced Seminar 1	3前後		2			○		21	9					
	Advanced Seminar 2	4前後		2			○		21	9					
	Advanced Seminar 3	4前後		2			○		21	9					
	Senior Research and Thesis	4前後		4			○		21	9					
	Senior Project A	4前後		2			○		2						
	Senior Project B	4前後		2			○		2						
	小計（6科目）	—	0	14	0	—			21	9	0	0	0		—

自由科目	Basic Seminar A	2前		2			○					1			
	ベーシックセミナーA	1後		2			○		1						
	ベーシックセミナーB	2前		2			○		1						
	Basic Seminar B	2後		2			○					1			
	小計（4科目）	—	0	8	0	—			2	0	0	2	0		—
「DLP」学部専門科目合計（164科目）		—	8	410	0	—			21	9	0	4	0	兼62	

教 育 課 程 等 の 概 要															
（異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科 Transitional Bilingual Program in CIC (TBP)）															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
学部 必修 科目	Academic Skills A	1前・後	2				○					2		オムニバス	
	Academic Skills B	1前・後	2				○					2			
	Overview of Intercultural Communication Studies	1前・後	2			○			13						
	Cultural Exchange	2前	2				○		1	2		4			
	小計（4科目）	—	8	0	0	—			13	2	0	4	0		—
学び の 精 神	College Life Planning A	1前		2		○			1						
	College Life Planning B	1後		2		○						1			
	小計（2科目）	—	0	4	0	—			1	0	0	1	0		—
基 盤 科 目	コミュニケーションセミナー1（ドイツ語）	1前		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー1（フランス語）	1前		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー1（スペイン語）	1前		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー1（中国語）	1前		2			○					1			
	コミュニケーションセミナー1（朝鮮語）	1前		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー1（ロシア語）	1前		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー2（ドイツ語）	1後		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー2（フランス語）	1後		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー2（スペイン語）	1後		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー2（中国語）	1後		2			○					1			
	コミュニケーションセミナー2（朝鮮語）	1後		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー2（ロシア語）	1後		2			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー3A-R(英語)	2前		2			○			2		3		兼1	
	コミュニケーションセミナー3B-R（ドイツ語）	2前		4			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー3B-R（フランス語）	2前		4			○							兼2	
	コミュニケーションセミナー3B-R（スペイン語）	2前		4			○							兼1	
	コミュニケーションセミナー3B-R（中国語）	2前		4			○					1			
	コミュニケーションセミナー3B-R（朝鮮語）	2前		4			○							兼1	
	Seminar in English A	1・2・3・4前		2			○						1		
	Seminar in English B	1・2・3・4後		2			○						1		
	Seminar in English C	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Seminar in English D	1・2・3・4後		2			○			1					
	Seminar in English E	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Seminar in English F	1・2・3・4後		2			○					1			
	Seminar in English G	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Seminar in English H	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	ドイツ語Lecture A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	ドイツ語Lecture B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	フランス語Lecture A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	フランス語Lecture B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	スペイン語Lecture A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	スペイン語Lecture B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	中国語Lecture A	1・2・3・4前		2			○					1			
	中国語Lecture B	1・2・3・4後		2			○					1			
	朝鮮語Lecture A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	朝鮮語Lecture B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	日本語コミュニケーションA	1前		2			○							兼1	
	日本語コミュニケーションB	1後		2			○							兼1	
	日本語コミュニケーションC	1前		2			○							兼1	
	日本語コミュニケーションD	1後		2			○							兼1	
	ビジネス日本語コミュニケーション演習	3後		2			○							兼1	

	キャリア実践演習A	3前		2			○							兼1	共同 共同
	キャリア実践演習B	3後		2			○							兼1	
	諸言語特別演習A	2・3・4後		2			○							兼1	
	諸言語特別演習B	2・3・4前		2			○							兼1	
	サービスマーケティングA	1・2・3・4前		2				○	1			1			
	サービスマーケティングB	1・2・3・4後		2				○	1			1			
	サービスマーケティングC	1・2・3・4後		2				○		1					
	海外フィールドスタディA	1・2・3・4後		2				○	1						
	海外フィールドスタディB	1・2・3・4後		2				○	1						
	国内フィールドスタディA	1・2・3・4前		2				○	1						
	国内フィールドスタディB	1・2・3・4後		2				○	1						
	海外インターンシップ(CIC)A	1・2・3・4後		2				○	1						
	海外インターンシップ(CIC)B	3・4後		2				○	1						
	インターンシップ	1・2・3・4後		2				○						兼1	
	海外留学研修A	2後		12				○	2	1					
	海外留学研修B	2後		14				○	2	1					
	海外留学研修C1	2後		12				○	2	1					
	海外留学研修C2	3前		12				○	2	1					
	Study Abroad in Asia A	2・3・4後		12				○	2	1					
	Study Abroad in Asia B	3・4前		12				○	2	1					
	留学、学びのデザイン、キャリア	3前		2			○			1					
	Japan Studies Program A	1・2・3・4後		4		○								兼1	
	Japan Studies Program B	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	Japan Studies Program C	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	Japan Studies Program D	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	Japan Studies Program E	1・2・3・4前		4		○								兼1	
	Japan Studies Program F	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	言語研究調査法	2・3・4後		2		○								兼1	
	異文化トレーニング演習	2・3・4前		2			○							兼1	
	コミュニケーション研究調査法	2・3・4前		2		○								兼1	
	フィールドワーク	2・3・4後		2			○			1					
	小計（72科目）	—	0	220	0	—			8	4	0	4	0	兼33	—
基礎科目	Introduction to Linguistics	1・2前		2		○								兼1	
	Introduction to the Study of English	1・2後		2		○			1						
	Introduction to Translation and Interpreting Studies	1・2後		2		○						1			
	Introduction to Communication	1・2前		2		○				1					
	Introduction to Intercultural Communication	1・2後		2		○						1			
	Introduction to Media Communication	1・2後		2		○								兼1	
	Introduction to International Development and Cooperation	1・2前		2		○								兼1	
	Introduction to Cultural Anthropology	1・2後		2		○								兼1	
	Introduction to Cultural Studies	1・2前		2		○						1			
	Globalization and Gender	1・2前		2		○								兼1	
	日本語学概論A	1前		2		○			1						
	日本語学概論B	1後		2		○								兼1	
	国際協力・紛争研究概論	1・2後		2		○			1						
	人間環境概論	1・2前		2		○			1						
	多文化共生概論	1・2後		2		○								兼1	
	グローバル化と宗教	1・2後		2		○				1					
	視覚芸術概論	1・2・3前		2		○			1						
	音楽学概論	1・2・3後		2		○			1						
	コンピュータ・リテラシー	1・2前		2			○							兼1	
	小計（19科目）	—	0	38	0	—			6	2	0	3	0	兼8	—

専門科目	心理言語学	3前	2	○										兼1
	社会言語学	3後	2	○										兼1
	認知言語学	3・4前	2	○					1					
	語用論	3前	2	○										兼1
	文化記号論	2・3・4前	2	○					1					
	第1言語習得理論	3前	2	○										兼1
	第2言語習得理論	3後	2	○										兼1
	バイリンガリズム研究	3前	2	○					1					
	英語教育学	2前	2	○										兼1
	英語コミュニケーション教育学	3前	2		○									兼1
	英語科教育研究	3後	2	○					1					
	外国語教育評価論	3後	2	○										兼1
	日本語学特論	3・4後	2	○										兼1
	日本語教授法A	2前	2	○					1					
	日本語教授法B	3前	2	○					1					
	日本語教育実習	3後	4			○			1					兼1
	コミュニケーション文法	3後	2	○										兼1
	言語研究特論	2・3・4後	2	○						1				
	通訳入門	2前	2		○				1					
	逐次通訳	3後	2		○									兼1
	同時通訳入門	4前	2		○									兼1
	翻訳入門	2前	2		○				1					
	翻訳応用実践1	3後	2		○									兼1
	翻訳応用実践2	4前	2		○									兼1
	通訳翻訳実習	4後	2			○					1			
	通訳翻訳特論	1・2・3・4前	2	○					1					
	非言語コミュニケーション論	1・2・3・4後	2	○						1				
	異文化コミュニケーション特論	3・4前	2	○					1					
	対人コミュニケーション論	3・4前	2	○										兼1
	集団コミュニケーション論	3・4後	2	○						1				
	説得コミュニケーション論	3・4前	2	○					1					
	グローバル社会とコミュニケーション	3・4後	2	○					1					
	コミュニケーション・テクノロジーと社会	3・4前	2	○										兼1
	コミュニケーション特論	3・4後	2	○										兼1
	グローバル文化研究特論	2・3・4前	2	○										兼1
	カルチュラル・スタディーズ特論	2・3・4前	2		○				1					
	グローバル化と思想	2・3・4後	2	○					1					
	宗教と文化	2・3・4後	2		○				1					
	エスニシティとナショナリズム	2・3・4前	2	○										兼1
	人と移動	2・3・4後	2	○						1				
	言語文化論	2・3・4前	2	○						1				
	グローバル化と言語	3・4後	2	○					1					
	多文化共生特論	2・3・4前	2		○									兼1
	国際協力・開発学特論	2・3・4前	2		○									兼1
	国際協力・紛争研究特論	2・3・4前	2		○				1					
	自然共生特論	2・3・4前	2		○									兼1
	人間環境特論	2・3・4後	2		○									兼1
	間文化研究	2・3・4前	2	○					1					
	音楽学特論	2・3・4前	2	○					1					
	視覚芸術特論	2・3・4後	2	○					1					
	英語圏文学論	2・3・4前	2	○					1					
	グローバル研究調査法	2・3・4後	2	○										兼1
	子どもの貧困	2・3・4前	2	○						1				
	国際協力とビジネス	2・3・4後	2	○					1					
	Teaching English to Speakers of Other Languages : Basic Principles	3・4前	2	○						1				
	Motivation in Language Learning	3・4後	2	○						1				
	Intercultural Communication in the Language Classroom	3・4後	2	○										兼1
	Communication and Citizenship	3・4前	2	○										兼1
	Transcultural Cinema	3・4前	2	○					1					

	Contemporary Culture in Japan	3・4前		2		○						1			
	Religion and Society in Asia	3・4後		2		○								兼1	
	Japan in Asia	3・4前		2		○								兼1	
	Ethnicity and Globalization In Japan	3・4前		2		○								兼1	
	Multiculturalism in Japan	3・4後		2		○								兼1	
	Language Policy and Multilingualism	3・4前		2		○								兼1	
	Social Movements and Social Change	3・4後		2		○								兼1	
	Advanced Seminar in Intercultural Communication	3・4前		4		○						1			
	Language and Identity	3・4後		4		○								兼1	
	International Organizations and Sustainability	3・4前		4		○				1					
	Gender and Communication	3・4後		4		○				1					
	Globalization and Media	3・4後		4		○						1			
	Special Topics in ICC	1・2・3・4休		2		○								兼1	
	小計（72科目）	—	0	156	0	—			19	6	0	3	0	兼30	—
専門演習・卒業研究／卒業課題	専門演習1	3前後		2			○		21	9					
	専門演習2	4前後		2			○		21	9					
	専門演習3	4前後		2			○		21	9					
	卒業研究	4前後		4			○		21	9					
	卒業課題A	4前後		2			○		2						
	卒業課題B	4前後		2			○		2						
小計（6科目）		—	0	14	0	—			21	9	0	0	0		—
「TBP」学部専門科目合計（175科目）		—	8	432	0	—			21	9	0	4	0	兼68	

教 育 課 程 等 の 概 要															
（異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科 Proactive, Ethical, Able, Collaborative, Engaged Program (PEACE) CIC）															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学 び の 精 神	College Life Planning A	1前		2		○			1						
	College Life Planning B	1後		2		○						1			
	小計（2科目）	—	0	4	0	—			1	0	0	1	0		—
学 部 必 修 科 目	Academic Skills A	1前・後	2				○					2			オムニバス
	Academic Skills B	1前・後	2				○					2			
	Overview of Language and Communication Studies	1前	2			○			13						
	Overview of Global Studies	1後	2			○			1						
	Cultural Exchange	2前	2				○		1	2		4			
	小計（5科目）	—	10	0	0	—			13	2	0	4	0		—
P E A C E 選 択 科 目	Humanities Studies 1	2・3・4		2		○								兼1	
	Humanities Studies 2	2・3・4		2		○								兼1	
	Humanities Studies 3	2・3・4		2		○								兼1	
	Humanities Studies 4	2・3・4		2		○						1			
	Humanities Studies 5	2・3・4		2		○						1			
	Humanities Studies 6	2・3・4		2		○						1			
	Humanities Lecture 1	2・3・4		2		○								兼1	
	Humanities Lecture 2	2・3・4		2		○						1			
	Japanese Economy 1	1・2・3・4		2		○			1						
	Japanese Economy 2	1・2・3・4		2		○			1						
	Japanese Economic History 1	1・2・3・4		2		○			1						
	Japanese Economic History 2	1・2・3・4		2		○			1						
	Sociological Studies A	2・3・4前		2		○								兼1	
	Sociological Studies B	2・3・4前		2		○								兼1	
	Sociological Studies C	2・3・4後		2		○								兼1	
	Sociological Studies D	2・3・4後		2		○								兼1	
	Sociology of Gender A	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	Cultural Anthropology A	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	Torts	1・2・3・4		2		○								兼1	
	Comparative Family Law	2・3・4		2		○								兼1	
	Introduction to Legal Studies A	1・2・3・4		2		○								兼1	
	Introduction to Legal Studies B	1・2・3・4		2		○								兼1	
	Contract A	1・2・3・4		2		○				1					
	Contract B	1・2・3・4		2		○				1					
	Comparative Constitutional Law	2・3・4		2		○				1					
	Criminal Procedure	2・3・4		2		○								兼2	
	Financial Statement Analysis	3・4		2		○			1						
	Tourism Study 1 (Business)	2・3・4		2		○			1						
	Tourism Study 2 (Society)	2・3・4		2		○						1			
	Tourism Study 3 (Destination)	2・3・4		2		○								兼1	
	Tourism Study 4 (Culture)	2・3・4		2		○						1			
	Global Society and Local Communities	2・3・4		2		○								兼1	
	Specialized Psychology Lecture	2・3・4		2		○				1					
	Cultural Psychology	2・3・4		2		○								兼1	
	Accounting(Introductory) 1	2・3・4前		2		○			1						
	Accounting(Introductory) 2	2・3・4後		2		○			1						
	Finance(Introductory) 1	2・3・4前		2		○			1						
	Finance(Introductory) 2	2・3・4後		2		○			1						
	小計（38科目）	—	0	76	0	—			4	2	0	2	0	兼15	—

基 盤 科 目	Communication Seminar1 (German)	1前		2			○							兼1	
	Communication Seminar1 (French)	1前		2			○							兼1	
	Communication Seminar1 (Spanish)	1前		2			○							兼1	
	Communication Seminar1 (Chinese)	1前		2			○				1				
	Communication Seminar1 (Korean)	1前		2			○							兼1	
	Communication Seminar1 (Russian)	1前		2			○							兼1	
	Communication Seminar2 (German)	1後		2			○							兼1	
	Communication Seminar2 (French)	1後		2			○							兼1	
	Communication Seminar2 (Spanish)	1後		2			○							兼1	
	Communication Seminar2 (Chinese)	1後		2			○				1				
	Communication Seminar2 (Korean)	1後		2			○							兼1	
	Communication Seminar2 (Russian)	1後		2			○							兼1	
	Communication Seminar3B-R (German)	2前		4			○							兼1	
	Communication Seminar3B-R (French)	2前		4			○							兼2	
	Communication Seminar3B-R (Spanish)	2前		4			○							兼1	
	Communication Seminar3B-R (Chinese)	2前		4			○				1				
	Communication Seminar3B-R (Korean)	2前		4			○							兼1	
	Lecture in German A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Lecture in German B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	Lecture in French A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Lecture in French B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	Lecture in Spanish A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Lecture in Spanish B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	Lecture in Chinese A	1・2・3・4前		2			○				1				
	Lecture in Chinese B	1・2・3・4後		2			○				1				
	Lecture in Korean A	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	Lecture in Korean B	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	Service Learning C	1・2・3・4後		2				○		1					
	Overseas Field Studies A	1・2・3・4後		2				○	1						
	Overseas Field Studies B	1・2・3・4後		2				○	1						
	Domestic Field Studies A	1・2・3・4前		2				○	1						
	Domestic Field Studies B	1・2・3・4後		2				○	1						
	Overseas Internship (CIC)A	1・2・3・4後		2				○	1						
	Overseas Internship (CIC)B	3・4後		2				○	1						
	Study Abroad, Study Planning, and Career Development	3前		2			○			1					
	Japan Studies Program A	1・2・3・4後		4		○								兼1	
	Japan Studies Program E	1・2・3・4前		4		○								兼1	
	Japan Studies Program F	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	Japanese Communication A	1前		2			○							兼1	
	Japanese Communication B	1後		2			○							兼1	
	Japanese Communication C	1前		2			○							兼1	
	Japanese Communication D	1後		2			○							兼1	
	Seminar in Japanese Language Business Communication	3後		2			○							兼1	
	Career Skills Development A	3前		2			○							兼1	
	Career Skills Development B	3後		2			○							兼1	
	小計 (45科目)	—	0	104	0	—			4	1	0	1	0	兼20	—
基 礎 科 目	Introduction to Linguistics	1・2前		2		○								兼1	
	Introduction to the Study of English	1・2後		2		○			1						
	Introduction to Translation and Interpreting Studies	1・2後		2		○						1			
	Introduction to Communication	1・2前		2		○				1					
	Introduction to Intercultural Communication	1・2後		2		○						1			
	Introduction to Media Communication	1・2後		2		○								兼1	
	Introduction to International Development and Cooperation	1・2前		2		○								兼1	
	Introduction to Cultural Anthropology	1・2後		2		○								兼1	
	Introduction to Cultural Studies	1・2前		2		○						1			
	Globalization and Gender	1・2前		2		○								兼1	
	小計 (10科目)	—	0	20	0	—			1	1	0	3	0	兼5	—

専門科目 D L P / 一 般	Psycholinguistics	3前		2		○								兼1	
	Sociolinguistics	3後		2		○								兼1	
	Cognitive Linguistics	3・4前		2		○			1						
	Pragmatics	3前		2		○								兼1	
	Theories of Second Language Acquisition	3後		2		○								兼1	
	Bilingualism	3前		2		○			1						
	Measurement and Evaluation in Language Education	3後		2		○								兼1	
	Teaching English to Speakers of Other Languages : Basic Principles	3・4前		2		○				1					
	Motivation in Language Learning	3・4後		2		○				1					
	Intercultural Communication in the Language Classroom	3・4後		2		○								兼1	
	Introduction to Interpreting	2前		2			○		1						
	Consecutive Interpreting	3後		2			○							兼1	
	Introduction to Simultaneous Interpreting	4前		2			○							兼1	
	Introduction to Translation	2前		2			○		1						
	Intermediate Translation 1	3後		2			○							兼1	
	Intermediate Translation 2	4前		2			○							兼1	
	Translation and Interpreting Practicum	4後		2				○				1			
	Topics in Translation and Interpreting	1・2・3・4前		2		○			1						
	Communication and Citizenship	3・4前		2		○								兼1	
	Transcultural Cinema	3・4前		2		○			1						
	Contemporary Culture in Japan	3・4前		2		○						1			
	Religion and Society in Asia	3・4後		2		○								兼1	
	Japan in Asia	3・4前		2		○								兼1	
	Ethnicity and Globalization In Japan	3・4前		2		○								兼1	
	Multiculturalism in Japan	3・4後		2		○								兼1	
	Language Policy and Multilingualism	3・4前		2		○								兼1	
	Social Movements and Social Change	3・4後		2		○								兼1	
	Advanced Seminar in Intercultural Communication	3・4前		4		○						1			
	Language and Identity	3・4後		4		○								兼1	
	International Organizations and Sustainability	3・4前		4		○				1					
	Gender and Communication	3・4後		4		○				1					
	Globalization and Media	3・4後		4		○						1			
	Special Topics in ICC	1・2・3・4休		2		○								兼1	
	文化記号論	2・3・4前		2		○			1						
	第1言語習得理論	3前		2		○								兼1	
	英語教育学	2前		2		○								兼1	
	英語コミュニケーション教育学	3前		2			○							兼1	
	英語科教育研究	3後		2		○			1						
	日本語学特論	3・4後		2		○								兼1	
	日本語教授法A	2前		2		○			1						
	日本語教授法B	3前		2		○			1						
	日本語教育実習	3後		4				○	1					兼1	
	コミュニケーション文法	3後		2		○								兼1	
	言語研究特論	2・3・4後		2		○				1					
	非言語コミュニケーション論	1・2・3・4後		2		○				1					
	異文化コミュニケーション特論	3・4前		2		○			1						
	対人コミュニケーション論	3・4前		2		○								兼1	
	集団コミュニケーション論	3・4後		2		○				1					
	説得コミュニケーション論	3・4前		2		○			1						
	グローバル社会とコミュニケーション	3・4後		2		○			1						
	コミュニケーション・テクノロジーと社会	3・4前		2		○								兼1	
	コミュニケーション特論	3・4後		2		○								兼1	
	グローバル文化研究特論	2・3・4前		2		○								兼1	
	カルチュラル・スタディーズ特論	2・3・4前		2			○		1						
	グローバル化と思想	2・3・4後		2		○			1						
	宗教と文化	2・3・4後		2			○		1						
	エスニシティとナショナリズム	2・3・4前		2		○								兼1	
	人と移動	2・3・4後		2		○				1					
	言語文化論	2・3・4前		2		○				1					

	グローバル化と言語	3・4後		2		○			1						
	多文化共生特論	2・3・4前		2			○							兼1	
	国際協力・開発学特論	2・3・4前		2			○							兼1	
	国際協力・紛争研究特論	2・3・4前		2			○		1						
	自然共生特論	2・3・4前		2			○							兼1	
	人間環境特論	2・3・4後		2			○							兼1	
	間文化研究	2・3・4前		2		○			1						
	音楽学特論	2・3・4前		2		○			1						
	視覚芸術特論	2・3・4後		2		○			1						
	英語圏文学論	2・3・4前		2		○			1						
	グローバル研究調査法	2・3・4後		2		○								兼1	
	子どもの貧困	2・3・4前		2		○				1					
	国際協力とビジネス	2・3・4後		2		○			1						
	小計（72科目）	—	0	156	0	—			19	6	0	3	0	兼30	—
専門演習・卒業研究／卒業課題	Advanced Seminar 1	3前後		2			○		21	9					
	Advanced Seminar 2	4前後		2			○		21	9					
	Advanced Seminar 3	4前後		2			○		21	9					
	Senior Research and Thesis	4前後		4			○		21	9					
	Senior Project A	4前後		2			○		2						
	Senior Project B	4前後		2			○		2						
	小計（6科目）	—	0	14	0	—			21	9	0	0	0		—
「PEACE」学部専門科目合計（178科目）		—	10	374	0	—			21	9	0	4	0	兼66	

教育課程等の概要															
（異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科 全学共通科目）															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学 共通 科目	学 び の 精 神	世界史の中のキリスト教	1・2・3・4前	2		○			1					兼4	オムニバス
		思想を生み出すキリスト教	1・2・3・4前・後	2		○								兼4	
		美術の中のキリスト教	1・2・3・4前・後	2		○								兼4	
		音楽の中のキリスト教	1・2・3・4前	2		○								兼2	
		文学を生み出すキリスト教	1・2・3・4前	2		○								兼3	
		国際社会の中の宗教	1・2・3・4前	2		○								兼4	
		現代社会の中の宗教 1	1・2・3・4前・後	2		○								兼3	
		現代社会の中の宗教 2	1・2・3・4前・後	2		○								兼4	
		人文学からの学び（文学）	1・2・3・4前・後	2		○								兼5	
		人文学からの学び（思想・教育）	1・2・3・4前・後	2		○								兼3	
		人文学からの学び（史学）	1・2・3・4前	2		○								兼3	
		芸術への扉	1・2・3・4前	2		○								兼3	
		グローバル経済社会を考える	1・2・3・4前・後	2		○								兼4	
		社会学からの学び	1・2・3・4前	2		○								兼1	
		学びの場としての社会	1・2・3・4後	2		○								兼1	
		メディアからみる学び	1・2・3・4前	2		○								兼1	
		法と政治の世界	1・2・3・4前	2		○								兼3	
		経営学への招待	1・2・3・4前・後	2		○								兼4	
		現代社会と観光	1・2・3・4前	2		○								兼4	
		現代社会の諸相	1・2・3・4前	2		○								兼4	
		自然科学の探究	1・2・3・4前・後	2		○								兼17	
		身体科学からの学び	1・2・3・4前・後	2		○								兼4	集中
		現代心理学からの学び	1・2・3・4前・後	2		○								兼3	
		アジア地域での平和構築	1・2・3・4前・後	2		○								兼3	
		グローバル社会での平和構築	1・2・3・4前	2		○								兼3	
		大学生の学び・社会で学ぶこと	1・2・3・4前・後	2		○								兼3	
		人権とジェンダー	1・2・3・4前	2		○								兼2	
		ライフマネジメントと学生生活	1・2・3・4前	2		○								兼2	
		立教大学の歴史	1・2・3・4前・後	2		○								兼3	
		西欧キリスト教社会における大学の誕生	1・2・3・4前・後	2		○								兼2	
		キャリアデザイン	1・2・3・4前	2		○								兼3	
		キリスト教史に学ぶ多文化共生	1・2・3・4前・後	2		○								兼4	
		美と生命について：キリスト教の美学	1・2・3・4前・後	2		○								兼4	
		愛について：キリスト教の倫理と哲学	1・2・3・4前・後	2		○								兼2	
		教養の扉をひらく	1・2・3・4後	2		○								兼1	
		Economy and Society	1・2・3・4前	2		○								兼1	
		University Education in the World	1・2・3・4前	2		○								兼1	集中
		多文化共生社会と大学—やさしい日本語	1・2・3・4後	4		○								兼1	
		Image Studies	1・2・3・4前	2		○								兼1	
		英語によるビジネスコミュニケーション入門	1・2・3・4前	2		○								兼1	
		GL101	1・2・3・4前	2			○							兼18	
		小計（41科目）	—	0	84	0	—		1	0	0	0	0	兼130	—

全学共通科目	多彩な学び 1 人間の探究	聖書と人間	1・2・3・4後		2		○								兼4	
		聖書考古学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		ジェンダーとキリスト教	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		イスラームの世界	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		「宗教」とは何か	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		現代社会と人間	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		哲学への扉	1・2・3・4前		2		○								兼2	
		論理的思考法	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		教育と人間	1・2・3・4後		2		○								兼2	
		歴史への扉	1・2・3・4前・後		2		○								兼5	
		地域研究への扉	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		多文化の世界	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		文化を生きる	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		人権思想の根源	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		手話と人権を考える	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		点字から考える人権	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		アジアの文化とことば	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		ヨーロッパの文化とことば	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		ラテンアメリカの文化とことば	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		ロシア・東欧の文化とことば	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		中東の文化とことば	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		アフリカの文化とことば	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		イタリアの文化とことば	1・2・3・4後		2		○								兼2	
		ドイツ語圏の文化	1・2・3・4前		2		○								兼2	
		フランス語圏の文化	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		スペイン語圏の文化	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		中国語圏の文化	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		朝鮮語圏の文化	1・2・3・4後		2		○								兼2	
		教育学への扉	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		現代社会における言葉の持つ意味	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		立教ゼミナール 1	1・2・3・4前・後		2			○							兼3	
		立教ゼミナール発展編 1	1・2・3・4前・後		2			○							兼2	
		睡眠文化論	1・2・3・4後		2		○								兼2	オムニバス
		ボランティア論	1・2・3・4前		2		○								兼2	オムニバス
		哲学対話 in RIKKYO	1・2・3・4前・後		2		○								兼6	オムニバス
		仏教の世界	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		日本の宗教	1・2・3・4後		2		○								兼2	
		日本文化と精神性	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		立教学院とポール・ラッシュ	1・2・3・4前		2		○								兼3	オムニバス
		ジェンダー・宗教・社会	1・2・3・4後		2		○								兼2	オムニバス
		多文化共生社会と日本—やさしい日本語	1・2・3・4後		4		○			1						
		Japanese Ethnology	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		World History	1・2・3・4前・後		4		○								兼1	
		Religions in Asia	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		Peace and Human Rights 1	1・2・3・4前・後		1		○								兼1	
		Peace and Human Rights 2	1・2・3・4前・後		1		○								兼1	
		International Humanities 1	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		International Humanities 2	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		Introduction to Gender Studies	1・2・3・4後		2			○				1			兼1	
		小計 (49科目)	—	0	100	0	—			1	0	0	1	0	兼83	—
全学共通科目	多彩な学び 2 社会への視点	入門・経済教室	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		統計情報で社会・経済を診断する	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		景気・格差問題と統計情報	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		法と社会	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		政治と社会	1・2・3・4後		2		○								兼2	
		グローバル社会における法と政治	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		現代のビジネスを学ぶ	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		企業と社会	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		現代社会と環境	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		情報と倫理	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		メディアと人間	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		文化と社会	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		現代社会の解説	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		いのちの尊厳と福祉を考える	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		コミュニティをデザインする	1・2・3・4前・後		2		○								兼3	
		観光学への誘い	1・2・3・4後		2		○								兼2	
		異文化コミュニケーションを考える	1・2・3・4前・後		2		○			1	1					
		シティズンシップを考える	1・2・3・4後		2		○								兼2	
		デモクラシーとリベラルアーツ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		大学と現代社会	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		世界の中のロシア	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		ドイツ語圏の社会	1・2・3・4後		2		○			1					兼1	
		フランス語圏の社会	1・2・3・4前・後		2		○			1					兼2	
		スペイン語圏の社会	1・2・3・4前・後		2		○			1					兼1	
		中国語圏の社会	1・2・3・4前・後		2		○			1					兼1	
		朝鮮語圏の社会	1・2・3・4前・後		2		○			1					兼1	

	社会調査入門	1・2・3・4前	2		○									兼1	
	社会調査の技法	1・2・3・4後	2		○									兼1	
	データ分析入門	1・2・3・4前	2		○									兼1	
	データの科学	1・2・3・4後	2		○									兼1	
	多変量解析入門	1・2・3・4後	2		○									兼1	
	Introduction to Statistics 1	1・2・3・4前	2		○									兼2	
	Introduction to Statistics 2	1・2・3・4後	2		○									兼2	
	国際情勢を読み解く	1・2・3・4前	2		○									兼1	
	パレスチナ問題の歴史と現在	1・2・3・4後	2		○									兼1	
	立教ゼミナール 2	1・2・3・4前・後	2				○			1				兼6	
	立教ゼミナール発展編 2	1・2・3・4前・後	2				○							兼8	
	RSLゼミナール	1・2・3・4後	2				○							兼1	
	Nativeと学ぶ社会開発	1・2・3・4後	2		○									兼2	オムニバス
	立教OBOGの「社長の履歴書」	1・2・3・4後	2		○									兼2	オムニバス
	グローバルシティ・ソウルを読み解く	1・2・3・4後	2		○									兼3	オムニバス
	Knowledge, Design, and Innovation	1・2・3・4前	2		○									兼2	オムニバス
	グローバル資本主義とジェンダー	1・2・3・4後	2		○									兼2	オムニバス
	大衆演劇の世界	1・2・3・4後	2		○				1					兼7	オムニバス、集中
	SDGs×AI×経済×法	1・2・3・4前	2		○									兼3	オムニバス
	世界経済と日本	1・2・3・4前・後	2		○									兼2	
	日本国憲法	1・2・3・4前・後	2		○									兼3	
	近代日本社会と人権	1・2・3・4前・後	2		○									兼2	
	日本の「多文化」政策を問い直す	1・2・3・4後	2		○					1				兼1	
	Modern Japanese History 1	1・2・3・4前	2				○							兼1	
	Modern Japanese History 2	1・2・3・4前	2				○							兼1	
	Japanese Politics and Economy 1	1・2・3・4前	2				○							兼1	
	Japanese Politics and Economy 2	1・2・3・4後	2				○							兼1	
	Japanese Relations in Asia 1	1・2・3・4前	2				○							兼1	
	Japanese Relations in Asia 2	1・2・3・4後	2				○							兼1	
	Japanese Society 1	1・2・3・4後	2				○							兼2	
	Japanese Society 2	1・2・3・4後	2				○							兼1	
	Tokyo Studies	1・2・3・4前・後	2				○							兼2	
	Humans and Other Animals	1・2・3・4前	2		○									兼1	
	Food Cultures and the Acceptance of Japanese Food in the World	1・2・3・4後	2		○									兼1	
	Political Sociology	1・2・3・4前	4		○									兼2	
	Economic Thought	1・2・3・4後	4		○									兼1	
	University in Modern Society	1・2・3・4前	2		○									兼1	
	Career and University Education in the Global World	3・4前	2		○									兼1	集中
	Business Communication	1・2・3・4後	2				○							兼1	
	Global and Japanese Political Economy 1	1・2・3・4後	2		○									兼1	
	Global and Japanese Political Economy 2	1・2・3・4前	2		○									兼1	
	Introduction to Multivariate Analysis	1・2・3・4後	2		○									兼1	
	Introduction to Sociology	1・2・3・4前	2		○									兼1	
	Introduction to the Social Survey	1・2・3・4前	2		○									兼1	
	Introduction to Tourism Studies	1・2・3・4前・後	2		○									兼2	
	Japanese Society and Culture 1	1・2・3・4前	2		○									兼1	
	Japanese Society and Culture 2	1・2・3・4後	2		○									兼1	
	Knowledge and Society 1	1・2・3・4前・後	1		○									兼1	
	Knowledge and Society 2	1・2・3・4前・後	1		○									兼1	
	Learning and Teaching Today 1	1・2・3・4前	1		○									兼1	
	Learning and Teaching Today 2	1・2・3・4前	1		○									兼1	
	SDGsと現代社会の課題とその関わり方入門	1・2・3・4後	2		○									兼1	
	Selected Topics in Intercultural Communication	1・2・3・4前	2				○			1					
	The Dignity of Life and Welfare	1・2・3・4後	2		○									兼1	
	Introduction to International Cooperation	1・2・3・4後	2		○					1				兼1	
	台湾から世界を考える	1・2・3・4前	2		○									兼2	オムニバス
	立教人から学ぶメディアの世界	1・2・3・4前	2		○									兼2	オムニバス
	小計 (83科目)	—	0	166	0	—			7	5	0	0	0	兼117	—

全学共通科目	多彩な学び 3 芸術・文化への招待	文学への扉	1・2・3・4前		2		○								兼5		
		表象文化	1・2・3・4前・後		2		○								兼6		
		美術の歴史	1・2・3・4前・後		2		○								兼3		
		美術と社会	1・2・3・4後		2		○								兼3		
		音楽の歴史	1・2・3・4前・後		2		○								兼2		
		音楽と社会	1・2・3・4後		2		○								兼2		
		美術論演習	1・2・3・4前・後		2				○						兼2		
		音楽論演習	1・2・3・4前・後		2				○						兼1		
		キリスト教美術	1・2・3・4後		2		○								兼1		
		キリスト教音楽	1・2・3・4後		2		○								兼2		
		都市と芸術	1・2・3・4後		2		○								兼1		
		建築と文化	1・2・3・4後		2		○								兼1		
		舞踊論	1・2・3・4前・後		2		○								兼1		
		映像と社会	1・2・3・4前・後		2		○								兼1		
		身体表現と哲学	1・2・3・4前・後		2		○								兼2		
		ドイツ語圏の文学	1・2・3・4後		2		○								兼2		
		フランス語圏の文学	1・2・3・4前・後		2		○								兼2		
		スペイン語圏の文学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1		
		中国語圏の文学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1		
		朝鮮語圏の文学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1		
		演芸の世界	1・2・3・4前		2		○							1	兼5	オムニバス	
		立教ゼミナール 3	1・2・3・4前・後		2				○						兼2		
		立教ゼミナール発展編 3	1・2・3・4前		2				○						兼1		
		日本の美術	1・2・3・4前・後		2		○								兼2		
		日本の音楽	1・2・3・4前・後		2		○								兼1		
		日本の演劇	1・2・3・4後		2				○						兼1		
		Japanese Culture 1	1・2・3・4前・後		2				○						兼2		
		Japanese Culture 2	1・2・3・4後		2				○						兼1		
		Japanese Arts A	1・2・3・4前・後		2		○								兼2		
		Japanese Arts B	1・2・3・4前・後		2		○								兼1		
		Literature and Society	1・2・3・4後		4		○								兼1		
		Culture and Fine Arts	1・2・3・4前		4		○								兼1		
		Exploring Children's Literature	1・2・3・4前		2		○								兼1		
		Techniques for Reading and Enjoying a Picturebook in English	1・2・3・4後		2		○								兼1		
		International Humanities 3	1・2・3・4前		2		○								兼1		
		The Psychology of Literature 1	1・2・3・4前・後		1		○								兼1		
		The Psychology of Literature 2	1・2・3・4前・後		1		○								兼1		
小計 (37科目)	—	0	76	0	—						4	0	0	0	0	兼60	—
全学共通科目	多彩な学び 4 心身への着目	認知・行動・身体	1・2・3・4前・後		2		○								兼3		
		心の科学	1・2・3・4前・後		2		○								兼3		
		パーソナリティの心理	1・2・3・4後		2		○								兼3		
		対人関係の心理	1・2・3・4前・後		2		○								兼3		
		心の健康	1・2・3・4前		2		○								兼2		
		身体パフォーマンス	1・2・3・4前・後		2		○								兼2		
		ストレスマネジメント	1・2・3・4前		2		○								兼1		
		癒しの科学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1		
		スポーツの科学	1・2・3・4前・後		2		○								兼2		
		健康の科学	1・2・3・4前・後		2		○								兼2		
		栄養の科学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1		
		アンチエイジングの科学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1		
		スポーツとメディア	1・2・3・4後		2		○								兼1		
		スポーツと社会	1・2・3・4前・後		2		○								兼2		
		スポーツと文化	1・2・3・4前・後		2		○								兼2		
		レジャー・レクリエーションと現代社会	1・2・3・4前		2		○								兼1		
		アウトドアの知恵に学ぶ	1・2・3・4前・後		2		○								兼1		
		立教ゼミナール 4	1・2・3・4後		2				○						兼2		
		立教ゼミナール発展編 4	1・2・3・4前・後		2				○						兼2		
		Japanese Mind	1・2・3・4前		2		○								兼1		
		Individual Differences in Psychology	1・2・3・4前・後		2		○								兼1		
		Applied Data Science with the focus on Sport and Wellness	1・2・3・4前		2				○						兼1		
		Health Science	1・2・3・4前		2		○								兼1		
Health and Wellness	1・2・3・4後		4		○								兼1				
Understanding Speech Sounds 1	1・2・3・4後		1		○								兼1				
Understanding Speech Sounds 2	1・2・3・4後		1		○								兼1				
いのちを健康で彩る智慧	1・2・3・4前		2		○								兼1	オムニバス			
小計 (27科目)	—	0	54	0	—						0	0	0	0	0	兼36	—

全学共通科目	多彩な学び 5 自然の理解	数学の世界	1・2・3・4前・後		2		○									兼4	
		宇宙の科学	1・2・3・4前・後		2		○									兼4	
		生命の科学	1・2・3・4前・後		2		○									兼5	
		物質の科学	1・2・3・4前・後		2		○									兼3	
		身近な物質の化学	1・2・3・4前・後		2		○									兼3	
		化学と自然	1・2・3・4前・後		2		○									兼3	
		行動の科学	1・2・3・4後		2		○									兼2	
		生命の歩み	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		地球の理解	1・2・3・4前・後		2		○									兼3	
		情報科学A	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		情報科学B	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		自然環境の保全	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		生物の多様性	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		地球環境の未来	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		自然と人間の共生	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		脳と心	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		オーダーメイド医療最前線	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		大学と科学技術	1・2・3・4前・後		2		○									兼2	
		化学と社会	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
		宇宙から地球の未来を考える	1・2・3後		2		○									兼1	
		立教ゼミナール5	1・2・3・4後		2			○								兼1	
		Science Studies	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		Nature of the Earth	1・2・3・4前		4		○									兼1	
		Understanding of Agricultural Science	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		Importance of Global Plant Health	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		Ecology:Environment and Sustainability 1	1・2・3・4後		1		○									兼1	
		Ecology:Environment and Sustainability 2	1・2・3・4後		1		○									兼1	
		カーボンニュートラル人材育成講座	1・2・3・4後		2		○									兼2	オムニバス
		小計 (28科目)	—	0	56	0	—			0	0	0	0	0	0	兼48	—
全学共通科目	多彩な学び 6 知識の現場	GL111	1・2・3・4後		2			○								兼2	
		GL102	1・2・3・4後		2			○								兼1	
		GL103	1・2・3・4後		2			○								兼1	
		GL104	1・2・3・4後		2			○								兼2	
		GL201	1・2・3・4後		2			○								兼2	
		GL202	1・2・3・4前		2			○								兼2	
		GL301	1・2・3前・後		2					○						兼1	集中
		GL302	1・2・3前		2					○						兼1	
		グローバル共通教養総論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		ソリューション・アプローチ (開発経済)	2・3・4前		2			○								兼1	
		ソリューション・アプローチ (強制移転・移住)	2・3・4前		2			○								兼1	
		グローバル・イシュー各論	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		ソリューション・アプローチ (人道支援)	2・3・4後		2			○								兼1	
		ソリューション・アプローチ (紛争と平和)	2・3・4後		2			○								兼1	
		アクティブ・リサーチ	2・3・4後		2					○						兼1	
		国連ユースボランティア	1・2・3・4後		12					○						兼1	
		陸前高田プロジェクト	1・2・3・4前		2					○						兼2	
		海外インターンシップ1	1・2・3後		1					○						兼1	集中
		海外インターンシップ2	1・2・3後		2					○						兼1	集中
		国内実践グローバルインターンシップ	1・2・3・4前・後		1					○						兼1	
		国際的協働のための国内インターンシップ	1・2・3・4後		2					○				1			
		ACEパートナー大学オンライン (SNU)	1・2・3・4後		2					○						兼1	
		ACEパートナー大学オンライン (PKU)	1・2・3・4後		2					○						兼1	
		ACEパートナー大学オンライン (NUS)	1・2・3・4後		2					○						兼1	
		ACEパートナー大学オンライン (RIK)	1・2・3・4後		2					○						兼1	
		RSLーコミュニティ (埼玉)	1・2・3・4後		2					○						兼1	
		RSLーコミュニティ (池袋)	1・2・3・4後		2					○						兼1	
		RSLーローカル (南魚沼)	1・2・3・4後		2					○						兼1	
		RSLーグローバルA	1・2・3・4後		2					○						兼1	
		RSLーグローバルB	1・2・3・4後		2					○						兼1	
		RSLーローカル (地域共生)	1・2・3・4前		2					○						兼1	
		RSLーグローバル (フィリピン)	1・2・3・4後		2					○						兼1	
		小計 (32科目)	—	0	72	0	—			1	0	0	0	0	0	兼20	—

全学共通科目	多彩な学び スポーツプログラム	スポーツプログラム1（バドミントン）	1・2・3・4前・後		1			○							兼2	
		スポーツプログラム1（はじめてのバレエ）	1・2・3・4前・後		1			○							兼2	
		スポーツプログラム1（ダンス（初級））	1・2・3・4後		1			○							兼1	
		スポーツプログラム2（トレーニング初級）	1・2・3・4前・後		1			○							兼1	
		スポーツプログラム3（卓球）	1・2・3・4後		1			○							兼1	
		スポーツプログラム3（バスケットボール）	1・2・3・4前		1			○							兼1	
		スポーツプログラム3（バレーボール）	1・2・3・4前・後		1			○							兼2	
		スポーツプログラム3（フラグフットボール）	1・2・3・4後		1			○							兼1	
		スポーツプログラム3（アルティメット）	1・2・3・4前		1			○							兼1	
		スポーツスタディ1（レクリエーションalsスポーツ）	1・2・3・4前・後		2			○							兼6	
		スポーツスタディ1（太極拳）	1・2・3・4前・後		2			○							兼2	
		スポーツスタディ1（日本文化と踊り）	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		スポーツスタディ1（はじめてのマラソン）	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		スポーツスタディ1（クライミング）	1・2・3・4前・後		2			○							兼3	
		スポーツスタディ1（バドミントン）	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		スポーツスタディ1（アダプテッドスポーツ）	1・2・3・4前・後		2			○							兼1	
		スポーツスタディ1（はじめての柔道（日本語））	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		スポーツスタディ1（はじめての柔道（英語））	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		スポーツスタディ1（ヒップホップ）	1・2・3・4前・後		2			○							兼1	
		スポーツスタディ1（はじめての器械運動）	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		スポーツスタディ2（トレーニング）	1・2・3・4前・後		2			○							兼2	
		スポーツスタディ2（ボディシェイプ）	1・2・3・4前・後		2			○							兼1	
		スポーツスタディ2（ウォーターエクササイズ）	1・2・3・4前・後		2			○							兼2	
		スポーツスタディ2（東洋のフィットネス）	1・2・3・4前・後		2			○							兼1	
		スポーツスタディ2（ダイエットフィットネス）	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		スポーツスタディ2（セルフケアエクササイズ）	1・2・3・4前・後		2			○							兼2	
		スポーツスタディ2（ボディコンディショニング）	1・2・3・4前・後		2			○							兼1	
		スポーツスタディ3（サッカー）	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		スポーツスタディ3（サッカー&フットサル）	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		スポーツスタディ3（フットサル）	1・2・3・4前・後		2			○							兼4	
		スポーツスタディ3（フットサル（インドア））	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		スポーツスタディ3（初心者向けサッカー・フットサル&フィットネス）	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		スポーツスタディ3（テニス）	1・2・3・4前・後		2			○							兼2	
		スポーツスタディ3（テニス（英語））	1・2・3・4前・後		2			○							兼1	
		スポーツスタディ3（ブラインドサッカー）	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		スポーツスタディ3（ゴルフ）	1・2・3・4前・後		2			○							兼2	
		スポーツスタディ3（卓球）	1・2・3・4前・後		2			○							兼1	
		スポーツスタディ3（バスケットボール）	1・2・3・4前・後		2			○							兼2	
		スポーツスタディ3（ソフトボール）	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		スポーツスタディ3（ハンドボール）	1・2・3・4前・後		2			○							兼2	
		スポーツスタディ4（ゴルフ）	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		スポーツスタディ4（クライミング）	1・2・3・4前・後		2			○							兼1	
		スポーツスタディ4（馬術）	1・2・3・4後		2			○							兼2	
		スポーツスタディ4（スキーA）	1・2・3・4後		2			○							兼2	
		スポーツスタディ4（スキーB）	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		スポーツスタディ4（はじめての和太鼓）	1・2・3・4前		2			○							兼2	
		スポーツスタディ4（ネイチャーキャンプ）	1・2・3・4前		2			○							兼2	
		スポーツスタディ e	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		小計（48科目）	—	0	87	0	—		0	0	0	0	0	0	兼52	—
（必修科目A／英語）	全学共通科目 言語系科目	英語ディスカッション	1前		1			○							兼140	
		英語ディベート	1後		1			○							兼108	
		英語リーディング&ライティング1（R）	1前		1			○							兼117	
		英語リーディング&ライティング2（W）	1後		1			○							兼117	
		英語 e ラーニング	1前		1			○							兼36	
		英語プレゼンテーション	1後		1			○							兼103	
		上級英語1（リーディング&ライティング）	1前		2			○							兼27	
		上級英語2（プロジェクト英語）	1後		2			○							兼27	
		小計（8科目）	—	0	10	0	—		0	0	0	0	0	0	兼165	—
		ドイツ語基礎1	1前		2			○							兼15	
（必修科目B／ドイツ語）	全学共通科目 言語系科目	ドイツ語基礎2	1後		2			○							兼15	
		小計（2科目）	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	0	兼15	—

全学共通科目言語系科目 必修科目 (言語B／フランス語)	フランス語基礎 1 フランス語基礎 2	1前 1後		2 2				○ ○							兼15 兼15	
	小計 (2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0		兼15	—
全学共通科目言語系科目 必修科目 (言語B／スペイン語)	スペイン語基礎 1 スペイン語基礎 2	1前 1後		2 2				○ ○							兼20 兼20	
	小計 (2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0		兼20	—
全学共通科目言語系科目 必修科目 (言語B／中国語)	中国語基礎 1 中国語基礎 2	1前 1後		2 2				○ ○							兼25 兼25	
	小計 (2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0		兼25	—
全学共通科目言語系科目 必修科目 (言語B／朝鮮語)	朝鮮語基礎 1 朝鮮語基礎 2	1前 1後		2 2				○ ○							兼21 兼21	
	小計 (2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0		兼21	—
全学共通科目言語系科目 必修科目 (言語B／ロシア語)	ロシア語基礎 1 ロシア語基礎 2	1前 1後		2 2				○ ○							兼3 兼3	
	小計 (2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0		兼3	—
全学共通科目言語系科目 必修科目 (言語B)	大学生の日本語 A 大学生の日本語 B 大学生の日本語 C 大学生の日本語 D	1前 1前 1後 1後		1 1 1 1				○ ○ ○ ○							兼6 兼7 兼5 兼7	
	小計 (4科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0		兼15	—

モジュール／コース 自由学 全科目共通科目 英語系科目 インテンシブ	English Intensive A (Global World)	2・3・4前		4				○						兼5	
	English Intensive B (Academic Language Skills)	2・3・4前		4				○						兼4	
	English Intensive C (Integrated Language Skills)	2・3・4後		4				○						兼4	
	English Intensive D (Intercultural Understanding)	2・3・4後		4				○						兼5	
	Intercultural Studies	2・3・4前		2				○						兼1	
	Self-directed and Reflective Language Learning	2・3・4前		2				○						兼1	
	小計 (6科目)	—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	兼17	—
自由学 全科目共通科目 英語系科目 インテンシブ ディペンデント・モジュール／コース	English Communication 1	2・3・4前・後		4				○						兼8	
	English Communication 2	2・3・4前・後		4				○						兼7	
	Pleasure Reading	2・3・4前		2				○						兼2	
	Reading for Pleasure	2・3・4前		2				○						兼2	
	Speech	2・3・4前・後		2				○						兼2	
	Debate	2・3・4前・後		2				○						兼1	
	Presentation	2・3・4前・後		2				○						兼3	
	Current English 1 (reading)	2・3・4前・後		2				○						兼4	
	Current English 2 (reading)	2・3・4前・後		2				○						兼5	
	Current English 1 (listening)	2・3・4前・後		2				○						兼4	
	Current English 2 (listening)	2・3・4前・後		2				○						兼5	
	Japanese Studies through English	2・3・4前・後		2				○						兼5	
	Language and History	2・3・4前		2				○						兼1	
	English through Movies A	2・3・4前		2				○						兼1	
	English through Movies B	2・3・4前		2				○						兼1	
	English through Movies C	2・3・4前		2				○						兼1	
	World Cultures	2・3・4後		2				○						兼1	
	World Heritage Sites	2・3・4前		2				○						兼1	
	English through Dramas	2・3・4後		2				○						兼1	
	Advertisement English	2・3・4後		2				○						兼1	
	English through Movies D	2・3・4後		2				○						兼1	
	English through Movies E	2・3・4後		2				○						兼1	
	English through Movies F	2・3・4後		2				○						兼1	
	Multimodal Communication in English	2・3・4前		2				○						兼1	
	Business Speaking	2・3・4後		2				○						兼1	
	Current News through English Media	2・3・4前・後		2				○						兼3	
	TOEFL 2 (vocabulary and grammar)	2・3・4前・後		2				○						兼1	
	TOEFL 2 (reading)	2・3・4前・後		2				○						兼3	
	TOEFL 2 (listening)	2・3・4前・後		2				○						兼3	
	TOEFL 2 (speaking and writing)	2・3・4前・後		2				○						兼4	
	TOEIC 1 (reading)	2・3・4前・後		2				○						兼8	
	TOEIC 1 (listening)	2・3・4前・後		2				○						兼9	
	TOEIC 1 (vocabulary and grammar)	2・3・4前・後		2				○						兼9	
	TOEIC 2 (reading)	2・3・4前・後		2				○						兼5	
	TOEIC 2 (listening)	2・3・4前・後		2				○						兼5	
	TOEIC 2 (vocabulary and grammar)	2・3・4前・後		2				○						兼4	
	IELTS	2・3・4前		2				○						兼1	
	Study Abroad Preparation: IELTS1(Basic)	2・3・4前・後		2				○						兼1	
	小計 (38科目)	—	0	80	0	—			0	0	0	0	0	兼58	—
自由学 全科目共通科目 英語系科目 アドバンス・	Lecture and Discussion A	2・3・4前		4				○						兼1	
	Lecture and Discussion D	2・3・4前		4				○						兼1	
	Lecture and Discussion E	2・3・4後		4				○						兼1	
	Lecture and Discussion F	2・3・4後		4				○						兼1	
	Lecture and Discussion G	2・3・4後		4				○						兼1	
	Lecture and Discussion H	2・3・4後		4				○						兼1	
	Discussion and Debate	2・3・4前・後		2				○						兼3	
	Advanced Academic Vocabulary	2・3・4前・後		2				○						兼2	
	Current English 3 (Comprehensive)	2・3・4前・後		2				○						兼4	
	Academic Studies (advanced presentation)	2・3・4前・後		2				○						兼3	
	Academic Studies (advanced writing)	2・3・4前・後		2				○						兼3	
	Career Studies (English for vocational purposes)	2・3・4前・後		2				○						兼4	
	Introduction to Global Studies A:Humanities	2・3・4前		2				○						兼1	
	Introduction to Global Studies B:Social Science	2・3・4前		2				○						兼1	
	Introduction to Global Studies C:Natural Science	2・3・4前		2				○						兼1	
	Communication for Global Business	2・3・4前		2				○						兼1	
	Collaborative Business Projects	2・3・4前		2				○						兼1	
	Study Abroad Preparation: IELTS2(Intermediate)	2・3・4前・後		2				○						兼1	
	小計 (18科目)	—	0	48	0	—			0	0	0	0	0	兼26	—

モジュール／コース オナーズ・ ス	全学共通科目（英語）	University Lecture A	2・3・4前		2				○							兼1	
	全学共通科目（英語）	University Lecture C	2・3・4前		2				○							兼1	
	全学共通科目（英語）	CLIL Seminars:Ecology	2・3・4後		2				○							兼1	
	全学共通科目（英語）	CLIL Seminars:Japanology	2・3・4後		2				○							兼1	
	全学共通科目（英語）	CLIL Seminars:Literature	2・3・4前		2				○							兼1	
	全学共通科目（英語）	CLIL Seminars:SDGS	2・3・4後		2				○							兼1	
	全学共通科目（英語）	CLIL Seminars:Globalization and Business	2・3・4前		2				○							兼1	
	全学共通科目（英語）	CLIL Seminars:History	2・3・4後		2				○							兼1	
	全学共通科目（英語）	CLIL Seminars:Art	2・3・4前		2				○							兼1	
	全学共通科目（英語）	CLIL Seminars:Movies	2・3・4前		2				○							兼1	
	全学共通科目（英語）	CLIL Seminars:Tourism	2・3・4後		2				○							兼1	
	全学共通科目（英語）	CLIL Seminars:Health and Wellness	2・3・4前		2				○							兼1	
	全学共通科目（英語）	CLIL Seminars:Psychology	2・3・4後		2				○							兼1	
	全学共通科目（英語）	Study Abroad Preparation: IELTS3 (Advanced)	2・3・4前		2				○							兼1	
	小計（14科目）	—	—	0	28	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼14	—
イギリス・モジュール／コース	国際学	ビクトリア夏ESL2	1・2・3・4前		2				○							兼1	集中
	国際学	ハワイ夏ESL1	1・2・3・4前		1				○							兼1	集中
	国際学	ダブリン春ESL3	1・2・3後		3				○							兼1	集中
	国際学	ビクトリア春ESL2	1・2・3後		2				○							兼1	集中
	国際学	ダブリン夏ESL3	1・2・3・4前		3				○							兼1	集中
	国際学	ハワイ春ESL1	1・2・3後		1				○							兼1	集中
	国際学	グリフィス春ESL3	1・2・3後		3				○							兼1	集中
	国際学	短期語学研修科目（英語）	1・2・3・4前・後		1				○							兼2	集中
	国際学	短期語学研修科目（英語）	1・2・3・4前・後		1				○							兼2	集中
	小計（9科目）	—	—	0	17	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼11	—
基礎科目群（ドイツ語レベル）	全学共通科目（ドイツ語）	ドイツ語中級 1	2・3・4前		2				○							兼6	共同
	全学共通科目（ドイツ語）	ドイツ語中級 2	2・3・4後		2				○							兼7	共同
	全学共通科目（ドイツ語）	ドイツ語スタンダード 1	2・3・4前		1				○							兼2	
	全学共通科目（ドイツ語）	ドイツ語スタンダード 2	2・3・4前		1				○							兼3	
	全学共通科目（ドイツ語）	ドイツ語スタンダード 3	2・3・4後		1				○							兼3	
	全学共通科目（ドイツ語）	ドイツ語スタンダード 4	2・3・4後		1				○							兼3	
	小計（6科目）	—	—	0	8	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼11	—
コア科目群（ドイツ語レベル）	全学共通科目（ドイツ語）	上級ドイツ語コミュニケーション 1	2・3・4前		2				○							兼2	
	全学共通科目（ドイツ語）	上級ドイツ語コミュニケーション 2	2・3・4後		2				○							兼2	
	全学共通科目（ドイツ語）	上級ドイツ語ライティング 1	2・3・4前		2				○							兼2	
	全学共通科目（ドイツ語）	上級ドイツ語ライティング 2	2・3・4後		2				○							兼2	
	全学共通科目（ドイツ語）	上級ドイツ語リスニング・リーディング 1	2・3・4前		2				○							兼2	
	全学共通科目（ドイツ語）	上級ドイツ語リスニング・リーディング 2	2・3・4後		2				○							兼2	
	全学共通科目（ドイツ語）	上級ドイツ語演習 1	2・3・4前		2				○							兼2	
	全学共通科目（ドイツ語）	上級ドイツ語演習 2	2・3・4後		2				○							兼2	
	全学共通科目（ドイツ語）	ドイツ語総合 1	2・3・4前		2				○							兼1	
	全学共通科目（ドイツ語）	ドイツ語総合 2	2・3・4後		2				○							兼1	
	全学共通科目（ドイツ語）	ドイツ語総合 3	2・3・4前		2				○							兼1	
	全学共通科目（ドイツ語）	ドイツ語総合 4	2・3・4後		2				○							兼1	
	小計（12科目）	—	—	0	24	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼5	—

ドイツ語入門科目	基礎ドイツ語入門	2・3・4前		2				○							兼6	
	基礎ドイツ語初級	2・3・4後		2				○							兼6	
小計（2科目）		—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	兼6	—
海外言語文化研修	ドイツ語海外言語文化研修（中級）	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	ドイツ語海外言語文化研修（上級）	2・3・4前		2				○							兼1	
小計（2科目）		—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	兼1	—
基礎科目群（フランス語）	フランス語中級1	2・3・4前		2				○							兼6	共同 共同
	フランス語中級2	2・3・4後		2				○							兼6	
	フランス語スタンダード1	2・3・4前		1				○							兼2	
	フランス語スタンダード2	2・3・4前		1				○							兼2	
	フランス語スタンダード3	2・3・4後		1				○							兼2	
	フランス語スタンダード4	2・3・4後		1				○							兼2	
小計（6科目）		—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	0	兼8	—
コア科目群（上級フランス語）	上級フランス語コミュニケーション1	2・3・4前		2				○							兼2	
	上級フランス語コミュニケーション2	2・3・4後		2				○							兼2	
	上級フランス語ライティング1	2・3・4前		2				○							兼2	
	上級フランス語ライティング2	2・3・4後		2				○							兼2	
	上級フランス語リスニング・リーディング1	2・3・4前		2				○							兼2	
	上級フランス語リスニング・リーディング2	2・3・4後		2				○							兼2	
	上級フランス語演習1	2・3・4前		2				○							兼2	
	上級フランス語演習2	2・3・4後		2				○							兼2	
	フランス語総合3	2・3・4前		2				○							兼1	
小計（9科目）		—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	0	兼8	—
情報処理科目（フランス語）	言語情報処理論（フランス語）	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	小計（1科目）	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	0	兼1	—

フランス語入門科目	基礎フランス語入門	2・3・4前		2				○							兼8	
	基礎フランス語初級	2・3・4後		2				○							兼8	
小計（2科目）		—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	兼6	—
海外言語文化研修科目	フランス語海外言語文化研修（中級）	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	フランス語海外言語文化研修（上級）	2・3・4前		2				○							兼1	
小計（2科目）		—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	兼1	—
基礎科目群（スペイン語レベル）	スペイン語中級1	2・3・4前		2				○							兼5	共同 共同
	スペイン語中級2	2・3・4後		2				○							兼5	
	スペイン語スタンダード1	2・3・4前		1				○							兼4	
	スペイン語スタンダード2	2・3・4前		1				○							兼3	
	スペイン語スタンダード3	2・3・4後		1				○							兼3	
	スペイン語スタンダード4	2・3・4後		1				○							兼2	
小計（6科目）		—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	0	兼8	—
コア科目群（スペイン語レベル）	上級スペイン語コミュニケーション1	2・3・4前		2				○							兼1	
	上級スペイン語コミュニケーション2	2・3・4後		2				○							兼1	
	上級スペイン語ライティング1	2・3・4前		2				○							兼2	
	上級スペイン語ライティング2	2・3・4後		2				○							兼2	
	上級スペイン語リスニング・リーディング1	2・3・4前		2				○							兼1	
	上級スペイン語リスニング・リーディング2	2・3・4後		2				○							兼1	
	上級スペイン語演習1	2・3・4前		2				○							兼1	
	上級スペイン語演習2	2・3・4後		2				○							兼1	
	スペイン語総合5	2・3・4後		2				○							兼1	
小計（9科目）		—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	0	兼4	—
処理理論（中級レベル）	言語情報処理論（スペイン語）	1・2・3・4前・後		2				○							兼2	
	小計（1科目）	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	0	兼2	—

ス ペ イ ン 語 入 門 科 目	全 学 共 通 科 目 （ ス ペ イ ン 語 系 科 目 ）	基礎スペイン語入門 基礎スペイン語初級	2・3・4前 2・3・4後		2 2				○ ○							兼14 兼14	
		小計（2科目）	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0		兼14	—
海 外 言 語 文 化 研 修	全 学 共 通 科 目 （ ス ペ イ ン 語 系 科 目 ）	スペイン語海外言語文化研修（中級） スペイン語海外言語文化研修（上級）	1・2・3後 2・3後		2 2				○ ○							兼1 兼1	
		小計（2科目）	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0		兼1	—
基 礎 科 目 群 （ 中 国 語 レ ベ ル ）	全 学 共 通 科 目 （ 中 国 語 系 科 目 ）	中国語中級1 中国語中級2 中国語スタンダード1 中国語スタンダード2 中国語スタンダード3 中国語スタンダード4	2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後		2 2 1 1 1 1				○ ○ ○ ○ ○ ○							兼6 兼6 兼3 兼4 兼3 兼4	
		小計（6科目）	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0		兼13	—
コ ア 科 目 群 （ 上 級 レ ベ ル ）	全 学 共 通 科 目 （ 中 国 語 系 科 目 ）	上級中国語コミュニケーション1 上級中国語コミュニケーション2 上級中国語ライティング1 上級中国語ライティング2 上級中国語リスニング・リーディング1 上級中国語リスニング・リーディング2 上級中国語演習1 上級中国語演習2	2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後		2 2 2 2 2 2 2 2				○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○							兼2 兼2 兼1 兼1 兼1 兼1 兼2 兼2	
		小計（8科目）	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0		兼2	—
処 理 論 （ 中 国 語 レ ベ ル ）	全 学 共 通 科 目 （ 中 国 語 系 科 目 ）	言語情報処理論（中国語）	1・2・3・4前・後		2				○							兼2 兼1	
		小計（1科目）	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0		兼1	—

中国語入門科目 （中国語）	基礎中国語入門 基礎中国語初級	2・3・4前 2・3・4後		2 2				○ ○							兼8 兼8	
	小計（2科目）	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	兼8	—
海外言語文化研修 （中国語）	中国語海外言語文化研修（中級） 中国語海外言語文化研修春（中級） 中国語海外言語文化研修（上級） 中国語海外言語文化研修春（上級）	1・2・3・4前 1・2・3後 2・3・4前 2・3後		2 2 2 2				○ ○ ○ ○							兼1 兼1 兼1 兼1	
	小計（4科目）	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	0	兼1	—
基礎科目群 （朝鮮語レベル）	朝鮮語中級1 朝鮮語中級2 朝鮮語スタンダード1 朝鮮語スタンダード2 朝鮮語スタンダード3 朝鮮語スタンダード4	2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後		2 2 1 1 1 1				○ ○ ○ ○ ○ ○							兼8 兼8 兼3 兼3 兼3 兼3	共同 共同
	小計（6科目）	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	0	兼14	—
コア科目群 （朝鮮語レベル）	上級朝鮮語コミュニケーション1 上級朝鮮語コミュニケーション2 上級朝鮮語ライティング1 上級朝鮮語ライティング2 上級朝鮮語リスニング・リーディング1 上級朝鮮語リスニング・リーディング2 上級朝鮮語演習1 上級朝鮮語演習2	2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後		2 2 2 2 2 2 2 2				○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○							兼1 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼1 兼1	
	小計（8科目）	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	0	兼7	—
処理論 （中級レベル）	言語情報処理論（朝鮮語）	1・2・3・4後		2				○							兼2	
	小計（1科目）	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	0	兼2	—
朝鮮語入門科目 （朝鮮語）	基礎朝鮮語入門 基礎朝鮮語初級	2・3・4前 2・3・4後		2 2				○ ○							兼12 兼12	
	小計（2科目）	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	兼12	—

海外言語文化研修	全学共通科目（朝鮮語系科目）	朝鮮語海外言語文化研修（中級） 朝鮮語海外言語文化研修（上級）	1・2・3・4前 2・3・4前		2 2				○ ○							兼1 兼1	
	小計（2科目）	—	0	4	0	—				0	0	0	0	0		兼1	—
自由科目（ロシア語系科目）	全学共通科目（ロシア語系科目）	ロシア語セミナーA ロシア語セミナーB ロシア語セミナーC ロシア語セミナーD ロシア語セミナー1 ロシア語セミナー2	2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後		1 1 1 1 1 1				○ ○ ○ ○ ○ ○							兼2 兼2 兼1 兼1 兼1 兼1	
	小計（6科目）	—	0	6	0	—				0	0	0	0	0		兼4	—
基礎からのロシア語	全学共通科目（ロシア語系科目）	基礎ロシア語入門 基礎ロシア語初級	2・3・4前 2・3・4後		2 2				○ ○							兼3 兼3	
	小計（2科目）	—	0	4	0	—				0	0	0	0	0		兼3	—
（ポルトガル語）	全学共通科目（ポルトガル語系科目）	ポルトガル語1 ポルトガル語2 ポルトガル語3 ポルトガル語4	2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後		1 1 1 1				○ ○ ○ ○							兼1 兼1 兼1 兼1	
	小計（4科目）	—	0	4	0	—				0	0	0	0	0		兼1	—
入門レベル（日本語系科目）	全学共通科目（日本語系科目）	日本語 1	1・2・3・4前		1				○							兼3	共同
	小計（1科目）	—	0	1	0	—				0	0	0	0	0		兼3	—
初級レベル（日本語系科目）	全学共通科目（日本語系科目）	日本語 2	1・2・3・4後		1				○							兼3	共同
	小計（1科目）	—	0	1	0	—				0	0	0	0	0		兼3	—

中級レベル（日本語科目）	全学共通科目	日本語 3 日本語 4	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1				○ ○								兼3 兼3	共同 共同		
	小計（2科目）		—	0	2	0	—		0	0	0	0	0	0	兼3	—			
自由科目（日本語科目）	全学共通科目	日本の社会と文化A 日本の社会と文化B 日本の社会と文化C 社会の中の日本語A 社会の中の日本語B 論文読解の技法 論文作成の技法 キャリアの日本語A キャリアの日本語B ビジネスのための口頭運用力A ビジネスのための口頭運用力B ビジネスメールと文書	2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前・後 2・3・4前・後 2・3・4前・後 2・3・4前・後 2・3・4前・後		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○								兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼2 兼2 兼2 兼2 兼3 兼1 兼2			
	小計（12科目）		—	0	24	0	—		0	0	0	0	0	0	兼11	—			
	全学共通科目合計（584科目）		—	0	1152	0	—		11	5	0	1	0	0	兼865	—			
	学位又は称号		学士（異文化コミュニケーション学）		学位又は学科の分野				文学関係										
	卒業要件及び履修方法																	授業期間等	
	<u>（一般）</u> 全学共通科目24単位，学びの精神4単位，専門教育科目については学部必修科目 8 単位， 基盤科目20単位，基礎科目12単位，専門科目26単位，更に，選択により以下の科目を修得し， 合計124単位以上を修得しなければならない。 ① 卒業研究選択者 専門演習・卒業研究10単位，自由科目20単位 ② 卒業課題選択者 卒業課題4単位，自由科目26単位 <u>（DLP）</u> 全学共通科目24単位，学びの精神4単位，専門教育科目については学部必修科目 8 単位， 基盤科目20単位，基礎科目12単位，専門科目26単位，更に，選択により以下の科目を修得し， 合計124単位以上を修得しなければならない。 ① 卒業研究選択者 専門演習・卒業研究10単位，自由科目20単位 ② 卒業課題選択者 卒業課題4単位，自由科目26単位 <u>（Transitional Bilingual Program in CIC）</u> 全学共通科目24単位，学びの精神4単位，専門教育科目については学部必修科目 8 単位， 基盤科目20単位，基礎科目12単位，専門科目26単位，更に，選択により以下の科目を修得し， 合計124単位以上を修得しなければならない。 ① 卒業研究選択者 専門演習・卒業研究10単位，自由科目20単位 ② 卒業課題選択者 卒業課題4単位，自由科目26単位 <u>（PEACE CIC）</u> 全学共通科目24単位，学びの精神4単位，専門教育科目については学部必修科目10単位， PEACE選択科目10単位，基盤科目 8 単位，基礎科目12単位，専門科目26単位，更に，選択により以下の科目を修得し， 合計124単位以上を修得しなければならない。 ① 卒業研究選択者 専門演習・卒業研究10単位，自由科目20単位 ② 卒業課題選択者 卒業課題4単位，自由科目26単位 <u>（共通）</u> 自由科目には，指定単位を超えて修得した選択科目・全学共通科目・他学部科目・言語自由科目・5 大学間単位互換制度による他大学の科目及び留学認定科目を算入することができる。								1 学年の学期区分				2期						
									1 学期の授業期間				14週						
									1 時限の授業時間				100分						

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

○現状

本学は、リベラルアーツに基づく教育を標榜している。この「リベラルアーツに基づく教育」の目標とは、「その学びを通じて、学ぶ者が＜世界を読み解く力＞を、そして、＜世界を変えていく力＞を身につけることができるようにすること」にある（資料１（P5））。これを実現するためには、例えば、本学において学んだ学生が、そのキャンパス内にいながら多様な環境に身を置き、多様な価値観に触れることができること等が必要である。そして、大学が、留学生と日本人学生がキャンパスに集い、異なる価値観を、相手に合わせて日本語やそれ以外の言語を通じてぶつけ合える環境を用意することが不可欠である。

以上のような理念に基づき、本学では、2014 年 10 月に 10 年間を見据えた国際化戦略として、RikkyoGlobal24（以下「RG24」という。）を策定した。また、同年に RG24 を踏まえた構想が、スーパーグローバル大学創成支援事業（以下「TGU」という。）に採択された。採択以来、全学生に占める外国人留学生の割合、日本人学生に占める留学経験者の割合など、自ら設定した目標値を達成できるよう、学内の様々な国際化を進めてきた結果、2020 年度の中間評価では総括評価が「A」（これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。）となったところである。

○課題

上記のとおり、国際化の推進に向けて努力を続けていたが、2019 年度の終わり（2020 年春）から世界的に拡大した新型コロナウイルスの脅威は、海外大学との国際交流等の本学における国際化の推進に深刻な影響を与えており（資料２）、新型コロナウイルスの世界的な蔓延前に想定した状況とは異なるものになっている。この現状を打破し、海外大学との国際交流等の水準を、新型コロナウイルスの世界的な蔓延前の状態に戻しつつ、これまで以上に「留学生と日本人学生がキャンパスに集い、異なる価値観を、相手に合わせて日本語やそれ以外の言語を通じてぶつけ合える環境」を整備するためには、外国人留学生数、留学経験者数の増加その他の国際化推進に向けた取組みを継続し続ける必要がある。

イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析

○現状

（地域的な現状：東京都「国際都市戦略プロジェクト」推進方針）

東京都は、2022 年 6 月に「国際都市戦略プロジェクト」推進方針を公表し、「「世界から選ばれる都市」の実現に向けては、①都の政策を世界に効果的に伝える、②海外諸都市や大使館とのつながりを強化する及び③国際展開を担う人材を育てる等の取組が必要である。」（目的（P3））としているほか、表１の内容に言及している（資料３）。

（表１）

内容（東京都：「国際都市戦略プロジェクト」推進方針）	掲載箇所
世界から選ばれる都市・東京の実現 （学ぶ人から選ばれる ⇒ 国際的に活躍する人が育つ都市）	位置づけ（P4）

グローバルな視点を持つ人材充実の必要性 (日本で学ぶ外国人学生及び留学生の数は高等教育に在籍する全学生の 5%にとどまる)	東京を取り巻く状況 (② グローバル化への対応の必要性) (P9)
東京の国際展開力強化のため、語学力や国際経験のある人材を“育てる”ことが喫緊の課題	世界から見た日本・東京～各種ランキングより～ (P15)
日本語教室・語学学校等の利用・受講料金が高いなど／多言語での情報発信が少ないなど	世界から見た東京・日本～在住外国人や訪日観光客への調査より～ (P18)
強みを伸ばし弱みを克服する上で必要な方向性 (多言語による受入環境(教育、医療等)の充実／学校における英語教育のさらなる充実・改善／語学力の向上、国際的に活躍できる人材の育成)	東京・日本の強み・弱み (P19)
③育てる(国際的に活躍する人が育つ都市) (海外から多くの高度人材を受入／豊かな国際感覚を身に付けグローバルに活躍する人材を輩出)	国際展開力を高めるための取組の全体像 (P21)
外国人が快適に暮らし働ける環境整備(日本語教育の推進体制構築) (地域における外国人等に向けた日本語教育の推進体制構築を支援／日本語教室のデータベースを活用し、各地域の日本語教室について情報発信)	国際展開力を高めるための取組②海外と東京をつなぐ環境づくり (P29)

(社会的な現状①：教育未来創造会議)

教育未来創造会議が 2022 年 5 月 10 日に公表した第一次提言では、「グローバル化の一層の進展への対応を図る。」(Ⅱ. 基本的考え方ー 2. ありたい社会像 (P9)) としているほか、「高度外国人材の育成・活躍推進」及び「コロナ禍で停滞した国際的な学生交流の再構築」を言及している(Ⅲ. 具体的方策ー 1. 未来を支える人材をはぐくむ大学等の機能強化ー (4) グローバル人材の育成・活躍推進 (P19))。また、9 月 29 日に開催された第 4 回の配布資料 2 (P2) では、「コロナ後のグローバル社会を見据えた人への投資について」として、「①コロナ後の新たな留学生受入れ・派遣計画」、「②卒業後の留学生等の活躍に向けた環境整備」及び「③教育の国際化の促進」を主な論点案として挙げている。さらに、2023 年 3 月 17 日に開催された第 5 回の配布資料 2ー 2 では、コロナ後の新たな留学生派遣・受入れ方策、留学生の卒業後の活躍に向けた環境整備及び教育の国際化の推進の 3 つについて、それぞれ、今後の方向性及び具体的方策に言及している(資料 4)。

(社会的な現状②：中央教育審議会)

2023 年 3 月 8 日に中央教育審議会が公表した「次期教育振興基本計画について(答申)」では、5 つの基本的方針の一つとして「①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成」を掲げ、「(グローバル人材の育成)」(P13) として、「グローバルな立場から社会の持続的な発展を生み出す人材として、地球規模の諸課題を自らに関わる問題として捉え、世界を舞台に国際的なルール形成をリードしたり、社会経済的な課題解決に参画したりするグローバル・リーダーや、グローバルな視点を持って地域社会の活性化を担う人材の育成を推進していく必要がある。」(P13)、「コロナ禍で激減した日本人学生・生徒の海外留学や、より若年段階からの国際的な交流活動の推進、外国人留学生の受入れ環境、大学等のグローバル化の基盤・ルールの整備、外国語教育の充実、外国人への教育の充実、国際理解教育の推進などを図っていく必要がある。」(P14) 等としている(資料 5)。

(社会的な現状③：日本経済団体連合会(経団連))

経団連が 2022 年 10 月 11 日に公表した「次期教育振興基本計画」策定に向けた提言」では、「Ⅲ.

優先的に取り組むべき教育政策の施策」として「３．グローバル教育・海外留学」（P12）を掲げ、「海外大学との教育連携の推進」（P12）の具体的な取組みとして、「学生の留学支援を強化」（P13）、「学生の英語力強化に取り組むつつ、英語による教育プログラムの充実」（P13）等を挙げているほか、**表２**の内容に言及している（**資料６**）。

（表２）

内容（経団連：「次期教育振興基本計画」策定に向けた提言）	掲載箇所
国・地域などの多様性を尊重しつつ、社会課題の解決や人々の Well-being の向上に貢献する人材の育成がより一層求められている。	はじめに（P1）
(d) 6ヵ月以上、海外に留学する大学生数を3万人(←2020年度約900人)	I. - 2. 「指標」および「目標値」の設定（P3）
先を見通せない変化の激しい時代においては、自らの頭で主体的に考え、実社会の中から課題を見つけ出し、想像力・創造力を発揮しながら、新たな価値を生み出していくことが重要	II. 1. 理念（P3,4）
グローバル化が進展し、かつ誰一人取り残されない包摂的な社会の実現が重要となるなかで、課題解決にあたっては、多様な個性や価値観・考えをもった集団において、他者と連携・協働することが求められている。	II. 1. 理念（P4）
企業は今、グローバル・ビジネスで打ち勝つため、他者を尊重し協調しながらリーダーシップを発揮できる人材や果敢にチャレンジする人材など、「主体性・積極性に富んだ人材」を求めているほか、課題設定力を有し創造力・発想力が豊かな人材や、高度な専門性や特定の分野での強みを持った人材など、いわゆる「尖った人材」の採用を強化する傾向にある。	II. 3. - 【方針〔A〕】（P5）

○課題

（コロナ禍で停滞した国際的な取組みの回復）

TGU 採択校として、自ら設定した目標値（全学生に占める外国人留学生の割合、日本人学生に占める留学経験者の割合等）の達成に向けて邁進してきているが、新型コロナウイルスの蔓延により、外国人留学生数等に甚大な影響が生じている。本学において学んだ学生が、そのキャンパス内にいながら多元的な環境に身を置くこと、多様な価値観に触れること等を実現するため、また、教育未来創造会議がいう「人材交流の活性化及び多様性のあるイノベーション人材の育成強化を図り、新たな価値を持続的に創出する社会」（**資料４**（第４回配布資料 P1））の構築や、中央教育審議会が言う「グローバルな立場から社会の持続的な発展を生み出す人材」（**資料５**（P13））を育成するためには、一刻も早くあらゆる国際的な取組みをコロナ禍前の状態に戻すことが喫緊の課題である。

（多様な価値観を尊重できる人材等の育成）

本学では、「グローバル時代を生きていく力を獲得するためには、画一的な、教育を提供する側の視点で作られた教育から脱却し、高等教育機関として、多様な価値観を持つ多様な人々が集まり、新たな価値が創造される場となることが必要」（**資料１**（P6））であるという認識の下、「人と人、想いと想いをつなぎ、実りある未来へと、強く道を拓いてゆける人材」（**資料１**（P3））の輩出を目指している。また、経団連は「グローバル化が進展し、かつ誰一人取り残されない包摂的な社会の実現が重要となるなかで、課題解決にあたっては、多様な個性や価値観・考えをもった集団において、他者と連携・協働することが求められている。」（**表２**）としている。これらを実現するためには、日本人学生の海外派遣、外国人留学生の受入れ等を行いながら、「多様な個性や価値観・考えをもった集団において、他

者と連携・協働する」ことができる人材等を育成する必要がある。

（外国人留学生を含む来日外国人への支援）

近い将来に、コロナ禍による外国人の新規入国制限が完全に撤廃された場合、多くの外国人が様々な目的で来日することが予想される。これは「多様な価値観を尊重できる人材等の育成」に資する動きになるため歓迎すべきであるが、支援がなければ外国人が日本に定着することが難しく、「高度外国人材の育成・活躍推進」が進まない可能性が高い。また、日本が「世界から選ばれる」ためには、日本人学生の語学力、国際経験の向上に向けた取り組み（外国語による授業科目の設置、実渡航及びオンラインによる国際交流の増加等）や外国人が快適に暮らし働ける環境整備（日本語教育の推進等）が必要である。

ウ 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

○本学部の研究上の目的

教育研究上の目的は「変化を続ける世界の中で、複数の視点からものごとを考え、柔軟な思考力をもって実践的に問題と向き合うことによって、多様で「異なる」他者と共生し、持続可能な未来を創ることのできる人材を育成する。」と学則（資料7）において規定している。この目的に基づき、以下「○本学部の教育内容」に記載する教育を行っているところである。

上記の本学としての認識及び本学部の教育目的は、教育未来創造会議や経団連が言及している内容に合致することに加え、以下に記載する（方針）に基づく、（専門科目群）における4つの柱、（特色ある教育科目群）としてのDLP（Dual Language Pathway）、（日本人学生の海外派遣及び外国人留学生の受入れ）及び（現場での実践）における実社会のあらゆる現場においてその時その状況に必要な実践力と対応力を柔軟に引き出す力を培うための授業科目の開講等の取組みは、課題として挙げた「コロナ禍で停滞した国際的な取組みの回復」、「多様な価値観を尊重できる人材等の育成」及び「留学生を含む来日外国人への支援」の解決に大いに寄与することができる。

また、本学部では、履修モデルを「一般」、「Dual Language Pathway（DLP）」、「Transitional Bilingual Program in CIC（TBP）」及び「Proactive, Ethical, Able, Collaborative, Engaged Program CIC（PEACE）」の4つに区分している。それぞれの概要は表3のとおりである。

（表3）

履修モデル	概 要
一般	一般的な日本人学生を対象とした教育プログラム
DLP	英語と日本語の2つの言語を駆使して4年間学んでいく教育プログラム
TBP	本学での学位取得を目的とした、外国人留学生を対象とした教育プログラム
PEACE	英語による授業科目のみで学位の取得が可能な教育プログラム

○本学部の教育内容

（方針）

学位授与の方針（資料8）には、本学部の専門科目を通じて得られる学修成果として表4の8項目を挙げているほか、この方針に基づく教育課程編成の方針を定め、学修成果と科目の関係を明示している（資料9）。

（表4）

①	論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。
②	自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。

③	グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。
④	多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、それを踏まえて行動することができる。
⑤	日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。
⑥	異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。
⑦	教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。
⑧	文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。

（専門科目群）（資料 10）

本学部では、異文化コミュニケーション研究の基礎を学ぶ研究基礎科目の上にお互いが相互に関連し合った専門科目群（言語研究、通訳翻訳研究、コミュニケーション研究及びグローバル・スタディーズ）を設置し、複数の視点からものごとを考え、柔軟な思考力をもって実践的に問題に向かい合うことができる知識、知恵、行動力を身に付けるために、**表 5** の 4 つの柱を立てている（資料 11）。

（表 5）

1. 日本語を磨く・英語を磨く	日本で学ぶ以上、日本語は重要である。1 年次の「基礎演習」で、日本語力を訓練し、論理的思考力と自己表現力を磨く。また、「Dual Language Pathway」では、英語で学び、議論し、レポートを書くことで、高い英語の運用力を磨く。
2. 英語 + 1	言語は世界へ飛び出し活躍するための道具である。国際共通語である英語に加え、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、ロシア語のいずれかを選択して学ぶ。
3. 知識と実践の往還	「通訳翻訳実習」、「日本語教育実習」、「フィールドワーク」などの実習型の科目を設置し、教室で学んだ知識を現場での実践に結び付ける力を身につける。
4. 海外留学研修・Dual Language Pathway	原則全員が参加する 2 年次秋学期の「海外留学研修」や、英語で展開されている科目を主に履修して卒業する「Dual Language Pathway」を設置し、教室での学びだけに終わらない多様な仕組みをカリキュラムに組み込んでいる。

これら 4 つを柱に、理論と実践を充実させる科目が設置され、両者が有機的に結びつき、学生が自ら選んだ研究領域（言語研究、通訳翻訳研究、コミュニケーション研究及びグローバル・スタディーズ）に即して科目を選択することで、専門性を深めるとともに、自ら行動する力を身につけていくことができる。また、本学部を卒業した学生は、専門職（日本語教員、英語教員等）に就く、又はグローバル機関、企業（金融・メーカー等の海外拠点への就職、NPO、NGO 等の国際機関や人道支援分野等に就職又は起業）に就職して、活躍することが期待される。なお、指定された科目を履修することで修了証が授与される、「日本語教員養成プログラム」及び「通訳・翻訳者養成プログラム」を設置している。

（特色ある教育プログラム—DLP（Dual Language Pathway））

英語と日本語、2 つの言語と高度な専門知識を使って、柔軟に問題対応ができる人材の育成を目指

して、日本語で考察、理解、発信する力に加え、国際共通語である英語で読み、議論し、発信する力を身に付け、現実に根差した実践的スキルを駆使できるようになるための、4年間のプログラムである**（表6）（資料12）**。なお、入試を個別に行うとともに（定員15人）、学部設置の英語で展開している専門科目を中心に履修し、同時に日本語で展開している授業科目も学生の興味関心に応じて履修することになる。

（表6）

DLPの特色	DLP科目例
①「Academic Skills」で英語によるレポート作成など基礎的スキルを学び、学部教育科目を英語で履修することで、海外の大学で英語による専門科目の授業を受けられる水準を目指す。	• Academic Skills A,B • Overview of Language and Communication Studies • Overview of Global Studies • Introduction to International Development and Cooperation
②「ベーシックセミナー」で日本語でのアカデミックスキルを学び、自身の関心のある研究領域にある学びを日英両言語で深めるため、日本語による科目も卒業要件単位として認定する。	• Introduction to Intercultural Communication • Communication and Citizenship • Multiculturalism in Japan
③英語による卒業研究（論文）は必修とする。	• Bilingualism
④2年次秋学期には、学部間協定大学への1年間の留学など、長期留学を目指す。	• Teaching English to Speakers of Other Languages: Basic Principles • Translation and Interpreting Practicum • Ethnicity and Globalization in Japan

（日本人学生の海外派遣及び外国人留学生の受入れ）（資料13）

本学部では、原則として全ての学生が留学を経験する（授業科目「海外留学研修」を履修）。留学先は、アジア、北アメリカ、オセアニア、ヨーロッパなど、約19か国47校（2022年1月時点）の提携先大学となる。これに加え、大学間協定を締結している、世界26か国・地域の95校（2022年1月時点）へ留学することも可能である。なお、2017年度から2021年度までに派遣した学生は、**表7**のとおり合計で387人である。新型コロナウイルスの影響により、2020年度は0人、2021年度もそれ以前と比べると数が半減しているが、派遣期間が6か月以上の割合が2017年度から2021年度までで最も高くなっており（59.5%）、経団連が求めている「6か月以上、海外に留学する大学生数を3万人」という目標に貢献できている。

（表7）

期間	2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		5か年 合計
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
3か月以上	1	84	3	75	0	91	0	0	4	17	275
6か月以上	1	36	0	36	0	14	0	0	0	25	112
合計	2	120	3	111	0	105	0	0	4	42	387
6か月以上の割合	50.0%	30.0%	0.0%	32.4%	－	13.3%	－	－	0.0%	59.5%	28.9%

また、外国人留学生の受入れも積極的に行っており、直近5年間で外国人留学生入試（本学での学位取得を目的とする者が対象）によって受入れた学生数は**表8**のとおりである。派遣と同様、2020年度には志願者が減少したものの、2021年度には復調しており、6年間で平均して約18人を受け入れている。なお、この入試の出願資格は、（1）出願時に日本国籍を有しない者、（2）国の内外を問わず、学校教育における12年以上の課程を修了した者（「飛級」により通常の課程を12年未満で修了した者

及び 2023 年 3 月までに修了見込みの者を含む)、(3) 学校教育における第 7～12 学年の課程のうち、外国において、外国の学校教育制度に基づく課程によって、通算して 5 学年以上を修了した者(「飛級」により 5 学年以上に相当する課程を 5 年未満で修了した者及び 2023 年 3 月までに修了見込みの者を含む)並びに(4) IELTS (Academic Module) または TOEFL iBT を受験し、スコアを提出できる者の 4 つである。さらに、協定校からの交換留学等によっても外国人留学生を受け入れている。直近 3 年の受け入れ人数は、2022 年度 43 人、2021 年度 3 人及び 2020 年度 0 人である。

(表 8)

	2017年度			2018年度			2019年度			2020年度			2021年度			2022年度			入学者 平均
	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	
外国人留学生入試	42	25	20	67	24	16	86	22	18	64	21	14	95	24	20	93	26	18	17.67

(現場での実践)

本学部では、海外フィールドスタディ、国内フィールドスタディ、海外インターンシップ、English Camp、立教日本語教室、RiCoLaS(立教コミュニティー翻訳通訳サービス)など、実社会のあらゆる現場においてその時その状況に必要な実践力と対応力を柔軟に引き出す力を培うための実践を伴う学びを正課・正課外の両面で推進している(資料 14)。

海外フィールドスタディ(正課科目)では、毎年夏季休業期間に 2 週間程度、海外のフィールドに滞在し、異なる生活や文化、この国が抱える社会課題などについて、体験を通して学ぶ。これまでモンゴル、タイ、マレーシア、ルワンダ、バングラデシュ等での実践がある。コロナ禍でもオンラインでのフィールドスタディを実現した。国内フィールドスタディ(正課科目)では、日本国内のフィールドに複数回足を運び、そこに潜む課題を当事者の立場に接近して理解すること、日本の課題と海外の課題を結びつけて理解することを目指す。また、それらの課題を一時的な支援ではなく、双方向に協力して解決するための実践力を身につける。これまで「国際協力」「草の根で平和を創る人々」をテーマに展開した。

海外インターンシップ(正課科目)は、対面型、オンライン型の 2 つの実践型プログラムを用意している。対面型は、精華大学(中国)、天主教輔仁大学(台湾)、モンゴル文化教育大学(モンゴル)、ダルサラーム大学(ブルネイ)で行い、海外に数週間滞在し、現地の学生の日本語学習を支援する。オンライン型は、マードック大学(オーストラリア)の学生の日本語学習を支援することを通じて日本語教育について学ぶ。

English Camp は、豊島区の小中学生及び岩手県陸前高田市の中学生を対象に、本学部の日本人学生と外国人留学生が共に英語で様々なアクティビティを企画し、英語の楽しさに触れるきっかけづくりを支援している。2020 年度からは、「サービ斯拉ーニング C」として正課科目となり、学びの実践の場として取り組んでいる。

立教日本語教室は、豊島区と連携して日本語学習支援を行うものであり、サービ斯拉ーニング(正課科目)として、教室での学びと実践の両輪で展開している。なお、「日本語教員養成プログラム」の選択必修科目となっている。

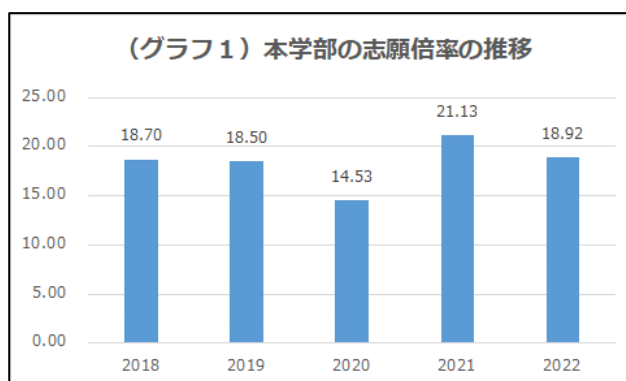
RiCoLaS(立教コミュニティー翻訳通訳サービス)は、「通訳・翻訳者養成プログラム」で学ぶ学生を中心とした翻訳・通訳の訓練生が学内外の実際のプロジェクトに取り組むサービ斯拉ーニングのプログラム(正課外)である。教室で習得した知識やスキルを現実社会で適用できるものに転換させることで学生の翻訳・通訳サービス提供能力を向上させること、クライアントとの関わりやサービスの自己評価などを通して学生が積極的に自らのキャリア形成を計画すること及び学内外コミュニティー

の課題解決に向けた取り組みに貢献することで学生が自らの社会的役割や責任を認識できるようになることを目標としている。

○本学部の定員設定

・収容定員の増加が必要な理由

本学部では、2008 年度の開設当初から「複数の視点」、「実践的な問題と向き合う」、「異なる」他者と共生」等に着眼しながら教育研究を行ってきたが、昨今、「社会や経済のグローバル化が進展する我が国においては、優秀な外国人留学生を獲得し、我が国の成長に生かすことや、個々の能力を高めグローバル化した社会で活躍する人材を育成することが喫緊の課題」（資料 15）とされるなど、大学の国際化が社会から求められている。学部名称に「国際」又は「グローバル」を付す学部数は、2018 年度の 61 から 2022 年度には 77 と増加しており（後述）、高等教育機関によるこれらの教育研究に係る関心が高まっている。一方で、新型



本学部	文学部	経済学部	理学部
580	3,672	2,736	1,168
社会学部	法学部	観光学部	コミュニティ福祉学部
2,076	2,340	1,480	1,400
経営学部	現代心理学部	スポーツ・リハビリ学部	(表 9)
1,540	1,276	920	※2023.4.1現在

コロナウイルス感染症の影響により、これらの学部における全国的な志願者数は減少しているが、新型コロナウイルス感染症の発生如何で上記の課題が解決することではなく、今後、志願者は復調することが見込まれる。なお、本学部の志願倍率は、2020 年度入試において減少したものの、直近 5 年間の平均で約 18 倍となっている（グラフ 1）（後述）。これは、受験生のニーズを踏まえた教育研究を行っている証ではあるものの、適正なものとはいえず、過剰な倍率を是正し受験生のニーズに可能な限り応えるようにする必要がある。さらに、本学部の収容定員は学内他学部と比較して収容定員が少ない（表 9）。本学部の教育研究上の目的を達成するためには、学生の多様性の確保が必須であるため、外国人留学生の受入れ等を積極的に行っているところであるが、現在の収容定員では多様性の確保に限界がある。

また、本学の全ての学部における教育課程は、全学共通科目と（学部）専門科目の 2 つに大別される（表 10）。このうち、全学共通科目では言語系科目（10 単位）及び総合系科目（18 単位）の計 28 単位が卒業要件単位数となっており、言語系はさらに言語 A（英語）と言語 B（初習言語）に区分している。本学部は、設立当初、学部の専門科目と全学共通科目の言語教育の双方を担う教員で構成されていた。しかし、次第に両立の困難さが課題となっていた。このような状況を踏まえ、外国語教育を通じて、主体的に深く考え、他者と協働しながら社会をよりよい場所へ変える力を育てることを目的とする外国語教育研究センターを 2020 年 4

表10	区分 1	区分 2	区分 3	卒業要件 単位数	
全 学 共 通 科 目	言語系 科目	言語A		6	
		言語B		4	
	総合系 科目	学びの精神		4	
		多彩な学び	1. 人間への探究		14
			2. 社会への視点		
			3. 芸術・文化への招待		
			4. 心身への着目		
			5. 自然の理解		
			6. 知識の現場		
スポーツ実習					

月に設置し、同センターが全学共通科目の言語系科目を担うこととなった。同センターの設置以降、外国語教育カリキュラム（全学共通科目の言語系科目）は、現行カリキュラムにおける課題等を共有

し新たなカリキュラムを実現していくため、2023 年度までを一つの目安として、本学部所属教員と協働して運営していくこととなっている。同センターの設置により、2019 年度は学部として合計 219 コマの全学共通科目の担当を義務付けられていたものが、2020 年度には 97 コマとなり、本申請によって収容定員が増加する 2024 年度は、外国語教育カリキュラムの責任を原則として同センターが担うこととなっているため、22 コマとなる（表 11）。2024 年度以降は、概ね同程度の割り当てとなるため、これまで以上に本学部の教員が学部専門科目に注力することができる。

（表 11）

	2019 年度	2020 年度	2024 年度
本学部の専任教員数	37 人	38 人	34 人
本学部への言語系科目の割り当て	210 コマ	88 コマ	なし
本学部への総合系科目の割り当て	9 コマ	9 コマ	22 コマ
本学部への全学共通科目の割り当て（合計）	219 コマ	97 コマ	22 コマ
2019 年度を起点とした場合の増減	0	-122	-197

以上を踏まえ、本学部の定員を入学定員 145 人から 210 人に（65 人増）、収容定員 580 人から 840 人に（260 人増）増加することとする。

なお、本申請による収容定員の増加は、地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律（平成 30 年法律第 37 号）第 13 条第 2 号の規定を活用するものであり、特定地域内学部収容定員の増加に係る届出書類は別途提出済みである（資料 16）。

・増加する定員数の妥当性

本申請により増加する人数の設定に際しては、①本学部は東京都豊島区の池袋キャンパスに設置しているため特定地域内の学部収容定員の増加にあたること、②本学の既設学部及び競合校と比較して ST 比を著しく悪化させないこと及び③大学設置基準で求められる校地校舎面積を踏まえることの 3 点を勘案し、妥当であると判断した。

①については、資料 16 のとおり 1,200 人の収容定員を、本申請による収容定員の増加、外国人留学生の受入れを促進するための教育プログラムを対象とした収容定員の増加（2022 年度から）及び新学部の設置（2025 年度開設予定）に振り分ける必要があったため、これら 3 者を総合的に検討した。

②については、収容定員増加後の本学部と本学既設学部及び競合校との S/T 比率（収容定員／専任教員）を比較した（資料 17, 18）。その結果、本学部他学部との比較では、本申請による収容定員の増加後において、本学部を含む 11 学部平均が 40.18 であるところ本学部は 24.71 であり、11 学部中 2 番目に良い数字となっている。また、競合校との比較では、本学部を含む 6 大学平均が約 26.97 であるところ本学部は 24.71 であり、6 大学中 3 番目に良い数字、かつ、平均値を上回っている。これらを踏まえ、本申請による収容定員の増加後も、増加前と同等以上の教育研究内容が担保できると判断した。

③については、池袋キャンパスの校地校舎面積を大学設置基準で求められる校地校舎面積と比較して検討した。東京 23 区内という立地条件を踏まえると、新座キャンパスと比して校地面積は小さいものの、校舎面積は十分な面積であり、大学設置基準で本学全体に求められる校舎面積（新座キャンパスに設置している学部を含む、全ての学部の収容定員から算出される校舎面積）を池袋キャンパスの校舎面積のみで上回っている（資料 19）。このため、本申請による収容定員の増加後も特段の支障は生じないと判断した。

○入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠

・現行及び収容定員増加後

入学金、授業料等の学生納付金の額の設定は、**表 12** のとおり、現行と同様とする。また、この金額は、本学が設置している他の人文・社会科学系学部と同水準で設定している（**資料 20**）。

（表 12）

	入学金	授業料等の学生納付金（諸会費を除く）				総額
		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
現行 (海外留学研修履修者)	200,000	1,138,000	1,131,000 (892,000)	1,131,000	1,138,000	4,738,000 (4,499,000)
収容定員増加後 (海外留学研修履修者)	200,000	1,138,000	1,131,000 (892,000)	1,131,000	1,138,000	4,738,000 (4,499,000)

上記のほか、諸会費として（学生健康保険互助組合費として）3,500 円／年の徴収を行う。

なお、海外留学研修は、原則として本学部の全員が参加するプログラムであり、履修者の学費は、大学間協定校へ留学する場合を除き、学費を 1,131,000 円から 892,000 円へ減額する。

以上のことから、本学部の学生納付金は、既設の人文・社会科学系学部と同水準であり、教育研究内容を踏まえると、学生納付金の設定は適切なものであると判断している。

・競合校の状況

本学部の競合校は、**資料 21** に記載の 5 校を想定している。入学金と授業料の状況は**資料 21** のとおりである。競合校ではこのほかに、学生健康保険互助組合費、傷害保険料、学会費や父母会費など、諸会費を数千円～40,000 円程度徴収している。入学金は、(A) 大学が 240,000 円と他校より高く設定しているが、それ以外の 4 校と本学は同額の 200,000 円で設定している。競合校を含めた 6 校で比較すると、本学は 6 校中 4 番目に高い金額となっており、極端に高い又は低い金額でないことから、学生納付金の設定は適切であると判断している。

エ 学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果

○調査の概要

過去 5 年間（2018～2022 年度入試）における、本学の志願者数、受験者数、合格者数及び入学者数の推移を調査した。また、志願者、受験者及び合格者については延べ人数、実人数及び実人数のうち他学科を併願している者の状況を集計し、問題なく定員を充足する見込みであることを確認した。なお、アスリート選抜入試（**資料 22**）については、第一次選考時点では出願学科が決定していないため、志願者数・受験者数からは除いて集計を行った。

○調査結果

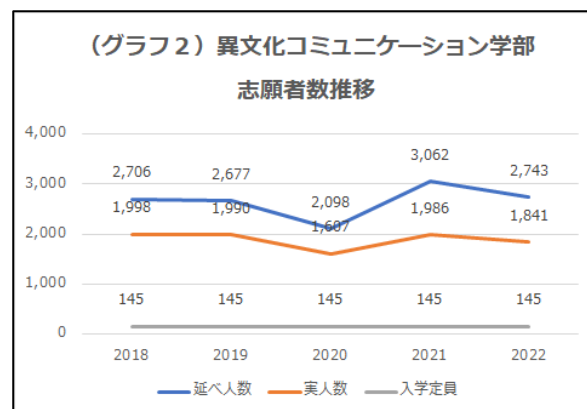
本学部における志願者数、受験者数、合格者数及び入学者数の推移は**表 13,14** 及び**グラフ 2** のとおりである。過去 5 年間、入学定員に対して延べ人数で約 14.5～約 21.1 倍、実人数でも約 11.1～約 13.8 倍の志願者数で推移していることから、本申請による収容定員増加後も問題なく定員を充足する見込みである。

(表 13)

入学 年度	志願者			受験者			合格者			入学者	定員
	延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	実人数	充足率
2018	2,706	1,998	1,098	2,665	1,775	1,044	354	321	84	152	1.05
2019	2,677	1,990	1,023	2,626	1,965	995	292	274	59	145	1.00
2020	2,098	1,607	793	2,059	1,583	773	364	339	103	148	1.02
2021	3,062	1,986	871	2,990	1,962	859	431	364	122	144	0.99
2022	2,743	1,841	847	2,679	1,802	829	468	413	123	164	1.13

(表 14)

入学年度	志願者／入学定員（145）	
	延べ人数	実人数
2018	18.66	13.78
2019	18.46	13.72
2020	14.47	11.08
2021	21.12	13.70
2022	18.92	12.70



○外国人留学生のこれまでの受入れ実績と今後の受入れ見込み

本学では、国際交流の一環として、交換留学制度とは別に、本学での教育を希望する外国人留学生を選抜することを目的に外国人留学生入試を実施している。本学部の外国人留学生における募集制度は2種類あり、筆記試験及び面接による募集制度では、外国人留学生を提出書類や日本語試験、面接等の内容により、多面的・総合的に評価する入試を実施している。また、書類選考による募集制度では、外国人留学生を、提出書類及び日本留学試験の成績等の内容により、多面的・総合的に評価する入試を実施している。今後も継続してこの2つの募集制度で外国人留学生入試を実施する見込みである。募集人員は2つの募集制度を合わせて12人程度に設定しているが、過去5年間の志願者数（延べ人数）は約5.3倍～約7.9倍の範囲で推移している（表15）ことから、近年の志願者は安定して確保できており、今後も問題なく定員を充足する見込みである。さらに、本学部では、2016年度より海外高等学校への指定校推薦制度を導入している。現在、上海にある2校と協定を締結し、これまで9名（2023年度入学予定を含む。）の学生を受け入れている（9月入学）ほか、2024年度にはさらに1校追加する予定である。

(表 15)

入学年度	2018	2019	2020	2021	2022
志願者	67	86	64	95	93
志願者／募集人員	5.58	7.17	5.33	7.92	7.75
入学者	16	18	14	20	18

また、本学の学士課程に在籍する正規課程学生（学位の取得を目的とした外国人留学生）及び特別外国人学生（協定校からの交換留学等）の人数（2022年10月20日現在）を降順で並べると表16のとおりととなる。収容定員を踏まえると、本学部は多くの外国人留学生を受け入れており、「留学生と日本人学生がキャンパスに集い、異なる価値観を、相手に合わせて日本語やそれ以外の言語を通じてぶつ

け合える環境」を整備してきた実績がある。

(表 16)

学部名	2022 年度 収容定員	正規課程学生	特別外国人学生	合計
異文化コミュニケーション学部	580	79	43	122
文学部	3,672	79	22	101
経営学部	1,540	26	54	80
経済学部	2,736	64	5	69
法学部	2,340	48	16	64
社会学部	2,076	33	16	49
観光学部	1,480	25	12	37
コミュニティ福祉学部	1,672	26	3	29
理学部	1,168	17	6	23
現代心理学部	1,276	18	4	22

B. 新設学部等の分野の動向

○同分野を有する近隣大学の志願動向

人文科学、社会科学、自然科学等の分類が困難であるため、都内の私立大学において、学部名に「コミュニケーション」、「国際」等を含む 12 大学 17 学部（本学部及び「競合校」として挙げた 5 大学を含む。）の 2018 年度～2022 年度の志願動向等を調査した（調査対象学部名は資料 23 参照）。結果は表 17 のとおりである。

(表 17)

	2018	2019	2020	2021	2022
志願者	56,305	68,556	58,714	53,424	52,949
受験者	54,205	64,987	55,491	51,254	50,516
合格者	11,002	12,441	13,280	14,161	15,770
入学者	4,867	4,996	5,073	4,895	5,199

※私大連データライブラリから抽出

○分野の動向を踏まえた定員充足の根拠

学部名に「コミュニケーション」、「国際」等を含む学部は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響もあり、志願者は 2019 年度をピークに減少傾向にある。しかし、入学者は、2022 年度が直近 5 年間で最も多い人数となっている。また、後述するとおり、本学部は、直近 5 年間で志願者が最も減少した 2020 年度においても志願倍率は 10 倍、実質倍率は 5 倍を超えており、安定して志願者及び入学者を確保し続けている。

以上のことから、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により志願者数の増減はあるものの、入学者数は増加傾向にあり、教育研究内容に国際関連分野を含む学部に対する受験生のニーズは高いと見込まれること、本学部は直近 5 年間で多くの志願者数等を確保し続けていることから、本申請による収容定員の増加後も、定員を充足することは十分に可能であるといえる。

C. 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等

○各種統計調査の結果

中央教育審議会大学分科会大学振興部会で使用されている資料（資料 24）によると、「18 歳人口は、

平成 21～令和 2 年までほぼ横ばいで推移するが、令和 3 年から再び減少局面に突入し、令和 22 年には約 88 万人まで減少することが予測されている。」とされており、全国的に 18 歳人口の減少には歯止めがかかっていない。また、本学における入学者の主な出身都道府県は、東京、埼玉、千葉及び神奈川の 1 都 3 県であるが、生徒数（第 3 学年及び第 4 学年。全ての科を含む。）は、いずれも減少傾向にある（資料 25）。

しかし、大学（学部）への進学者数の推移を見ると、東京、埼玉、千葉及び神奈川の 1 都 3 県では、一転して右肩上がり増加しており、2021 年度は 2018 年度から約 6,000 人も増加している（資料 26）。

○18 歳人口の全国的、地域的動向等を踏まえた定員充足の根拠

18 歳人口については、全国的（1 都 3 県を含む。）に減少傾向が続いているものの、大学（学部）への進学者の推移を見ると、本学における入学者の主な出身都道府県である、東京、埼玉、千葉及び神奈川では、いずれも右肩上がり増加している。本学では、志願者の約 8 割が東京、埼玉、千葉及び神奈川の出身者であるため、全国的な 18 歳人口の減少に関わらず、入学者を確保できることが見込まれる。よって、本申請による収容定員の増加後も、十分な定員充足が可能であるといえる。

D. 競合校の状況

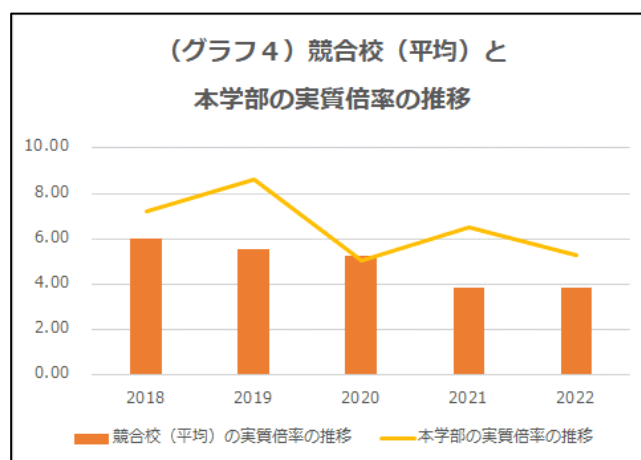
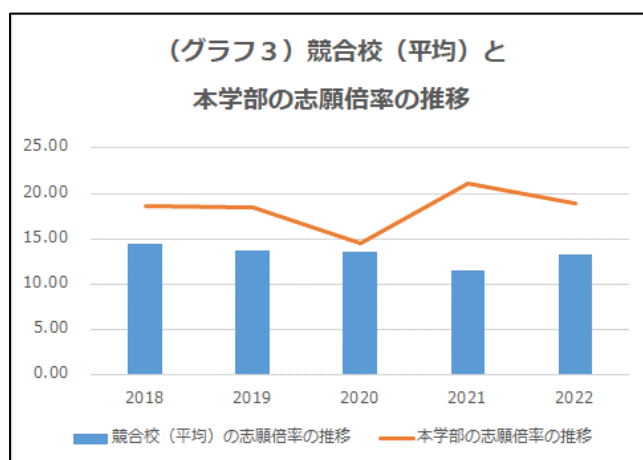
○競合校とその妥当性

本学部では、言語研究、通訳翻訳研究、コミュニケーション研究及びグローバル・スタディーズの 4 つの領域を柱に、理論と実践を充実させる科目を設置しており、競合校としては、本学部と分野が近い、あるいは重なっている資料 27 の 5 大学を想定している。特に、（A）大学及び（E）大学については、留学を必修としている点が本学部と共通している。また、2022 年度入試の分析資料（資料 28）によれば、資料 27 に記載の人数の受験者が本学部と各大学を、併願していたことがわかっている。

以上のような学問分野、受験生の併願状況のほか、いずれの大学も首都圏にキャンパスを擁する点からも、資料 27 の 5 大学を競合校として挙げることは妥当であると言える。

○競合校における入学志願状況等

本学部及び競合校（計 6 大学）の 2018 年度～2022 年度における入学志願状況等は資料 29 のとおりである（資料 29 は、5 月 1 日現在の数値であり、当該年度の 9 月入学者が反映されていないため、他の資料と数字が一致しないことがある。）。志願倍率は、2021 年度は新型コロナウイルス感染症の影響からか直近 5 年間で最低となっているものの、10 倍以上を維持している（グラフ 3）。実質倍率についても約 4 倍以上を維持しており、競合校に対する受験生のニーズは高いといえる（グラフ 4）。



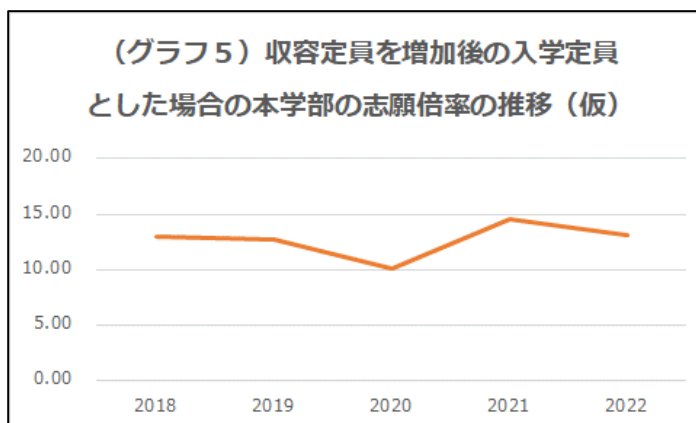
また、競合校の一般選抜・共通テスト（大学入試センター試験）利用入試に限定した志願者の状況は資料 30 のとおりである。過去 5 年間に於いて、募集人員に対する志願者数が最も少なかった大学で

も、募集人員の約 7.6 倍、多かった大学では約 29.0 倍の志願者がいる状況である。

以上のことから、本学部における言語研究、通訳翻訳研究、コミュニケーション研究及びグローバル・スタディーズといった教育研究分野と類似の教育研究分野に対する受験生のニーズは高いと考えられる。

○競合校の状況を踏まえた定員充足の妥当性

既述のとおり、本学部における教育研究分野と類似の教育研究分野に対する受験生のニーズが高いことは、本学及び競合校の志願者等の状況で明らかである。また、本学の直近 5 年間の状況は、競合校と比べて、志願倍率及び実質倍率ともに同程度又は高い状況となっている。さらに、仮に入学定員を 210 人（本申請による増加後と同じ人数）とした場合でも、志願倍率は 10 倍を



を超えている（グラフ5）。加えて、2022 年度入試の分析資料（資料 28）によれば、競合校 5 校と本学を併願し、両大学に合格した受験者のうち、本学を入学先として選択した学生の数が多かったのは 5 校中 3 校だった。教育研究の分野が近い大学の中でも、本学を選択する受験生の層を一定数確保できていることがわかる。

以上のことから、本学部は安定した志願者数の確保と定員充足を担保できる状況にある。

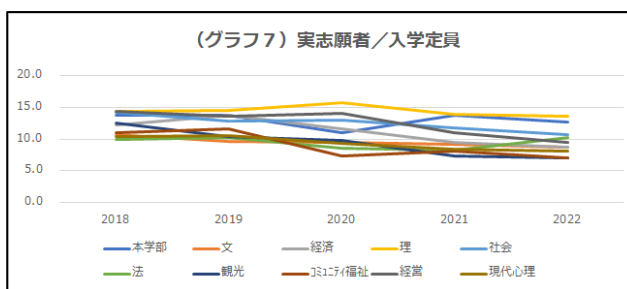
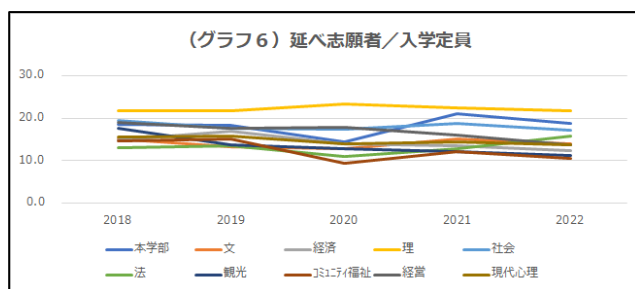
E. 既設学部等の学生確保の状況

本学における既設学部の志願者数、受験者数、合格者数及び入学者数の推移は資料 31 のとおりである。過去 5 年間、入学定員に対して延べ人数は 9.5 倍～23.4 倍（表 18 及びグラフ 6）、実人数でも 7.0 倍～15.7 倍（表 19 及びグラフ 7）の志願者数で推移している。2021 年度入学者の一般選抜における、新型コロナウイルス感染症の流行や入試制度の大幅な変更等による受験控えなどの受験生の減少要因がある中、志願者は十分に確保できている。合格者のうち、およそ 4 割の受験生が本学へ入学しており、安定して入学者を確保できている状態といえる。

以上のことから、今後も問題なく志願者を確保でき、定員を充足する見込みである。

（表 18）

	延べ志願者数／入学定員									
入学 年度	本学部	文	経済	理	社会	法	観光	ミニマ 福祉	経営	現代 心理
2018	18.7	15.2	14.9	21.8	19.6	13.1	17.6	14.7	19.1	15.6
2019	18.5	13.3	16.9	21.7	17.7	13.6	13.8	15.3	17.6	15.7
2020	14.5	12.9	13.9	23.4	17.4	11.1	12.8	9.5	18.0	13.9
2021	21.1	15.1	13.4	22.4	18.8	12.8	12.1	12.2	16.1	14.4
2022	18.9	14.1	12.4	21.9	17.1	15.8	11.1	10.6	13.7	13.8



(表 19)

	実志願者数／入学定員									
入学年度	本学部	文	経済	理	社会	法	観光	コミュニティ福祉	経営	現代心理
2018	13.8	10.8	12.2	14.4	14.3	10.0	12.6	11.0	14.4	10.4
2019	13.7	9.7	13.8	14.5	12.9	10.2	10.4	11.6	13.6	10.5
2020	11.1	9.4	11.6	15.7	13.1	8.5	9.7	7.4	14.0	9.3
2021	13.7	9.2	9.5	13.9	11.7	8.3	7.4	8.1	11.0	8.4
2022	12.7	8.7	8.7	13.6	10.7	10.3	7.0	7.1	9.5	8.1

オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

学生確保に向けた取り組みは以下のとおりである。2022 年度はコロナ禍の影響で、従来実施していた高校訪問（各高校進路指導担当教員への訪問）等の取り組みは中止や見直しをせざるをえなかったが、入学センターや学部を中心に取組みが進められている。2023 年度以降は可能な限りコロナ禍前の実施形態に戻し、収容定員変更後の学生確保に向けた取組を行う。

（大学案内、大学ウェブサイト内の専用ページ、学部案内、学部独自のウェブサイト）

大学案内で学部の紹介を行うとともに、大学ウェブサイトにも学部専用ページを設け、随時情報提供を行っており、積極的に学部の広報を行っている。

また、本学部は学部案内のほか、学部独自のウェブサイトを公開しているが、収容定員変更後の学生確保を念頭において、これらを刷新する。学部案内については、「「ちがひ」から、その先へ」という学部スローガンを掲げ、学部教育目標、教育内容、教育方法、履修モデル、特長ある活動、卒業後の進路等に関する情報を簡潔かつ体系的に理解できる内容・デザインの学部案内を作成中である。完成後は下記入試広報活動で活用する。学部独自のウェブサイトについては、学部の活動を詳細かつ即時的に伝える等ウェブサイトならではの活用を予定している（資料 32）。

（高校教員向け入試広報活動、進学相談会・大学説明会）

毎年 1 回、高校教員を対象とした説明会を開催している。2022 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、オンライン形式での説明会を 6 月 11 日に開催した。教育の特色、入試結果、入試制度、キャリア・就職の特長等大学の紹介を行うとともに、本学部 4 年生による講演を行った。2022 年度は 173 回の視聴があった（2022 年 7 月 7 日現在）。収容定員変更後の学生確保に向けて、2023 年度以降も同様の取組を行う。

また、年間通じてイベント会場や高校で開催される進学相談会に参加し、受験生や保護者等からの個別相談を受け、必要に応じてパンフレットなどを配付するとともに、高校・予備校等を訪問し、教室等で大学の取り組みについて説明した。2022 年度における進学相談会への参加及び高校・予備校等への訪問は、459 件（2022 年 12 月末現在）であった。収容定員変更後の学生確保に向けて、2023 年度

以降も同様の取り組みを行う。

（オープンキャンパス）

本学は例年 8 月上旬に 3 日間オープンキャンパスを開催している。2022 年度のオープンキャンパスは新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、来場形式とオンライン形式のハイブリッド型イベントとして開催し、参加者数は合計で 27,187 名であった（資料 33）。来場形式のプログラムとして体験系コンテンツのキャンパスツアーを 8 月前半に 7 日間実施し、オンライン形式のプログラムについては、8 月 1 日～31 日の間、オンデマンド方式とライブ方式で実施した。また、本学部で実施したオンデマンド配信及び LIVE 授業は資料 34 のとおりである。他学部と 1 回あたりの視聴回数を比較すると、オンデマンド配信では 11 学部中 7 番目、LIVE 授業は 11 学部中 3 番目に多かった（資料 35）。視聴回数は収容定員に比例すると考えられるが、本学部は 11 学部中最も少ない収容定員であるにもかかわらず一定の視聴者数があった。これは、本学部に対する受験生のニーズが反映されていると考えられる。なお、本学では、外部業者にオープンキャンパスの分析を依頼し、次年度以降の取組みに活かすこととしている（資料 36）。

2023 年度は可能な限りコロナ禍前の実施形態に戻し、来場型プログラムをメインとしたオープンキャンパスを開催する。具体的には①本学部の特設コーナーを設けて教育理念や特色、入試制度について紹介する、②本学部は日本語による授業と英語による授業を体験できる企画を用意し、生徒や保護者が本学部の教育内容、教育方法の特長について、体験を通して理解する機会を設ける。また、③本学部の実践と理論を往還する様々な活動をポスター発表の形態で、インタラクティブに紹介する機会を設ける。さらに、④時間や場所の制約等で来場できない生徒や保護者のためにオンデマンド動画の配信も予定している（資料 37）。

（高等学校在学中の生徒や保護者を対象とした入試広報活動）

「秋のオープンキャンパス」と銘打ったオンラインイベントを開催し、本学の特長について説明するとともに、YouTube ライブのチャット機能を利用して参加者から質問を受け付け、本学の学生が回答した。2022 年度の視聴回数は 1,026 回（2022 年 12 月 3 日現在）であった。また、学生による受験生・高校生向けの個別オンライン相談会も実施し、104 人が参加した。進学相談会や大学説明会等でも、既に本学の中で最も質問や問い合わせが多く、受験生からの志望度が高い本学部であるが、収容定員変更後の学生確保に向けては、入試にも関連する特筆すべき内容として一段と積極的に広報することを予定している。

（学部公開講演会、イベント等）

本学部は、本学部の専門領域の教育内容や研究成果を広く社会に知らせることを目的として「言語や社会や文化をくつなぐ：世界と切り結ぶ異文化コミュニケーション」というタイトルで公開講演会を実施している（資料 38）。2022 年度は 3 回実施し、合計約 220 人が参加した。2023 年度も複数回の開催を予定している。また、例年秋にキャリアシンポジウムを開催している。2022 年度は本学部の教員による基調対談、卒業生と在校生によるパネルディスカッション、在校生によるポスター発表を行った。一般に公開し企業の方が多く来場されるが、2022 年度は本学部への進学に関心をもつ高校生の参加があった。2023 年度以降はこの取り組みも学生確保のための機会に活用したい。さらに、高校のプロジェクト型授業の一環として本学部に協力要請があった場合は、積極的に応答するようにしている。2022 年度は細田学園高校よりインタビューの依頼があり、最終的に同校生徒と本学部学生（日本人学生と特別外国人留学生（特外生／協定校からの交換留学等））との協働イベントを開催する運びになった（資料 39）。その成果は「全国高校生プロジェクトアワード」で報告された。このような

取組みも、学生確保にむけた取組みの機会と考え、積極的に取り組むこととする。

（２）人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

○本学部在教育研究上の目的

既述のとおり、本学在教育研究上の目的は、「変化を続ける世界の中で、複数の視点からものごとを考え、柔軟な思考力をもって実践的に問題と向き合うことによって、多様で「異なる」他者と共生し、持続可能な未来を創ることのできる人材を育成する。」である。

○本学部において養成する人材像

教育研究上の目的に掲げているとおり「変化を続ける世界の中で、複数の視点からものごとを考え、柔軟な思考力をもって実践的に問題と向き合うことによって、多様で「異なる」他者と共生し、持続可能な未来を創ることのできる人材」である。また、学位授与方針において、本学部における８つの学修成果を掲げている（（１）ウ「○本学部在教育研究上の目的」参照）。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

○社会的な人材需要の動向等

（独立行政法人労働政策研究・研修機構の調査研究）

独立行政法人労働政策研究・研修機構は、「日本企業のグローバル戦略に関する研究」と題する報告書を、2019年3月、2020年3月及び2022年3月と3度にわたって公表している。新型コロナウイルスについては、2019年12月初旬に中国の武漢市で第1例目の感染者が報告され、2020年1月15日に我が国最初の感染者が確認されているため、2019年及び2020年の報告書はコロナ禍以前の最新の状況を反映していると考えられる。

2019年の報告書（資料40）では、調査の目的を「わが国企業が現在、どのような認識からいかなるグローバル戦略を選択し、その際、どういった課題を抱えているのかを探ること」（P1）とし、東京証券取引所一部・二部に上場する企業2,608社にアンケートを行い、その調査結果をまとめている。この報告書では、「国際的な能力を持った「グローバル人材」」（P47）という表現があるものの、詳細な定義がなされていない。しかし、アンケート調査票のうち、「貴社の日本国内におけるグローバル化への対応についてお尋ねします」とした問12から問14までのうち、問12では選択肢として表の10の要素が示されている（P90）（表20）ことから、これら10の要素がこの報告書でいう「グローバル人材」として必要なものと認識していることが窺える。この問いに対する回答のうち、8割を超えて選択されたのが「コミュニケーション能力」（82.5%）、8割弱が「チャレンジ精神」（78.9%）、「主体性・積極性」（77.2%）、以下過半数を超えたのが「責任感・使命感」（67.8%）、「協調性・柔軟性」（61.4%）及び「英語の能力」（55.0%）であった（P28）。

（表20）

問12 以下の要素のなかで、貴社の新入社員に必要だと思われるものはありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください（○はいくつでも）。			
1 英語の能力	2 英語以外の語学力	3 コミュニケーション能力	4 主体性・積極性
5 協調性・柔軟性	6 責任感・使命感	7 チャレンジ精神	8 体力
9 異文化に対する理解	10 日本人としてのアイデンティティ	※報告書の内容を基に作成	

これらの項目は表21のとおり本学部の学位授与の方針が掲げる8つの学修成果に対応しているため、

本学部の人材の養成に関する目的等は、社会的な人材需要の動向を踏まえたものであるといえる。

(表 21)

学位授与方針に掲げる学修成果	問 12 の 10 の要素
①論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。	4
②自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。	3,5,9,10
③グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。	1,2
④多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、それを踏まえて行動することができる。	1,2,4
⑤日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	1,2,3,5,9
⑥異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	1,2,3,5,7,9
⑦教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	4
⑧文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。	1,2,3,4,5,6,7,9

2020 年の報告書（資料 41）は、上場企業 9 社（A～I 社）から、（1）人員構成と採用、（2）人材育成及び（3）グローバル化への対応に係るヒアリング結果を基に作成されている（P5）。「グローバル人材」については、「グローバル人材の定義は一つの企業内でも統一的な見解を共有していない場合があり、ましてや企業を超えて統一的な像は結ばれていなかった。」としているものの、複数の企業で挙げられた特徴として「グローバル人材とはコア人材と重複するイメージを持ち、多様性を尊重し、言語と異文化理解の能力をもつ、国際的にリーダーシップを発揮できる人材活用能力に長けた人材」としている（P23）。また、ヒアリング結果による A～I 社が考える「グローバル人材」は表 22 のとおりである。

(表 22)

	「グローバル人材」に関する各社の見解（P23～25）
A 社	日本国内でのマネジメントを基礎としつつ、海外でも現地の人材と <u>コミュニケーション</u> をとって <u>異文化を理解</u> しながらマネジメントすることができる人材
B 社	<u>国、地域を越えて活躍</u> し、将来、グループ全体の経営を担うことが期待される人材
C 社	・ビジネスを推進する普遍的な力を持っている人材 ・ <u>どのような場面でも課題をみつけ、成果をあげられる</u> 人材
D 社	・コア人材を指す「A 人材」であることに、海外での経験が加わった人材 ・海外展開した先でのマネジメント能力が必須
E 社	海外関連の業務に就く、実際に海外に赴いて業務に携わる人材
F 社	・グローバルな司令塔としての役割を持つ人材 ・海外に派遣される、または駐在した際に、 <u>現地で起こってくる問題にきちんと対処することができる</u> 人材
G 社	異文化・多国籍など <u>多様な価値観を持つ人の立場を尊重し、共有ができる国際感覚とコミュニケーション能力</u> を備え、自らの信念に基づいて行動できる人材
H 社	今後の海外展開に求められる能力である、 <u>広い視野と他の人が思いつかないような発想</u> を持つ人材
I 社	<u>多様性を受容</u> して、成果を出せる人材

「コミュニケーション」及び「異文化理解」は、2019年の報告書にある10の要素と同じ内容であるとともに、「国、地域を超えて活躍」するためには必須条件である。また、「多様な価値観」及び「多様性」は、10の要素の「協調性・柔軟性」とほぼ同義である。さらに、課題や問題への対応力が挙げられているが、これらは上記の学位授与の方針に掲げる学修成果の⑦⑧に該当する。以上のことから、2020年の報告書におけるヒアリング結果からも、本学部の人材の養成に関する目的等は、社会的な人材需要の動向を踏まえたものであるといえる。

（日本貿易振興機構（JETRO）のアンケート調査）

JETROでは、2021年11月4日～2021年12月7日にかけて、海外ビジネスに関心が高い日本企業13,456社にアンケート調査を行っている（資料42）。アンケートの結果からは、現地の市場開拓を行う人材、語学スキル等を備えた人材、顧客とのやりとり等を行う人材等の不足が挙げられている（P21）。既述したように、本学部の学位授与方針に掲げる学修成果は、これら不足しているとされる人材に求められている能力を含んでいるため、この点からも本学部の人材の養成に関する目的等は、社会的な人材需要の動向を踏まえたものであるといえる。

○地域的な人材需要の動向等

（情報サービス、旅館・ホテル業）

全国的な傾向ではあるが、株式会社帝国データバンクが公表している「人手不足に対する企業の動向調査（2022年10月）」（資料43）によると、人手不足と回答した企業は、「コロナ禍以降で最高を更新」（P1）しており、なかでも、情報サービス業は全体で最も高く、旅館・ホテル業は全体で2番目に高い割合となっている（P2）。新型コロナウイルスの水際対策の緩和や政府による「全国旅行支援」の影響が見られ、同旨の新聞報道も見られる（資料44）。また、東京都に限ってみると、同社が公表している「人手不足に対する企業の動向調査（東京都）（2018年3月）」（資料45）は、「正社員が不足している企業は50.8%と5割に達した。」（P1）としているほか、「業種細分類別に見ると、「情報サービス」（76.9%）」（P2）が最も高く、2022年の全国を対象とした調査と同じ結果となっている。さらに、東京都は「観光関連産業の需要回復に向けた人材確保支援事業」（資料46）を新規事業として行うこととしており、全国的な人手不足の傾向は、東京都においても類似の傾向にあるといえる。

（教員）

東京都教育委員会は、東京型グローバル人材育成モデルの実施に向けたガイドラインとして「東京グローバル人材育成方針」（令和4年3月）を公表し（資料47）、「英語力を基盤とした様々な資質・能力を、小・中・高等学校を通して身に付けることが必要です。」（P2）とした上で、小・中・高等学校を通して育成すべき育成すべき資質・能力を4つのTARGETとして設定した（P3）。また、中学校英語における「少人数・習熟度別指導ガイドライン」の策定（2014年度）、「英語教育推進リーダー」の加配（2016年度）、都独自教材「Welcome to Tokyo」Beginner 及び日本語版(Elementary 及び Basic)の作成（2017年度）、都内において英語の体験ができる TOKYO GLOBAL GATEWAY の開設（2018年度）、プレテストの実施を含む中学校英語スピーキングテストの開始（2022年度）など、これまで一貫して英語教育や国際教育の充実を図ってきている（P8）。

一方で、2023年度採用に係る東京都公立学校教員採用候補者選考結果（資料48）を見ると、志願者数（全体）が7,911人となっており、2018年度の13,335人の約半分になった。また、受験倍率（全体）は2018年度の4.4倍から2.1倍に、受験倍率（中・高共通）は2018年度の7.1倍から2.9倍に著しく減少している。こうした状況を踏まえ、東京都教育委員会は、2023年1月に一層の教員確保を図るた

めの方策を公表しており（資料 49）、教員の確保が喫緊の課題となっている。

（本学部卒業生の就職実績）

後述するとおり、学士課程段階であるため、必ずしも全員が特定の業種に就職しているわけではないが、業種別でみると「情報」及び「サービス」への就職実績は、直近 5 年間の上位 2 業種であるため（表 23）、本申請は人材需要の動向を踏まえたものであるといえる。また、本学部では、所定の科目を履修すれば英語の中学校教諭及び高等学校教諭の 1 種免許状（いずれも英語）が取得できる。東京都教育委員会の「東京グローバル人材育成方針」が掲げる「4 つの TARGET」（主体的に学び続ける態度と総合的な英語力の育成／国内外の課題を解決する創造的・論理的思考力の育成／世界の中の一員としての自覚と自己の確立／多文化共生の精神の涵養と協働する力の育成）は、本学部の学位授与の方針に掲げる学修成果と連関するものであるため（資料 50）、同方針が目指すグローバル人材の育成を担う人材を輩出することが可能である。

○外国人留学生に対する人材需要

我が国では、日本経済全体の活性化を目的として、幅広い産業で需要が高まっている高度外国人材の活用を政策の一つの柱としており、留学生の就職支援に係るプラットフォームの構築や留学生の受け入れ環境支援を進めている（資料 51）。高度外国人材は海外展開のキーパーソンと位置付けられているが、一般の企業において外国人の活用を検討する場合、「出入国管理法及び難民認定」が定める在留資格のうち「専門的・技術的分野」に相当する業務を担うことが想定されており、その中でも最も多いのが「技術・人文知識・国際業務」であるとされている。そして、「技術・人文知識・国際業務」で働く例として通訳、私企業の語学教師、マーケティング業務従事者等が挙げられている（資料 52）。これらは、本学部の専門領域である言語研究、通訳翻訳研究、コミュニケーション研究及びグローバル・スタディーズが生かされる領域であり、本学部で学ぶ留学生は、卒業後日本社会に求められる人材であると言える。

留学生は海外展開のキーパーソンとなるだけでなく、国内の多文化共生社会を推進するキーパーソンにもなる。本学部は、「サービ斯拉ーニング」（正課の授業科目）で、地域連携活動を行っているが、その一環として留学生が近隣の中学校の外国につながる生徒の言語支援（ウィスパリング、日本語学習支援）にあたっている。また、近隣の中学生や地方（陸前高田市）からの要請に応える形で実施している English Camp では、留学生が日本の中学生のための英語学習の機会を作るなどしており、社会的な人材需要が確認できる。本学部で学ぶ留学生は、企業、行政、教育機関等の海外展開でも、国内の多文化共生社会の創出においても需要がある人材である。

○直近 5 年間の就職実績及び増加後の入学定員（210 人）の規模の妥当性

本学部の直近 5 年間の就職率（卒業生（進学、留学準備等を除く。）に占める就職者の割合）は、平均すると 95%となっている（表 24）。これは、本学部の教育研究内容及び卒業生が社会から評価されていることの証左であり、本申請による収容定員の増加後も、この状況に変化が生じる特段の要因はないと思われる。学士課程段階であるため、必ずしも全員が学修した専門分野と同様の業種に就職するわけではなく、幅広い業種に就職している。直近 5 年間の業種別就職先は、多い順に、サービス、情報、製造業、卸・小売、運輸・通信等となる（表 23 及びグラフ 8）。なお、直近 5 年間の、本学部を含む全ての学部における業種別就職先上位 5 種は、サービス、情報、製造業、卸・小売及び金融・保険の順位が変わるのみとなっている（表 25）。表 25 を踏まえると、（金融・保険の代わりに）運輸・通信及び放送・広告が上位に入る場合があることが本学部の特徴といえる。

「サービス」では国内外のホテル経営等の宿泊業や旅行業を展開している企業、「情報」では国内に

ありながら社内公用語を英語としてインターネット事業を展開している企業、世界規模でインターネットを経由した小売り事業を展開している企業、「製造業」では我が国の主要産業である自動車製造や電気機器の製造を行う企業、食品製造、医薬品製造等を行う外資系企業、「卸・小売」ではグローバルに多角的な事業活動を展開する商社等に、多くの卒業生が就職している。

また、「運輸・通信」はコロナ禍により 2020 年度及び 2021 年度は数が激減したものの、2019 年度には航空会社、空港関連業務を行っている企業、水運業を行っている企業に多くの卒業生が就職しており、「サービス」に次いで 2 番目に多い業種となった。コロナ禍終息後には、反動による人材需要の拡大が見込まれる。2020 年度に本学部で 3 番目に多い業種となった「放送・広告」では世界的なマーケティングコミュニケーションネットワークと連携しアジアに展開している企業、複数の海外事業会社を設立している企業、ライツマネジメント等の事業を世界の各地域で独自に発展させ事業展開している企業、国際共同制作による番組、ドキュメンタリー映画の製作を行う企業等に多くの卒業生が就職している。

以上のように、1. 本学部の目的である「変化を続ける世界の中で、複数の視点からものごとを考え、柔軟な思考力をもって実践的に問題と向き合うことによって、多様で「異なる」他者と共生し、持続可能な未来を創ることのできる人材を育成する。」は、企業が求める「グローバル人材」の要素を含む内容であること、2. 直近 5 年間の就職率が示すように、本学の教育研究及び卒業生が社会から評価されていること、3. 多くの卒業生が、本学部での学修成果を活かし、国内に留まらず国外で事業を展開している企業に就職できていること、4. **(1) アイウ**で既述したように地域・社会的動向等の現状把握・分析を踏まえた課題解決に、本学部が大いに寄与できることが見込まれること、5. **(1) エド**で既述したように仮に入学定員を 210 人（本申請による増加後と同じ人数）とした場合でも、志願倍率は 10 倍を超えていること及び 6. 本学部の卒業生は、キャンパスのある東京都において人材が不足していると思われる業種への就職実績があることから、本申請における入学定員の増加規模（入学定員 65 人増／収容定員 260 人増）は、これまでの実績を踏まえ、かつ、社会的及び地域的な人材需要の動向を踏まえたものとして妥当であるといえる。

(表23)

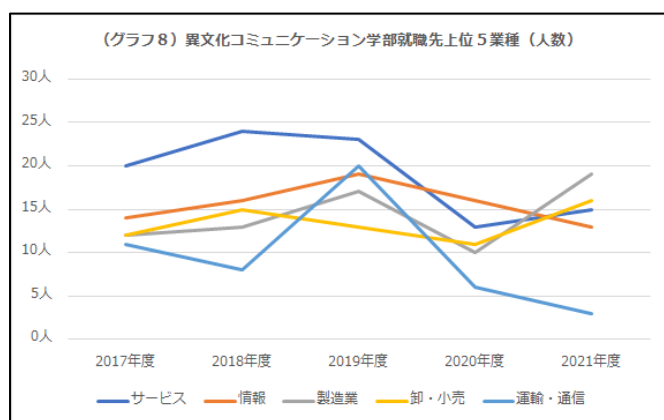
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	計
サービス	20	24	23	13	15	95
情報	14	16	19	16	13	78
製造業	12	13	17	10	19	71
卸・小売	12	15	13	11	16	67
運輸・通信	11	8	20	6	3	48
放送・広告	5	5	9	13	7	39
金融・保険	6	11	4	5	9	35
教育	4	2	3	10	4	23
不動産・電気・ガス	3	3	4	3	8	21
公務	5	3	2	4	2	16
農業・林業・水産・鉱業・建設	2	6	2	2	3	15
起業	0	0	0	0	1	1
業種不明	0	0	0	0	3	3
分類不能	1	1	1	0	0	3

※3月卒業及び9月卒業の数値

(表24)

	2017年度卒	2018年度卒	2019年度卒	2020年度卒	2021年度卒	計
対象者	107	131	144	125	148	655
進学（留学含む）	7	16	7	15	19	64
進学・不明除く	97	112	122	101	110	542
就職	95	107	117	93	103	515
就職率	97.9%	95.5%	95.9%	92.1%	93.6%	95.0%

※3月卒業及び9月卒業の数値



(表25)

本学部	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
1位	サービス	サービス	サービス	情報	製造業
2位	情報	情報	運輸・通信	サービス	卸・小売
3位	製造業	卸・小売	情報	放送・広告	サービス
4位	卸・小売	製造業	製造業	卸・小売	情報
5位	運輸・通信	金融・保険	卸・小売	製造業	金融・保険

全10学部	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
1位	金融・保険	サービス	情報	サービス	情報
2位	サービス	情報	サービス	情報	サービス
3位	製造業	製造業	製造業	金融・保険	金融・保険
4位	情報	金融・保険	金融・保険	製造業	製造業
5位	卸・小売	卸・小売	卸・小売	卸・小売	卸・小売

学生の確保の見通し等を記載した書類（資料目次）

資料 1	大学運営の基本方針（抜粋）	… 4
資料 2	留学生数の推移（2022 年 10 月 13 日国際化推進会議資料）（抜粋）	… 11
資料 3	「国際都市戦略プロジェクト」推進方針（東京都政策企画局）（抜粋）	… 12
資料 4	教育未来創造会議関連資料	… 22
資料 5	次期教育振興基本計画について（答申）（抜粋）	… 31
資料 6	「次期教育振興基本計画」策定に向けた提言（抜粋）	… 36
資料 7	学則別表 7（教育研究上の目的）	… 44
資料 8	学位授与の方針	… 46
資料 9	教育課程編成の方針	… 51
資料 10	専門科目群（デジタルパンフレット）	… 68
資料 11	教育の特色（4つの柱）（ウェブサイト）	… 69
資料 12	Dual Language Pathway (DLP)（デジタルパンフレット）	… 70
資料 13	日本人学生の海外派遣及び外国人留学生の受入れ（デジタルパンフレット）	… 71
資料 14	現場での実践（デジタルパンフレット）	… 75
資料 15	令和 3 年度文部科学白書（第 5 章該当部分抜粋）	… 78
資料 16	【学校法人立教学院・立教大学】特定地域内学部収容定員増加届出書類	… 79
資料 17	本学既設学部と異文化コミュニケーション学部（増加後）の ST 比	… 86
資料 18	競合校と異文化コミュニケーション学部（増加後）の ST 比	… 87
資料 19	大学設置基準における校地面積及び校舎面積と本学の校地面積及び校舎面積	… 88

資料 20	学則別表 2 の 4（学費）	… 90
資料 21	競合校との学生納付金比較	… 94
資料 22	アスリート選抜入試概要	… 95
資料 23	都内私立大学で学部名に「国際」等を含む学部一覧	… 96
資料 24	中教審大学振興部会【第 7 回／参考資料 1】 18 歳人口と高等教育機関への進学率等の推移	… 97
資料 25	東京、埼玉、千葉及び神奈川の生徒数の推移	… 98
資料 26	東京、埼玉、千葉及び神奈川の進学者数の推移	… 99
資料 27	競合校の教育研究分野、留学の有無、併願者	… 100
資料 28	異文化コミュニケーション学部受験者の併願状況（私立大学）	… 101
資料 29	本学部及び競合校（計 6 大学）の 2018 年度～2022 年度における 入学志願状況等	… 102
資料 30	競合校の一般選抜・共通テスト（大学入試センター試験）利用入試志願者 （募集人員）	… 103
資料 31	既設学部の志願者数・受験者数・合格者数及び入学者数の推移	… 104
資料 32	大学案内等の URL 一覧	… 111
資料 33	2022 年度オープンキャンパス参加者数	… 112
資料 34	2022 年度オープンキャンパスにおけるオンデマンド配信及び LIVE 授業 （異文化コミュニケーション学部）	… 113
資料 35	オンデマンド配信及び LIVE 授業における 1 回あたりの視聴回数 （2022 年度オープンキャンパス）	… 114
資料 36	2022 年度オープンキャンパス分析報告書	… 115
資料 37	2023 年度オープンキャンパスの「開催内容・日程」	… 135
資料 38	公開講演会	… 139
資料 39	細田学園高等学校との協働イベント	… 150
資料 40	日本企業のグローバル戦略に関する研究 （独立行政法人労働政策研究・研修機構（190329））（抜粋）	… 151

資料 41	日本企業のグローバル戦略に関する研究(2) (独立行政法人労働政策研究・研修機構(200307))(抜粋)	… 158
資料 42	2021 年度 日本企業の海外事業展開に関するアンケート調査 (JETRO) (抜粋)	… 164
資料 43	人手不足に対する企業の動向調査 (2022 年 10 月)	… 168
資料 44	日経新聞記事 (2022 年 10 月 21 日)	… 174
資料 45	人手不足に対する企業の動向調査 (東京都)	… 175
資料 46	観光関連産業の需要回復に向けた人材確保支援 (東京都)	… 180
資料 47	東京グローバル人材育成指針 (東京都教育委員会) (令和 4 年 3 月)(抜粋)	… 182
資料 48	公立学校教員採用候補者選考結果 (東京都)	… 189
資料 49	教員確保策充実の方向性について (東京都教育委員会)	… 191
資料 50	学位授与の方針の学修成果と「東京グローバル人材育成方針」が掲げる 「4 つの TARGET」 との関係	… 194
資料 51	外国人留学生の就職関係 (文部科学省)	… 195
資料 52	新輸出大国コンソーシアム事業 高度外国人材活用資料集 (JETRO)(抜粋)	… 197

立教大学

大学運営の基本方針

－＜ALL 立教＞で迎える立教 150 周年－

(2021 年度～2024 年度)



2021 年 7 月 1 日

総長 西原 廉太

目次

I. 「大学運営の基本方針」の位置づけ	3
II. 「大学運営の基本方針」の理念・目的	3
1. 創立者チャニング・ムーア・ウィリアムズと「建学の精神」	3
2. PRO DEO ET PATRIA - 教育理念の再確認 -	4
3. 「リベラルアーツ」をめぐる - 立教大学としての再定義 -	5
4. COVID-19 後のプロアクティブな新しい大学モデル	6
5. 多様な価値観が集まるキャンパスへ“diversity”の“inclusion”への質的進化	6
6. 「立教大学ヒューマン・ディグニティ宣言」とその意味	7
7. 「全体最適」と「部分最適」のバランスを重視した「ガバナンス改革」	9
8. <ALL 立教>で迎える立教 150 周年	9
III. 重点政策	10
1. RIKKYO Learning Style の発展	10
2. 新しい教学構想	11
IV. 教育発展	12
1. 学士課程教育の展開 - ニューノーマル下で展開する授業のあり方 -	12
2. 大学院教育の展開	12
3. グローバル・リベラルアーツ・プログラム（GLAP）の展開	13
4. 一貫連携教育の充実	13
5. 大学間連携の強化	14
6. 教学支援機能の充実と強化	14
(1) FD・SD の推進	14
(2) 図書館機能の拡充	15
7. その他の取り組み	15
(1) 学修成果の評価方法の検討	15
(2) 立教セカンドステージ大学（RSSC）の展開	15
(3) 認証評価への対応	15
V. 研究活動の活性化	16
1. 学術研究活動全般の質的強化と充実	16
2. 研究支援制度の拡充	16
3. 産学官連携の推進	17

VI. 学生支援	17
1. 学生支援の方向性	17
2. 奨学金の充実	18
3. 学生サポート体制の整備	18
(1) ピア・サポートの推進	18
(2) しょうがい学生支援の展開	18
(3) 健康的なキャンパスの創造	18
4. キャリア支援の充実	19
5. 課外活動の支援充実	20
VII. 社会連携／社会貢献	20
1. 社会連携／社会貢献の方向性	20
2. SDGs の連携強化	21
VIII. 国際化　－国際化事業の展開－	21
IX. 入試　－入試制度の継続的見直し－	22
X. 広報・ブランディング　－広報強化－	23
XI. 大学運営基盤の整備	24
1. ガバナンス強化・危機管理体制の充実	24
2. 教学運営・支援体制の整備	24
3. 財政運営	25
4. キャンパスの発展・整備	25
5. 情報戦略の推進	26
6. 創立 150 周年記念事業の推進と募金活動への貢献	26

I. 「大学運営の基本方針」の位置づけ

本文書は、総長在任期間中（2021 年 4 月～2025 年 3 月）の 4 年間の大学運営における基本方針です。策定にあたっては、本方針の理念・目的を明確化した上で、本学の教学発展における「重点政策」、および各領域（教育発展、研究活動、学生支援、社会連携／社会貢献、国際化、入試、広報・ブランディング、大学運営基盤）における方針を示しています。また、大学の質を対外的に保証し、社会からの要請にこたえていくという基本姿勢を示すという観点から、認証評価、および私立大学ガバナンス・コードの内容にも留意しつつ作成しています。

そして、本方針に基づく各事業の 5 か年計画を、関係部局と協議のうえ 2021 年 12 月までに「中期計画」として取りまとめます。中期計画には、中期目標を定め、戦略的に予算配分を行う重点事業を設定します。また、中期計画を着実に推進するため、予算編成と連動した単年度事業計画を策定します。各事業については、その目的と成果、課題などを確認しながら推進し、定期的に評価を行っていきます。このように「大学運営の基本方針」は、「中期計画」「単年度事業計画」と一体的に管理・運用することを想定しています。

なお、「大学運営の基本方針」は、2015 年度に策定された「RIKKYO VISION 2024－Lead the Way－」の基本理念「**人と人、想いと想いをつなぎ、実りある未来へと、強く道を拓いてゆける人材を輩出する**」を引き継ぎます。また、2018 年度に策定された「総合発展基本構想 2018－2024」に基づく事業は、原則として継続することとし、各事業の具体的な進捗や成果を確認したうえで、見直しが必要な場合にはこれを図り、中期計画にて示します。さらに、今後の推進に大きな課題が見受けられ、抜本的な展開の見直しが必要と判断した事業は、改めて部長会にて情報を共有し、その継続の妥当性を含め審議を行います。

II. 「大学運営の基本方針」の理念・目的

1. 創立者チャニング・ムーア・ウィリアムズと「建学の精神」

米国聖公会宣教師、チャニング・ムーア・ウィリアムズの「ミッション」とは何であったのでしょうか。1859 年、長崎にウィリアムズ主教が来日した時、そこにはまだ「切支丹禁令」の高札が立っていました。禁教令が廃されたのは、立教が創設される前年、1873 年のことです。ウィリアムズ主教が日本で活動を開始した時、ウィリアムズが願った教育に対する基本的需要は、日本には存在しなかったのです。

現代の教育関係者の多くは、学校を始めるに際し、まず市場の需要を調べ、その後で、それを支える教員や施設を調達するという順序を、何の疑いもなく選択するでしょう。しかしながら、学校教育とは、若い者たちに、如何としても伝えたいことがあり、教えることこそが自らの「ミッション」（使命）であると確信する者によって始まったということを、歴史は教えてくれています。事実、ウィリアムズの約 7 年にも及ぶ長崎での見通しのない生活と、

という意味において理解してきました。

この教育理念は、教員と学生、そして職員との協働的営為があって初めて実現できるものです。本学の各学部の英語表記は、すべて“College”です。“College”とは、12、13 世紀に修道院から派生したもので、教員と学生が共に祈り、共に生活し、共に学ぶ空間のことでした。オックスフォード大学、ケンブリッジ大学が、“College”の源流です。現在、本学は残念ながら全寮制ではありませんが、私たちは、“College”の本来的理念を大切にしながら、学生たちに、真理を探究する無限の旅を提供したいのです。人類が築きあげてきた「知」の体系に対する深い造詣と、これを現実の世界、社会の中で適応していく力を持ちうる「ひと」を生み育てる「場」として、私たちの「立教大学」は存在しています。古典から現代、現代から未来へと至る有機的な「知」の礎と連鎖を了解し、これらを自らの具体的な現実や経験と共鳴させて意味を引き出し、さらに内在化させることで、確かな世界観、人間観、価値観を形成させることこそが、私たち、「立教大学」の使命、ミッションです。この「建学の精神」を再確認しつつ、時間と空間を超えて、人と人をつなぎ、世界につながる大学であることを、未来に向かって宣言していきたいと願います。

3. 「リベラルアーツ」をめぐって ― 立教大学としての再定義 ―

ウィリアムズ主教の出身大学は、米国でハーバード大学について二番目に古いウィリアム・アンド・メアリー大学でした。ウィリアム・アンド・メアリー大学は、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学型のリベラルアーツ教育を徹底していた College でした。したがって、ウィリアムズ主教が創設した本学も、英国型の伝統的なリベラルアーツ教育を規範とするものとなりました。築地から池袋に移転する発展期においても、英国型リベラルアーツ教育は、本学の教育方針の基軸であり続けました。それは、池袋キャンパスの、正門から始まる赤煉瓦建物群のキャンパス・デザインにも見事に表現されています。

「リベラルアーツ」に基づく教育の本来的目標とは、**その学びを通じて、学ぶ者が<世界を読み解く力>を、そして、<世界を変えていく力>を身につけることができるようにすること**にあり、その規範的理解を、本学はこれからも変えることはありません。しかし、近年、他大学も「リベラルアーツ」という言葉を積極的に使用するようになり、「立教大学の語るところのリベラルアーツ」とは何かを、「現状」とも接続させながら学内外に対して説明する必要性に迫られているのも事実です。本学においても、「リベラルアーツ」という言葉が、ある意味一人歩きし、共通認識のないまま、曖昧なスローガンと化していると言っても過言ではありません。

リベラルアーツ教育とは、専門と分離された単なる初年次教育ではありません。本学しか語り得ない、私たちの「ミッション」と直結する「リベラルアーツ教育」とは何かを、今一度、全学で確認、共有する必要があります。この点については、本基本方針Ⅲ.1.において改めて確認をしたいと思います。

4. COVID-19 後のプロアクティブな新しい大学モデル

今般の COVID-19 は世界的パンデミックであり、文字通りのパラダイム変換、すなわち、時代の、社会の意識枠そのものがスライドするものでした。その中で、日本はもちろん、世界中の「大学」というもののあり方が劇的に変わっていくことは必至です。これまで私たちが取り組んできたのは、半ば強制的な「オンライン化」でしたが、その可能性を実感していくなれば、これまでの、いわゆる大学のキャンパス・教室・時限という空間的・時間的・物理的枠組みが無意味化され、解体されていくことも十分に想定されます。オンラインの可能性を追求することとは、同時に、キャンパスでしかできないことは何か、キャンパスでの学びと生活の価値と意味とは何かを、あらためて明確に確認することでもあります。本学では、オンラインかオンサイトかといった二者択一的議論ではなく、オンラインとオンサイトを有機的に組み合わせた高等教育を豊かに展開することに注力します。

いわゆる「箱物」型大学教育そのものが問われていく中で、私たち、「立教大学」には、COVID-19 後のプロアクティブな新しい大学モデル、新たな大学教育の枠組みを、積極的に提示していく使命（ミッション）があります。COVID-19 は、オンラインというツールを使いながら、時間も空間も選ばず、多様な人々が多様な形態で高等教育を受けることのできるインフラを、一気に国内に、また、世界に据えることとなりました。私たちは、既定の教学方針を再設定し、COVID-19 後に登場する新しい大学教育の形を構想しなければなりません。

また、今般の COVID-19 の蔓延により、本学の国際化戦略における 2 大重要政策である、「海外への学生派遣の拡大」「外国人留学生の受け入れの拡大」のいずれもが大きな影響を受けることとなり、これまでの国際化戦略を大きく見直す必要が出てきました。バーチャルとリアルハイブリッドを前提に、「派遣」「受入」拡大というフレームを捉えていきます。オンラインを積極的に活用することにより、国内でグローバルに発揮できるスキルや知識を得られる仕組みを作ります。明確な国際化戦略のもと、グローバルなアトモスフィアを醸し出すキャンパス空間の実現を目指します。このような多様なプログラムを通して、本学は、COVID-19 時代における新たな国際化デザインを、先駆的に構想し、提案します。

5. 多様な価値観が集まるキャンパスへー“diversity”の“inclusion”への質的進化

現在、大学に対しては、18 歳で入学する日本人を主な対象として想定するという従来のモデルから脱却し、社会人や留学生、しょうがいのある学生など、多様な属性、背景を持つ人々を積極的に受け入れ、自由に学びができるような体制や環境を整えていくことが求められています。組織の中に、多様な構成員が存在する「多様性」(diversity) 環境への取り組みは、本学をはじめとして、多くの大学でその重要性が認識されてきました。個々人がその可能性を最大限に活かし、グローバル時代を生きていく力を獲得するためには、画一的な、教育を提供する側の視点で作られた教育から脱却し、高等教育機関として、多様な価値観を持

つ多様な人々が集まり、新たな価値が創造される場となる必要があります。本学も、こうした、多様な価値観が集まるキャンパスにおいて、学生一人ひとりの特性を伸ばし、新たなリテラシーにも対応した、多様で柔軟な教育プログラムを提供するため、迅速なプログラム編成を可能とすることをはじめとして、ガバナンスを含め、あらゆる既存の制度の再検証を行います。

本学は、こうした、“diversity”をデフォルトとして踏まえつつ、今後、それをさらに、“inclusion”の次元へと進化させていきます。“inclusion”とは多様な人々が対等に関わり合いながら、一つの有機体的共同体（コミュニオン）を形成している状態を意味します。2015年に開催された「世界教育フォーラム」では、全ての人々にとって包括的（inclusive）で、公平な質の高い教育と生涯学習の促進を目標に、“inclusion”を 2030 年に向けた新たな教育開発ビジョンとして設定しています。“diversity”から“inclusion”の状態へとさらに歩みを進めていく上で、本学にはそれを先導する社会的役割が求められていきます。今後、“inclusion”を、本学の創造的変革におけるキーワードの一つとします。

6. 「立教大学ヒューマン・ディグニティ宣言」とその意味

1874 年、東京・築地にウィリアムズ主教が立教大学（「立教学校」）を創設した時に、ウィリアムズ主教は、当時の「実利主義」や知識、技術を物質的な繁栄と立身出世の道具とする日本の風潮とは明確な一線を画して、立教を「キリスト教に基づく真の人間教育を行う場」と位置づけました。それ以来、本学は、一貫して、一人ひとりの「人間の尊厳」を大切にし、他者の痛みに敏感に共感できる者たちを生み育てることを、「建学の精神」の根幹としてきました。

2005 年に、当時の押見輝男総長は、この精神の核は、教育を大学の中で自己完結することなく、積極的に社会に出てゆき、多くの人々と協働（collaborate）すること、特に病気、しょうがい、災害など、困難な生活を送っている人々や社会的に弱者とされている人々に目を向け、他者を傷つけず、自他共に生きる社会の実現を目指すことにあり、として、「立教ヒューマン・コラボレーション宣言」を提示しました。

本学が「立教ヒューマン・コラボレーション宣言」を打ち出してからすでに 16 年を経ましたが、この間、学生部・学生相談所、大学チャプレン室、人権・ハラスメント対策センター、ボランティアセンター、ジェンダーフォーラムに加え、しょうがい学生支援室、立教サービ斯拉ーニングセンター、共生社会研究センター、東日本大震災復興支援諸活動など、立教においてこのヒューマン・コラボレーションを具体化する動きは深化、進展してきました。

また、2008 年には「キャンパス・ハラスメント防止宣言」を定め、学生および教職員からなるすべての構成員の間で、個人的属性および人格にかかわる事項などに関して、人を傷つけるような発言や行動を行い、その人に不利益や損害を与え、人権を侵害する「キャンパス・ハラスメント」を一切許さないことを宣言しています。この個人的属性には、性別・性自認・

資料2 留学生数の推移（2022年10月13日国際化推進会議資料抜粋）

1) 全学生に占める外国人留学生の割合

● 現状

協定校からの受け入れ（特別外国人学生、以下「特外」）は、新型コロナウイルスによる入国制限の緩和を受けて、2022年度に大幅に回復している（表中*1）。

一方、短期受入プログラムについては、学部によるこれまでの取り組みがコロナ禍により大幅に縮小している。さらに、短期日本語プログラムは、2021年度からオンラインによる受け入れを開始し、2022年度はオンラインによる夏季受け入れを終えたところであるが、秋季に計画していた協定校からの団体受け入れは日本での感染等の状況から参加が見送りとなるなど、まだ回復の途上にある（表中*2）。

<留学生数推移>

内訳		2019	2020	2021	2022	2023 (TGU 目標値)
正規	学部	461	461	447	426	
	院	298	290	291	290	
特外		391	79	49	<u>297</u> *1	
短プロ		272	0	53	<u>21</u> *2	
総合計		1,422	830	840	1,013	1,400 (2,170)

* 2 : 2022 年度速報値（2022 年 10 月時点）。

○資料3 「国際都市戦略プロジェクト」推進方針（東京都政策企画局）（抜粋）

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料3

2 出典

東京都ウェブサイト

3 書類等の利用範囲

「国際都市戦略プロジェクト」推進方針（P3, 4, 9, 15, 18, 19, 21, 29）

<https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/diplomacy/2022/06/images/housin05.pdf>

4 その他の説明

異文化コミュニケーション学部の収容定員の増加が、地域・社会的動向等に即していることを説明するため、上記資料を引用した。

○資料 4 教育未来創造会議関連資料

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 4

2 出典

内閣官房ウェブサイト

3 書類等の利用範囲

我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）（P9, 19 等）

<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/pdf/220510honbun.pdf>

教育未来創造会議第 4 回資料 2

<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/dai4/siryou2.pdf>

教育未来創造会議第 5 回資料 2－2（目次）

<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/dai5/siryou2-2.pdf>

4 その他の説明

異文化コミュニケーション学部の収容定員の増加が、地域・社会的動向等に即していることを説明するため、上記資料を引用した。

○資料５ 次期教育振興基本計画について（答申）（抜粋）

１ 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料５

２ 出典

文部科学省ウェブサイト

３ 書類等の利用範囲

次期教育振興基本計画について（答申）（P13, 14 等）

https://www.mext.go.jp/content/20230308-mxt_soseisk02-000028073_1.pdf

４ その他の説明

異文化コミュニケーション学部の収容定員の増加が、地域・社会的動向等に即していることを説明するため、上記資料を引用した。

○資料6 「次期教育振興基本計画」に向けた提言（抜粋）

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料6

2 出典

一般社団法人日本経済団体連合会ウェブサイト

3 書類等の利用範囲

「次期教育振興基本計画」に向けた提言（P1, 3, 4, 5, 12, 13 等）

https://www.keidanren.or.jp/policy/2022/088_honbun.pdf

4 その他の説明

異文化コミュニケーション学部の収容定員の増加が、地域・社会的動向等に即していることを説明するため、上記資料を引用した。

別表 4 削除

別表 5（第49条関係）

項 目		邦 文	英 文
入学証明書	(1通につき)	300円	400円
退学証明書	(1通につき)	300円	400円
在学証明書	(1通につき)	300円	400円
卒業（見込）証明書	(1通につき)	300円	400円
成績証明書	(1通につき)	300円	400円
修了証明書	(1通につき)	300円	
単位修得証明書	(1通につき)	300円	
学力に関する証明書	(1通につき)	300円	
教育職員免許状取得見込証明書	(1通につき)	300円	
社会福祉士指定科目履修（見込）証明書	(1通につき)	300円	
精神保健福祉士指定科目履修（見込）証明書	(1通につき)	300円	
公認心理師試験卒業証明書・科目履修証明書	(1通につき)	300円	
科目等履修証明書	(1通につき)	300円	400円
聴講証明書	(1通につき)	300円	400円
学士号証明書	(1通につき)	300円	400円
調査書	(1通につき)	300円	
学生証再発行	(1通につき)	2,000円	
通学定期乗車券発行控	(1通につき)	300円	
科目等履修生証再発行	(1通につき)	2,000円	
教育職員免許状大学一括申請手数料	(1通につき)	800円	
学校図書館司書教諭講習申込手数料	(1通につき)	800円	
学位記等再発行	(1通につき)	20,000円	
その他の証明書	(1通につき)	300円	400円

別表 6（第51条，第52条関係）

選 考 料	12,000円
登 録 料	40,000円（年額）
受 講 料（1単位につき）	36,000円

備 考

- 1 第51条第2項の規定による科目等履修生に限り選考料及び登録料は第2年目においてはこれを徴収しない。
- 2 本学の学部又は大学院研究科を卒業，修了したことがある者及び特別外国人学生として在籍したことがある者の選考料及び登録料については2分の1額とする。
- 3 他の教育研究機関との協定により科目等履修生を受け入れる場合，本表にかかわらず，当該協定に基づき選考料，登録料及び受講料を協定による金額とすることができる。

別表 7（第1条関係）

学部	教育研究上の目的
文学部	文学部は，世界の多様な文学・言語・文化・歴史・思想・教育に関するテキストや事象に触れる教育研究を通じて，幅広い人文的教養と深い人間理解に裏打ちされ，主体的な批評精神をもって社会に貢献できる人間を育てることを目的とする。
経済学部	経済学部は，教育研究を通じて，幅広い視野と柔軟な頭脳をもって，変動する経済社会に対応できる，自立的な思考能力をもった人材を社会に送り出すことを目的とする。
理学部	理学部は，教育と研究を通じて「科学の専門性を持った教養人」を育成することを目的とする。具体的には「科学の専門知識を有し，専門分野を中心とした領域での課題解決能力を発揮する人材」，「これらの知識や能力を大学院教育によって更に高度に

	発展させようという人材」，加えて，「自信と誇りを持って社会に出て，大学で学んだ科学的考え方を活用できる人材」の育成をする。
社会学部	建学の精神“PRO DEO ET PATRIA”（普遍的なる真理を探究し、私たちの世界、社会、隣人のために尽くす）にもとづき、社会学及び関連領域の学修をつうじて、社会の問題を発見し、分析し、提言できる人間を育てる。
法学部	法学部は、法学・政治学の教育研究を通じて、法曹・行政・企業・ジャーナリズム・政治・NPOなど多様な分野でリーダーシップをとり、社会や組織の形成と発展を担う人材の育成を目的とする。
観光学部	観光学部は、観光関連分野に関する教育研究を通じて、広範囲で高度な学識を持ち、諸問題の解決を担う総合的な判断力と優れたリーダーシップを備えた有為な人材を育成することを目的とする。
コミュニティ福祉学部	コミュニティ福祉学部は、「いのちの尊厳のために(Vitae Dignitati)」という基本理念に立ち、教育研究を通じて、コミュニティを基盤とした福祉社会構築に貢献できる人材を養成することを目的とする。
経営学部	経営学部は、教育研究を通じて、価値観が多様化し急変する現代社会において、明確なビジョンと高潔さを有し、持続可能な社会の構築に向けて、経営学に関する専門知識を生かしつつリーダーシップを発揮する人材を育成することを目的とする。
現代心理学部	現代心理学部は「人間とは何か」という古くからの根本問題を、心、身体、映像に関する諸学の教育研究を通じて、サイエンス、フィロソフィ、アートが融合した、現代世界にふさわしい方法で探究することをその目的とする。
異文化コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学部は、変化を続ける世界の中で、複数の視点からものごとを考え、柔軟な思考力をもって実践的に問題と向き合うことによって、多様で「異なる」他者と共生し、持続可能な未来を創ることのできる人材を育成する。

別表 8（第5条の2関係）

登録料	10,000円（年額）
-----	-------------

異文化コミュニケーション学部・異文化コミュニケーション研究科の教育目的と各種方針

立教大学の教育目的と各種方針

異文化コミュニケーション学部の教育目的と各種方針



異文化コミュニケーション研究科の教育目的と各種方針



異文化コミュニケーション学部の教育目的と各種方針

異文化コミュニケーション学部 学位授与方針



教育目的

変化を続ける世界の中で、複数の視点からものごとを考え、柔軟な思考力をもって実践的に問題と向き合うことによって、多様で「異なる」他者と共生し、持続可能な未来を創ることのできる人材を育成する。

学修成果

「学士（異文化コミュニケーション学）」を授与される学生は、以下のような能力を有する。

※各項目の（ ）内は全学の学修成果項目との関係性を記載

1. 論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。(主に、「3. 自己を理解し発展させる力」「6. 表現力」と関連)
 2. 自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。(主に、「3. 自己を理解し発展させる力」「5. 他者を理解する姿勢」「6. 表現力」と関連)
 3. グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語、ロシア語のいずれか)で適切なコミュニケーションができる。一つの外国語については、高度な言語運用を行うことができる。もう一つの外国語については、日常レベルで通用する言語運用を行うことができる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力をもち、実社会のコミュニケーションに対応できる。PEACE CICの学生は、高度な英語運用能力をもって大学での学修を英語ですすめることができ、また、日本での社会生活に必要な日本語運用能力を身につけ適切なコミュニケーションができる。(主に「6. 表現力」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」と関連)
 4. 多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、それを踏まえて行動することができる。(主に「3. 他者を理解する姿勢」「8. 国際性」、その他「2. 専門性」「9. 社会的実践力」と関連)
 5. 日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。(主に「3. 他者を理解する姿勢」「8. 国際性」、その他「9. 社会的実践力」と関連)
 6. 異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。(主に「2. 専門性」、その他「5. 他者を理解する姿勢」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」と関連)
 7. 教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。(主に「9. 社会的実践力」、その他「3. 自己を理解し発展させる力」「7. リーダーシップ」と関連)
 8. 文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。(主に「5. 他者を理解する姿勢」、その他「4. キャリア展望を確立する力」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」、その他「1. リベラルアーツの素養」と関連)
- さらに全学共通科目により、
9. 言語Aの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。さらに、英語圏の文化のみならず、英語を通して得た国際的な知見によって、多様な文化を理解し、対応できる。また、自分の専門領域の内容を英語で学ぶ基礎が身につく。また、NEXUSプログラムにより入学した学生については、言語Bと合わせて大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。PEACE CICの学生は、言語Bと合わせて言語Aとして日本語を学び、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。
 10. 言語Bの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多角的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。PEACE CICの学生は、言語Aとあわせて、言語Bとしても日本語を学び、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。

11. 学びの精神では、立教大学設立理念の一端に触れ、自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけ、大学での講義科目受講の包括的スキルを体得する。
12. 多彩な学びでは、学問的知見の多様性と豊饒性を理解し、他の諸学問の成果を交錯させることで、世界を複眼的に解説する柔軟な知性を涵養する。また、スポーツ実習では、心身の健康増進を目的とした科学的知識を理解し、スポーツの実践をととした体力の維持・向上、運動習慣を醸成する。

学修環境

上記のような学修成果をもたらすために、以下のような学修環境を提供する。（NEXUSプログラムを含む）

1. 統一シラバスによる1年次「基礎演習」において、日本語によるコミュニケーション能力を向上させる機会と場を提供する。
2. 1年次「College Life Planning」（NEXUSプログラムの学生をのぞく）において、学部での4年間の学びを自らが考え、デザインする機会と場を提供する。
3. 英語で行う専門教育科目を数多く提供する。
4. 言語科目は少人数制で展開する。
5. 多様な言語での講義科目を展開する。
6. 立教大学で学ぶ留学生等との意見交換を通して体験的に学ぶ科目を提供する。
7. 2年次秋学期に半期間、学生全員を対象とした「海外留学研修」を実施する。留学先での学修言語は、英語、スペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語の中から選択できる。
8. 2年次秋学期の「海外留学研修」を4年間の学びの中に位置づけ、その意義について考えると同時に、自分のキャリアについても意識を高めていくための科目として1年次春学期・秋学期には「College Life Planning」（NEXUSプログラムの学生をのぞく）を、2年次春学期には「Cultural Exchange」を設置する。
9. 留学生に対しては、「海外留学研修」、「Japan Studies Program」を提供し、そのどちらかを選択可能とする。
10. 通訳・翻訳、英語や日本語の教育実習については、実践的に体験を通して学ぶことができる科目を提供する。
11. 4年間にわたり専任教員がアカデミックアドバイザーとして、学修上のアドバイスを適宜与える。
12. 学生が各自、自分のキャリアについて考える機会とするため、学部特性に合致したインターンシップを提供する。
13. 学部独自で海外の大学と協定を結び、学生が長期にわたり海外留学できる機会を提供する。
14. 学生が教室での学びを教室の外での学びにつなげ、社会や地域に貢献できる機会を提供するため、サービスラーニング科目を設置する。
15. 世界および日本の多様な文化や価値観に触れ、柔軟な思考力と想像力を養い、また社会問題などの改善に取り組むプロセスを学ぶために、海外および国内フィールドスタディ科目を提供する。
16. 3・4年次には「専門演習」を少人数で展開し、学生が自ら選んだテーマで「卒業研究」を完成させるために、深く学ぶ機会を提供する。
17. 英語教員免許（中学校1種、高等学校1種）が取得できるプログラムを提供する。
18. 「日本語教員養成プログラム」、「通訳・翻訳者養成プログラム」を設置し、修了者には修了証を授与する。

【5年一貫プログラム】

上記に加えて、以下の学修環境を提供する。

19. 学部卒業後、大学院へ進学し、高度な専門知識をもって社会で活躍することを目指す学生のために、博士前期課程進学後1年で前期課程を修了することができる「5年一貫プログラム」を、「通訳翻訳」、「英語教育」、「日本語教育」、「国際協力」の4コースについて設置する。同プログラム学生については、学部4年次に、博士前期課程の科目を履修する機会を与える。
20. 5年一貫プログラムの学生に対しては、4年間にわたり、各コースの専門領域の専任教員が、アカデミックアドバイザーとして、学習、研究、進路についてのアドバイスを与える。

―― 全学共通科目の学修環境

Dual Language Pathway

専門科目を主に英語で履修するDual Language Pathwayでは、上記1～19に加え、以下の学修環境を提供する。

1. 上記1の基礎演習に代わり、DLPでは、1年次の「Academic Skills」において、学部専門科目を英語で修得していくために必要なアカデミック・スキルを向上させる機会と場を提供する。
2. 2年次秋学期の海外留学研修では、学部間協定大学への1年間の留学を推奨し、1年間に渡る海外大学での講義履修を経験する機会と場を提供する。
3. 学部基礎科目群、専門科目群に多様な英語で展開する科目を置き、英語で展開する授業を履修して卒業する機会を提供する。
4. 3・4年次には「Advanced Seminar」を履修し、学生が自ら選んだテーマで、英語で「卒業研究」を完成させるために、深く学ぶ機会を提供する。

PEACE CIC

専門科目を主に英語で履修するPEACE CICでは、上記1～19に加え、以下の学修環境を提供する。

1. 上記1の基礎演習に代わり、PEACE CICでは、1年次の「Academic Skills」において、学部専門科目を英語で修得していくために必要なアカデミック・スキルを向上させる機会と場を提供する。
2. 学部基礎科目群、専門科目群に多様な英語で展開する科目を置き、英語で展開する授業を履修して卒業する機会を提供する。
3. 3・4年次には「Advanced Seminar」を履修し、学生が自ら選んだテーマで、英語で「Senior Research and Thesis」を完成させるために、深く学ぶ機会を提供する。「Advanced Seminar」を履修しない学生には、「Senior Project」を履修し、英語で、学部専門領域に関連したレポートをまとめることで、学びを深める機会を提供する。

異文化コミュニケーション学部 教育課程編成の方針

+

異文化コミュニケーション学部（Dual Language Pathway）教育課程編成の方針

+

異文化コミュニケーション学部（PEACE CIC）教育課程編成の方針	+
異文化コミュニケーション学部 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	+
異文化コミュニケーション学部として求める教員像と教員組織の編成方針	+

異文化コミュニケーション研究科の教育目的と各種方針

異文化コミュニケーション研究科 学位授与方針	+
異文化コミュニケーション研究科 教育課程編成の方針	+
異文化コミュニケーション研究科 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	+
異文化コミュニケーション研究科として求める教員像と教員組織の編成方針	+

RELATED LINKS

- [異文化コミュニケーション学部のページはこちら](#)
- [大学院研究科一覧はこちら](#)

Copyright © Rikkyo University. All Rights Reserved.



RIKKYO'S SOCIAL MEDIA



異文化コミュニケーション学部・異文化コミュニケーション研究科の教育目的と各種方針

立教大学の教育目的と各種方針

異文化コミュニケーション学部の教育目的と各種方針



異文化コミュニケーション研究科の教育目的と各種方針



異文化コミュニケーション学部の教育目的と各種方針

異文化コミュニケーション学部 学位授与方針



異文化コミュニケーション学部 教育課程編成の方針



異文化コミュニケーション学部の教育目的

変化を続ける世界の中で、複数の視点からものごとを考え、柔軟な思考力をもって実践的に問題と向き合うことによって、多様で「異なる」他者と共生し、持続可能な未来を創ることのできる人材を育成する。

教育課程の編成と特色

異文化コミュニケーション学科の教育課程は、学士課程における修業年限4年間を「導入期」「形成期」「完成期」の3期に区分し編成している。各期のねらいは以下のとおりである。

- 導入期は、「学びの精神」、「学びの技法」、言語教育科目、学科での学びの多様性や興味深さに触れるための入門科目、4年間の学びを自らがデザインする機会となる「College Life Planning A, B」などで構成し、大学で学ぶために必要なアカデミック・スキルを身につけるとともに、学科での学びの体系について理解を深める。なお、NEXUSプログラムでは、標準0.5年間〔1学期間〕の日本語集中履修期間を設け、言語Aおよび言語Bにおける日本語、ならびに平易な日本語を用いて実施する「学びの精神」の履修をとおして、学ぶための姿勢と基礎的な知識・技法を身につける。
- 形成期は、学科で展開する「言語研究」「コミュニケーション研究」「通訳翻訳研究」「グローバル研究」の基礎となる科目群、「海外留学研修」、「インターンシップ」、「多彩な学び」「スポーツ科目」などで構成し、学科での学びの基礎や幅広い教養を身につけるとともに、体験を通して実践的に学ぶことを通して、自らが深めていく方向性を定める。
- 完成期は、「専門演習」、「卒業研究」、学科の専門科目などで構成し、導入期、形成期での学びを通して自らが選択した学問領域についての知識を深めながら、1つのテーマについて自律的に学ぶことを通して成果物を完成させる。

異文化コミュニケーション学科のカリキュラムの構造

異文化コミュニケーション学科 カリキュラムの構造（卒業研究選択者）

				必修科目	選択科目	自由科目
				完成期		
必修科目	導入期	形成期				
	基礎演習A(学びの技法)	基礎演習B	Cultural Exchange			
	言語・コミュニケーション研究入門、グローバル研究入門					
	言語教育科目A(英語)					
	言語教育科目B(初習言語)					
	CLP A(学びの精神)	CLP B(学びの精神)		専門演習1	専門演習2	専門演習3. 卒業研究
	コミュニケーションセミナー〇〇語		海外留学研修	海外留学研修		
Seminar in English A-F, 〇〇語Lecture, Japan Studies Program A-F, 日本語コミュニケーションA、B、インターンシップ、国内フィールドスタディ						
選択科目	海外フィールド・スタディ、サービス・ラーニング、海外インターンシップ(CIC)A					
	諸言語特別演習A、B、言語研究調査法、コミュニケーション研究調査法、異文化トレーニング演習、フィールドワーク、					
	海外インターンシップ(CIC)B、ビジネス日本語コミュニケーション演習					
	言語学概論、英語学概論、日本語学概論、通訳翻訳学概論、コミュニケーション概論、メディアコミュニケーション概論、異文化コミュニケーション概論、国際協力・開発学概論、文化人類学概論、ジェンダー・スタディーズ概論、グローバル化とジェンダー、自然共生概論、国際協力・紛争研究概論、人間環境概論、多文化共生概論、グローバル化と宗教、視覚芸術概論、音楽学概論					
	通訳翻訳の歴史、通訳翻訳と多文化社会、非言語コミュニケーション論					
	英語教育学、英語コミュニケーション教育学、日本語教授法A、バイリンガリズム研究、通訳入門、翻訳入門、異文化コミュニケーション特論B、グローバル文化研究特論、ジェンダー・スタディーズ特論、言語文化論、多文化共生特論、国際協力・開発学特論					
	国際協力・紛争研究特論、自然共生特論、関文化研究A、音楽学特論、英語圏文学論 Special Topics in ICC など					
	逐次通訳、翻訳応用実践1、社会言語学、第2言語習得理論、言語研究特論、コミュニケーション特論、宗教と文化、人と移動、人間環境特論、関文化研究B、視覚芸術特論 など					
	認知言語学、バイリンガリズム研究、日本語教授法2、同時通訳入門、翻訳応用実践2、通訳翻訳実習、説得コミュニケーション論、コミュニケーション研究調査法、グローバル文化研究特論、カルチュラル・スタディーズ特論、言語政策論、芸術論A など					
	認知言語学、日本語教授法B、同時通訳入門、翻訳応用実践2、通訳翻訳実習、説得コミュニケーション論、グローバル文化研究特論、ジェンダー・スタディーズ特論 など					
	学びの精神					
	多彩な学び					
スポーツ科目						
自由科目	選択科目の卒業要件単位数を超えて修得した単位、他学部・他学科科目、言語自由科目、f-Campus科目、留学認定科目 など					

教育課程の構成

異文化コミュニケーション学科の教育課程の卒業要件は124単位であり、履修区分に応じて以下の科目群に分けられている。

1. 必修科目（20単位）は、以下の科目区分で構成する。DLP およびPEACE CICについては別記する。
 - ・言語教育科目（言語A）6単位
 - ・言語教育科目（言語B）4単位
 - ・学びの技法（基礎演習A）2単位
 - ・学部必修科目 8単位
2. 選択科目（卒業研究選択者 84単位、卒業課題選択者 78単位）は、以下の科目区分で構成する。
 - ・学びの精神 4単位
 - ・多彩な学び・スポーツ科目 14単位
 - ・学部基盤科目 22単位
 - ・学部基礎科目 12単位
 - ・学部専門科目 22単位
 - ・専門演習・卒業研究 10単位（卒業研究選択者のみ）
 - ・卒業課題 4単位（卒業課題選択者のみ）
3. 自由科目 20単位（ただし、卒業課題選択者は 26単位）は、選択科目の卒業要件単位数を超えて修得した単位、他学部・他学科科目、言語自由科目、5大学間単位互換制度（f-Campus）、留学認定科目などから構成する。

＊DLPの学生は、卒業研究を選択することが必修。

 - 異文化コミュニケーション学科では、「1年次：大学で学ぶためのアカデミック・スキルを身につけるとともに、学科での4年間の学びを自らが描き、考える」、「2年次春学期：言語の運用能力を集中的に向上させるとともに、学科の様々な学問領域の基礎を学ぶ」、「2年次秋学期：海外留学研修という実践の場で異文化コミュニケーションを巡る諸問題を把握し、考えていく力を伸ばす」、「3年次以降：学生自らが興味関心のあるテーマを探し、見つけ、深めていく」というように、初年次から卒業までの一貫した教育課程を編成している。学科には、「言語研究関連科目群」、「通訳翻訳研究関連科目群」、「コミュニケーション研究関連科目群」、「グローバル研究関連科目群」というお互いが相互に関連し合った専門科目群が「理解する」と「実践する」という2つの柱に基づいて設置されており、両者が有機的に結びつくことで、「異なる」他者と共生し、持続可能な未来を創る知識と実践力、自ら行動する力を身につけていく。
 - 言語教育科目では、必修科目として言語A（英語）と言語B（ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語・日本語（留学生のみ）から1言語を選択）の2言語を課している。ただし、NEXUSプログラムでは言語Aと言語Bともに、日本語を課す。さらに学修を深め、新しい言語に挑戦するための言語自由科目（10言語）を開講している。少人数クラスでの「聞く・話す・読む・書く」の基本的技能の訓練を通じて、当該言語による専門的または日常的なコミュニケーションを可能にし、異文化対応能力を育成する。
 - 学びの技法では、大学における学問を修めるうえで必要なスキルの向上を目的とする。学部の専門領域に即して、スチューデント・スキル及びスタディ・スキルの向上、情報リテラシーの理解、論文作成上の倫理やルール等を少人数の演習形式で実施する。
 - 学びの精神は、大学で学ぶこと、また立教大学での学びの意味について理解する科目群である。宗教、人権、大学、また特色ある学部教育をキーワードに据え、立教大学ならではの多様な主題を交えた科目を配置する。
 - 多彩な学びは、広範な学問分野を俯瞰した、多彩な科目群である。人文学、社会科学、自然科学、スポーツ人間科学に依拠しながらもその枠を超えた、幅広い知識と教養、総合的な判断力を養う科目を配置する。スポーツ実習は、スポーツの実践をとおして健康の維持向上を図る科目群である。運動技術の向上を目指すスポーツプログラム、実践に加えて歴史的、文化的背景を身につけるスポーツスタディを配置する。

「学部・学科の学修成果」と、科目群もしくは科目との関係

1. 論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。
「基礎演習A,B」、「College Life Planning A,B」、「専門演習」など
2. 自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。
「Cultural Exchange」、「異文化トレーニング演習」、「社会言語学」など
3. グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語（英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語、ロシア語のいずれか）でコミュニケーションができる。一つの外国語については、高度な言語運用を行うことができる。もう一つの外国語については、日常レベルで通用する言語運用を行うことができる。
「コミュニケーションセミナー」、「諸言語特別演習」、「Seminar in English」、「〇〇語 Lecture」など
4. 多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。
「日本語教授法」、「英語コミュニケーション教育学」、「社会言語学」、「バイリンガリズム研究」など
5. 日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。
「多文化共生概論」、「通訳入門」、「逐次通訳」、「翻訳入門」、「翻訳応用実践」など
6. 異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。
「国際協力・開発学特論」、「異文化コミュニケーション特論」、「国際協力・紛争研究特論」、「対人コミュニケーション論」など
7. 教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。
「海外留学研修」、「海外フィールドスタディ」、「サービ斯拉ーニング」、「インターンシップ」、「日本語教育実習」、「通訳翻訳実習」など
8. 文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことできる。
「言語文化論」、「グローバル文化研究特論」、「多文化共生特論」、「人間環境特論」
9. 言語Aの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。さらに、英語圏の文化のみならず、英語を通して得た国際的な知見によって、多様な文化を理解し、対応できる。また、自分の専門領域の内容を英語で学ぶ基礎が身につく。ただし、NEXUSプログラムでは、言語Bと合わせて言語A（日本語）の学修によって、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力が身につく。
10. 言語Bの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多角的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。
11. 学びの精神では、立教大学設立理念の一端に触れ、自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけ、大学での講義科目受講の包括的スキルを体得する。
12. 多彩な学びでは、学問的知見の多様性と豊饒性を理解し、他の諸学問の成果を交錯させることで、世界を複眼的に解説する柔軟な知性を涵養する。また、スポーツ実習では、心身の健康増進を目的とした科学的知識を理解し、スポーツの実践をととした体力の維持・向上、運動習慣を醸成する。

→ 学修成果と科目の関係 	
異文化コミュニケーション学部（Dual Language Pathway）教育課程編成の方針	+
異文化コミュニケーション学部（PEACE CIC）教育課程編成の方針	+
異文化コミュニケーション学部 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	+
異文化コミュニケーション学部として求める教員像と教員組織の編成方針	+

異文化コミュニケーション研究科の教育目的と各種方針

異文化コミュニケーション研究科 学位授与方針	+
異文化コミュニケーション研究科 教育課程編成の方針	+
異文化コミュニケーション研究科 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	+
異文化コミュニケーション研究科として求める教員像と教員組織の編成方針	+

RELATED LINKS

- [異文化コミュニケーション学部のページはこちら](#)
- [大学院研究科一覧はこちら](#)

カリキュラム・マップ

異文化コミュニケーション学部教育目的									
変化を続ける世界の中で、複数の視点からものごとを考え、柔軟な思考力をもって実践的に問題と向き合うことによって、多様で「異なる」他者と共生し、持続可能な未来を創ることのできる人材を育成する。									
学修成果									
「学士(異文化コミュニケーション学)」を授与される学生は、以下のような能力を有する。※各項目の()内は全学の学修成果項目との関係性を記載 ① 論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。(主に、「3. 自己を理解し発展させる力」「6. 表現力」と関連) ② 自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。(主に、「3. 自己を理解し発展させる力」「5. 他者を理解する姿勢」「6. 表現力」と関連) ③ グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語、ロシア語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。一つの外国語については、高度な言語運用を行うことができる。もう一つの外国語については、日常レベルで適用する言語運用を行うことができる。また、留学生については、大学での学修に必要なとされる高度な日本語運用能力をもち、実社会のコミュニケーションに対応できる。(主に「6. 表現力」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」と関連) ④ 多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。(主に「3. 他者を理解する姿勢」「8. 国際性」、その他「2. 専門性」「9. 社会的実践力」と関連) ⑤ 日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。(主に「3. 他者を理解する姿勢」「8. 国際性」、その他「9. 社会的実践力」と関連) ⑥ 異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。(主に「2. 専門性」、その他「5. 他者を理解する姿勢」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」と関連) ⑦ 教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。(主に「9. 社会的実践力」、その他「3. 自己を理解し発展させる力」「7. リーダーシップ」と関連) ⑧ 文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。(主に「5. 他者を理解する姿勢」、その他「1. リベラルアーツの素養」「4. キャリア展望を確立する力」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」と関連)									

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)							
科目名	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
言語・コミュニケーション研究入門 Overview of Language and Communication	必修科目	1	異文化コミュニケーション学部所属の教員の多様な研究分野に触れることにより、言語・コミュニケーションの研究について基本的な知識と多角的な視点を持つことができる。それを通じて、この学部でなにをどのように学ぶのか、履修者が自ら考え判断することができる。	△			○		◎		◎
グローバル研究入門 Overview of Global Studies	必修科目	1	異文化コミュニケーション学部所属の教員の多様な研究分野に触れることにより、グローバル・スタディーズの研究について基本的な知識と多角的な視点を持つことができる。それを通じて、この学部でなにをどのように学ぶのか、履修者が自ら考え判断することができる。	△			△		◎		◎
基礎演習A Academic Skills A	必修科目	1	異文化コミュニケーション学部で学ぶための基礎となる文献読解力、リサーチスキル、批判的思考力を身につけ、論理的な文章を組み立てることができる。また、グループ活動を通して自分の意見を客観的に分析し相手に伝え、他者の意見を積極的に理解していく姿勢を身につけることで、他者と協力的に討議することができる。	◎	◎		△				○
基礎演習B Academic Skills B	必修科目	1	異文化コミュニケーション学部で学ぶための基礎となる文献読解力、リサーチスキル、批判的思考力を深化させ、データや論拠を用いながら自らの論を展開したレポートを作成することができる。また、他者と共に調べ、話し合い、学ぶことにより学びの対象への理解を深めるとともに、その成果を論理的かつ効果的に発表することができる。	◎	◎		△				○
Cultural Exchange	必修科目	2	多様な国からの学生と共同学習を実施することにより、多様な文化的知識を身につけ、異なる文化に対して理解し、受容することができる。実践的な異文化コミュニケーション対応能力を修得し、自ら使うことができる。	○	◎		○	○	△		◎
College Life Planning A	選択科目 基盤科目	1～4	本学部での学びの礎を築くため、キャリアプラン・留学などの取組みについて理解し、それを留学計画やキャリアプランを立てる際に活かすことができる。また、それらの取組みを4年間の学びの中に位置づけ、学部での学びを自らデザインすることができる。	○	○					◎	
College Life Planning B	選択科目 基盤科目	1～4	本学部での学びの礎を築くため、キャリアプラン・留学などの取組みについて理解を深め、それを使うことができる。また、それらの取組みを4年間の学びの中に位置づけ、卒業後の人生にどう結び付けていくかを考えることができる。	○	○					◎	
コミュニケーションセミナー1B(ドイツ語)	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの基盤となる文法、表現、語彙を理解し、それを使うことができる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー1B(フランス語)	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの基盤となる文法、表現、語彙を理解し、それを使うことができる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー1B(スペイン語)	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの基盤となる文法、表現、語彙を理解し、それを使うことができる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー1B(中国語)	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの基盤となる文法、表現、語彙を理解し、それを使うことができる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー1B(朝鮮語)	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの基盤となる文法、表現、語彙を理解し、それを使うことができる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー1B(ロシア語)	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの基盤となる文法、表現、語彙を理解し、それを使うことができる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー2D(ドイツ語)	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの文法、表現、語彙を全般的に理解し、それを発展的に使うことができる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー2D(フランス語)	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの文法、表現、語彙を全般的に理解し、それを発展的に使うことができる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー2D(スペイン語)	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの文法、表現、語彙を全般的に理解し、それを発展的に使うことができる。	○	○	◎	△				○

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)							
科目名	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1)論理的に思 考し、的確に自 己を表現するこ とができる	2)自己客観化 と他者理解に 基づくコミュニ ケーションがで きる	3)グローバル 化する世界の中 で必要とされる 、複言語・複 文化能力を身 につけることが できる。具体的 には、二つの 外国語(英語、 ならびにスベ イン語、中国語、 朝鮮語、ドイツ 語、フランス語 のいずれか)で コミュニケー ションすること ができる。	4)多文化・多言 語共生、国際 協力の視点か ら、持続可能な 未来、より豊か な社会の構築 につながる言 語教育につい て理解し、実践 することができる。	5)日本語以外 を母語とする生 活者を日本社 会につなげる 橋渡しすること ができる。	6)異文化コミュ ニケーション学 における主要 な概念、理論、 研究・調査手法 に対する基礎 的な知識を身 につけ、それを 文化間・国家 間・地域間・世 代間・個人間な ど様々な領域 で「異なる」こと から生じる問 題、課題の解 決に応用する ことができる。	7)教室での学 びを、現場での 実践に結びつ け、自らが考え て行動すること ができる。	8)文化や言語 の多様性を理 解し、多様な他 者とよりよい関 係性を築き、と もに持続可能 な未来に向け た取り組みを進 めていくこと ができる。
コミュニケーションセミナー 2D(中国語)	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの文法、表現、語彙を全般的に理解し、それを発展的に使うことができる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー 2D(朝鮮語)	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの文法、表現、語彙を全般的に理解し、それを発展的に使うことができる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー 2D(ロシア語)	選択科目 基盤科目	1～4	「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの文法、表現、語彙を全般的に理解し、それを発展的に使うことができる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー 3B-R(ドイツ語)	選択科目 基盤科目	2～4	主に留学準備を目的とし、継続的に中級レベルの文法、表現、語彙を学習し、それを使うことができる。	○	○	◎	△			○	○
コミュニケーションセミナー 3B-R(フランス語)	選択科目 基盤科目	2～4	主に留学準備を目的とし、継続的に中級レベルの文法、表現、語彙を学習し、それを使うことができる。	○	○	◎	△			○	○
コミュニケーションセミナー 3B-R(スペイン語)	選択科目 基盤科目	2～4	主に留学準備を目的とし、継続的に中級レベルの文法、表現、語彙を学習し、それを使うことができる。	○	○	◎	△			○	○
コミュニケーションセミナー 3B-R(中国語)	選択科目 基盤科目	2～4	主に留学準備を目的とし、継続的に中級レベルの文法、表現、語彙を学習し、それを使うことができる。	○	○	◎	△			○	○
コミュニケーションセミナー 3B-R(朝鮮語)	選択科目 基盤科目	2～4	主に留学準備を目的とし、継続的に中級レベルの文法、表現、語彙を学習し、それを使うことができる。	○	○	◎	△			○	○
コミュニケーションセミナー 3A-R(英語)	選択科目 基盤科目	2～4	英語圏の文化や思考法について学び、それを説明し、受容することができる。英語を通して他者の考えを理解し、英語で論理的に自らの意志を伝えることができる。英語コミュニケーションの様々な状況において、英語を適切に使用することができる。	◎	◎	◎					○
Seminar in English A	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
Seminar in English B	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
Seminar in English C	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
Seminar in English D	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
Seminar in English E	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
Seminar in English F	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
Seminar in English G	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
Seminar in English H	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
Seminar in English I	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
Seminar in English J	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
Seminar in English K	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
Seminar in English L	選択科目 基盤科目	1～4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎			○		○
ドイツ語Lecture A	選択科目 基盤科目	1～4	ドイツ語を通してドイツ語圏の地域、社会、文化等を理解し、ドイツ語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)							
科目名	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1)論理的に思 考し、的確に自 己を表現するこ とができる	2)自己客観化 と他者理解に 基づくコミュニ ケーションがで きる	3)グローバリ 化する世界の中 で必要とされる 、複言語・複 文化能力を身 につけることが できる。具体的 には、二つの 外国語(英語、 ならびにスเปน 語、中国語、 朝鮮語、ドイツ 語、フランス語 のいずれか)で コミュニケー ションすること ができる。	4)多文化・多言 語共生、国際 協力の視点か ら、持続可能な 未来、より豊か な社会の構築 につながる言 語教育につい て理解し、実践 することができる。	5)日本語以外 を母語とする生 活者を日本社 会につなげる 橋渡しすること ができる。	6)異文化コミュ ニケーション学 における主要 な概念、理論、 研究・調査手法 に対する基礎 的な知識を身 につけ、それを 文化間・国家 間・地域間・世 代間・個人間な ど様々な領域 で「異なる」こと から生じる問 題、課題の解 決に応用する ことができる。	7)教室での学 びを、現場での 実践に結びつ け、自らが考え て行動すること ができる。	8)文化や言語 の多様性を理 解し、多様な他 者とよりよい関 係性を築き、と もに持続可能 な未来に向け た取り組みを進 めていくこと ができる。
ドイツ語Lecture B	選択科目 基盤科目	1～4	ドイツ語を通してドイツ語圏の地域、社会、文化等を理解し、ドイツ語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
フランス語Lecture A	選択科目 基盤科目	1～4	フランス語を通してフランス語圏の地域、社会、文化等を理解し、フランス語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
フランス語Lecture B	選択科目 基盤科目	1～4	フランス語を通してフランス語圏の地域、社会、文化等を理解し、フランス語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
スペイン語Lecture A	選択科目 基盤科目	1～4	スペイン語を通してスペイン語圏の地域、社会、文化等を理解し、スペイン語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
スペイン語Lecture B	選択科目 基盤科目	1～4	スペイン語を通してスペイン語圏の地域、社会、文化等を理解し、スペイン語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
中国語Lecture A	選択科目 基盤科目	1～4	中国語を通して中国語圏の地域、社会、文化等を理解し、中国語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
中国語Lecture B	選択科目 基盤科目	1～4	中国語を通して中国語圏の地域、社会、文化等を理解し、中国語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
朝鮮語Lecture A	選択科目 基盤科目	1～4	朝鮮語を通して朝鮮語圏の地域、社会、文化等を理解し、朝鮮語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
朝鮮語Lecture B	選択科目 基盤科目	1～4	朝鮮語を通して朝鮮語圏の地域、社会、文化等を理解し、朝鮮語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
コミュニケーションセミナー 日本語6A	選択科目 基盤科目	1～4	大学の日本語での講義を十分理解し、自分の意見を相手に伝えるために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
コミュニケーションセミナー 日本語6B	選択科目 基盤科目	1～4	大学の日本語での講義を十分理解し、自分の意見を相手に伝えるために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
コミュニケーションセミナー 日本語6C	選択科目 基盤科目	1～4	大学の日本語での講義を十分理解し、自分の意見を相手に伝えるために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
コミュニケーションセミナー 日本語6D	選択科目 基盤科目	1～4	大学の日本語での講義を十分理解し、自分の意見を相手に伝えるために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
コミュニケーションセミナー 日本語6E	選択科目 基盤科目	1～4	大学の日本語での講義を十分理解し、自分の意見を相手に伝えるために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
コミュニケーションセミナー 日本語6F	選択科目 基盤科目	1～4	大学の日本語での講義を十分理解し、自分の意見を相手に伝えるために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
コミュニケーションセミナー 日本語6G	選択科目 基盤科目	1～4	大学の日本語での講義を十分理解し、自分の意見を相手に伝えるために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
コミュニケーションセミナー 日本語6H	選択科目 基盤科目	1～4	大学の日本語での講義を十分理解し、自分の意見を相手に伝えるために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
コミュニケーションセミナー 日本語4～5A	選択科目 基盤科目	1～4	日本語を通して、日本の社会、文化等を理解し、日本語を用いてそれらについて議論することができる。	○	◎	◎		○			
コミュニケーションセミナー 日本語4～5B	選択科目 基盤科目	1～4	日本語を通して、日本の社会、文化等を理解し、日本語を用いてそれらについて議論することができる。	○	◎	◎		○			
日本語コミュニケーションA	選択科目 基盤科目	1～4	「相手の話を理解する」「自分の意見を明確に相手に伝える」ために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
日本語コミュニケーションB	選択科目 基盤科目	1～4	「相手の話を理解する」「自分の意見を明確に相手に伝える」ために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
日本語コミュニケーションC	選択科目 基盤科目	1～4	「相手の話を理解する」「自分の意見を明確に相手に伝える」ために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)							
科目名	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考え行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
日本語コミュニケーションD	選択科目 基盤科目	1～4	「相手の話を理解する」「自分の意見を明確に相手に伝える」ために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
ビジネス日本語コミュニケーション演習	選択科目 基盤科目	3・4	敬語を含む待遇表現や電話応対など、ビジネス場面で必要とされる日本語スキルを修得し、自ら使うことができる。場面に応じた適切な日本語使用の必要性、重要性について認識し、日本語を適切に使用することができる。	◎	◎			○		○	
キャリア実践演習A	選択科目 基盤科目	2～4	日本の就職活動への理解を深め、必要な準備について学習することで、卒業後のキャリア目標を設定できる。講義・個人ワーク・グループワークを通じて、「目指したい自分」や「働きたい企業」を見つけることができる。	◎	◎	△		○		○	○
キャリア実践演習B	選択科目 基盤科目	2～4	日本の就職活動で求められるスキルを実践を通して身につけることができる。エントリーシートの書き方、集団、個人面接のスキル、筆記試験についての対策などを行うことができる。	◎	◎	△		○		○	○
諸言語特別演習A	選択科目 基盤科目	2～4	異文化コミュニケーション学部で常に学べることができる言語以外の外国語を集中的に学び、様々な言語の知識を身につけ、それを自ら使うことができるようになる。同時に、言語の背景にある文化的知識を学び、それを説明し、受容することができる。	△	△	◎	◎				○
諸言語特別演習B	選択科目 基盤科目	2～4	異文化コミュニケーション学部で常に学べることができる言語以外の外国語を集中的に学び、様々な言語の知識を身につけ、それを自ら使うことができるようになる。同時に、言語の背景にある文化的知識を学び、それを説明し、受容することができる。	△	△	◎	◎				○
サービ斯拉ーニングA	選択科目 基盤科目	1～4	地域連携活動としての豊島区内の中学校および本学内における現場での入り込みによる支援や学習サポートを通して、異なる生活や文化などさまざまなバックグラウンドをもつ生徒との交流を実践することで、異文化社会そのものの理解や自己のコミュニケーション能力を身につけることができる。	○	◎	◎	○	◎	△	◎	◎
サービ斯拉ーニングB	選択科目 基盤科目	1～4	地域連携活動としての豊島区内の中学校および本学内における現場での入り込みによる支援や学習サポートを通して、異なる生活や文化などさまざまなバックグラウンドをもつ生徒との交流を年間じわじわ実践することで、異文化社会そのものの理解や自己のコミュニケーション能力を身につけることができる。	○	◎	◎	○	◎	△	◎	◎
サービ斯拉ーニングC	選択科目 基盤科目	1～4	多様な国からの学生と共に地域連携活動として行っている豊島区内の小中学生対象の英語活動を通して、自己のコミュニケーション能力を高めるとともに、生徒の年齢や学習段階等を考慮に入れた言語活動、また、異文化コミュニケーションの実践の場としての活動を企画、体験し、理論と実践を結び付けることができる。	○	◎	◎	◎	○	△	◎	◎
海外フィールドスタディA	選択科目 基盤科目	1～4	海外のフィールドにおいて、異なる生活や文化、その国が抱える社会問題などを体験を通じて理解し、受容することができる。そしてその国の人々との交流、対話、協働を通し、異文化社会における自己のコミュニケーション能力を身につけることができる。	○	◎				△	◎	◎
海外フィールドスタディB	選択科目 基盤科目	1～4	海外のフィールドにおいて、自らの専門性を土台にしながら社会の諸問題に実践的に取り組むことを通して、ある課題の解決／改善に取り組むプロセスを組み立て実行できるようになる。そしてその国の人々との交流、対話、協働を通し、異文化社会における自己のコミュニケーション能力を身につけることができる。	○	◎				◎	◎	◎
国内フィールドスタディA	選択科目 基盤科目	1～4	国内のフィールドにおいて、困難な状況を生きる人びとへの共感力を培うことができる。国際協力の課題を海外の他者の課題として考えるのではなく、日本の課題と海外の課題のつながりとして理解することができる。	○	◎				◎	◎	◎
国内フィールドスタディB	選択科目 基盤科目	1～4	国際協力の課題を一時的な支援として解決するのではなく、双方向に協力して解決する思考を身につけることができる。	○	◎				◎	◎	◎
海外インターンシップ(CIC) A	選択科目 基盤科目	1～4	Zoomを利用したオンラインによる日本語教育実習を行い、海外における日本語教育の現場への理解を深めると同時に、オンラインによる日本語指導、学習者対応についての事前学習→実際の学生に指導→振り返りを行うことで、実践的教授スキルを身につけることができる。	○	○	○	◎	◎		◎	○
海外インターンシップ(CIC) B	選択科目 基盤科目	3・4	海外の大学をフィールドにした日本語教育実習を行い、海外における日本語教育の現場への理解を深めると同時に、授業、教材作成を行ったうえで、実際の学生に授業を行い、振り返りを行うことで、実践的な日本語教育を行う力を身につけることができるようになる。	○	○	○	◎	◎		◎	○
インターンシップ	選択科目 基盤科目	1～4	企業やNGO、公的機関において、実務の中で自らの知識やスキルを実践的に用いる経験を通して、社会人・職業人としての基礎知識や心構えを身につけることができる。さらに、自らの職業適性や将来の職業選択について具体的に考える機会を持ち、それを自らの卒業後の進路決定に役立てることができる。	◎	◎	△					
海外留学研修A	選択科目 基盤科目	2・3	英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語いずれかの言語圏への留学を通して、当該言語の語学力を高めるとともに、異文化対応能力を身につけ、それを自ら使うことができる。異文化を自ら経験することを通して、異文化理解や異文化コミュニケーションの価値を認識し、感じることができる。		◎	◎				◎	○
海外留学研修B	選択科目 基盤科目	2・3	英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語いずれかの言語圏への留学を通して、当該言語の語学力を高めるとともに、異文化対応能力を身につけ、それを自ら使うことができる。異文化を自ら経験することを通して、異文化理解や異文化コミュニケーションの価値を認識し、感じることができる。		◎	◎				◎	○
海外留学研修C1	選択科目 基盤科目	2・3	英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語いずれかの言語圏への留学を通して、当該言語の語学力を高めるとともに、異文化対応能力を身につけ、それを自ら使うことができる。異文化を自ら経験することを通して、異文化理解や異文化コミュニケーションの価値を認識し、感じることができる。		◎	◎				◎	○
海外留学研修C2	選択科目 基盤科目	2・3	英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語いずれかの言語圏への留学を通して、当該言語の語学力を高めるとともに、異文化対応能力を身につけ、それを自ら使うことができる。異文化を自ら経験することを通して、異文化理解や異文化コミュニケーションの価値を認識し、感じることができる。		◎	◎				◎	○
Japan Studies Program A	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	
Japan Studies Program B	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)							
科目名	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に活用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
Japan Studies Program C	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	
Japan Studies Program D	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	
Japan Studies Program E	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	
Japan Studies Program F	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	
Japan Studies Program G	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	
Japan Studies Program H	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	
Japan Studies Program I	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	
Japan Studies Program J	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	
Japan Studies Program K	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	
Japan Studies Program L	選択科目 基盤科目	1～4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△		○		◎	
言語研究調査法	選択科目 基盤／専門科目	2～4	言語研究を行う際に必要となるツールや、調査・実験の計画方法、データの処理や分析方法などについて学び、自らの調査や研究に活用することができる。質的分析・量的分析の特徴を理解し、言語の諸現象について論理的に説明することができる。	◎	△		○			○	
異文化トレーニング演習	選択科目 基盤／専門科目	2～4	文化背景を異にする人々が円滑にコミュニケーションを行うために開発された異文化研修プログラムの体験学習を通して、異文化コミュニケーション能力を養い、あわせて異文化トレーニングプログラムの計画や実践の基礎的能力を身につけ、それを自ら使用することができる。	○	◎	○	△	◎	◎	◎	◎
コミュニケーション研究調査法	選択科目 基盤／専門科目	2～4	多様なアプローチからのコミュニケーション研究方法論の基本的な考え方や、強みと限界について説明することができる。さらに、卒業研究のテーマに適切な研究方法を選び、それにしたがって研究を進めることができるようになる。	◎	△	△	△	△	◎	○	△
フィールドワーク	選択科目 基盤／専門科目	2～4	対象となる人々の生活に参加しつつ他者の「ものの見方」を理解しようとするという、独特の研究方法であるフィールドワークについての基本的知識を獲得するとともに、その方法を実習を通して理解し、自分の研究に活用できるようになる。	○	◎				◎	◎	○
言語学概論 Introduction to Linguistics	選択科目 基礎科目	1～4	言語の構造と機能に関する基礎知識を持ち、身近な言語現象に関して言語学的な観点から説明することができる。言語の多様性について理解し、母語や学習している言語、その他様々な言語の特徴を対比してその違いと共通点について考えることができる。	◎	○						
英語学概論 Introduction to the Study of English	選択科目 基礎科目	1～4	英語の仕組みと運用の諸相について、日本語と対比することができる。英語コミュニケーションの理解を深め、自ら使うことができる。特に世界語としての英語のバラエティについて学び、分析することができる。異文化・異言語の人々とのコミュニケーションをはかるために必要な英語力について認識を高め、それを自ら使用することができる。また、授業内レポートや課題図書レポートのディスカッションやプレゼンテーションを通して、内容を批判的に考察し、意見を述べることができる。	◎	◎	○	○		○		○
日本語学概論A	選択科目 基礎科目	1～4	日本語を母語としない人々に日本語を教える際に必要な日本語の特色を理解し、説明することができる。音声、音韻、文法など様々な日本語の特徴を知り、他の言語と比較することができる。	○	○				○	○	
日本語学概論B	選択科目 基礎科目	1～4	日本語を母語としない人々に日本語を教える際に必要な日本語の特色を理解し、説明することができる。語彙、文法表記、語用論的規範など様々な日本語の特徴を知り、他の言語と比較することができる。	○	○				○	○	
通訳翻訳学概論 Introduction to Translation and Interpreting Studies	選択科目 基礎科目	1～4	異言語・異文化間コミュニケーションにおける仲介行為としての通訳翻訳という視点から、現代社会における通訳翻訳のさまざまな実践状況および主要な課題について理解し、説明することができる。通訳翻訳研究における基本的な用語と概念を理解し、説明することができる。	△				○	△	○	○
コミュニケーション研究概論 Introduction to Communication	選択科目 基礎科目	1～4	コミュニケーションにかんする基礎的な理論およびモデルを理解し、説明することができる。同時に、コミュニケーション学と隣接分野との共通点や相違点を理解し、説明することができる。日常的に行っているコミュニケーションを以前とは異なった視点で観察したり、より自覚的にコミュニケーションに向き合えるようになる。	○	○				◎		◎
異文化コミュニケーション概論 Introduction to Intercultural Communication	選択科目 基礎科目	2～4	(異)文化の概念を単なる国民国家の枠組みで捉えることなく、「我々」と「彼ら」の境界線はどのような文脈で立ち上がってくるのかという視点で、多角的に異文化コミュニケーションの諸相を説明することができる。言語と非言語、コミュニケーション実践と意味付け、アイデンティティ、ステレオタイプ、異文化適応などをテーマに、異文化コミュニケーションの基本概念や理論について理解し、説明することができる。	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)							
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に活用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考え、行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
メディアコミュニケーション概論 Introduction to Media Communication	選択科目 基礎科目	1～4	マスメディアやソーシャルメディアなど様々なメディアを紹介したコミュニケーションの特徴を理解し、説明することができる。現代社会におけるメディアを媒介したコミュニケーションの役割や可能性について多角的視点から考察できるようにする。自らもメディア(とりわけソーシャル・メディア)の参加者の一人としてメディアにより自覚的にかかわることができるようになる。	○	◎				◎	○	○
国際協力・開発学概論 Introduction to International Development and Cooperation	選択科目 基礎科目	1～4	国際協力の基本的な考え方と方法、および日本が国際協力を展開するようになった経緯を理解することができる。身近なことから国際協力が実践できることを発見し、学生として何ができるかを具体的に考えることができる。	○	○				◎	○	○
文化人類学概論 Introduction to Cultural Anthropology	選択科目 基礎科目	1～4	人間の文化についての総合的学問である文化人類学の基本的知識を獲得し、その目的と意図を理解し、説明することができる。また、文化人類学的な思考法を身につけ、周囲の社会現象を把握する際に活用することができる。	○	◎		△	△	◎	○	◎
カルチュラル・スタディーズ概論 Introduction to Cultural Studies	選択科目 基礎科目	1～4	様々な文化的表現(文学、音楽、メディア等)がどのように社会と結びついているかを考えようとする学際的な領域であるカルチュラル・スタディーズについて基本的理解を獲得し、説明することができる。また、周囲に存在する様々な文化的表現を社会的な問題と結び付けて把握することができるようになる。	○	◎				◎	○	◎
グローバル化とジェンダー Globalization and Gender	選択科目 基礎科目	1～4	グローバル化している現代社会における新たなジェンダーの概念と男女関係の変化、そして、「フェミニズム」という社会運動を多文化主義の観点から理解し、説明することができる。グローバル文化やメディア・テキストが生産、拡大、正当化する性差別と偏見、またはグローバル化によって瓦解する伝統的なジェンダー規範と役割、性抑圧的な人間関係を社会的・歴史的背景とともに分析することができる。	○	○		○		◎		◎
国際協力・紛争研究概論	選択科目 基礎科目	1～4	国際紛争、地域紛争を理解するための基本的概念と基礎知識を獲得することができる。武力紛争により困難な状況を生きる人びとに対する共感力を身につける。	○	○				◎	○	○
人間環境概論	選択科目 基礎科目	1～4	現代世界が抱える環境、文化、人権、ジェンダーなどをめぐる諸問題を理解した上で、未来に向けて、人間と周囲の自然環境、人間と人間の関係の持続可能なあり方を探るための考察力や問題解決能力を身につけることができる。	○					○	○	◎
多文化共生概論	選択科目 基礎科目	1～4	日本における多文化共生の実践例を学ぶ。多文化共生の実践現場における現状を課題を知ることにより、具体的に解決策を模索できるようにする。多様な背景をもつ他者とのように共存できるかについて考察を深める。		○		○	○	○	○	◎
グローバル化と宗教	選択科目 基礎科目	1～4	宗教・信仰が人々の生活とどのように結びついているかを学び、それを踏まえて文化圏を超えて広がった宗教が、各地に根付く過程で終極的変容と、受容側の社会、生活、文化に与えた影響について考察し、説明できる。また、グローバル社会における宗教のあり方について、具体的な事例の分析を通じ、自分の考えを述べることができる。	○	◎		△		△	△	◎
視覚芸術概論	選択科目 基礎科目	1～4	美術、舞台芸術、映像等の視覚に関わる幅広い芸術の諸領域を対象とする。さまざまな時代・作家・作品について、その表現の特性や固有性、歴史、社会的・文化的背景等を考慮しながら分析することができる。また、多角的な視点から自分の考えを述べることができる。	◎	△	○	△			○	◎
音楽学概論	選択科目 基礎科目	1～4	音楽の歴史の変遷を学び、社会的・思想的・文化的関わりを多角的に考察する。音楽がなぜ音楽としてなつたのか、人は何を音楽と認識するのか、多様な解釈を学び、自ら考える力を修得する。	◎	○	△	△			○	◎
コンピュータ・リテラシー	選択科目 基礎科目	1～4	言語教育および言語研究に必要なコンピュータ・スキルを学び、使うことができる。具体的には、基本的なソフトウェアを使いこなせるようになるとともに、学生管理や教材開発、データの分析などに必要なソフトウェアの使い方、その知識を身に付け、実際に必要な場面で活用できるようになる。	△					○	○	○
心理言語学	選択科目 専門科目	2～4	Students will examine and be able to explain the study of how humans comprehend, represent, and acquire language. Students will analyze and be able to illustrate the cognitive, social, and neural processes involved in language use.	○	○					△	
社会言語学	選択科目 専門科目	2～4	ことばと文化・社会の関係について学ぶ。文化の違いによる言語運用の特徴、社会変化による言語変化、話者の社会化による言語発達、話者の属性や場面による言語運用の多様性などについて、言語態度や言語意識の調査・分析を学び、ことばの働きに対する洞察力を養い、身近な言語現象を社会言語学的視点で考察することができるようになる。	◎	○	△	○	○	○	◎	◎
認知言語学	選択科目 専門科目	3・4	人間が事象をどのように意味づけ、切り取り、環境世界を構築してゆくかという認知プロセスは、ことばに何らかの形で反映されているということを理解する。我々が世界をどのように分類し、概念化するかの仕組みを、ことばの中に表れるメタファー、プロトタイプ、図と地、視点、構文等の現象を手がかりに分析し、語るすることができる。	◎	○						
語用論	選択科目 専門科目	2～4	言語使用の認知的・社会的・文化的側面についてより深く理解し、説明することができる。場面に応じた適切な言語使用とは何かについて考察し、言語コミュニケーションの意義を認識し、自ら事象にあてはめ分析することができる。	◎	◎	○	○		○		○
文化記号論	選択科目 専門科目	2～4	記号論的な視点を学びながら、様々な文化現象を記号とみなす試みを考察し、記号とは何か、意味とは何か、文化とは何か、といった問題を検討することによって、論理的・批判的思考能力を養い、自らそれらを使用して意見を述べるようになる。	◎	○				○		○
第1言語習得理論	選択科目 専門科目	2～4	主に発達心理学、言語心理学、認知言語学、認知心理学、生成文法などの分野の、言語の獲得にかかわる基本的理論を理解し、説明することができる。人間が第一言語を習得する過程を、音声、語彙、統語、コミュニケーションなど各側面について理解し、実際のデータを用いて分析することができる。	◎		△	○			○	△
第2言語習得理論	選択科目 専門科目	2～4	第2言語習得のメカニズムについて理解し、述べるることができる。第2言語習得の理論構築の歴史を概観し、ならびに代表的な理論やモデルについて説明することができる。さらに、最新の第2言語習得研究の動向を常に意識し、それらの内容について正確に理解し、自らの研究へと発展させることができる。	◎	○		○			○	
バイリンガリズム研究	選択科目 専門科目	2～4	バイリンガリズム(二言語併用)について、言語学・心理学的視点および教育学的視点から理解することができる。二言語併用者の言語能力、言語習得ならびに言語使用の特徴、知能や思考、認知能力、バイリンガル教育の種類や方法、効果などについて理解し、具体的な事例を挙げながら説明することができる。	◎	○	△	◎	◎	○	○	○

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)							
科目名	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1)論理的に思 考し、的確に自 己を表現するこ とができる	2)自己客観化 と他者理解に 基づくコミュニ ケーションがで きる	3)グローバル 化する世界の 中で必要とされ る、複言語・複 文化能力を身 につけることが できる。具体的 には、二つの 外国語(英語、 ならびにスเปน 語、中国語、 朝鮮語、ドイツ 語、フランス語 のいずれか)で コミュニケー ションすること ができる。	4)多文化・多言 語共生、国際 協力の視点から、持続可能な 未来、より豊か な社会の構築 につながる言 語教育について 理解し、実践 することができる。	5)日本語以外 を母語とする生 活者を日本社 会につなげる 橋渡しすること ができる。	6)異文化コミュニ ケーション学 における主要 な概念、理論、 研究・調査手法 に対する基礎 的な知識を身 につけ、それを 文化間・国家 間・地域間・世 代間・個人間な ど様々な領域 で「異なる」こ とから生じる問 題、課題の解 決に応用する ことができる。	7)教室での学 びを、現場での 実践に結びつ け、自らが考え て行動すること ができる。	8)文化や言語 の多様性を理 解し、多様な他 者とよりよい関 係性を築き、と もに持続可能 な未来に向け た取り組みを進 めていくこと ができる。
英語教育学	選択科目 専門科目	2～4	そもそも英語とはどのような言語なのか、なぜ世界の共通語になったのか、日本人は歴史的に英語とどのように接してきたのか、世界にはどのような英語教授法があるのか、日本にとって英語はどのような言語であり、戦後はどのようにして教えられてきたのか、ヨーロッパではどのようにして英語を教えているのか、日本の英語教育の問題点は何か、今後の日本の英語教育はどのように変わるのか、など根源的な事柄について理解できる			○	◎	○		○	◎
英語コミュニケーション教育学	選択科目 専門科目	2～4	英語によるコミュニケーションを想定した多面的な言語活動のための教授法を理解・習得して授業に活かすことができる。英語・クラスにおけるコミュニケーション活動練習のための授業案を書き、それに基づいて授業の準備をし、実際に教えることができる。	◎	◎		◎		◎	◎	◎
英語科教育研究	選択科目 専門科目	3・4	英語教育はどのような学問領域から成り立っているのか、英語はこれまでどのように教えられてきたのか、コミュニケーション中心の教え方とはどのようなものなのか、今後日本では英語をどう教えるべきか、教員の役割とは何か、学習者はどう学習しているのか、語彙や文法とは何か、どう教えるべきか、教材はどのようにして作られているのか、どのように教科書で英語を教えればよいのか、などが理解でき、実践できるようになる。				◎	○		◎	○
外国語教育評価論	選択科目 専門科目	2～4	言語テストの種類、測定方法、測定尺度、テストの信頼性と妥当性などを理解し、説明することができる。得られたデータを分析・解釈する手法を身につけ、それを自ら使うことができる。	○	△		○			○	
日本語学特論	選択科目 専門科目	3・4	外国語、第2言語、継承語としての日本語を巡る様々なトピックを学ぶことにより、日本語を母語としない人々に日本語を教える際に役立つ知識を身につけ、それを実際の教育に用いることができる。	○	○		○	○		○	○
日本語教授法A	選択科目 専門科目	2～4	母語ではなく1つの言語としての日本語の諸特性を理解し、説明することができる。日本語を母語としない人に日本語をどう効果的に教えるかを理解し、具体的に述べるすることができる。教材分析、教授法の比較、教案作成、問題作成などをすることができる。	○	○		◎			◎	○
日本語教授法B	選択科目 専門科目	3・4	外国語として日本語を教える現場にはどのような課題が存在するのかについて学び、実践的にその課題に取り組み、問題を解決していく方法を知り、それが使えるようになる。多様な学習者のニーズに対応する方法やストラテジーについて学び、実際に支援ができる。言語政策の観点から日本語教育について考えることができる。	○	○		◎	◎		◎	○
日本語教育実習	選択科目 専門科目	3・4	具体的な学生のレベルを想定し、教材作成、教案作成をすることができる。学生間での模擬授業を経て、最終的には実際の学生に授業を行い、その結果を相互で評価し、個々人の教授スキルを改善することができる。	○	○	○	◎	◎		◎	○
コミュニケーション文法	選択科目 専門科目	2～4	英語における各種文法構造が、実際のコミュニケーションの場面(フォーマタルやフォーマル、書き言葉や話し言葉等)や文脈においてどのような異なるかについて語用論的、社会言語学的、文法論的観点から理解できる。自然発話や書き言葉コーパス等のデータの分析に基づき、その変化や違いについて理論的に説明できる。	◎	◎	○	○		○		○
言語研究特論	選択科目 専門科目	2～4	言語学で学んだことなどを発展させながら、言語哲学や神経心理学・失語症研究といった分野で論じられている様々なトピックの議論を通じて、言葉・心・脳の関係について考察する。	◎	○		△			○	△
通訳入門	選択科目 専門科目	2～4	アクティブリビング、パブリックスピーキング、ノートイキングなしの通訳、ノートイキングに関する初歩的なスキルを習得し、簡単なスピーチを逐次通訳することができる。通訳学の基本的な概念や理論を理解し、説明できる。	△		◎		◎	△	○	◎
逐次通訳	選択科目 専門科目	2～4	ノートイキングをもとに一般的な内容のスピーチを正確に逐次通訳することができる。やや専門的なスピーチの通訳の準備を効果的・効率的に行うことができる。通訳学の理論や研究成果を参照しながら、自律的な通訳練習が行える。	△		◎		◎	△	○	◎
同時通訳入門	選択科目 専門科目	3・4	準備をもとに、専門的な内容のスピーチを正確に逐次通訳することができる。同時通訳における基本的な方法を学び、準備をもとに、一般的な内容のスピーチを同時通訳することができる。通訳学の理論や研究成果を参照しながら、他の学生や自らの通訳パフォーマンスの評価ができる。	△		◎		◎	△	○	◎
翻訳入門	選択科目 専門科目	2～4	翻訳学の基本的な用語、概念、理論を理解し、説明できる。一般的な内容のテキストを分析し、コミュニケーションの目的に合わせた方法に基づき、目標言語に翻訳することができる。基本的な翻訳ツールの使用方法について理解し、説明できる。	△		◎		◎	△	○	◎
翻訳応用実践1	選択科目 専門科目	2～4	ビジネス翻訳、字幕翻訳、ニュース翻訳など特定専門領域の翻訳実習を通して、各領域で必要な知識やスキルについて理解し、説明できる。基本的な翻訳ツールを使用できる。翻訳学の理論や研究成果を参照しながら、他の学生や自らの翻訳の評価ができる。	△		◎		◎	△	○	◎
翻訳応用実践2	選択科目 専門科目	3・4	技術翻訳など特定専門領域の幅をさらに広げた翻訳実習を通して、各領域に必要な知識やスキルの習得方法について理解し、説明できる。翻訳プロジェクト管理における基本的な用語や概念を理解し、小規模の翻訳プロジェクトを管理できる。初歩的な翻訳エディティングができる。	△		◎		◎	△	○	◎
通訳翻訳実習	選択科目 専門科目	3・4	通訳翻訳クラス内で習得した知識とスキルをもとに、グループまたは個人で地域や学内における実際の通訳・翻訳プロジェクトに取り組むことで、コミュニケーションの仲介者としての役割を果たし、依頼者、ユーザー、同僚と効果的な意思疎通ができる。	△		◎		◎	△	◎	◎
通訳翻訳と多文化社会	選択科目 専門科目	1～4	行政、福祉、医療、司法の場における音声および手話通訳の現状を学ぶことにより、多文化多言語社会におけるコミュニケーションの課題について理解し、説明することができる。	○				○	◎	○	○
通訳翻訳の歴史	選択科目 専門科目	1～4	通商、外交、紛争、植民統治、布教など歴史におけるさまざまな異文化・異言語接触の状況で通訳者・翻訳者が果たした役割とその現代的意義について理解し、説明できる。	○				○	◎	○	○
非言語コミュニケーション論	選択科目 専門科目	1～4	非言語コミュニケーションに関する理論や概念を用いて、実際のコミュニケーションにおける非言語メッセージの特性・機能・意味を説明できるようにする。また、実際のコミュニケーション状況において、非言語コミュニケーションをより多角的に観察したり、自覚的に実践したりできるようになる。	◎	◎	△	△	○	○	◎	○
異文化コミュニケーション特論A	選択科目 専門科目	2～4	文化・人・コミュニケーションの関係を中心に、社会的問題のみならず、常識の範囲で捉えられてきたような現象にも目を向け、その背後にある構造をマクロとマクロの視点から読み解き、説明することができる。異文化コミュニケーションに関わる具体的なテーマ(例えば、日本社会における多文化共生の実践など)を取り上げ検証することで、異質性といかに向き合うかについて考え理解を深め、議論することができる。	◎	◎	△	△	○	◎	◎	◎

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)							
科目名	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観的に他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考え行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
異文化コミュニケーション特論B	選択科目 専門科目	2～4	文化・人・コミュニケーションの関係を中心に、社会的問題のみならず、常識の範囲で捉えられてきたような現象にも目を向け、その背後にある構造をミクロとマクロの視点から読み解き、説明することができる。異文化コミュニケーションに関わる具体的なテーマ(例えば、日本社会における多文化共生の実践など)を取り上げ検証することで、異質性といかに向き合うかについて考え理解を深め、議論することができる。	◎	◎	△	△	○	◎	◎	◎
対人コミュニケーション論	選択科目 専門科目	3・4	対人関係に密接に関わっているコミュニケーションについて、日常生活でみられる身近な現象をもとに考えることができる。自己、他者、アイデンティティ、自己開示、帰属意識、ステレオタイプなど対人コミュニケーションに関わる基礎概念を学び、友人間、家族間、世代間、異性間、医師・患者間など、様々な人間関係にコミュニケーションがどのように関与しているか理解を深め、自らの言葉で説明することができる。	◎	◎	△	△	◎	◎	◎	◎
集団コミュニケーション論	選択科目 専門科目	3・4	集団コミュニケーション研究において鍵となる用語・概念・理論の学習や、ケース・スタディを通して、集団コミュニケーションに対する理解を深め、説明することができる。具体的には、集団内の人間関係、役割、交渉などの側面に焦点を当て、集団内及び集団間コミュニケーションの実態や問題点を自ら考え、語るようになる。	◎	◎	△	△	◎	◎	◎	◎
説得コミュニケーション論	選択科目 専門科目	3・4	説得コミュニケーション研究において鍵となる用語・概念・理論の学習や、ケース・スタディを通して、説得コミュニケーションに対する理解を深め、説明することができる。具体的には、「コミュニケーションが社会で持つ力」や「力がコミュニケーションに与える影響」など説得をめぐる諸問題について考え、討論することで、説得コミュニケーションにより自覚的にかわることができるようになる。	◎	◎				◎	○	◎
グローバル社会とコミュニケーション	選択科目 専門科目	3・4	グローバル化が進む現在において私たちが直面しているコミュニケーションを巡る諸々の問題や課題を分析・討議することで、現代社会における国境を越えた交流について多角的な視点から考察できるようになる。	◎	◎	○	△	◎	◎	◎	◎
コミュニケーション・テクノロジーと社会	選択科目 専門科目	3・4	コミュニケーション・テクノロジーが歴史的にどのように発達し、どのような変化を社会にもたらしたのかを理論と事例研究の双方から理解し、説明することができる。また、テクノロジーが私たちのコミュニケーションのあり方に及ぼす(及ぼしう)影響についても多角的な視点から考察できるようになる。	◎	◎				◎	○	◎
コミュニケーション特論	選択科目 専門科目	2～4	コミュニケーションに関係する特定のトピックに焦点を当て、コミュニケーション学の立場から掘り下げて考察していくことにより、地域的アイデンティティ、エスニシティ、ジェンダー、セクシュアリティなど、様々な社会文化的領域に位置づけられる現象とコミュニケーションとの関わり、特にコミュニケーションがそれらをどのように作り出しているのかについての確に理解し表現することができる。	○	○				◎		○
グローバル文化研究特論	選択科目 専門科目	2～4	グローバル化における「文化」の機能について理解し、説明することができる。また、文化圏を超えて提供される「グローバル文化」の生成及び各地での受容とその影響について、具体例を用いて分析し、考察することができる。	○	◎		△			△	○
カルチュラル・スタディーズ特論	選択科目 専門科目	2～4	文化の国境を越えた移動によって起きる混交・流用・発明がどのような文化的多様性を生み出しているか、また文化の生成がどのように民族的・人種的・階級的アイデンティティの構築に結びついていくかを、カルチュラル・スタディーズの観点から理解し説明できるようになる。	○	◎				◎	○	◎
グローバル化と思想	選択科目 専門科目	2～4	テクノロジーの発展とともにヒト、モノ、カネ、思想などが飛躍的な速度で行き交うようになったプロセスを学びながら、近代化以降の世界の裏面を、その肯定的側面と否定的側面を思考する可能性を含めて、相互影響と受容の観点から多角的に考察することができる。	○			○		◎		◎
宗教と文化	選択科目 専門科目	3・4	異文化間のコミュニケーションを行うために欠かすことができない、目に見えない世界との交信、超越的な力、神(神々)の存在を含む「宗教」についてその全体像を理解し、宗教文化の意義や意味を知ることができる。	○	○				○		◎
エスニシティとナショナリズム	選択科目 専門科目	2～4	近代民族国家の形成とともに時代的背景をもって生み出されたナショナリズムと、その展開に関連しつつ、社会の内外に形成された諸集団の集団的自己認識としてのエスニシティのあり方、および相互関係を学ぶことができる。そこから社会の少数者を尊重する意義を学び取ることができる。	◎	◎			◎	○	○	◎
人と移動	選択科目 専門科目	2～4	国境にとらわれない前近代の時代の人の移動から、国境にとらわれざるをえない時代の移動までを視野に入れ、移動の要因がどのように生み出されてきたかを、侵略、植民地支配、内戦、紛争や様々な経済的背景に至るまで広い視野を持って知り、そこで生まれる特徴的な文化・社会の営みについて学ぶことができる。	◎	◎			◎	○	○	◎
言語文化論	選択科目 専門科目	2～4	ある国や地域の人々が言葉によって培ってきた思想や文化を鑑賞・分析することによって、人間の営みの多様性を理解し、自文化を相対化する視点を獲得することができる。また、言語や文化の衝突や受容が生み出す諸問題や創造性を理解し、考察できる。	○	◎	△	◎	○	○	○	◎
グローバル化と言語	選択科目 専門科目	3・4	国家や地域、民族の文化的アイデンティティの基盤としての言語が、政治的・歴史的に構築されてきた過程について理解し、説明することができる。グローバル化に伴って変容する言語とアイデンティティ(言語権、ナショナリズムなど)の関係等、近・現代の言語・民族・国家をめぐる諸問題について、分析、考察することができる。	◎	○		◎	◎	○	○	○
多文化共生特論	選択科目 専門科目	2～4	さまざまな文化の並立する世界を認識し、文化の差異によってもたらされる現象を具体的に述べることができる。また、多角的で異なる文化が互いに尊重されながら共生するための方策について、客観的に論じることができる。	○	◎		◎	○	◎	○	◎
国際協力・開発学特論	選択科目 専門科目	2～4	グローバル化する現代世界が抱える戦争・貧困・環境破壊、性の格差などの諸問題に対して、国際協力や国際開発学がどのように向き合い、問題解決を図っているのか、さらには、そこに、どのような構造的課題があるのかを理解することができる。	○	○				◎	○	◎
国際協力・紛争研究特論	選択科目 専門科目	2～4	世界各地の地域紛争の具体例を学ぶことを通じ、多様かつ複雑な紛争の要因を理解することができるようになる。国際社会が地域紛争に対してどのような役割を果たし、歯力ができるのかについて、考察を深める。	○	○				◎	○	○
自然共生特論	選択科目 専門科目	2～4	人間を取り巻く自然環境と人間が築き上げてきた文化をめぐる関係をどのように理解すればいいのかに関して、見取り図を手に入れて、考察するための能力を身に着けることができる。	○	◎						△
人間環境特論	選択科目 専門科目	2～4	人間の安全を、国家や社会との関係だけではなく、それが成り立つ自然環境を含めて理解できるようになる。個人や社会の安全を軍事や政治社会の側面からのみ捉えるのではなく、環境破壊、災害、感染症、テロなど環境を越える脅威からいかに確保できるのかについて包括的に考察する。	○	○				◎		○

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)							
科目名	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考え行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
間文化研究A	選択科目 専門科目	2～4	さまざまな文化の交流や衝突、あるいは融合といった現象を具体例に則して学び、説明することができる。文化の要素のあり方を多角的に理解し、自ら意見を述べるができる。	◎	◎		○	○	◎	○	◎
間文化研究B	選択科目 専門科目	2～4	さまざまな文化の交流や衝突、あるいは融合といった現象を具体例に則して学び、説明することができる。文化の要素のあり方を多角的に理解し、自ら意見を述べることができる。	◎	◎		○	○	◎	○	◎
音楽学特論	選択科目 専門科目	2～4	音楽の歴史の変遷を学び、社会的・思想的・文化的関わりを具体的に考察する。音楽のしくみを根源から理解するとともに、個と全体の関係性や、普遍性と独創性のせめぎ合いについて、他分野の方法や価値観と照らしつつ理論化する。	◎	○	△	△			○	◎
視覚芸術特論	選択科目 専門科目	2～4	美術、舞台芸術、映像等の視覚に関わる幅広い芸術の諸領域を対象とする。さまざまな時代・作家・作品について、文化・社会・政治・ジェンダー等の視点から深く探究し、多様な方法論を知るとともに、自ら多角的な視覚的な芸術の分析と考察ができる。	◎	○	△	△			○	◎
英語圏文学論	選択科目 専門科目	2～4	英語圏の文学について学び、詩、小説、戯曲などに表現される人間の営みについて考えることにより、その地域への理解を深め、文学を批評的に分析し論じることができるようにする。	○	○						
グローバル研究調査法	選択科目 専門科目	2～4	グローバル文化研究、国際協力・開発学、サステナビリティ学の研究を進めるために、文化の境界を越えて行われる調査研究には何が必要であるのかという課題を含めて、調査の手法について学び、身に付けることができる。	○	○				◎	◎	○
Special Topics in ICC A	選択科目 専門科目	1～4	「言語研究」「通訳翻訳研究」「コミュニケーション研究」「グローバル研究」における特定のテーマについて深い知識を獲得し、英語で自らの意見を述べたり、討議をすることができる。	◎		○	○		◎		◎
Special Topics in ICC B	選択科目 専門科目	1～4	「言語研究」「通訳翻訳研究」「コミュニケーション研究」「グローバル研究」における特定のテーマについて深い知識を獲得し、英語で自らの意見を述べたり、討議をすることができる。	◎		○	○		◎		◎
Special Topics in ICC C	選択科目 専門科目	1～4	「言語研究」「通訳翻訳研究」「コミュニケーション研究」「グローバル研究」における特定のテーマについて深い知識を獲得し、英語で自らの意見を述べたり、討議をすることができる。	◎		○	○		◎		◎
Teaching English to Speakers of Other Languages : Basic Principles	選択科目 専門科目	2～4	Students will understand and be able to explain the origins of and primary influences on modern-day TESOL contexts. Students will be able to distinguish and illustrate the differences among approaches to TESOL. Students will consolidate the course content to produce a solid belief in how to approach a TESOL classroom.	○	○		△			◎	△
Motivation in Language Learning	選択科目 専門科目	2～4	Students will understand and be able to explain the different components of motivation and explain their influence on language learning and language teaching. Further, students will be able to identify the antecedents of achievement motivation development, how they are related to a learner's choices and persistence, and the effects of parents, teachers, and peers.	◎	◎		△			◎	△
Intercultural Communication in the Language Classroom	選択科目 専門科目	2～4	Students will understand and be able to explain the incorporation of intercultural communication in a language learning classroom. Students will be able to identify the roles of the teacher, learners, and course materials regarding the incorporation of intercultural communication and the practical implications of doing so.	◎	◎		◎	○	○	◎	○
Communication and Citizenship	選択科目 専門科目	2～4	市民概念の形成、市民社会の変遷、シティズンシップ教育等におけるコミュニケーションの役割を理解し、説明することができる。コミュニケーションの理論・方法を援用しながら、市民運動や市民権をめぐる論争等を多角的に分析することができるようになる。自らも一人の市民としてコミュニケーションにより自覚的にかかわることができるようになる。	○	○	○			◎	○	◎
Orientalism in Media	選択科目 専門科目	2～4	新聞、雑誌、映画、テレビドラマなど、多様な分野やジャンルのメディア・テクストにおける西欧のオリエンタリズムとジャパニズムの背景と影響を分析することができる。中東アジアにとどまらず、アジアや非西欧社会全般にわたって普遍的なものと思なされる西欧中心的世帯観と秩序意識、差別的な地域観、常識化された不都合と偏見、オリエンタリズムを批判的に考察することができる。	◎	◎			◎			◎
Transcultural Cinema	選択科目 専門科目	2～4	映画とは、排他的な伝統文化や国境によって決められる民族文化とは異なるトランスカルチャー、又は芸術様式であることを理解し、様々な地域のグローバル社会において制作された映画やフィルム・プラクティスを、共存社会のための文化的実践として考察し、分析することができる。映画に再現されている文化的多様性、地域と国家を越えた普遍的価値、文化的ハイブリッドを批評的に分析し論じることができる。	◎	◎			◎			◎
Contemporary Culture in Japan	選択科目 専門科目	2～4	Students will gain insight into contemporary Japan by exploring the cultural and historical context of social issues such as immigration, gender relations, work patterns, stress, declining birthrate, nuclear power, and environmentalism, as well as cultural topics such as anime, literature, fashion, cinema, and food. Through these topics students will better understand Japan's place in the world and how Japanese culture will adapt to globalization.	◎	○			◎			○
Religion and Society in Asia	選択科目 専門科目	2～4	アジア圏において宗教がどのように諸地域の文化的慣習や人びとの日常生活と結びついているかを理解し、自らの意見を述べるができる。また、日本における様々な信仰や宗教的実践を、アジアにおける宗教文化という幅広い文脈の中で考察し、論じることができる。	○	◎	◎					
Japan in Asia	選択科目 専門科目	2～4	Japan's relations with its Northeast Asian neighbors have come to be defined in part by wars of historical interpretation as seen in political exchanges as well as in history textbooks, museums, and social culture. Students will be able to examine these differences in diverse contexts to gain a broader understanding of Japan's modern relations with its Asian neighbors.	○	△		◎		◎		
Ethnicity and Globalization in Japan	選択科目 専門科目	2～4	日本社会におけるグローバリゼーションと人種差別主義、そして、単一民族主義に基づく集団的アイデンティティを考察し、分析することができる。移住労働者と少数民族集団などの人種的マジョリティが日常生活に感じられる疎外感と社会的孤立、主流社会による統合・差別政策、文化的共有にに対し多様な立場を見せる社会集団の葛藤と社会調和を模索する過程を分析し論じることができる。	◎	◎			◎			◎
Multiculturalism in Japan	選択科目 専門科目	2～4	多文化共生・多文化主義に関連する理論や概念を用いて、日本社会における多文化的状況について理解するとともに、その課題について多様な側面から考察することができるようになる。	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)							
科目名	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1)論理的に思 考し、的確に自 己を表現するこ とができる	2)自己客観化 と他者理解に 基づくコミュニ ケーションがで きる	3)グローバル 化する世界の中 で必要とされる 、複言語・複 文化能力を身に つけることが できる。具体的 には、二つの 外国語(英語、 ならびにスเปน 語、中国語、 朝鮮語、ドイツ 語、フランス語 のいずれか)で コミュニケーションすること ができる。	4)多文化・多言 語共生、国際 協力の視点か ら、持続可能な 未来、より豊か な社会の構築 につながる言 語教育につい て理解し、実践 することができる。	5)日本語以外 を母語とする生 活者を日本社 会につなげる 橋渡しをする ことができる。	6)異文化コミュニ ケーション学 における主要 な概念、理論、 研究・調査手法 に対する基礎 的な知識を身に につけ、それを 文化間・国家 間・地域間・世 代間・個人間な ど様々な領域 で「異なる」こ とから生じる問 題、課題の解 決に応用する ことができる。	7)教室での学 びを、現場での 実践に結びつ け、自らが考え て行動すること ができる。	8)文化や言語 の多様性を理 解し、多様な他 者とよりよい関 係性を築き、と もに持続可能 な未来に向け た取り組みを進 めていくこと ができる。
Language Policy and Multilingualism	選択科目 専門科目	2～4	Students will be able to understand language situations and policies in various countries and areas in the world such as official language policy, policy towards minority and immigrants, and foreign language teaching policy. They will be able to explain these policies as well as such issues as language conflict, multilingualism, language maintenance, language rights, and endangered languages. Students will be able to deepen their knowledge and understanding of the relationship between language and society/culture.	○	○		○				◎
Social Movements and Social Change	選択科目 専門科目	2～4	Students will be able to apply key models and theories in the study of social movements to analyze and assess the role and impact of social movements in contemporary societies. They will also develop a better understanding of the cultural and communicative dimensions of social movements.	○	○		△		◎	○	◎
Advanced Seminar in Intercultural Communication	選択科目 専門科目	3・4	基礎科目で学んだ内容を踏まえながら、異文化コミュニケーションを巡る諸問題をさらに深く掘り下げて学ぶことで、文化・人・コミュニケーションの関係を理論的な視野と歴史的な視野の双方を立てて考察することができる。	○	○				◎		◎
Language and Identity	選択科目 専門科目	3・4	アイデンティティ形成と言語の関係を理解するとともに、アイデンティティが構築、表出、交渉される具体的な過程をジェンダー、セクシュアリティ、人種、民族、階級、地域性といった社会的要因と関係づけながら多面的に考察することができる。	○	○		◎				◎
International Organizations and Sustainability	選択科目 専門科目	3・4	Students will be able to understand key theories and conceptual models underlying the analysis of international development and sustainability. They will also develop a deeper understanding of the emergence, growth, and proliferation of international organizations, the factors that have contributed to their development, and their efforts at local, regional, national, and transnational levels.	○		○			◎	◎	◎
Gender and Communication	選択科目 専門科目	3・4	Students will be able to apply key concepts and theories in gender studies to everyday experiences. They will also develop a deeper understanding of the ways in which particular images of femininity and masculinity and differences between them are constructed, maintained, and challenged through one's body and communication.	○	○	○			◎	○	◎
Globalization and Media	選択科目 専門科目	3・4	Students will be able to engage with various concepts and subjects concerning media theory and global cultural flows and use them to contextualize and parse contemporary global media flows. They will also develop a deeper understanding of the real, imaginary, and symbolic power dynamics that constitute their own media environments.	○		○			◎	○	◎
専門演習1	選択科目 専門演習・卒業研究	3・4	各自の問題意識を学術的なテーマと結びつけることで「卒業研究」のテーマを設定することができる。また、「卒業研究」の調査執筆に必要な基礎的な事項(研究方法など)を獲得することができる。	◎			○		◎		◎
専門演習2	選択科目 専門演習・卒業研究	4	自ら設定したテーマについて研究計画を立て、先行研究文献の調査、研究方法の検討、データの収集・整理など、「卒業研究」の執筆を計画的に進めることができる。	◎			○		◎		◎
専門演習3	選択科目 専門演習・卒業研究	4	自ら設定したテーマについて調査執筆を継続し、期限までに質・量ともに「卒業研究」に求められる基準を十分に満たした成果物を完成させることができる。	◎			○		◎		◎
卒業研究	選択科目 専門演習・卒業研究	4	「言語研究」「通訳翻訳研究」「コミュニケーション研究」「グローバル研究」の中から各自が選択した卒業研究を完成させることができる。	◎			○		◎		◎
卒業課題A	選択科目 卒業課題	4	「言語研究」「通訳翻訳研究」「コミュニケーション研究」「グローバル研究」にかんする幅広い知識や技能を身につけ、異文化コミュニケーション学部を卒業し社会に出るにふさわしい識見を獲得することができる。	◎			○		◎		◎
卒業課題B	選択科目 卒業課題	4	「言語研究」「通訳翻訳研究」「コミュニケーション研究」「グローバル研究」にかんする幅広い知識や技能を身につけ、異文化コミュニケーション学部を卒業し社会に出るにふさわしい識見を獲得することができる。	◎			○		◎		◎
ベーシックセミナーA Basic Seminar A	自由科目	1・2	異文化コミュニケーション学部で学ぶための基礎となる文献読解力、リサーチスキル、批判的思考力を身につけ、論理的な文章を組成することができる。また、グループ活動を通して自分の意見を客観的に分析し相手に伝え、他者の意見を積極的に理解していく姿勢を身につけることで、他者と協力的に討議することができる。	◎		◎	△				○
ベーシックセミナーB Basic Seminar B	自由科目	2	異文化コミュニケーション学部で学ぶための基礎となる文献読解力、リサーチスキル、批判的思考力を深化させ、データや論拠を用いながら自らの論を展開したレポートを作成することができる。また、他者と共に調べ、話し合い、学ぶことにより学びの対象への理解を深めるとともに、その成果を論理的かつ効果的に発表することができる。	◎	◎		△				○
Humanities Study1 (History)	選択科目 PEACE選択科目	2～4	人文学に含まれる諸テーマについて、文献資料の読解に基づいて理解を深めるとともに、必要となる研究方法及び研究態度について学び、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○						○
Humanities Study2 (Education)	選択科目 PEACE選択科目	2～4	人文学に含まれる諸テーマについて、文献資料の読解に基づいて理解を深めるとともに、必要となる研究方法及び研究態度について学び、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○						○
Humanities Study3 (Religion)	選択科目 PEACE選択科目	2～4	人文学に含まれる諸テーマについて、文献資料の読解に基づいて理解を深めるとともに、必要となる研究方法及び研究態度について学び、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○						○
Humanities Study4 (Literature)	選択科目 PEACE選択科目	2～4	人文学に含まれる諸テーマについて、文献資料の読解に基づいて理解を深めるとともに、必要となる研究方法及び研究態度について学び、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○						○
Humanities Study5 (Literature)	選択科目 PEACE選択科目	2～4	人文学に含まれる諸テーマについて、文献資料の読解に基づいて理解を深めるとともに、必要となる研究方法及び研究態度について学び、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○						○

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)							
科目名	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果			3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に活用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
Humanities Study6 (Literature)	選択科目 PEACE選択科目	2～4	人文学に含まれる諸テーマについて、文献資料の読解に基づいて理解を深めるとともに、必要となる研究方法及び研究態度について学び、自らの調査や研究に活用することができる。	○	○						○
Humanities Lecture1 (History)	選択科目 PEACE選択科目	2～4	人文学に含まれる諸テーマについて、講義および指定された学習課題を通じて理解を深めるとともに、自らの調査や研究に活用することができる。	○	○						○
Humanities Lecture2 (Literature)	選択科目 PEACE選択科目	2～4	人文学に含まれる諸テーマについて、講義および指定された学習課題を通じて理解を深めるとともに、自らの調査や研究に活用することができる。	○	○						○
Japanese Economy1	選択科目 PEACE選択科目	1～4	関連する理論、概念、用語の検討を通して、主要な日本経済の事象を理解できるようになる。	○	○						○
Japanese Economy2	選択科目 PEACE選択科目	1～4	関連する理論、概念、用語の検討を通して、主要な日本経済の事象を理解できるようになる。	○	○						○
Japanese Economic History 1	選択科目 PEACE選択科目	1～4	近世日本史上の経済的事件と現代の日本経済・社会への影響について理解できるようになる。	○	○						○
Japanese Economic History 2	選択科目 PEACE選択科目	1～4	近代以降の日本史上の経済的事件と現代の日本経済・社会への影響について理解できるようになる。	○	○						○
Studies of Contemporary Society A	選択科目 PEACE選択科目	2～4	現代社会および社会学理論の最前線のトピックを学び、現代社会に対する考察を深め、自らの調査や研究に活用することができる。	○	○						○
Studies of Contemporary Society B	選択科目 PEACE選択科目	2～4	現代社会および社会学理論の最前線のトピックを学び、現代社会に対する考察を深め、自らの調査や研究に活用することができる。	○	○						○
Studies of Contemporary Society C	選択科目 PEACE選択科目	2～4	現代社会および社会学理論の最前線のトピックを学び、現代社会に対する考察を深め、自らの調査や研究に活用することができる。	○	○						○
Studies of Contemporary Society D	選択科目 PEACE選択科目	2～4	現代社会および社会学理論の最前線のトピックを学び、現代社会に対する考察を深め、自らの調査や研究に活用することができる。	○	○						○
Sociology of Gender A	選択科目 PEACE選択科目	1～4	ジェンダー理論を学ぶことで、公私の領域における男女間の不平等や役割分担の固定化について批判的に考える力を養うことができる。	○	○						○
Cultural AnthropologyA	選択科目 PEACE選択科目	1～4	文化人類学の基礎的理論を学習することで、多様な地域における習慣や儀礼、社会組織のあり方についてグローバルな視点から考える力を養うことができる。	○	○		△		○	○	◎
Torts	選択科目 PEACE選択科目	3・4	By learning the basics of Japanese tort law from a comparative perspective (with a particular emphasis on the United States, England, France, and Germany), students will be able to develop a better understanding of the nature and functions of tort law and apply the law to analyze legal problems.	○	○						○
Comparative Family Law	選択科目 PEACE選択科目	3・4	By learning the basics of Japanese family law from a comparative perspective, students will be able to develop a better understanding of the diverse and changing conceptions of "family," "marriage," and other related concepts.	○	○						○
Introduction to Legal Studies A	選択科目 PEACE選択科目	3・4	法学諸分野の基本的な知識を身につけ、具体的な社会問題や課題を法学の観点から考えることができる。	○	○						○
Introduction to Legal Studies B	選択科目 PEACE選択科目	3・4	法学諸分野の基本的な知識を身につけ、具体的な社会問題や課題を法学の観点から考えることができる。	○	○						○
Contract A	選択科目 PEACE選択科目		By acquiring a basic knowledge of Japanese contract law, students will be able to observe their everyday life through a legal lens, make a better value judgment, and develop their logical thinking skills.	○	○						○
Contract B	選択科目 PEACE選択科目		By acquiring a basic knowledge of Japanese contract law, students will be able to observe their daily life through a legal lens, make a better value judgment, and develop their logical thinking skills.	○	○						○

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)							
科目名	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1)論理的に思 考し、的確に自 己を表現するこ とができる	2)自己客観化 と他者理解に 基づくコミュニ ケーションがで きる	3)グローバル 化する世界 の中で必要とさ れる、複言語・複 文化能力を身 につけることが できる。具体的 には、二つの 外国語(英語、 ならびにスベ イン語、中国語、 朝鮮語、ドイツ 語、フランス語 のいずれか)で コミュニケー ションすること ができる。	4)多文化・多言 語共生、国際 協力の視点か ら、持続可能な 未来、より豊か な社会の構築 につながる言 語教育につい て理解し、実践 することができる。	5)日本語以外 を母語とする生 活者を日本社 会につなげる 橋渡しをするこ とができる。	6)異文化コミュ ニケーション学 における主要 な概念、理論、 研究・調査手法 に対する基礎 的な知識を身 につけ、それを 文化間・国家 間・地域間・世 代間・個人間な ど様々な領域 で「異なる」こ とから生じる問 題、課題の解 決に応用する ことができる。	7)教室での学 びを、現場での 実践に結びつ け、自らが考え て行動すること ができる。	8)文化や言語 の多様性を理 解し、多様な他 者とよりよい関 係性を築き、と もに持続可能 な未来に向け た取り組みを進 めていくことで きる。
Comparative Constitutional Law	選択科目 PEACE選択科目		By learning the major components of Japanese Constitution and its interrelationships with Japanese society through various case studies, students will be able to consider the roles of constitutional law and the legal justice system in resolving conflicts that arise in the society.	○	○						○
Financial Statement Analysis	選択科目 PEACE選択科目	3～4	Students will be able to read and anlayzie annual reports and detailed financial statements.	○	○						
Tourism Study 1 (Business)	選択科目 PEACE選択科目	2	英語で世界の観光事情(ビジネス)およびグローバルな観光の展開に関する知識を習得し、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○						○
Tourism Study 2 (Society)	選択科目 PEACE選択科目	2	英語で世界の観光事情(社会)およびグローバルな観光の展開に関する知識を習得し、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○				△		○
Tourism Study 3 (Destination)	選択科目 PEACE選択科目	3	英語で世界の観光事情(観光地)およびグローバルな観光の展開に関する知識を習得し、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○						○
Tourism Study 4 (Culture)	選択科目 PEACE選択科目	3	英語で世界の観光事情(文化)およびグローバルな観光の展開に関する知識を習得し、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○						○
Global Society and Local Communities (新設)	選択科目 PEACE選択科目		By examining the impact of globalization on communities around the world from political, economic, and social perspectives, students will be able to better understand the relationship between global conditions and changes and various problems in local communities.	○	○						○
Specialized Psychology lecture in English	選択科目 PEACE選択科目	2～4	英語を使用言語として、基礎心理学、応用心理学、臨床心理学の領域の特色ある研究内容に触れ、多角的な視点から心理学への理解を深め、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○						○
Cultural Psychology	選択科目 PEACE選択科目	2～4	ヒトが自然環境や社会的環境の中で築いてきた文化的な仕組み、枠組に関する歴史的側面や多様性について学び、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○		△		△		○

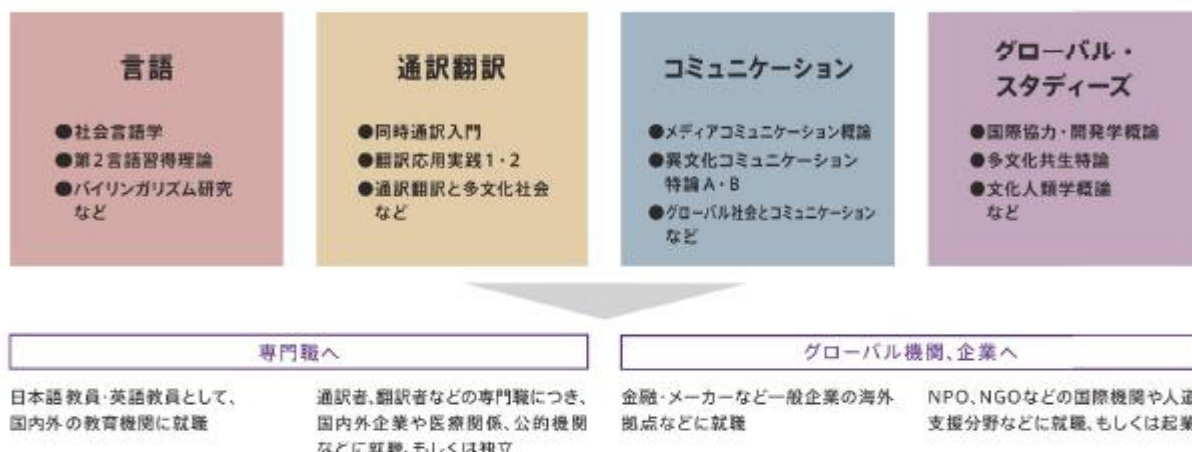
資料 10 専門科目群

異文化コミュニケーションを多角的に学ぶ専門科目群

異文化コミュニケーション学部では、異文化コミュニケーション研究の基礎を学ぶ研究基礎科目の上にお互いが相互に関連し合った専門科目群を設置しています。4つの領域を柱に、理論と実践を充実させる科目が設置され、両者が有機的に結びつき、学生が自ら選んだテーマに即して科目を選択することで、自ら行動する力を身につけていくことができます。

カリキュラムの特徴

自ら選んだテーマに即して、4つの科目群から専門科目を選択。



		1年次	2年次	3年次	4年次
共通	必修科目	●基礎演習A・B ●言語・コミュニケーション研究入門 ●グローバル研究入門	●Cultural Exchange		
	海外研修 (原則全員参加)		●海外留学研修A・B・C1(秋学期)	●海外留学研修C2	
選択科目	学びの精神	●College Life Planning A・B			
	基礎科目	●コミュニケーションセミナー(ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語)			
			●諸言語特別演習A・B		
		●日本語コミュニケーションA・B・C・D(原則留学生のみ履修可)		●ビジネス日本語コミュニケーション演習	
				●キャリア実践演習A・B (原則留学生のみ履修可)	
			●フィールドワーク	●海外インターンシップ(CIC)B	●海外フィールドスタディB
			●サービスラーニングA		
		●海外フィールドスタディA	●サービスラーニングB・C	●インターンシップ	●海外インターンシップ(CIC)A
	基礎科目	●言語学概論	●コミュニケーション研究概論	●国際協力・開発学概論	●通訳翻訳学概論
	専門科目		●異文化トレーニング演習	●通訳入門	●国際協力・開発学特論
			●バイリンガリズム研究	●コミュニケーション特論	●潮見芸術特論
	専門演習 卒業研究			●グローバル化と言語	●英語科教育研究
				●専門演習1	●専門演習2・3
					●卒業研究/卒業課題

※一部抜粋

※異文化コミュニケーション学部 学部案内 2023 (P6)

■ 教育の特色

「異なる」他者と共生し、持続可能な未来を創る
知識と実践を結びつけていくための4つの柱。

異文化コミュニケーション学科は、複数の視点からものごとを考え、柔軟な思考力をもって実践的に問題に向かい合うことのできる知識、知恵、行動力を身につけるため、次の4つの柱を立ててカリキュラムを編成しています。

1 日本語を磨く・英語を磨く

日本で学ぶ以上、日本語は重要。1年次の「基礎演習」で、日本語力を訓練し、論理的思考力と自己表現力を磨きます。また、「Dual Language Pathway」では、英語で学び、議論し、レポートを書くことで、高い英語の運用力を磨きます。

2 英語+1

言語は世界へ飛び出し活躍するための道具です。国際共通語である英語に加え、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、ロシア語のいずれかを選択し学びます。

3 知識と実践の往還

「通訳翻訳実習」、「日本語教育実習」、「フィールドワーク」などの実習型の科目を設置し、教室で学んだ知識を現場での実践に結び付ける力を身につけていきます。

4 海外留学研修・Dual Language Pathway

原則全員が参加する2年次秋学期の「海外留学研修」や英語で展開されている科目を履修して卒業する「Dual Language Pathway」を設置し、教室での学びだけに終わらない多様な仕組みをカリキュラムに組み込んでいます。

※異文化コミュニケーション学部ウェブサイト（教育の特色）

資料 12 Dual Language Pathway (DLP)



真のグローバル人材を育てる “Dual Language Pathway”

英語と日本語、2つの言語と高度な専門知識を使って、柔軟に問題対応ができる人材を育成する Dual Language Pathway (DLP)。日本語で考察、理解、発信する力に加え、国際共通語である英語で読み、議論し、発信する力を身につけ、現実根ざした実践的スキルを駆使できるようになるための4年間のプログラムです。DLPは定員15名、入試も個別に行います。学部設置の英語で展開されている専門科目を中心に履修、同時に日本語で展開されている科目も学生の興味関心に応じて履修します。少人数制で切磋琢磨するプログラムで、これからの世界に求められる「本当のグローバル人材」へ。ここでしか得られない価値を身につけてください。



DLP 履修の特色

- 1 「Academic Skills」で英語によるレポート作成など基礎的スキルを学び、学部教育科目を英語で履修することで、海外の大学で英語による専門科目の授業を受けられる水準を目指します。
- 2 「ベーシックセミナー」で日本語でのアカデミックスキルを学び、自身の関心のある研究領域における学びを日英両言語で深めるため、日本語による科目(10単位+α)も卒業要件単位として認定しています。
- 3 卒業研究(論文)は必修。英語で論文を完成させます。
- 4 2年次秋学期には、学部間協定大学への1年間の留学など、長期留学を目指します。

DLP 科目例

- Academic Skills A, B
- Overview of Language and Communication Studies
- Overview of Global Studies
- Introduction to International Development and Cooperation
- Introduction to Intercultural Communication
- Communication and Citizenship
- Multiculturalism in Japan
- Bilingualism
- Teaching English to Speakers of Other Languages : Basic Principles
- Translation and Interpreting Practicum
- Ethnicity and Globalization in Japan

※異文化コミュニケーション学部 学部案内 2023 (P7)

資料 13 日本人学生の海外派遣及び外国人留学生の受入れ

異文化コミュニケーション学部では、すべての学生が「海外留学研修」を体験します。
異なる文化の中に身を置くことで、他者の考え方を知るだけでなく、
自国の文化、そして自分自身について深く見つめ直すきっかけとなります。

大西 羅允
異文化コミュニケーション学部4年
愛知県立御津高等学校出身

現地の友だちをつくり アメリカ文化を満喫

ウエストフロリダ大学は車がないとどこにも行けない小さな街にありますが、ルームメイトをはじめ、現地で知り合った友だちがいろいろな場所に連れて行ってくれ、アメリカ文化を体験しています。コロナ禍の影響で留学が延期となりましたが、諦めずに留学の道を探りました。航空系の仕事に憧れていましたが、留学を通して国際協力にも興味を持ち始めました。

アメリカに留学

1967年創立。コンピューターサイエンスから心理学まで幅広く学べる州立総合大学

在学中の活動やそのコミュニティを通して、世界を変える人材を育成することを大学のビジョンとしている。キャンパスはアメリカフロリダ州西部、ペンサコーラの森林地帯に位置しており、アウトドアスポーツやレクリエーション活動も盛んに行われる。

海外留学研修先
ウエストフロリダ大学
University of West Florida
大学間協定校

韓国を深く理解し 日韓の架け橋に

私は韓国にルーツを持ち、高校生の頃から韓国語を勉強し、いつか韓国に引っ越してみたいと考えていました。授業はすべてオンラインになってしまいましたが、現地で暮らしたことで、韓国文化を体験できました。授業では、自分の意見を持ち、積極的に発言する学生が多く、その姿勢に圧倒されました。将来は、日韓の架け橋となるような仕事に就きたいと思っています。

韓国に留学

学外の市民団体と密接なネットワークを形成し、韓国社会にも影響力のある大学

聖公会大学は、ソウル郊外にあるキリスト教系私立大学。「NGO大学」とも呼ばれるほど、学外の市民団体と多様なネットワークを形成している。人文・社会学系の学びをはじめとして、日本語学専攻もあるため日本語を学ぶ現地学生との交流も活発に行われている。

海外留学研修先
聖公会大学
Sungkonghoe University
学部間協定校

福田 涼乃
異文化コミュニケーション学部4年
関東国際高等学校(東京都)出身



堀 純華

異文化コミュニケーション学部4年
品川エトワール女子高等学校(東京都)出身



多様な人たちと交流し 新たな視点を吸収

国際的に活躍する両親のようになりたいと思い、国際開発学などで評価の高いマンチェスター大学に留学しました。この大学での多様な人たちとの出会いを通じて、新しいモノの見方を得られました。議論主体の授業も受けていておもしろいです。将来はコンサルタントを目指していて、留学中に経験の幅を広げられるようインターンに挑戦できればと考えています。

英国に留学

英国最大級にして、卓越した教育と研究で知られる全英屈指の名門大学

英国第二の都市マンチェスターを拠点とし、多様な学問分野で質の高い教育を実践。英国の研究型国立大学群である「ラッセル・グループ」に所属しており、現在までに数多くのノーベル賞受賞者を輩出し世界からも注目を集めている。



海外留学研修先

マンチェスター大学

The University of Manchester

学部附属定校

海外に出て 日本の良さを再発見

留学が延期となったことで、留学先を考え直し、タイに行くことに決めました。タイには日系企業が多く、将来、日本の企業に就職するときに、タイでの経験が大きな財産になると思ったからです。授業はほぼオンラインなのでキャンパスには行けないのですが、友だちもでき、直接会って遊ぶこともあります。タイに来てみて、日本の良さも再発見できました。

タイに留学

首都バンコクの中心部に位置し、
タイ王国で最も古い歴史を持つ国立総合大学

1917年に国王によって創立されたタイ王国初の公立大学で、学問知識だけでなく道徳や社会的責任を身につけた人材の育成を目標としている。国内最大の教育機関として多彩な学部・研究施設を持ち、都市の中心にありながら広く落ち着いた環境で学ぶことができる。



海外留学研修先

チュラロンコン大学

Chulalongkorn University

大学附属定校



澤田 賢太

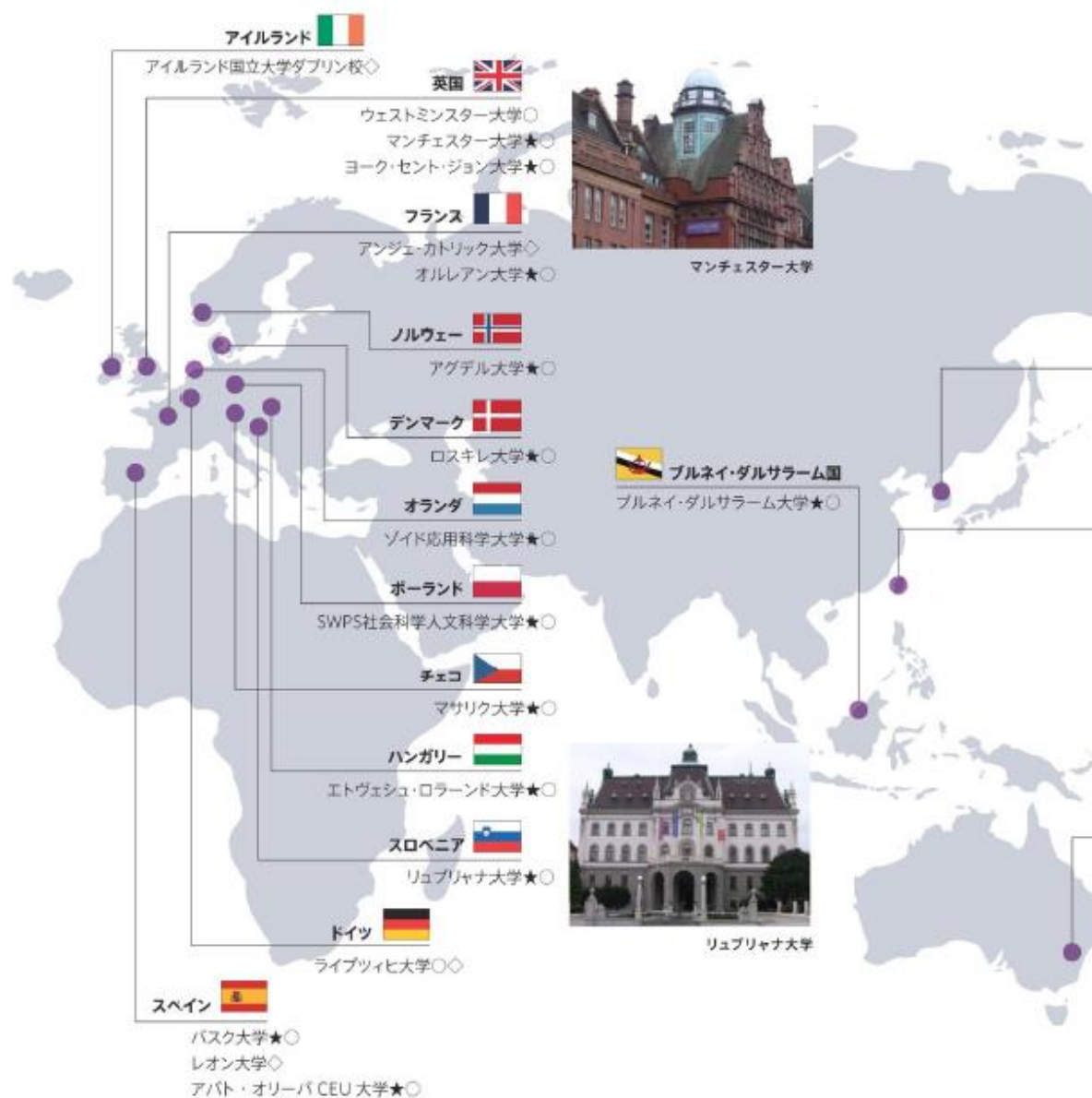
異文化コミュニケーション学部4年
立教新座高等学校(埼玉県)出身



留学先は、アジア、北アメリカ、オセアニア、ヨーロッパなど19ヵ国47校の提携先大学。(2022年1月時点)

★ 学部間協定校 ○ Academic course program ◇ Language program

立教大学と国際交流協定を結んでいる海外の大学、世界26ヵ国・地域の95校(大学間協定校)へ留学することも可能です。(2022年1月時点)



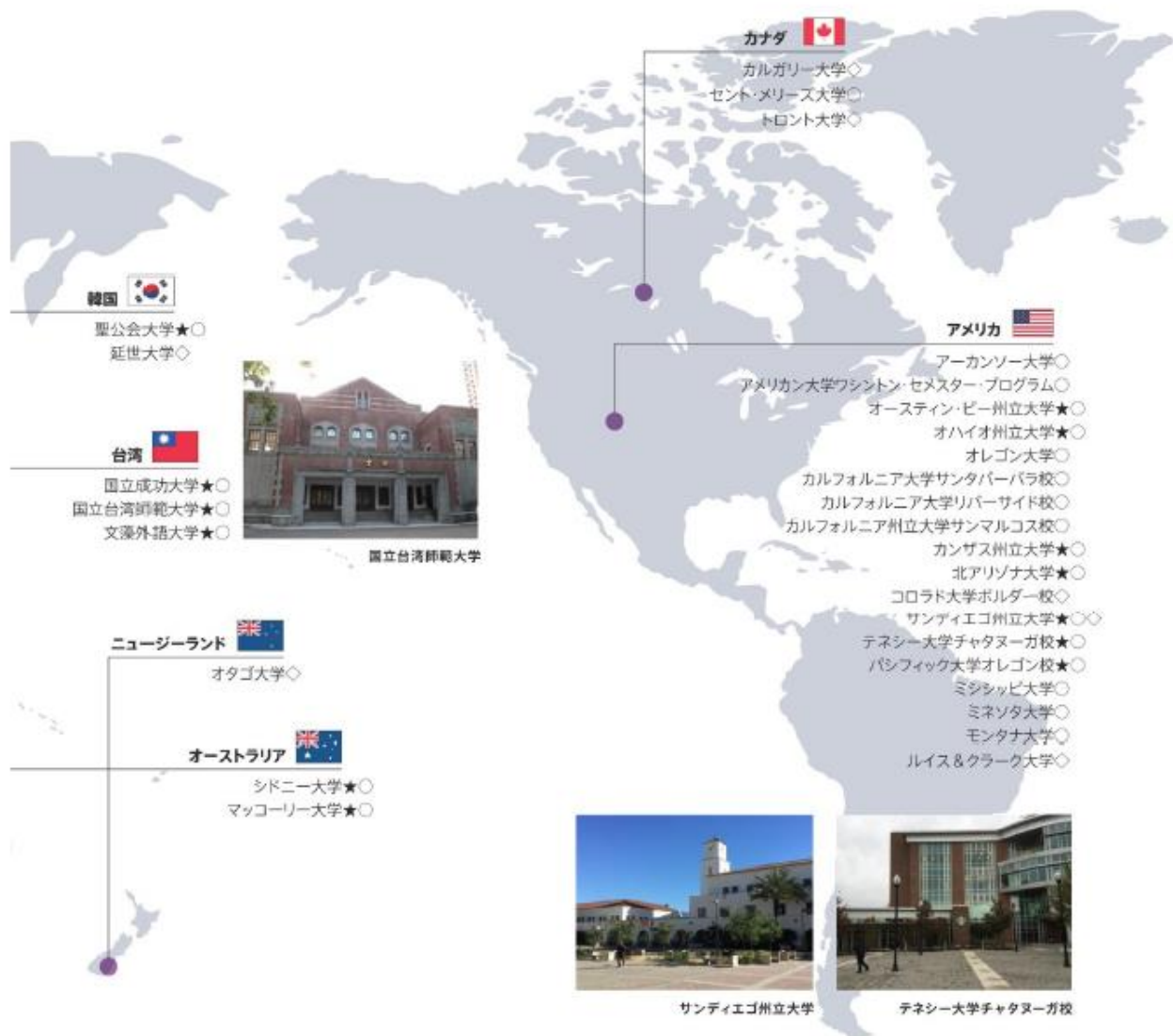
語学スコア基準

英語圏への留学および英語圏以外の大学で英語での授業を履修する場合、IELTSまたはTOEFLのスコアが必要となります。異文化コミュニケーション学部では、IELTS受験料補助制度を設け、留学に必要なスコアの取得をサポートします。また、IELTS/TOEFL受験申込には有効なパスポートが必要で、取得スコア有効期限は受験日より2年間です。(留学先大学への出願は、例年1年次の2月～2年次の5月※です) ※出願先(2月頃～)の出願日は11月

留学に必要な語学スコア(一例)

以下のスコアはあくまで参考(スコア基準が変更となる場合もあります)

ヨーク・セント・ジョン大学(イギリス)	IELTS 6.0(16セクション5.5以上)/ TOEFL iBT 75(R18, L17, W20, S20以上)
オハイオ州立大学(アメリカ)	IELTS 6.5/TOEFL iBT 79
マッコーリー大学(オーストラリア)	IELTS 6.5(16セクション6.0以上)/ TOEFL iBT 83(R17, L12, W21, S18以上)
オルレアン大学(フランス)	IELTS 5.5/TOEFL iBT 70
ブルネイ・ダルサラーム大学(ブルネイ)	IELTS 6.0/TOEFL iBT 79



留学費用へのサポート

2年次秋学期に原則全員参加の「海外留学研修」という科目があります。「海外留学研修」履修者は、2年次の授業料が減額(※239,000円減額)されるとともに、立教大学グローバル奨学金申請者で、所定の支給基準を満たした者には、選考の上、最大600,000円が支給されます。ただし、家計収入が多く基準を超える場合は支給されません。なお、留学費用は、右記のとおり留学先によって異なります。

※減免額は過年度の実績。大学間協定校へ留学する場合、減額は適用されません。

＜学部間協定校へ留学する場合＞

留学生の学費は免除になりますが(私費留学を除く)、滞在費、食費、大学指定の保険加入などで半額の場合は150,000円～2,300,000円、1年制の場合は340,000円～2,600,000円(2022年度見込額、派遣先大学により異なる。金額は除く、為替による変動あり。)が別途必要になります。

＜パートナー大学へ留学する場合＞

約4～6か月間で実習費 1,110,000円～5,270,000円(2022年度見込額、渡航費を除いた基本プログラム費、宿泊費など、研修先により異なる。為替の変動、留学先大学学費値上げなどで変動あり。)が別途必要になります。なお、実習費の一部(2022年度見込額で50,000円～330,000円)は1年次の3月までに納入していただく予定です。

※異文化コミュニケーション学部 学部案内 2023 (P11～14)

TOPIC 1 海外インターンシップ



自分の将来やりたいことを
体験させてもらった
国際協働プロジェクト

鈴木 沙季 異文化コミュニケーション学部3年
光ヶ丘女子高等学校（愛知県）出身



私が日本語教育に興味を持ったのは高校生の頃です。オーストラリアに長期留学したときに、現地の学生と一緒に日本語の授業を受けたことで、将来、オーストラリアの日本語教育に関わりたと思うようになりました。今回の交流授業の話を聞いたときに、まさに私がやりたいことと重なっていたので、本当にびっくりしました。この交流授業では、マードック大学の学生の日本語学習を支援しました（eBuddy®）。日本に住む私たちが、ふだん当たり前に思っていることにもマードック大学の学生は疑問を持ち、彼らから思いもよらない質問を受けて答えに悩むことも多々ありました。最後の発表の場で、関わった学生が日本語ですらすら質問に答えている姿を見たり、終わった後に「楽しかった」と言われたりしたことがとても嬉しかったです。この経験を生かして、日本語教育をもっと学んでいきたいです。

■海外インターンシップ
eBuddy®プロジェクト レビュー

Jake Chaloner マードック大学



日本語を学ぶ上での好きな点の一つは、日本文化だけでなく自国の文化についても、より深い理解が得られるということです。eBuddyプログラムの期間中は、eBuddyと共に取り組んだ課題のおかげで、日本語のスキルが上進するとともに、互いの経験や興味を共有することによって、友人関係も築くことができました。お互いの文化や歴史、社会などを比較、対比しながら、いつの間にか話題が本題から逸れていることもしばしば。ほとんど知られていない（そしてどこかおかしな）オーストラリア文化の側面をeBuddyと共有できたことは、素晴らしい経験でした。また、会話の録音を聞き返すことにより、自分の日本語の不自然な癖に気づいて、改善につなげることができたということも分かりました。

■eBuddy

オーストラリアのマードック大学と異文化コミュニケーション学部が協働してオンラインで日本語・日本文化を学ぶプロジェクト。マードック大学の学生とパディを組み、マードック大学の学生がプログラム終了時に日本語でプレゼンテーションできるよう、原稿のチェックやアドバイスを行う。また、プレゼンテーションにも参加し、質問・コメント・評価を行う。

海外インターンシップ

海外に数週間滞在し、現地の学生の日本語学習を支援し、日本語教育について学ぶ実践型プログラム。清華大学（中国）、天主教輔仁大学（台湾）、モンゴル文化教育大学、ブルネイ・ダルサラーム大学で行っています。また、マードック大学とのオンラインでのプログラムが正課科目「海外インターンシップ（CIC）A」として展開されています。

TOPIC 2 English Camp

コロナ禍に負けずに オンラインで 英語と触れ合う場をつくる

Er Jie Na 異文化コミュニケーション学部4年
Sri Emas International School(Malaysia)出身



私自身が、英語を第2外国語として習得したので、日本の子どもたちには English Campを通して、英語でコミュニケーションする楽しさを体験してもらいたと思っていました。特に、私が日本語を学び始めたとき、一緒に日本語を話してくれる人と出会う機会をととても嬉しく感じたので、英語を学ぶ日本の子どもたちに同じような経験をしてもらえたらと考えていました。

1年生のときは日本語があまりできなかったこともあり、緊張しながら参加しましたが、繰り返し参加していくうちに深く関わりたいと思うようになり、3年次にはオーガナイザーを引き受けました。私は主に情報発信と、参加学生や事務と連絡を取りあう役割を務めていました。

2021年のEnglish Campはオンライン開催となったこともあり、パソコンの操作に不慣れな子どもたちにオンラインミーティングソフトの操作方法を教えるのが大変でした。うまく操作できなくて泣き出してしまったり、対面と比べて発言しにくかったりと、みんなの反応や雰囲気を直接感じにくいこともあって、進行にはとても気を使いました。大学生参加者を募るのにも苦労しましたが、一方で、母国に帰国した留学生がオンラインで参加できたので、そういう機会をつくることができたのはよかったと感じています。

English Campに参加することは、私自身にとって癒やしの機会になっていました。というのも、私は母国のマレーシアで、両親や兄弟・親戚含めて30人くらいの大家族の中で育ちました。小さな甥や姪などの面倒を見ていたこともあって、子どもと接することは昔から好きでした。ですので、友だちからEnglish Campに誘われ参加して、多くの子どもたちと触れ合えたことは、家族の元を離れてひとりで日本に来ていた私にとって、大家族で生活していた母国での生活を思い出さような体験でした。

繰り返しになりますが、English Campが、子どもたちが楽しみながら英語を学ぶきっかけや励み付けになればとても嬉しいです。



English Camp

豊島区の小中学生および岩手県陸前高田市の中学生を対象に、異文化コミュニケーション学部の日本人学生と外国人留学生と一緒に英語で様々なアクティビティを企画。英語の楽しさに触れるきっかけづくりをお手伝いしています。2020年度からは「サービスマーケティングC」として正課科目となり、学びの実践の場として取り組んでいます。

※異文化コミュニケーション学部 学部案内 2023 (P4)

日本語教員 養成プログラム

日本語を母語としない人々に日本語を教えるスキルと専門知識を身につけることを目的としたプログラムです。所定の科目を修得した学生には修了証が授与され、これまで多くの学生が本プログラムを修了しています。海外で日本語教員として働いている先輩も輩出しており、国内外で仕事ができるチャンスが広がっています。また、豊島区と連携して日本語学習支援を行う学生の活動「立教日本語教室」の取り組みは、サービスマーケティングA・B（正課科目）として本プログラムの選択必修科目となっており、教室での学びと実践の両輪で展開しています。



「立教日本語教室」 たくさんの人たちと交流し 広がった視野

大神 風世
異文化コミュニケーション学部3年
桃山学院高等学校（大阪府）出身

友だちに誘われたことがきっかけで、日本語教室のボランティアをするようになりました。コロナ禍でオンライン授業が続き、同級生と話す機会がほとんどなくなっていた中で、日本語教室の活動は先輩や同級生と知り合うよいきっかけとなりました。日本語教室で実際に人に教えたことで、日本語教育関係の授業の理解度が上がり、学んだ知識がよりしっかりと身につくようになったと思います。私は海外経験があまりないのですが、この活動を通してたくさんの人たちと交流することができ、視野が広がりました。また、日本で暮らす外国の人たちのことが気になるようになり、国内フィールドスタディの授業に参加し、移民や難民の方々の生活について理解を深めるきっかけにもなりました。今後は、日本語教育能力検定試験を受けるなどして日本語の知識を増やしていきたいと思っています。

通訳・翻訳者 養成プログラム

学部から大学院まで一貫性のある養成プログラムを設置しています。所定の科目を修得した学生には、修了証が授与されます。修了するには、母語と外国語の極めて高い運用能力が必要ですが、通訳者・翻訳者のニーズは年々高まっており、チャレンジする価値のあるプログラムです。通訳者は、病院、警察署、裁判所等での日本語の力が十分でない人々への通訳など、日常の様々な場面で必要とされています。また、本プログラムで学ぶ学生は、RiCoLaS（立教コミュニティ通訳翻訳サービス）で実際の通訳・翻訳プロジェクトに取り組むなど幅広く活動しています。



「RiCoLaS」 （立教コミュニティ通訳翻訳サービス）

実務経験を通して 通訳・翻訳への道が見えた

久保 舞葉美
異文化コミュニケーション学部3年
桃山学院高等学校（大阪府）出身

大学卒業時までに通訳・翻訳者養成プログラム修了証の取得を目標に、勉強を進めています。RiCoLaSへの参加を決めたのもその一環で、実務的な通訳・翻訳の経験を積めると考えたからです。RiCoLaSではこれまで留学生のキャンパスの案内や通訳をしていましたが、コロナ禍でその仕事が減り、代わりに外部の人たちからの依頼を受けるようになりました。私は東日本大震災を語り継ぐ動画に英語の音声をつけるプロジェクトで、翻訳の一部を担当しています。授業でも翻訳の実習をしますが、実際に社会で発表される作品の一部に関わることの重みをひしひしと感じました。入学当初は通訳者や翻訳者になることは特に思っていなかったのですが、勉強をしているうちに、通訳者になりたいと思うようになり、RiCoLaSの活動を通して、通訳者、翻訳者への具体的な道がはっきりと見えてきました。

※異文化コミュニケーション学部 学部案内 2023（P10）

○資料 15 令和 3 年度文部科学白書（第 5 章該当部分抜粋）

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 15

2 出典

文部科学省ウェブサイト

3 書類等の利用範囲

第 5 章第 4 節

https://www.mext.go.jp/content/20220719-mxt_soseisk02-000024040_205.pdf

4 その他の説明

社会や経済のグローバル化が進展する我が国において、優秀な外国人留学生の獲得、個々の能力を高めグローバル化した社会で活躍する人材を育成すること等が喫緊の課題となっていることを示すため、上記資料を引用した。

立教大学文学部，経済学部，社会学部，
異文化コミュニケーション学部及び情報社会デザイン学部
特定地域内学部収容定員増加 届出書

令和 5 年 2 月 3 日

文 部 科 学 大 臣 殿

学校法人立教学院 理事長 福田 裕昭

学校法人立教女学院 理事長 大澤 眞木子

このたび，立教大学文学部，経済学部，社会学部，異文化コミュニケーション学部及び情報社会デザイン学部の特定地域内学部収容定員を増加させることについて，地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律施行令第 4 条第 1 項の規定により，別紙書類を添えて届け出ます。なお，届出の上は，確実に届出に係る計画を履行します。

本届出は，令和 3 年 3 月 23 日付の届出の内容を変更するものです。

適用を受けようとする除外規定及びその適用を受けることができる理由の概要	＜適用を受けようとする除外規定＞ 地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律第13条第2号 ＜適用を受けることができる理由の概要＞ 杉並区に所在する立教女学院短期大学を廃止して、適切に算定した数の範囲内で立教大学の1～4年次の特定地域内学部収容定員を増加させるため。			
特定地域内学部収容定員の変更の状況		学部等の名称	変更前	変更後
	増加させる学部等	立教大学		
		文学部(※1)	3,600人	3,672人
		キリスト教学科	196人	200人
		史学科	856人	860人
		教育学科	400人	404人
		文学科	2,148人	2,208人
		経済学部(※1)	2,720人	2,736人
		経済学科	1,320人	1,328人
		会計ファイナンス学科	700人	704人
		経済政策学科	700人	704人
		社会学部(※1)	2,040人	2,076人
		社会学科	680人	692人
		現代文化学科	680人	692人
		メディア社会学科	680人	692人
		異文化コミュニケーション学部(※2)	580人	840人
		異文化コミュニケーション学科	580人	840人
		情報社会デザイン学部(※3)	0人	816人
		情報社会デザイン学科	0人	816人
		(いずれも修業年限4年)		
	大学全体	—	13,988人	15,188人
特定地域内学部収容定員を増加させる時期	(※1) 令和4年4月(文学部, 経済学部及び社会学部) (※2) 令和6年4月(異文化コミュニケーション学部) (※3) 令和7年4月(情報社会デザイン学部)			
校舎の所在地	東京都豊島区西池袋3-34-1(池袋キャンパス)			
学校教育法に基づく認可申請又は届出の状況	(※1) 令和3年6月収容定員関係学則変更認可申請書提出済み(令和3年10月認可) (※2) 令和5年3月収容定員関係学則変更認可申請書提出予定 (※3) 令和6年3月末収容定員関係学則変更認可申請書提出予定 令和6年6月末情報社会デザイン学部設置届出書提出予定			

(注)

- 1 記載内容を証する書類を添付すること。
- 2 特定地域外から特定地域内への校舎の移転その他学校教育法第4条第1項の規定により文部科学大臣の認可を受けなければならないこととされている事項以外の事項によって、特定地域内学部収容定員を増加させる場合は、同法の規定により届け出なければならない事項の例に準じて内容の分かる書類を添付すること。

法第13条第1号・第2号 説明書

特定地域内学部等収容定員を減少させる学部等	大学の名称	立教女学院短期大学					
	学部等の名称	修業 年限	入学定員 (編入学定員)	減少前の特定地域 内学部等収容定員 (収容定員)	減少させる特定 地域内学部等収 容定員 (収容定 員)	減少後の特定地 域内学部等収容 定員 (収容定員)	校舎の所在 地
	現代コミュニケーション学科	2年	150人 (-人)	300人 (300人)	300人 (300人)	0人 (0人)	東京都杉 並区久我 山4-29-23
	幼児教育科	2年	150人 (-人)	300人 (300人)	300人 (300人)	0人 (0人)	
	減少させる事由	2018年4月に募集停止を行い、2020年3月末をもって在籍者が0名となったため。					
	予定時期	2020年7月					
特定地域内学部収容定員を増加させる学部等	大学の名称	立教大学					
	学部等の名称	修業 年限	入学定員 (編入学定員)	増加前の特定地域 内学部収容定員(収 容定員)	増加させる特定 地域内学部収容 定員 (収容定員)	増加後の特定地 域内学部収容定 員 (収容定員)	校舎の所在 地
	文学部(※1) キリスト教学科 史学科 教育学科 文学科	4年	900人 (-人) 49人 (-人) 214人 (-人) 100人 (-人) 537人 (-人)	3,600人 (3,600人) 196人 (196人) 856人 (856人) 400人 (400人) 2,148人 (2,148人)	72人 (72人) 4人 (4人) 4人 (4人) 4人 (4人) 60人 (60人)	3,672人 (3,672人) 200人 (200人) 860人 (860人) 404人 (404人) 2,208人 (2,208人)	東京都豊 島区西池 袋3-34-1
	経済学部(※1) 経済学科 会計ファイナンス学 科 経済政策学科	4年	680人 (-人) 330人 (-人) 175人 (-人) 175人 (-人)	2,720人 (2,720人) 1,320人 (1,320人) 700人 (700人) 700人 (700人)	16人 (16人) 8人 (8人) 4人 (4人) 4人 (4人)	2,736人 (2,736人) 1,328人 (1,328人) 704人 (704人) 704人 (704人)	同上
	社会学部(※1) 社会学科 現代文化学科 メディア社会学 科	4年	510人 (-人) 170人 (-人) 170人 (-人) 170人 (-人)	2,040人 (2,040人) 680人 (680人) 680人 (680人) 680人 (680人)	36人 (36人) 12人 (12人) 12人 (12人) 12人 (12人)	2,076人 (2,076人) 692人 (692人) 692人 (692人) 692人 (692人)	同上
	異文化コミュニケーション学部(※2) 異文化コミュニケー ション学科	4年	145人 (-人) 145人 (-人)	580人 (580人) 580人 (580人)	260人 (260人) 260人 (260人)	840人 (840人) 840人 (840人)	同上

	情報社会デザイン学部（※３） 情報社会デザイン学科	4年	0人（-人） 0人（-人）	0人（0人） 0人（0人）	816人（816人） 816人（816人）	816人（816人） 816人（816人）	同上
	増加させる事由	収容定員の増加及び学部の新設					
	予定時期	（※１）令和４年４月（文学部，経済学部及び社会学部） （※２）令和６年４月（異文化コミュニケーション学部） （※３）令和７年４月（情報社会デザイン学部）					
法第13条第2号の規定の適用を受けようとする場合のみ	合併・統廃合等， 共同教育課程の別	☒ 合併・統廃合等 ☐ 共同教育課程					
	協議の内容	「地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律」第13条第2号に基づき，学校法人立教女学院が設置する立教女学院短期大学の廃止に際し，同短期大学の収容定員を600名（年次あたり300名）減少させ，学校法人立教女学院が設置する立教大学の収容定員を1,200名（年次あたり300名）増加させる。 また，学校法人立教女学院及び学校法人立教女学院の創立者であるチャニング・ムーア・ウィリアムズ主教の意思を受け継ぎ，建学の精神であるキリスト教に基づく教育実践と，両法人の発展に資する相互協力・連携体制を構築するために，「学校法人立教女学院と学校法人立教女学院との相互協力・連携協定書」を締結する。					

特定地域内学部収容定員増加届出書の変更点等について

【別記様式第 1 号】

○理事長名

(変更点)

法人名	今回	令和 3 年 3 月 23 日付け届出
①立教学院	<u>福田 裕昭</u>	<u>戸井田 和彦</u>
②立教女学院	<u>大澤 眞木子</u>	<u>糸魚川 順</u>

(変更理由)

- ①令和 4 年 8 月 1 日付で理事長が交代したため。
- ②令和 3 年 4 月 1 日付で理事長が交代したため。

○鑑文

今回	令和 3 年 3 月 23 日付け届出
(略) 本届出は, <u>令和 3 年 3 月 23 日付</u> の届出の内容を変更するものです。	(略) 本届出は, <u>令和 2 年 7 月 1 日付</u> の届出の内容を変更するものです。

(変更理由)

今回で 2 度目の変更届出となるため。なお、当初届出は令和 2 年 7 月 1 日付けで行ったが、令和 3 年 3 月 23 日付けで 1 回目の変更届出を行った。

○特定地域内学部収容定員の変更の状況 (学部等の名称)

(変更点)

変更届出	令和 3 年 3 月 23 日付け届出
情報社会デザイン学部 <u>(※ 3)</u> 情報社会デザイン学科	情報社会デザイン学部 <u>(※ 2)</u> 情報社会デザイン学科

(変更理由)

情報社会デザイン学部の開設時期を遅らせることに伴う表記の変更。

○特定地域内学部収容定員を増加させる時期

(変更点)

今回	令和 3 年 3 月 23 日付け届出
(※ 2) 令和 6 年 4 月 (異文化コミュニケーション学部)	(※ 2) 令和 6 年 4 月 (異文化コミュニケーション学部及 <u>び情報社会デザイン学部</u>)
(※ 3) 令和 7 年 4 月 (情報社会デザイン学部)	(追加)

(変更理由)

昨今の社会状況の変化及び大学に対する社会からの期待（環境教育、社会と連携した実践的（PBL）教育、遠隔授業の大胆な活用、文理横断教育等）に応えることができる学部とするため、オンラインの活用による遠隔授業の導入等のコロナ禍を踏まえた高等教育の変化への対応、教育未来創造会議、骨太の方針 2022 等で言及されているデジタル及びグリーン人材の育成、文理横断的な学びへの転換等について、時間をかけてより丁寧かつ慎重な検討を行った上で、設置することとしたため。

また、令和 4 年 10 月の大学設置基準の改正に伴って新設された、教育課程等に係る特例制度の活用可否について検討を行いたいため。

○学校教育法に基づく認可申請又は届出の状況

(変更点)

変更届出	令和 3 年 3 月 23 日付け届出
(※ 1) 令和 3 年 6 月収容定員関係学則変更認可申請書提出済（同年 10 月認可）	(※ 1) 令和 3 年 6 月収容定員関係学則変更認可申請書提出予定
(※ 2) 令和 5 年 3 月末収容定員関係学則変更認可申請書提出予定 (削除)	(※ 2) 令和 5 年 3 月末収容定員関係学則変更認可申請書提出予定 <u>令和 5 年 4 月末情報社会デザイン学部設置届出書提出予定</u>
(※ 3) 令和 6 年 3 月末収容定員関係学則変更認可申請書提出予定 <u>令和 6 年 6 月末情報社会デザイン学部設置届出書提出予定</u>	(追加)

(変更理由)

【再掲】昨今の社会状況の変化及び大学に対する社会からの期待（環境教育、社会と連携した実践的（PBL）教育、遠隔授業の大胆な活用、文理横断教育等）に応えることができる学部とするため、オンラインの活用による遠隔授業の導入等のコロナ禍を踏まえた高等教育の変化への対応、教育未来創造会議、骨太の方針 2022 等で言及されているデジタル及びグリーン人材の育成、文理横断的な学びへの転換等について、時間をかけてより丁寧かつ慎重な検討を行った上で、設置することとしたため。

また、令和 4 年 10 月の大学設置基準の改正に伴って新設された、教育課程等に係る特例制度の活用可否について検討を行いたいため。

【別記様式第2号】

○特定地域内学部収容定員を増加させる学部等（学部等の名称）

変更届出	令和3年3月23日付け届出
情報社会デザイン学部（※3） 情報社会デザイン学科	情報社会デザイン学部（※2） 情報社会デザイン学科

（変更理由）

情報社会デザイン学部の開設時期を遅らせることに伴う表記の変更。

○特定地域内学部収容定員を増加させる学部等（予定時期）

今回	令和3年3月23日付け届出
（※2）令和6年4月（異文化コミュニケーション学部） （※3）令和7年4月（情報社会デザイン学部）	（※2）令和6年4月（異文化コミュニケーション学部及 び情報社会デザイン学部）

（変更理由）

【再掲】昨今の社会状況の変化及び大学に対する社会からの期待（環境教育、社会と連携した実践的（PBL）教育、遠隔授業の大胆な活用、文理横断教育等）に応えることができる学部とするため、オンラインの活用による遠隔授業の導入等のコロナ禍を踏まえた高等教育の変化への対応、教育未来創造会議、骨太の方針2022等で言及されているデジタル及びグリーン人材の育成、文理横断的な学びへの転換等について、時間をかけてより丁寧かつ慎重な検討を行った上で、設置することとしたいため。

また、令和4年10月の大学設置基準の改正に伴って新設された、教育課程等に係る特例制度の活用可否について検討を行いたいため。

【除外規定を受けることができることを証するための添付書類】

令和2年7月1日付届出書（当初届出）から変更なし。

資料 17 本学既設学部と異文化コミュニケーション学部（増加後）の S/T 比

学部名	収容定員	教員数	S/T比
理学部	1,168	75	15.57
異文化コミュニケーション学部（増後）	840	34	24.71
スポーツウエルネス学部	920	25	36.80
文学部	3,672	85	43.20
経営学部	1,540	35	44.00
現代心理学部	1,276	29	44.00
コミュニティ福祉学部	1,400	30	46.67
法学部	2,340	50	46.80
観光学部	1,480	29	51.03
社会学部	2,076	40	51.90
経済学部	2,736	52	52.62
合計	19,448	484	40.18

資料 18 競合校と異文化コミュニケーション学部（増加後）の S/T 比

大学等名	収容定員	教員数	S/T比
青山学院大学国際政治学部国際コミュニケーション学科	296	14	21.14
法政大学国際文化学部	996	47	21.19
異文化コミュニケーション学部（増後）	840	34	24.71
早稲田大学国際教養学部	2,400	90	26.67
明治大学国際日本学部	1,600	49	32.65
上智大学総合グローバル学部	880	26	33.85
合計	7,012	260	26.97

※各大学のウェブサイト又は大学ポータルから引用

資料 19 大学設置基準における校地面積及び校舎面積と本学の校地面積及び校舎面積

(1) 大学設置基準における校地面積及び校舎面積と本学の校地面積及び校舎面積（一覧）

	大学設置基準	大学全体	池袋キャンパスのみ
校地面積	194,480 m ²	257,945 m ²	69,830 m ²
校舎面積	87,898 m ²	176,406 m ²	126,230 m ²

※池袋キャンパスのみで、大学設置基準における校舎面積を上回っている

(2) 大学設置基準における校地面積及び校舎面積の算出方法

○設置基準上の校地面積 ⇒ 収容定員合計×10 ⇒ $19,448 \times 10 = 194,480$

○設置基準上の校地面積

・基準校舎面積 ⇒ 14,449.96（文学部）

学部名	収容定員数	学部の種類	算定式	基準校舎面積
文学部	3,672	文学関係	$(3672-800) \times 1322/400 + 4958$	14,449.96
経済学部	2,736	経済学関係	$(2736-800) \times 1322/400 + 4958$	11,356.48
理学部	1,168	理学関係	$(1168-800) \times 3140/400 + 8925$	11,813.8
社会学部	2,076	社会学・社会福祉学関係	$(2076-800) \times 1322/400 + 4958$	9,175.18
法学部	2,340	法学関係	$(2340-800) \times 1322/400 + 4958$	10,047.7
観光学部	1,480	社会学・社会福祉学関係	$(1,480-800) \times 1,322/400 + 4,958$	7,205.4
コミュニティ福祉学部	1,400	社会学・社会福祉学関係	$(1400-800) \times 1322/400 + 4958$	6,941
経営学部	1,540	経済学関係	$(1540-800) \times 1322/400 + 4958$	7,403.7
現代心理学部	1,276	文学関係	$(1,276-800) \times 1,322/400 + 4,958$	6,531.18
異文化コミュニケーション学部	840	文学関係	$(840-800) \times 1322/400 + 4958$	5,123.3
スポーツウエルネス学部	920	体育関係	$(920-800) \times 1,983/400 + 6,280$	7,414.9

・加算校舎面積 ⇒ 73,448（文学部を除く 10 学部合計）

学部名	収容定員数	学部の種類	算定式	基準校舎面積
文学部	－	文学関係	－	－
経済学部	2,736	経済学関係	$7768 + ((7768 - 7107) \times 4)$	10,412
理学部	1,168	理学関係	大学設置基準別表第三八をそのまま適用（1,200 人まで）	10,147
社会学部	2,076	社会学・社会福祉学関係	$7768 + (7768 - 7107)$	8,429
法学部	2,340	法学関係	$7768 + (7768 - 7107) \times 2$	9,090
観光学部	1,480	社会学・社会福祉学関係	別表第三八をそのまま適用（1,600 人まで）	6,446
コミュニティ福祉学部	1,400	社会学・社会福祉学関係	別表第三八をそのまま適用（1,400 人まで）	5,785
経営学部	1,540	経済学関係	別表第三八をそのまま適用（1,600 人まで）	6,446
現代心理学部	1,276	文学関係	別表第三八をそのまま適用（1,400 人まで）	5,785
異文化コミュニケーション学部	840	文学関係	別表第三八をそのまま適用（1,000 人まで）	4,462
スポーツウエルネス学部	920	体育関係	別表第三八をそのまま適用（1,000 人まで）	6,446
合計				73,448

・基準校舎面積と加算校舎面積の合計 ⇒ 87,898

別表2の4(第41条関係)

(単位 円)

学部学科プログラム	学年	授業料	実験・実習費	合計
文学部 (教育学科初等教育専攻を除く)	1年次	1,128,000	—	1,128,000
	2年次	1,128,000	—	1,128,000
	3年次	1,128,000	—	1,128,000
	4年次	1,078,000	—	1,078,000
	(*) 4年次	1,028,000	—	1,028,000
	(**) 4年次	988,000	—	988,000
文学部 教育学科初等教育専攻	1年次	1,128,000	—	1,128,000
	2年次	1,128,000	—	1,128,000
	3年次	1,128,000	10,000	1,138,000
	4年次	1,078,000	—	1,078,000
	(*) 4年次	1,028,000	—	1,028,000
	(**) 4年次	988,000	—	988,000
文学部 グローバル ・リベラルアーツ ・プログラム	1年次	1,850,000	—	1,850,000
	2年次	1,850,000	—	1,850,000
	3年次	1,850,000	—	1,850,000
	4年次	1,800,000	—	1,800,000
経済・法・観光学部 (国際ビジネス法学科グローバルコースを除く)	1年次	1,121,000	—	1,121,000
	2年次	1,121,000	—	1,121,000
	3年次	1,121,000	—	1,121,000
	4年次	1,071,000	—	1,071,000
	(*) 4年次	1,021,000	—	1,021,000
	(**) 4年次	981,000	—	981,000
法学部 (国際ビジネス法学科グローバルコース)	1年次	1,221,000	—	1,221,000
社会学部	1年次	1,121,000	15,000	1,136,000
	2年次	1,121,000	15,000	1,136,000
	3年次	1,121,000	15,000	1,136,000
	4年次	1,071,000	15,000	1,086,000
	(*) 4年次	1,021,000	15,000	1,036,000
	(**) 4年次	981,000	15,000	996,000
理学部 数学科	1年次	1,548,000	—	1,548,000
	2年次	1,548,000	—	1,548,000
	3年次	1,548,000	—	1,548,000
	4年次	1,498,000	—	1,498,000
	(*) 4年次	1,448,000	—	1,448,000
理学部 物理学科	1年次	1,548,000	10,000	1,558,000
	2年次	1,548,000	60,000	1,608,000
	3年次	1,548,000	40,000	1,588,000
	4年次	1,498,000	120,000	1,618,000
	(*) 4年次	1,448,000	120,000	1,568,000
理学部 化学科	1年次	1,548,000	40,000	1,588,000
	2年次	1,548,000	80,000	1,628,000
	3年次	1,548,000	—	1,548,000
	4年次	1,498,000	80,000	1,578,000
	(*) 4年次	1,448,000	80,000	1,528,000

(単位 円)

学部学科プログラム	学年	授業料	実験・実習費	合計
理学部 生命理学科	1 年次	1,548,000	70,000	1,618,000
	2 年次	1,548,000	40,000	1,588,000
	3 年次	1,548,000	80,000	1,628,000
	(***) 4 年次	1,498,000	80,000	1,578,000
	(****) 4 年次	1,498,000	—	1,498,000
	(*) 4 年次	1,448,000	—	1,448,000
コミュニティ福祉学部 福祉学科 コミュニティ政策学科	1 年次	1,128,000	3,000	1,131,000
	2 年次	1,128,000	3,000	1,131,000
	3 年次	1,128,000	—	1,128,000
	4 年次	1,078,000	—	1,078,000
	(*) 4 年次	1,028,000	—	1,028,000
	(**) 4 年次	988,000	—	988,000
コミュニティ福祉学部 スポーツウェルネス学科	1 年次	1,128,000	15,000	1,143,000
	2 年次	1,128,000	15,000	1,143,000
	3 年次	1,128,000	15,000	1,143,000
	4 年次	1,078,000	15,000	1,093,000
	(*) 4 年次	1,028,000	15,000	1,043,000
	(**) 4 年次	988,000	15,000	1,003,000
経営学部	1 年次	1,121,000	30,000	1,151,000
	2 年次	1,121,000	15,000	1,136,000
	3 年次	1,121,000	15,000	1,136,000
	4 年次	1,071,000	15,000	1,086,000
	(*) 4 年次	1,021,000	15,000	1,036,000
	(**) 4 年次	981,000	15,000	996,000
現代心理学部 心理学科	1 年次	1,165,000	15,000	1,180,000
	2 年次	1,165,000	15,000	1,180,000
	3 年次	1,165,000	15,000	1,180,000
	4 年次	1,115,000	15,000	1,130,000
	(*) 4 年次	1,065,000	15,000	1,080,000
	(**) 4 年次	1,050,000	15,000	1,065,000
現代心理学部 映像身体学科	1 年次	1,190,000	15,000	1,205,000
	2 年次	1,190,000	15,000	1,205,000
	3 年次	1,190,000	15,000	1,205,000
	4 年次	1,140,000	15,000	1,155,000
	(*) 4 年次	1,090,000	15,000	1,105,000
	(**) 4 年次	1,075,000	15,000	1,090,000
異文化コミュニケーション学部	1 年次	1,128,000	10,000	1,138,000
	2 年次	1,128,000	3,000	1,131,000
	3 年次	1,128,000	3,000	1,131,000
	4 年次	1,078,000	1,000	1,079,000
	(*) 4 年次	1,028,000	1,000	1,029,000
	(**) 4 年次	988,000	1,000	989,000

(*) : 2012～2014 年度以前入学者

(**) : 2011 年度以前入学者

(***) : 2016～2019 年度入学者

(****) : 2015 年度入学者

備考

- 1 授業料は在籍料 120,000 円（半期 60,000 円）を含むものとし、休学の場合は在籍料のみ徴収する。

- 2 文学部教育学科初等教育専攻の者は実験・実習費 10,000 円を納めなければならない。
- 3 理学部において、履修要項の定めるところにより実験を履修しない者および在学留学中の者は実験・実習費は不要とする。同様に、物理学科、化学科、生命理学科のすべての年度入学者において、配当年次以外の年次に実験科目を履修する場合は、各実験科目に定められた金額を加えて徴収する。
 理学部物理学科において、2015 年度以前入学者のうち 4 年次卒業研究として理論物理学を選択する者、2016 年度以降入学者のうち 4 年次卒業研究 1、2 として理論物理学を選択する者は、実験・実習費は不要とする。また、理学部物理学科において、3・4 年次配当の選択実験（物理学実験 2）を履修する者については 1 科目あたり 40,000 円を、2 年次必修科目の化学実験（物）・生物学実験（物）を 3 年次以降に履修する者については 1 科目あたり 20,000 円を、それぞれ徴収する。
 理学部化学科において、2016 年度以降入学者のうち、3・4 年次に配当されている選択実験（研究実験 1、研究実験 2）を履修する者については 1 科目あたり 40,000 円を、物理学実験（化）を履修する者については 10,000 円を、生物学実験（化）を履修する者については 1 科目あたり 20,000 円を、それぞれ徴収する。
 理学部生命理学科において、2016 年度以降入学者のうち、1 年次必修科目の物理学実験（生）を 2 年次以降に履修する者については 10,000 円を、化学実験（生）を 2 年次以降に履修する者については 20,000 円を履修年度ごとに徴収する。
- 4 コミュニティ福祉学部の「ソーシャルワーク実習指導 1」若しくは「精神保健福祉援助実習指導 1」を履修する者は、上記納入金に加えて実習登録費 3,000 円を、「ソーシャルワーク実習」を履修する者は、上記納入金に加えて実習費 62,000 円を、「精神保健福祉援助実習」を履修する者は、上記納入金に加えて実習費 50,000 円を納めなければならない。
- 5 NEXUS プログラム 4.5 年コースの 1 年次第 1 学期目の学費は、別表 2 の 5 に定める。
- 6 異文化コミュニケーション学部の海外留学研修を履修する者の授業料は、履修する年次の授業料を減免し、次の通りとする。（2022 年度以降入学者は大学間協定校へ留学する場合を除く）
 2, 3 年次 889,000 円
 ※新型コロナウイルス感染拡大に係る特例として、4 年次に海外留学研修を履修する者の授業料は 839,000 円とする。

別表 2 の 5（第 41 条関係）

NEXUS プログラム 4.5 年コースの 1 年次第 1 学期目学費

（単位 円）

学部 学科	授業料
文学部	564,000
経済学部	560,500
社会学部	560,500
法学部	560,500
コミュニティ福祉学部	564,000
経営学部	560,500
現代心理学部 心理学科	582,500
現代心理学部 映像身体学科	595,000

備 考

- 1 授業料は在籍料 120,000 円（半期 60,000 円）を含むものとし、休学の場合は在籍料のみ徴収する。
- 2 1 年次第 2 学期目以降は、所属学部学科の授業料を適用する。

- 3 実験・実習費は、1年次第2学期目より、所属学部学科で定められた実験・実習費を徴収することとする。学部カリキュラムへの合流が1年次第2学期目より遅れる場合、学部カリキュラムに合流するまでの期間、実験・実習費は徴収しない。

別表3（第47条関係）

教育職員免許状取得に必要な教職に関する専門科目の受講料	35,000 円
学芸員の資格取得に必要な博物館に関する科目の受講料	35,000 円
司書の資格取得に必要な図書館に関する科目の受講料	35,000 円
司書教諭の資格取得に必要な学校図書館に関する科目の受講料	15,000 円
社会教育主事の資格取得に必要な社会教育に関する科目の受講料	30,000 円

備考

- 1 社会教育主事課程の講座登録料は、次の学部・学科の学生に限り、20,000 円とする。
文学部教育学科、観光学部、コミュニティ福祉学部、現代心理学部
- 2 次の者は、講座登録料は不要とする。
文学部教育学科に所属し、初等教育専攻在籍（予定）の者で、小学校教員免許状取得（予定）の者。
大学院博士課程後期課程の大学院学生で、大学院博士前期課程（修士課程）在学時に講座登録をし、空白の期間なくして後期課程に進学した者。

別表4 削除

別表5（第49条関係）

項 目	邦 文	英 文
入 学 証 明 書 (1 通につき)	300 円	400 円
退 学 証 明 書 (1 通につき)	300 円	400 円
在 学 証 明 書 (1 通につき)	300 円	400 円
卒 業 (見 込) 証 明 書 (1 通につき)	300 円	400 円
成 績 証 明 書 (1 通につき)	300 円	400 円
修 了 証 明 書 (1 通につき)	300 円	
単 位 修 得 証 明 書 (1 通につき)	300 円	
学 力 に 関 す る 証 明 書 (1 通につき)	300 円	
教育職員免許状取得見込証明書 (1 通につき)	300 円	
社会福祉士指定科目履修（見込）証明書 (1 通につき)	300 円	
精神保健福祉士指定科目履修（見込）証明書 (1 通につき)	300 円	
公認心理師試験卒業証明書・科目履修証明書 (1 通につき)	300 円	
科 目 等 履 修 証 明 書 (1 通につき)	300 円	400 円
聴 講 証 明 書 (1 通につき)	300 円	400 円
学 士 号 証 明 書 (1 通につき)	300 円	400 円
調 査 書 (1 通につき)	300 円	
学 生 証 再 発 行 (1 通につき)	2,000 円	
通 学 定 期 乗 車 券 発 行 控 (1 通につき)	300 円	
科 目 等 履 修 生 証 再 発 行 (1 通につき)	2,000 円	
教育職員免許状大学一括申請手数料 (1 通につき)	800 円	
学校図書館司書教諭講習申込手数料 (1 通につき)	800 円	
学 位 記 等 再 発 行 (1 通につき)	20,000 円	
そ の 他 の 証 明 書 (1 通につき)	300 円	400 円

別表6（第51条、第52条関係）

選 考 料	12,000 円
登 録 料	40,000 円（年額）
受 講 料（1 単位につき）	36,000 円

備考

- 1 第51条第2項の規定による科目等履修生に限り選考料及び登録料は第2年目においてはこれを徴収しない。
- 2 本学の学部又は大学院研究科を卒業、修了したことがある者及び特別外国人学生として在籍したことがある者の選考料及び登録料については2分の1額とする。

資料 21 競合校との学生納付金比較

○五十音順

	入学金	授業料等の学生納付金（諸会費を除く）				総額
		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
本学部	200,000	1,138,000	1,131,000 (892,000)	1,131,000	1,138,000	4,738,000 (4,499,000)
(A) 青山学院大学 国際政治経済学部 国際コミュニケーション学科	200,000	1,192,000	1,195,000	1,199,000	1,203,000	4,989,000
(B) 上智大学 総合グローバル学部	200,000	1,150,000	1,053,000	1,053,000	1,053,000	4,509,000
(C) 法政大学 国際文化学部	240,000	1,365,000	690,000	1,065,000	1,040,000	4,400,000
(D) 明治大学 国際日本学部	200,000	1,281,000	1,286,000	1,291,000	1,326,000	5,384,000
(E) 早稲田大学 国際教養学部	200,000	1,390,000	1,590,000	1,590,000	1,590,000	6,360,000

※各大学のウェブサイトから引用

○金額降順

	入学金	授業料等の学生納付金（諸会費を除く）				総額
		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
(E) 早稲田大学 国際教養学部	200,000	1,390,000	1,590,000	1,590,000	1,590,000	6,360,000
(D) 明治大学 国際日本学部	200,000	1,281,000	1,286,000	1,291,000	1,326,000	5,384,000
(A) 青山学院大学 国際政治経済学部 国際コミュニケーション学科	200,000	1,192,000	1,195,000	1,199,000	1,203,000	4,989,000
本学部	200,000	1,138,000	1,131,000 (892,000)	1,131,000	1,138,000	4,738,000 (4,499,000)
(B) 上智大学 総合グローバル学部	200,000	1,150,000	1,053,000	1,053,000	1,053,000	4,509,000
(C) 法政大学 国際文化学部	240,000	1,365,000	690,000	1,065,000	1,040,000	4,400,000

※各大学のウェブサイトから引用

資料 22 アスリート選抜入試 入試概要

「アスリート選抜入試」は、立教大学の建学の精神に基づいて、知性・感性・身体バランスが取れた、幅広い視野と総合的な判断力を備えた人材の育成を目的としています。スポーツ競技の実績が優秀であるだけでなく、人格的にも優れ学業に対する高い意欲を持つ者を選抜し、立教大学体育会各部をリードするとともに立教大学生の模範と成り得る学生を育てたい、と考えています。

≫ 全学部

募集人員		出願資格
全学部 全学部とも 若干名	次の1～4の条件をすべて満たす者。ただし、文学部文学科英米文学専修、経営学部国際経営学科、異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科は次の1、2、3、5の条件を満たす者。 1. 本学への入学を強く希望し、入学後、学業と体育会でのスポーツ活動とを両立させる強い意欲を持つ者。 2. 次の(a)・(b)のいずれかに該当する者。 (a) 2022年4月から2023年3月までに高等学校(中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部を含む。以下同じ)を卒業する者で、高等学校第2学年末までの全体の評定平均値が3.5以上のもの。 ※ 理学部各学科を志望する者は、(a)の条件に加え、各学科が指定する下記の科目のうち、高等学校第2学年末までに履修した科目の評定平均値が、当該学科の定める評定平均値以上の者。 ① 数学科:数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学Bを指定科目とする。理数数学Ⅰ、理数数学Ⅱ、理数数学特論履修者は上記科目に相当する科目に置き換えることができる(理数数学特論を履修していない場合は、出願前に問い合わせてください)。履修した科目の評定平均値が4.2以上の者。 ② 物理学科:物理基礎、物理を指定科目とする。理数物理履修者は上記科目に相当する科目に置き換えることができる。履修した科目の評定平均値が4.0以上の者。 ③ 化学科:化学基礎、化学を指定科目とする。理数化学履修者は上記科目に相当する科目に置き換えることができる。履修した科目の評定平均値が4.0以上の者。 ④ 生命理学科:化学基礎、化学、生物基礎、生物を指定科目とする。理数化学、理数生物履修者は上記科目に相当する科目に置き換えることができる。履修した科目の評定平均値が4.0以上の者。 ※ 理学部入学後の授業は、「数学Ⅲ」の履修を前提として行います。 (b) 本学において、個別の入学資格審査により、上記(a)に準ずると認められる者(詳細は、下記を参照すること)。 3. 募集競技種目において、高等学校等上記出願条件2に該当する教育課程在学中の競技実績が次の(a)～(d)のいずれかに該当する者。 (a) オリンピック、世界選手権、IF(インターナショナル・フェデレーション)主催の国際大会、およびこれらに相当する国際大会に出場した者。 (b) 全国高等学校総合体育大会、全国高等学校選手権大会、全国高等学校選抜大会、国民体育大会、およびこれらに相当する全国大会において、16位以上の成績を収めた者。団体競技の場合は、16位以上の成績を収めたチームで、正選手として出場した者。 (c) 各地域のブロック大会において、8位以上の成績を収めた者。団体競技の場合は、8位以上の成績を収めたチームで、正選手として出場した者。 ※ 各地域のブロック大会とは、北海道(ただし、都道府県大会と同等の大会は除く)、東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州などの地区大会を指す。 (d) その他、上記(a)～(c)と同等以上の実績を、公式競技記録等により証明できる者。 ※ (a)～(c)について、国公立高等学校大会、私立高等学校大会などは競技実績の対象とはなりません。 ※ (a)～(d)について、パラリンピック種目の競技大会は競技実績の対象とはなりません。 ※ 出願条件3.に該当しない競技実績についても、自由選抜入試で出願できる場合があります。 4. 次の英語資格・検定試験のいずれかを受験し、スコアを提出できる者。 ▶利用できる英語資格・検定試験については、詳細を別途参照すること。 (a) ケンブリッジ英語検定 (b) 実用英語技能検定[英検] (c) GTEC (d) IELTS (Academic Module) (e) TEAP (f) TEAP CBT (g) TOEFL iBT ※ 英語資格・検定試験の成績は4技能スコアのみ有効とする。 ※ いずれも出願期間の初日から遡って2年以内に受験したものを有効とする。 5. 次の英語資格・検定試験のいずれかの成績を取得している者。 ▶利用できる英語資格・検定試験については、詳細を別途参照すること。 (a) ケンブリッジ英語検定スコア140点以上 (b) 実用英語技能検定[英検]スコア1,950点以上 (c) GTECスコア960点以上 (d) IELTS (Academic Module) オーバーオール・バンド・スコア4.0以上 (e) TEAPスコア225点以上 (f) TEAP CBTスコア420点以上 (g) TOEFL iBTスコア42点以上 ※ 英語資格・検定試験の成績は4技能スコアのみ有効とする。 ※ いずれも出願期間の初日から遡って2年以内に受験したものを有効とする。	
	【出願条件2(b)の詳細内容について】 (1) 外国において、学校教育における12年の課程を2022年4月から2023年3月31日までに修了見込みの者。 (2) 日本国内において、高等学校に対応する外国の学校の課程(その修了者が当該外国の学校教育における12年の課程を修了したとされるものに限る。)と同等の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設の当該課程を2022年4月から2023年3月31日までに修了見込みの者。 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2022年4月から2023年3月31日までに修了見込みの者。 (4) 文部科学大臣が指定する国際的な評価団体(WASC、CIS、ACSI)の認定を受けた教育施設の12年の課程を2022年4月から2023年3月31日までに修了見込みの者。 (5) その他、本学において、2022年4月から2023年3月31日までに高等学校を卒業した者と同等以上の学力が備わる見込みがあると認めた者で、2023年3月31日までに満18歳に達するもの。 ※ ここでいう「高等学校を卒業した者と同等以上の学力が備わる見込みがあると認めた者」には、高等専門学校の3年次を修了見込みの者、専修学校の高専課程を修了見込みの者、高等学校卒業程度認定試験に合格見込みの者は含めない。	
	選考方法	
	第1次選考	第2次選考
	● 出願書類をもとに書類選考	● 小論文:与えられたテーマについて書かれた小論文から、論理的構成員・文章表現力・知的素養・独創的発想などを総合的に評価します。 ● 面接試験
	【出願書類】 入学志願票／志望理由書／調査書／競技実績証明書および証明資料／証明書類	

資料 23 都内私立大学で学部名に「国際」等を含む学部一覧

大学名	学部名	備 考
立教大学	異文化コミュニケーション学部	
青山学院大学	国際政治経済学部	競合校
上智大学	国際教養学部	学部名に「国際」
上智大学	総合グローバル学部	競合校
法政大学	国際文化学部	競合校
法政大学	グローバル教養学部	学部名に「グローバル」
明治大学	情報コミュニケーション学部	学部名に「コミュニケーション」
明治大学	国際日本学部	競合校
早稲田大学	国際教養学部	競合校
中央大学	国際情報学部	学部名に「国際」／2019 設置
中央大学	国際経営学部	学部名に「国際」／2019 設置
学習院大学	国際社会科学部	学部名に「国際」
国際基督教大学	教養学部	SGU 選定校
明治学院大学	国際学部	学部名に「国際」
創価大学	国際教養学部	学部名に「国際」
東洋大学	国際観光学部	学部名に「国際」
東洋大学	国際学部	学部名に「国際」

※一般社団法人日本私立大学連盟データライブラリから抽出

○資料 24 中教審大学振興部会【第 7 回／参考資料 1】18 歳人口と高等教育機関への進学率等の推移

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 24

2 出典

文部科学省ウェブサイト

3 書類等の利用範囲

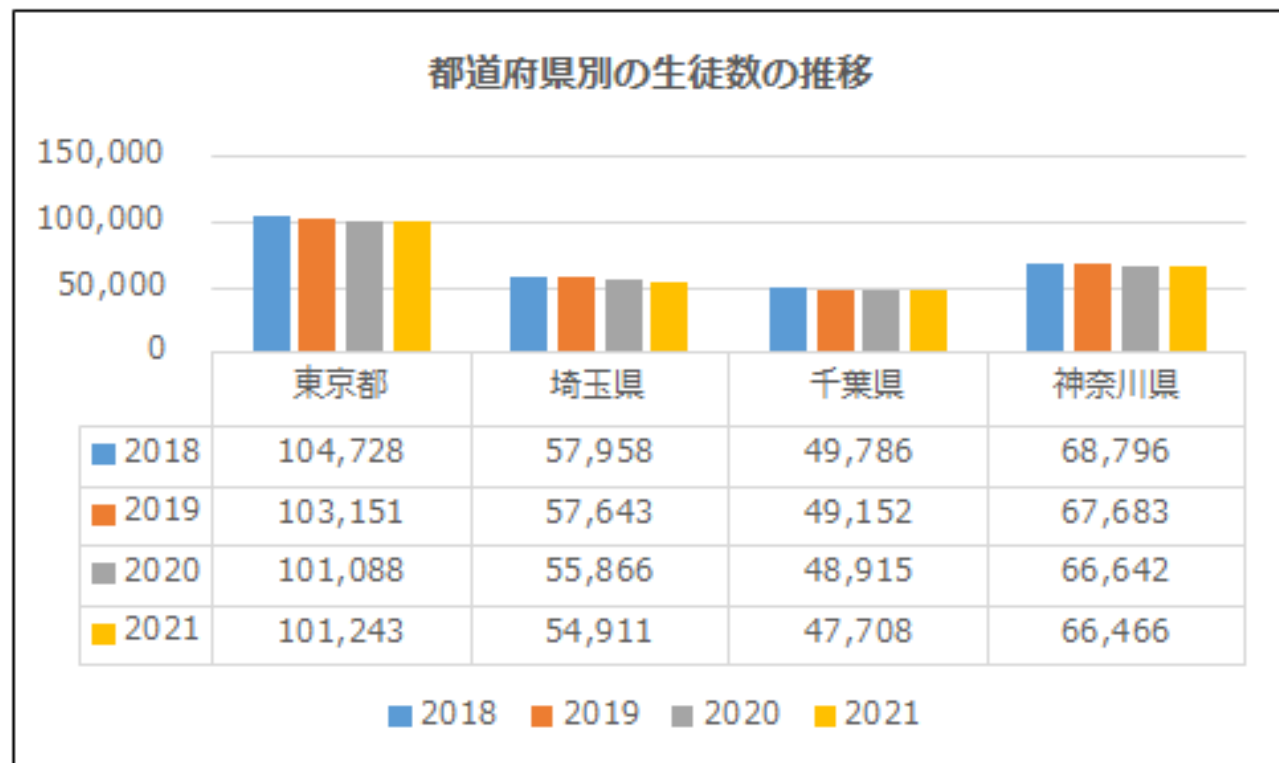
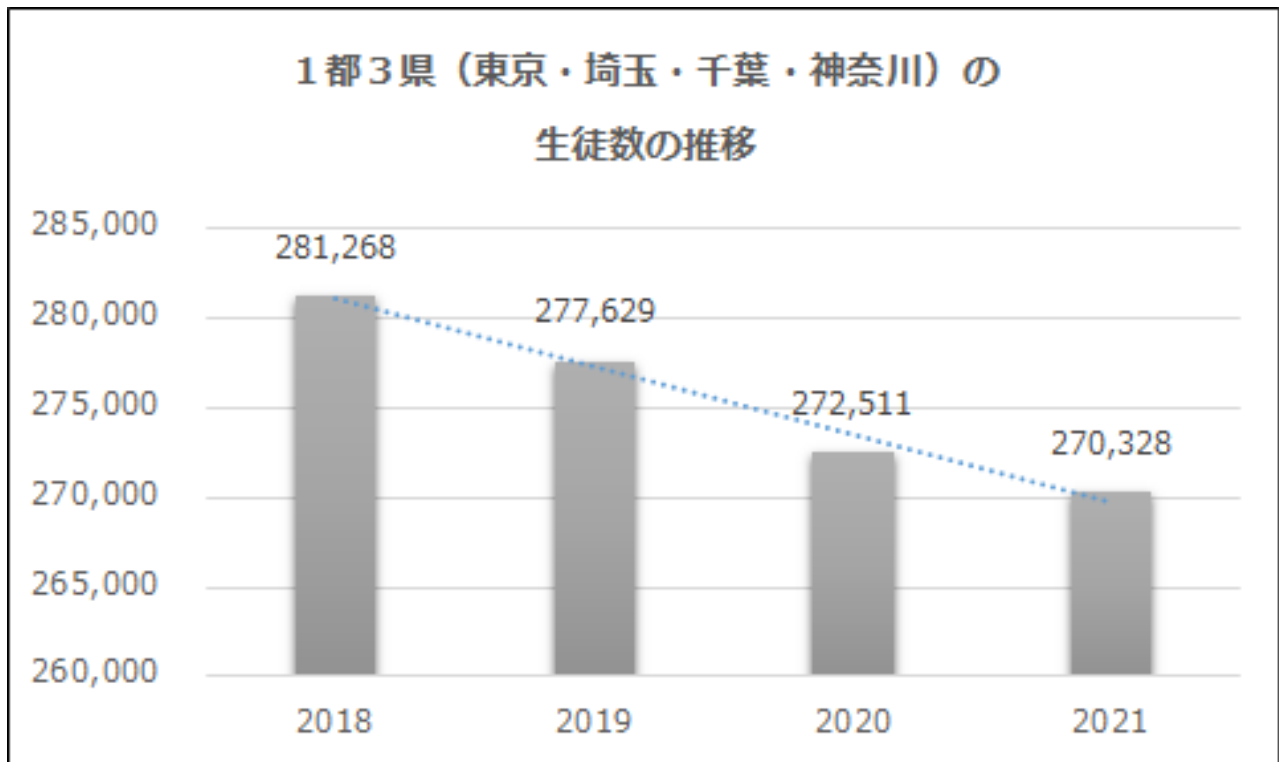
中央教育審議会大学分科会大学振興部会【第 7 回／参考資料 1 (P161)】

https://www.mext.go.jp/kaigisiryō/content/221205-mxt_koutou01-000026276_8.pdf

4 その他の説明

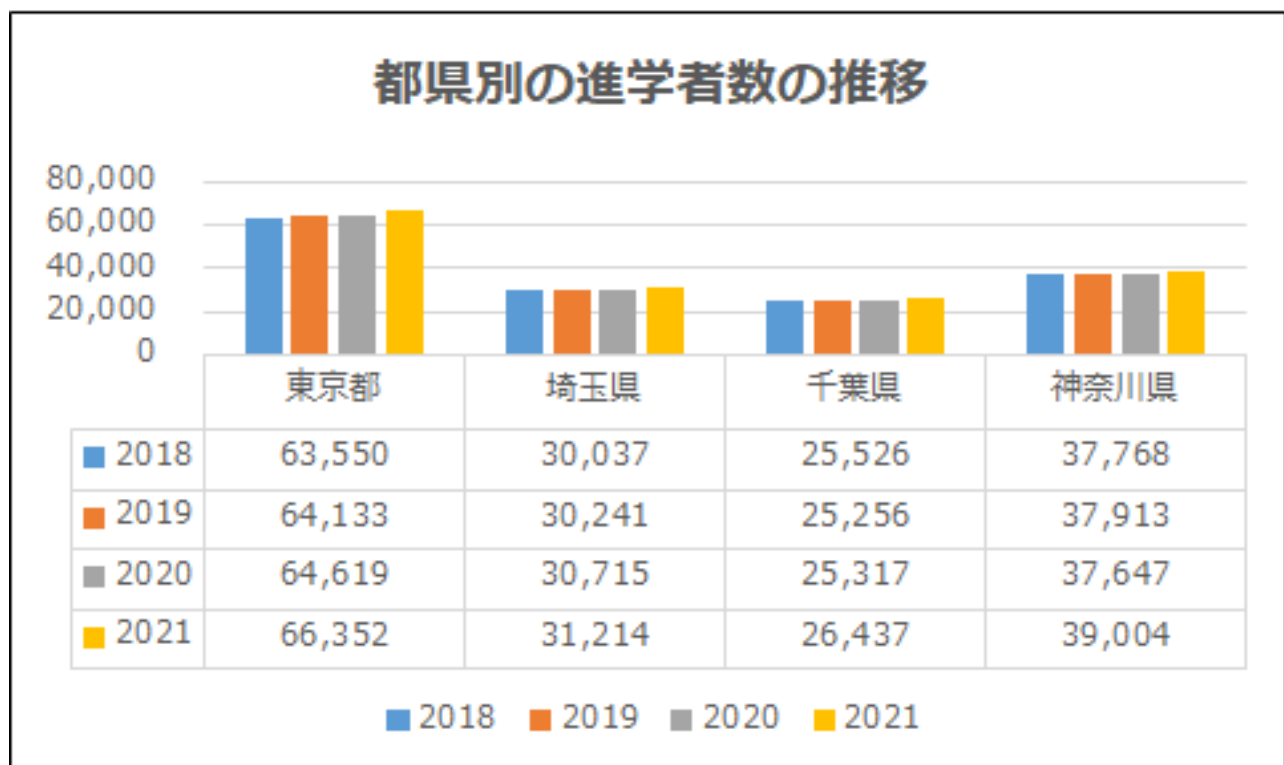
18 歳人口の推移を説明するため、上記資料を引用した。

資料 25 東京、埼玉、千葉及び神奈川の生徒数の推移
(第3学年及び第4学年。全ての科を含む。)



※学校基本調査「都道府県別 学科別学年別生徒数（本科）」から抽出

資料 26 東京、埼玉、千葉及び神奈川の進学者数の推移



※学校基本調査「都道府県別大学・短期大学等への進学者数」から抽出

資料 27 競合校の教育研究分野、留学の有無、併願者

大学名	教育研究分野	留学	併願者 (受験者)
【参考】本学部	言語、通訳翻訳、コミュニケーション、グローバル・スタディーズ（国際協力・開発、多文化共生、文化人類学等）	2 年次秋学期に海外留学が必修	—
(A) 青山学院大学 国際政治経済学部 国際コミュニケーション学科	言語、地域文化・比較文化、 コミュニケーション	毎年 40 名程度の学生が学部及び 大学の留学制度を利用 (収容定員 296 名)	75 名
(B) 上智大学 総合グローバル学部	グローバル・スタディーズ (国際関係論（国際政治論、市民社会・国際 協力論）、地域研究（アジア研究、中東・アフリ カ研究）)	毎年 60 名程度の学生が学部及び 大学の留学制度を利用 (収容定員 880 名)	126 名
(C) 法政大学 国際文化学部	国際文化、言語文化、表象文化、情報文化	2 年次秋学期に海外の教育機関 への留学が必修	192 名
(D) 明治大学 国際日本学部	日本の産業・社会・文化、 世界の文化・思想と国際関係	毎年 60 名程度の学生が学部及び 大学の留学制度を利用 (収容定員 1,600 名)	288 名
(E) 早稲田大学 国際教養学部	リベラルアーツ、幅広い分野の基礎的な教養、 多元的な視点、論理的思考力、倫理観、国際 感覚、優れた語学力	1 年間の海外留学が必修	160 名

※各大学のウェブサイトから引用

○資料 28 異文化コミュニケーション学部受験者の併願状況（私立大学）

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 28

2 出典

本学が株式会社 KEI アドバンスに依頼した調査報告書

3 書類等の利用範囲

異文化コミュニケーション学部の受験者の併願状況（私立大）

4 その他の説明

公表することを前提とした調査報告書ではないため、公表を差し控える。

資料29 本学部及び競合校（計6大学）の2018年度～2022年度における入学志願状況等

大学名	学部学科名	2018年度							2019年度						
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質倍率	定員充足率	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質倍率	定員充足率
立教大学	異文化コミュニケーション学部	145	2,711	2,563	354	152	7.24	1.05	145	2,683	2,502	290	143	8.63	0.99
青山学院大学	国際政治経済学部 国際コミュニケーション学科	74	1,431	1,213	148	76	8.20	1.03	74	1,366	1,136	158	68	7.19	0.92
上智大学	総合グローバル学部	220	2,727	2,666	467	228	5.71	1.04	220	2,268	2,204	488	224	4.52	1.02
法政大学	国際文化学部	249	4,115	3,844	533	270	7.21	1.08	249	4,482	4,193	555	246	7.55	0.99
明治大学	国際日本学部	400	6,565	6,424	1,193	338	5.38	0.85	400	5,525	5,363	1,314	372	4.08	0.93
早稲田大学	国際教養学部	600	4,390	4,138	1,160	654	3.57	1.09	600	4,682	4,228	961	508	4.40	0.85

大学名	学部学科名	2020年度							2021年度						
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質倍率	定員充足率	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質倍率	定員充足率
立教大学	異文化コミュニケーション学部	145	2,107	1,858	366	150	5.08	1.03	145	3,064	2,769	427	140	6.48	0.97
青山学院大学	国際政治経済学部 国際コミュニケーション学科	74	1,220	1,083	130	71	8.33	0.96	74	646	535	169	73	3.17	0.99
上智大学	総合グローバル学部	220	2,520	2,464	574	220	4.29	1.00	220	2,567	2,491	722	231	3.45	1.05
法政大学	国際文化学部	249	4,052	3,725	586	250	6.36	1.00	254	3,750	3,511	691	251	5.08	0.99
明治大学	国際日本学部	400	6,538	6,289	1,603	348	3.92	0.87	400	6,796	6,549	1,750	347	3.74	0.87
早稲田大学	国際教養学部	600	4,295	4,040	1,172	658	3.45	1.10	600	3,301	3,127	833	409	3.75	0.68

大学名	学部学科名	2022年度						
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質倍率	定員充足率
立教大学	異文化コミュニケーション学部	145	2,744	2,463	465	162	5.30	1.12
青山学院大学	国際政治経済学部 国際コミュニケーション学科	74	995	816	194	78	4.21	1.05
上智大学	総合グローバル学部	220	2,275	2,215	703	226	3.15	1.03
法政大学	国際文化学部	254	4,595	4,277	748	259	5.72	1.02
明治大学	国際日本学部	400	7,555	7,343	2,128	408	3.45	1.02
早稲田大学	国際教養学部	600	3,371	2,997	1,051	516	2.85	0.86

※出典：日本私立大学連盟データライブラリ「学生・教職員数等調査 II - 08学部別入学状況」 →学部別集計であるため、青山学院大学については、同大学ウェブサイトから引用 →5月1日現在の調査であるため、秋入学者が反映されておらず、他の資料の数字と一致しないことがある。 ※青山学院大学の各年度の実験者数は、ウェブサイトを確認不可能のため「一般選抜」及び「共通テスト利用」のみ。 ※青山学院大学の2020年度の実験者数及び合格者数は、ウェブサイトを確認不可能のため「一般選抜」及び「共通テスト利用」のみ。

資料 30 競合校の一般選抜・共通テスト（大学入試センター試験）利用入試
志願者（募集人員）

大学名	一般選抜・共通テスト（大学入試センター試験）利用入試 志願者・募集人員・倍率					
	区分	2018年度 入試	2019年度 入試	2020年度 入試	2021年度 入試	2022年度 入試
(A) 青山学院大学 国際政治経済学部 国際コミュニケーション学科	志願者	1,351	1,269	1,220	573	932
	募集人員	約62	約62	約62	約62	約62
	倍率	21.79	20.47	19.68	9.24	15.03
(B) 上智大学 総合グローバル学部	志願者	2,371	1,863	2,129	2,113	1,847
	募集人員	140	140	140	140	140
	倍率	16.94	13.31	15.21	15.09	13.19
(C) 法政大学 国際文化学部	志願者	3,775	4,189	3,744	3,589	4,356
	募集人員	152	152	147	150	150
	倍率	24.84	27.56	25.47	23.93	29.04
(D) 明治大学 国際日本学部	志願者	6,567	6,226	6,145	6,392	7,161
	募集人員	288	288	288	288	288
	倍率	22.80	21.62	21.34	22.19	24.86
(E) 早稲田大学 国際教養学部	志願者	2,749	2,994	2,578	1,622	1,521
	募集人員	175	175	200	200	200
	倍率	15.71	17.11	12.89	8.11	7.61

※各大学のウェブサイトから引用

資料 31 既設学部の入試実施状況

○2018 年度～2022 年度入試結果まとめ

・延べ志願者

入学年度	延べ志願者									
	本学部	文	経済	理	社会	法	観光	コミュニティ福祉	経営	現代心理
2018	2,706	13,713	10,157	6,362	9,998	7,690	6,503	6,161	7,336	4,988
2019	2,677	11,966	11,467	6,335	9,021	7,972	5,118	6,378	6,783	5,017
2020	2,098	11,604	9,460	6,847	8,872	6,503	4,736	3,966	6,912	4,446
2021	3,062	13,590	9,135	6,549	9,586	7,477	4,463	5,108	6,213	4,591
2022	2,743	12,951	8,480	6,391	8,885	9,236	4,124	4,447	5,293	4,392

・延べ志願者／入学定員

入学年度	延べ志願者／入学定員									
	本学部	文	経済	理	社会	法	観光	コミュニティ福祉	経営	現代心理
2018	18.7	15.2	14.9	21.8	19.6	13.1	17.6	14.7	19.1	15.6
2019	18.5	13.3	16.9	21.7	17.7	13.6	13.8	15.3	17.6	15.7
2020	14.5	12.9	13.9	23.4	17.4	11.1	12.8	9.5	18.0	13.9
2021	21.1	15.1	13.4	22.4	18.8	12.8	12.1	12.2	16.1	14.4
2022	18.9	14.1	12.4	21.9	17.1	15.8	11.1	10.6	13.7	13.8

・実志願者

入学年度	実志願者									
	本学部	文	経済	理	社会	法	観光	コミュニティ福祉	経営	現代心理
2018	1,994	9,678	8,270	4,210	7,278	5,845	4,662	4,594	5,534	3,326
2019	1,990	8,695	9,403	4,239	6,586	5,983	3,841	4,843	5,222	3,345
2020	1,607	8,493	7,872	4,576	6,656	4,998	3,605	3,102	5,409	2,971
2021	1,986	8,267	6,454	4,046	5,971	4,861	2,737	3,368	4,217	2,664
2022	1,841	7,942	5,927	3,970	5,537	6,034	2,584	2,968	3,650	2,591

・実志願者／入学定員

入学年度	実志願者／入学定員									
	本学部	文	経済	理	社会	法	観光	コミュニティ福祉	経営	現代心理
2018	13.8	10.8	12.2	14.4	14.3	10.0	12.6	11.0	14.4	10.4
2019	13.7	9.7	13.8	14.5	12.9	10.2	10.4	11.6	13.6	10.5
2020	11.1	9.4	11.6	15.7	13.1	8.5	9.7	7.4	14.0	9.3
2021	13.7	9.2	9.5	13.9	11.7	8.3	7.4	8.1	11.0	8.4
2022	12.7	8.7	8.7	13.6	10.7	10.3	7.0	7.1	9.5	8.1

・併願者の割合等

入学年度	実志願者	併願者	併願者の割合
2018	55,554	28,336	51.0%
2019	54,147	28,173	52.0%
2020	49,289	24,722	50.2%
2021	44,571	19,977	44.8%
2022	43,044	19,717	45.8%

・定着率

入学年度	合格者	入学者	定着率
2018	11,292	4,519	40.0%
2019	11,886	4,580	38.5%
2020	12,793	4,535	35.4%
2021	13,378	4,579	34.2%
2022	14,032	4,654	33.2%

○2022 年度入試結果

学部	学科・専修	志願者			受験者			合格者			入学者
		延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	実人数
文	キリスト教	515	324	167	494	315	162	128	98	35	50
	史	2,693	1,604	528	2,584	1,568	512	766	579	119	214
	教育	1,905	1,068	302	1,850	1,046	294	459	320	52	111
	文	7,838	4,946	2,212	7,613	4,863	2,142	2,167	1,673	469	540
	合計	12,951	7,942	3,209	12,541	7,792	3,110	3,520	2,670	675	915
経済	経済	4,672	3,178	1,390	4,541	3,124	1,360	1,589	1,263	339	322
	会計ファイナンス	1,673	1,129	579	1,638	1,115	568	610	477	144	174
	経済政策	2,135	1,620	1,048	2,109	1,607	1,030	729	616	283	187
	合計	8,480	5,927	3,017	8,288	5,846	2,958	2,928	2,356	766	683
理	数	1,370	884	110	1,336	869	108	435	336	21	63
	物理	1,707	1,040	112	1,664	1,023	110	543	404	29	80
	化	1,686	1,067	109	1,648	1,051	108	581	447	27	68
	生命理	1,628	979	127	1,592	963	124	536	380	27	76
	合計	6,391	3,970	458	6,240	3,906	450	2,095	1,567	104	287
社会	社会	3,399	2,170	1,093	3,303	2,133	1,065	842	664	247	188
	現代文化	2,713	1,659	948	2,643	1,626	928	632	466	202	167
	メディア社会	2,773	1,708	819	2,728	1,694	809	623	477	178	184
	合計	8,885	5,537	2,860	8,674	5,453	2,802	2,097	1,607	627	539
法	法	4,903	3,060	1,219	4,747	3,005	1,183	1,375	1,059	270	314
	政治	1,506	1,041	587	1,466	1,020	572	441	369	143	107
	国際ビジネス法	2,827	1,933	1,339	2,771	1,918	1,317	639	546	249	161
	合計	9,236	6,034	3,145	8,984	5,943	3,072	2,455	1,974	662	582
観光	観光	1,964	1,237	697	1,920	1,220	686	554	430	157	194
	交流文化	2,160	1,347	942	2,121	1,336	928	539	426	167	171
	合計	4,124	2,584	1,639	4,041	2,556	1,614	1,093	856	324	365
コミュニティ福祉	福祉	1,518	1,026	635	1,479	1,009	624	506	389	157	150
	コミュニティ政策	1,488	1,092	753	1,462	1,086	744	458	386	177	150
	スポーツ福祉	1,441	850	315	1,415	843	310	321	251	58	109
	合計	4,447	2,968	1,703	4,356	2,938	1,678	1,285	1,026	392	409
経営	経営	3,529	2,468	1,209	3,434	2,432	1,178	649	554	203	231
	国際経営	1,764	1,182	694	1,720	1,167	684	407	340	111	158
	合計	5,293	3,650	1,903	5,154	3,599	1,862	1,056	894	314	389
現代心理	心理	1,990	1,299	435	1,941	1,281	421	367	317	81	141
	映像身体	2,402	1,292	501	2,338	1,277	492	440	352	89	180
	合計	4,392	2,591	936	4,279	2,558	913	807	669	170	321
異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーション	2,743	1,841	847	2,679	1,802	829	468	413	123	164
	合計	2,743	1,841	847	2,679	1,802	829	468	413	123	164
総 計		66,942	43,044	19,717	65,236	42,393	19,288	17,804	14,032	4,157	4,654

※実人数は、入試種別に限らず、同じ学科を複数回受験した場合を1名としてカウントした

※他学科併願者数は、実人数の内、他学科も受験している人数を算出した

※アスリート選抜・自由選抜・国際コース選抜は、1次が書類選考になるため、志願者＝受験者とした。

※各種推薦・外国人留学生（書類選考）入試は選考がないため、志願者＝受験者＝合格者＝入学者となっている。

※アスリート選抜入試受験者148名は出願学科が決まっていないため、志願者数に含まれていない。

※指定校観光・異文化で各1名辞退あり

※指定校推薦で9月入学者2名（異文化）を含む

○2021 年度入試結果

学部	学科・専修	志願者			受験者			合格者			入学者
		延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	
文	キリスト教	430	281	163	416	277	160	126	103	32	47
	史	2,868	1,726	577	2,790	1,703	563	694	546	114	209
	教育	2,022	1,118	358	1,959	1,093	349	457	333	72	110
	文	8,270	5,142	2,318	8,049	5,055	2,275	2,002	1,576	441	533
	合計	13,590	8,267	3,416	13,214	8,128	3,347	3,279	2,558	659	899
経済	経済	5,207	3,576	1,522	5,043	3,508	1,479	1,421	1,175	285	322
	会計ファイナ	1,767	1,201	617	1,733	1,192	606	522	427	137	159
	経済政策	2,161	1,677	1,015	2,112	1,649	991	605	530	202	188
	合計	9,135	6,454	3,154	8,888	6,349	3,076	2,548	2,132	624	669
理	数	1,131	739	92	1,107	730	88	452	336	20	73
	物理	1,908	1,160	100	1,860	1,152	100	556	428	20	78
	化	1,703	1,053	144	1,661	1,042	143	552	421	31	84
	生命理	1,807	1,094	143	1,759	1,078	142	561	418	28	73
	合計	6,549	4,046	479	6,387	4,002	473	2,121	1,603	99	308
社会	社会	3,580	2,304	1,148	3,475	2,267	1,121	758	584	192	168
	現代文化	3,067	1,884	1,110	2,999	1,863	1,092	656	506	242	168
	メディア社会	2,939	1,783	872	2,875	1,761	861	560	427	162	169
	合計	9,586	5,971	3,130	9,349	5,891	3,074	1,974	1,517	596	505
法	法	4,950	3,093	1,191	4,809	3,046	1,165	1,549	1,156	295	329
	政治	1,537	1,014	515	1,496	1,001	504	494	382	129	122
	国際ビジネス法	990	754	502	975	746	494	383	325	139	130
	合計	7,477	4,861	2,208	7,280	4,793	2,163	2,426	1,863	563	581
観光	観光	2,883	1,734	936	2,816	1,703	917	540	403	125	204
	交流文化	1,580	1,003	650	1,550	993	643	488	374	125	166
	合計	4,463	2,737	1,586	4,366	2,696	1,560	1,028	777	250	370
コミュニティ福祉	福祉	1,562	1,056	631	1,533	1,041	623	500	389	140	153
	コミュニティ政策	2,299	1,599	1,052	2,224	1,565	1,029	469	392	180	146
	スポーツ福祉	1,247	713	217	1,228	707	213	321	230	37	108
	合計	5,108	3,368	1,900	4,985	3,313	1,865	1,290	1,011	357	407
経営	経営	4,513	3,021	1,513	4,416	2,973	1,474	607	520	190	239
	国際経営	1,700	1,196	685	1,666	1,178	675	373	319	110	142
	合計	6,213	4,217	2,198	6,082	4,151	2,149	980	839	300	381
現代心理	心理	2,126	1,339	469	2,071	1,319	458	422	329	68	134
	映像身体	2,465	1,325	566	2,415	1,316	561	521	385	104	181
	合計	4,591	2,664	1,035	4,486	2,635	1,019	943	714	172	315
異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーション	3,062	1,986	871	2,990	1,962	859	431	364	122	144
	合計	3,062	1,986	871	2,990	1,962	859	431	364	122	144
総 計		69,774	44,571	19,977	68,027	43,920	19,585	17,020	13,378	3,742	4,579

※実人数は、入試種別に限らず、同じ学科を複数回受験した場合を1名としてカウントした

※他学科併願者数は、実人数の内、他学科も受験している人数を算出した

※アスリート選抜・自由選抜・国際コース選抜は、1次が書類選考になるため、志願者＝受験者とした。

※各種推薦・外国人留学生（書類選考）入試は選考がないため、志願者＝受験者＝合格者＝入学者となっている。

※アスリート選抜入試受験者159名は出願学科が決まっていないため、志願者数・受験者数に含まれていない。

※指定校GLAPで1名辞退あり

※指定校推薦で9月入学者1名（異文化）を含む

○2020 年度入試結果

学部	学科・専修	志願者			受験者			合格者			入学者
		延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	実人数
文	キリスト教	540	416	251	521	412	242	134	122	39	47
	史	2,636	1,885	743	2,554	1,849	712	615	562	115	211
	教育	1,591	1,098	405	1,531	1,073	389	417	355	82	109
	文	6,837	5,094	2,442	6,626	4,981	2,349	1,724	1,527	443	515
	合計	11,604	8,493	3,841	11,232	8,315	3,692	2,890	2,566	679	882
経済	経済	5,113	4,165	2,270	4,909	4,034	2,166	1,182	1,090	272	326
	会計ファイナンス	1,981	1,642	953	1,919	1,606	922	493	459	130	172
	経済政策	2,366	2,065	1,476	2,300	2,015	1,415	510	474	165	169
	合計	9,460	7,872	4,699	9,128	7,655	4,503	2,185	2,023	567	667
理	数	1,187	840	82	1,149	817	77	310	262	11	59
	物理	1,981	1,269	110	1,914	1,237	107	503	418	15	77
	化	1,928	1,300	148	1,890	1,281	147	524	430	32	79
	生命理	1,751	1,167	101	1,686	1,134	97	476	379	19	67
	合計	6,847	4,576	441	6,639	4,469	428	1,813	1,489	77	282
社会	社会	3,343	2,500	1,354	3,180	2,388	1,268	629	555	183	167
	現代文化	2,629	2,022	1,303	2,530	1,968	1,259	526	455	175	172
	メディア社会	2,900	2,134	1,158	2,780	2,066	1,107	470	415	135	167
	合計	8,872	6,656	3,815	8,490	6,422	3,634	1,625	1,425	493	506
法	法	3,975	2,979	1,264	3,877	2,923	1,215	1,278	1,098	204	331
	政治	1,410	1,120	659	1,375	1,099	643	457	414	116	138
	国際ビジネス法	1,118	899	584	1,103	892	571	323	295	111	109
	合計	6,503	4,998	2,507	6,355	4,914	2,429	2,058	1,807	431	578
観光	観光	2,376	1,820	1,197	2,305	1,773	1,148	454	401	153	189
	交流文化	2,360	1,785	1,269	2,299	1,746	1,238	419	380	148	176
	合計	4,736	3,605	2,466	4,604	3,519	2,386	873	781	301	365
コミュニティ福祉	福祉	1,283	1,035	601	1,243	1,009	583	352	322	97	154
	コミュニティ政策	1,398	1,174	830	1,358	1,145	802	376	352	132	148
	スポーツ福祉	1,285	893	349	1,254	873	335	220	198	35	106
	合計	3,966	3,102	1,780	3,855	3,027	1,720	948	872	264	408
経営	経営	4,717	3,717	2,122	4,568	3,622	2,032	544	518	156	231
	国際経営	2,195	1,692	1,005	2,128	1,663	973	321	303	102	151
	合計	6,912	5,409	3,127	6,696	5,285	3,005	865	821	258	382
現代心理	心理	2,149	1,499	571	2,084	1,463	543	332	301	59	143
	映像身体	2,297	1,472	682	2,221	1,444	653	437	369	112	174
	合計	4,446	2,971	1,253	4,305	2,907	1,196	769	670	171	317
異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーション	2,098	1,607	793	2,059	1,583	773	364	339	103	148
	合計	2,098	1,607	793	2,059	1,583	773	364	339	103	148
総 計		65,444	49,289	24,722	63,363	48,096	23,766	14,390	12,793	3,344	4,535

※実人数は、入試種別に限らず、同じ学科を複数回受験した場合を1名としてカウントした

※他学科併願者数は、実人数の内、他学科も受験している人数を算出した

※アスリート選抜・自由選抜・国際コース選抜は、1次が書類選考になるため、志願者＝受験者とした。

※各種推薦・外国人留学生（書類選考）入試は選考がないため、志願者＝受験者＝合格者＝入学者とした。

※アスリート選抜入試受験者216名は出願学科が決まっていないため、志願者数・受験者数に含まれていない。

※指定校推薦で2020年9月入学者はなし。

※文学部以外個別学部日程廃止

○2019 年度入試結果

学部	学科・専修	志願者			受験者			合格者			入学者
		延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	実人数
文	キリスト教	471	356	178	463	351	176	114	106	34	46
	史	2,653	1,848	674	2,570	1,822	651	696	589	107	211
	教育	1,725	1,225	361	1,672	1,198	343	334	302	32	114
	文	7,117	5,266	2,360	6,904	5,164	2,288	1,669	1,464	380	533
	合計	11,966	8,695	3,573	11,609	8,535	3,458	2,813	2,461	553	904
経済	経済	5,170	4,200	2,401	4,993	4,089	2,306	1,028	944	214	319
	会計ファイナンス	3,640	2,954	1,899	3,573	2,919	1,850	509	472	164	192
	経済政策	2,657	2,249	1,621	2,585	2,204	1,575	501	478	153	165
	合計	11,467	9,403	5,921	11,151	9,212	5,731	2,038	1,894	531	676
理	数	1,074	742	74	1,050	730	70	260	218	12	60
	物理	1,721	1,139	78	1,668	1,117	74	456	371	17	80
	化	1,585	1,074	111	1,539	1,053	106	438	351	25	71
	生命理	1,955	1,284	128	1,891	1,252	127	442	365	27	70
	合計	6,335	4,239	391	6,148	4,152	377	1,596	1,305	81	281
社会	社会	3,921	2,846	1,697	3,765	2,755	1,629	521	458	144	169
	現代文化	2,470	1,802	1,226	2,407	1,769	1,192	434	376	143	167
	メディア社会	2,630	1,938	1,107	2,549	1,891	1,076	431	381	124	171
	合計	9,021	6,586	4,030	8,721	6,415	3,897	1,386	1,215	411	507
法	法	5,031	3,656	1,631	4,903	3,591	1,579	1,130	993	184	344
	政治	1,614	1,236	678	1,578	1,211	658	411	370	91	107
	国際ビジネス法	1,327	1,091	768	1,304	1,079	750	304	284	87	129
	合計	7,972	5,983	3,077	7,785	5,881	2,987	1,845	1,647	362	580
観光	観光	3,242	2,368	1,548	3,162	2,318	1,495	454	419	140	198
	交流文化	1,876	1,473	1,135	1,825	1,432	1,097	408	356	123	171
	合計	5,118	3,841	2,683	4,987	3,750	2,592	862	775	263	369
コミュニティ福祉	福祉	2,537	1,965	1,268	2,461	1,928	1,230	401	361	114	152
	コミュニティ政策	1,989	1,655	1,251	1,947	1,626	1,219	351	329	137	155
	スポーツ・リハビリ	1,852	1,223	490	1,816	1,210	480	231	205	40	111
	合計	6,378	4,843	3,009	6,224	4,764	2,929	983	895	291	418
経営	経営	4,943	3,802	2,151	4,803	3,714	2,085	533	504	160	236
	国際経営	1,840	1,420	855	1,792	1,396	827	307	291	83	149
	合計	6,783	5,222	3,006	6,595	5,110	2,912	840	795	243	385
現代心理	心理	2,722	1,867	783	2,624	1,826	750	313	287	39	144
	映像身体	2,295	1,478	677	2,226	1,448	654	400	338	80	171
	合計	5,017	3,345	1,460	4,850	3,274	1,404	713	625	119	315
異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーション	2,677	1,990	1,023	2,626	1,965	995	292	274	59	145
	合計	2,677	1,990	1,023	2,626	1,965	995	292	274	59	145
総 計		72,734	54,147	28,173	70,696	53,058	27,282	13,368	11,886	2,913	4,580

※実人数は、入試種別に限らず、同じ学科を複数回受験した場合を1名としてカウントした

※他学科併願者数は、実人数の内、他学科も受験している人数を算出した

※アスリート選抜・自由選抜・国際コース選抜は、1次が書類選考になるため、志願者＝受験者とした。

※各種推薦・外国人留学生（書類選考）入試は選考がないため、志願者＝受験者＝合格者＝入学者となっている。

※アスリート選抜入試一次選考受験者203名は出願学科が決まっていないため、志願者数・受験者数に含まれていない。

※指定校推薦で9月入学者2名（異文化）を含む

○2018 年度入試結果

学部	学科・専修	志願者			受験者			合格者			入学者
		延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	延べ人数	実人数	内併願	
文	キリスト教	514	403	251	501	394	249	101	95	27	47
	史	2,523	1,718	554	2,461	1,693	543	617	518	70	203
	教育	2,013	1,335	475	1,958	1,313	459	335	285	48	110
	文	8,836	6,385	3,077	8,633	6,292	2,989	1,687	1,502	387	531
	合計	13,886	9,841	4,357	13,553	9,692	4,240	2,740	2,400	532	891
経済	経済	6,495	5,165	2,920	6,337	5,056	2,824	893	839	186	327
	会計ファイナンス	1,392	1,123	669	1,367	1,110	654	313	284	52	165
	経済政策	2,270	1,982	1,405	2,220	1,941	1,362	404	391	93	174
	合計	10,157	8,270	4,994	9,924	8,107	4,840	1,610	1,514	331	666
理	数	1,291	886	80	1,255	869	80	266	232	15	64
	物理	1,852	1,171	76	1,778	1,145	73	463	393	19	76
	化	1,629	1,091	81	1,562	1,062	78	373	323	13	75
	生命理	1,590	1,062	116	1,543	1,042	113	421	355	18	70
	合計	6,362	4,210	353	6,138	4,118	344	1,523	1,303	65	285
社会	社会	4,025	2,920	1,712	3,873	2,840	1,643	571	499	157	181
	現代文化	2,510	1,883	1,234	2,426	1,840	1,197	383	348	108	169
	メディア社会	3,463	2,475	1,340	3,374	2,431	1,302	415	369	111	164
	合計	9,998	7,278	4,286	9,673	7,111	4,142	1,369	1,216	376	514
法	法	5,341	4,007	1,779	5,205	3,926	1,723	1,247	1,127	198	350
	政治	1,201	910	453	1,173	895	440	332	305	67	103
	国際ビジネス法	1,148	928	583	1,131	918	571	294	273	72	113
	合計	7,690	5,845	2,815	7,509	5,739	2,734	1,873	1,705	337	566
観光	観光	3,455	2,486	1,563	3,384	2,442	1,524	435	395	117	192
	交流文化	3,048	2,176	1,604	2,988	2,148	1,569	372	346	112	174
	合計	6,503	4,662	3,167	6,372	4,590	3,093	807	741	229	366
コミュニティ福祉	福祉	2,123	1,582	974	2,051	1,536	942	349	306	73	152
	コミュニティ政策	2,318	1,892	1,337	2,272	1,866	1,309	334	319	105	148
	スポーツ福祉	1,720	1,120	404	1,684	1,099	390	222	194	25	107
	合計	6,161	4,594	2,715	6,007	4,501	2,641	905	819	203	407
経営	経営	5,485	4,155	2,331	5,335	4,060	2,246	447	419	110	224
	国際経営	1,851	1,379	776	1,810	1,364	762	250	239	51	138
	合計	7,336	5,534	3,107	7,145	5,424	3,008	697	658	161	362
現代心理	心理	2,513	1,724	697	2,406	1,686	664	310	285	54	142
	映像身体	2,475	1,602	748	2,405	1,570	723	374	330	77	168
	合計	4,988	3,326	1,445	4,811	3,256	1,387	684	615	131	310
異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーション	2,706	1,994	1,097	2,665	1,973	1,074	354	321	84	152
	合計	2,706	1,994	1,097	2,665	1,973	1,074	354	321	84	152
総 計		75,787	55,554	28,336	73,797	54,511	27,503	12,562	11,292	2,449	4,519

※実人数は、入試種別に限らず、同じ学科を複数回受験した場合を1名としてカウントした

※他学科併願者数は、実人数の内、他学科も受験している人数を算出した

※アスリート選抜（一次選考免除者）および自由選抜・国際コース選抜は、1次が書類選考になるため、志願者＝受験者とした。

※各種推薦・外国人留学生（書類選考）入試は選考がないため、志願者＝受験者＝合格者＝入学者となっている。

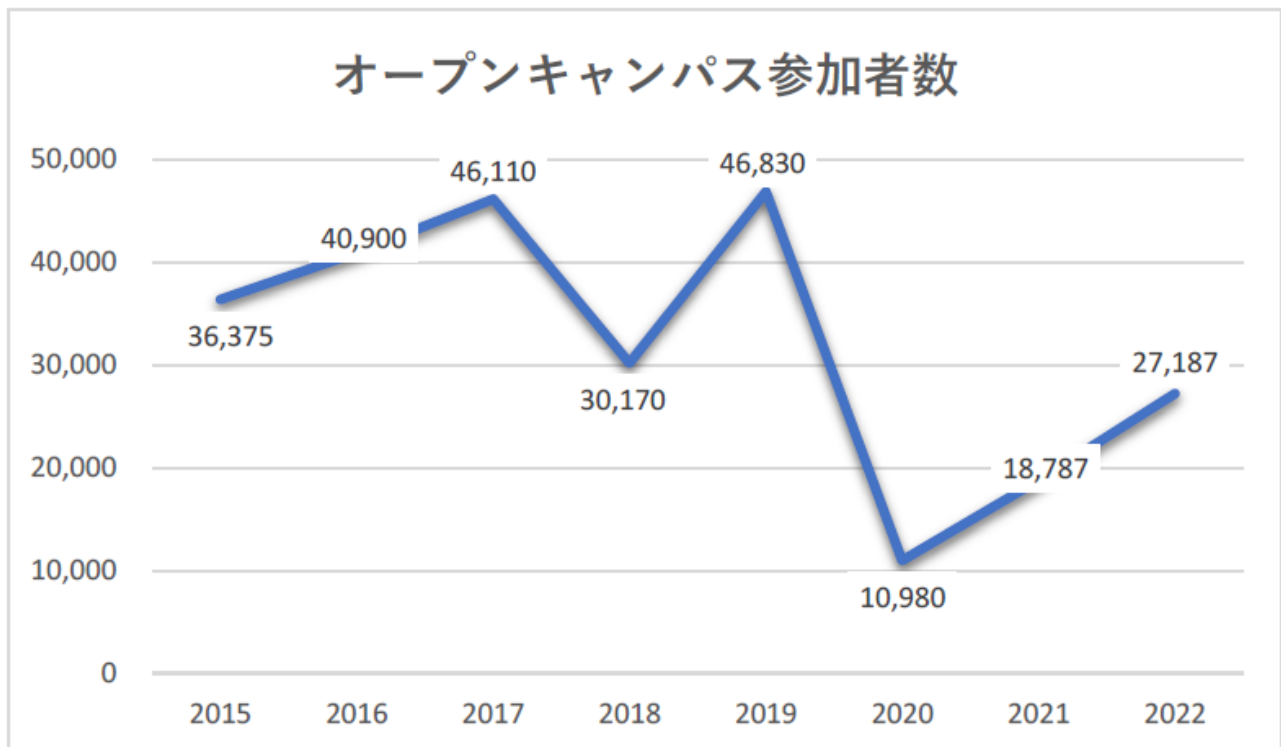
※アスリート選抜入試一次選考受験者214名は出願学科が決まっていないため、志願者数・受験者数に含まれていない。

※指定校推薦で9月入学者1名（異文化）を含む

資料 32 大学案内等の URL 一覧

種類	URL	本学部掲載ページ
大学案内	https://www.d-pam.com/rikkyo/206095/index.html#target/page_no=1	P90～93
学部案内	https://www.d-pam.com/rikkyo/206134/index.html#target/page_no=1	—
大学ウェブサイト内の 本学部紹介ページ	https://www.rikkyo.ac.jp/undergraduate/ic/	—
学部ウェブサイト	http://icc.rikkyo.ac.jp/	—

資料 33 2022 年度オープンキャンパス参加者数



※2015～2019 年度は来場形式のみで開催

※2020 年度はオンライン形式のみで開催

※2021 年度・2022 年度は来場形式とオンライン形式のハイブリッド型開催

資料 34 2022 年度オープンキャンパスにおけるオンデマンド配信及び LIVE 授業 (異文化コミュニケーション学部)

○オンデマンド配信

タイトル	教員名	視聴者数
異文化コミュニケーション学部紹介	異文化コミュニケーション学部 浜崎 桂子教授	729
異文化コミュニケーションへのアプローチ	異文化コミュニケーション学部 丸山 千歌教授 × 学生	124
Communication and Social Reality	異文化コミュニケーション学部 石黒 武人准教授	192
世界への扉は1つじゃない！あなたはどの扉を開けますか？ー日本語教育の多様性・多面性から世界を見てみようー	異文化コミュニケーション学部 池田 伸子教授	153
Life of a Dual Language Pathway (DLP) Student	異文化コミュニケーション学部 MARTIN, RON R. 准教授	132
コミュニケーションを学問する (8/1 LIVE配信アーカイブ)	異文化コミュニケーション学部 師岡 淳也教授	127
多様性の尊重とはーまずジェンダーから考えるー (8/2 LIVE配信アーカイブ)	異文化コミュニケーション学部 浜崎 桂子教授	106
立教生とチャット de TALK！異文化コミュニケーション学部編 (8/2 LIVE配信アーカイブ)	オープンキャンパス学生スタッフ	96

○LIVE 授業

開催日	学部	タイトル	教員名	視聴者数
LIVE授業 (8/1)	異文化コミュニケーション学部	コミュニケーションを学問する	異文化コミュニケーション学部 師岡 淳也教授	304
LIVE授業 (8/2)	異文化コミュニケーション学部	多様性の尊重とはーまずジェンダーから考えるー	異文化コミュニケーション学部 浜崎 桂子教授	179
LIVE授業 (8/3)	異文化コミュニケーション学部	同時通訳ってどうやるの？ 通訳トレーニングを体験しよう！	異文化コミュニケーション学部 松下 佳世教授	33

資料 35 オンデマンド配信及びLIVE 授業における1回あたりの視聴回数
(2022 年度オープンキャンパス)

○オンデマンド配信

オンデマ ンド配信	本数	視聴回数 (計)	1 回あたり	収容定員 (2023)
社	2	968	484.00	2,076
営	3	1,037	345.67	1,540
済	4	1,087	271.75	2,736
現	7	1,893	270.43	1,276
観	3	806	268.67	1,480
文	11	2,688	244.36	3,672
異	8	1,659	207.38	580
理	7	871	124.43	1,168
法	10	1,209	120.90	2,340
ス	6	557	92.83	920
コ	13	832	64.00	1,400

○LIVE 授業

LIVE授業	本数	視聴回数 (計)	1 回あたり	収容定員 (2023)
現	1	454	454.00	1,276
社	2	589	294.50	2,076
観	2	414	207.00	1,480
文	3	520	173.33	3,672
異	3	516	172.00	580
理	4	277	69.25	1,168
法	20	1,133	56.65	2,340
コ	8	344	43.00	1,400
営	4	63	15.75	1,540
済	0	0	0.00	2,736
ス	0	0	0.00	920

○資料 36 2022 年度オープンキャンパス分析報告書

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 30

2 出典

本学が株式会社フロムページに依頼した調査報告書

3 書類等の利用範囲

基本集計、都道府県別集計、高校ランク×エリア集計等

4 その他の説明

公表することを前提とした調査報告書ではないため、公表を差し控える。

2023 年 1 月 19 日
(入試委員会資料)

2023 年度オープンキャンパスの「開催内容・日程」について

入学センター

2023 年度オープンキャンパスの「開催内容・日程」については、第 10 回入試委員会（2022 年 12 月 1 日）で協議し、その後 2023 年 1 月 10 日を期限に各学部へ回答を依頼した。ご意見を踏まえて、2023 年度のオープンキャンパスの開催日程を下記のとおりとすることを提案する。なお、回答でいただいたご意見は今後のオープンキャンパスの運営や次年度以降のオープンキャンパスの開催日程の検討の際の参考とさせていただきたい。

記

1. 開催形態【2022 年 12 月 1 日了承内容確認】

● 池袋キャンパス・新座キャンパスでの対面開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を注視しつつ、可能な限りコロナ禍前の実施形態に戻し、来場型プログラムをメインとしたオープンキャンパスとする。キャンパス内への入構については制限をかけず、プログラム単位で予約する形態とする。学部説明や体験授業は事前予約制とするが、キャンパスツアーや職員相談コーナーは事前予約不要の当日参加申込型のプログラムとして実施する。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、入構制限をする場合もあることを想定して準備を進める。

● 学部説明と体験授業の実施

各学部には学部説明と体験授業の実施をお願いする。体験授業は学科・専修単位で各日 2 回（新座 4 学部は合計 6 回）の実施をお願いしたい。

2. 開催日時・プログラム【再提案】

池袋キャンパス：8 月 3 日（木）～5 日（土） 10:00～17:00

新座キャンパス：8 月 7 日（月）～8 日（火） 10:00～17:00

月日	会場	時間	開催学部	プログラム内容
8/3（木）	池袋	10：00 ～ 17：00	理、社会、法、観光	・ 大学説明会、入試説明会 ・ 学部説明、体験授業（学科・専修単位） ・ 学生相談 ・ キャンパスツアー、資料配布コーナー ・ 職員相談コーナー 等
8/4（金）			文、異文化コミュニケーション、現代心理、GLAP	
8/5（土）			経済、経営、コミュニティ福祉、スポーツウエルネス	
8/7（月）	新座		観光、コミュニティ福祉、現代心理、スポーツウエルネス	・ 大学説明会、入試説明会 ・ 学部説明、体験授業（学科単位） ・ 学生相談 ・ キャンパスツアー、資料配布コーナー ・ 職員相談コーナー 等
8/8（火）			観光、コミュニティ福祉、現代心理、スポーツウエルネス	

3. 各日の開催内容（案）

（1）8月3日（木）池袋キャンパス

	1	2	3	4	5
	10:00～10:50	11:00～11:50	12:40～13:30	14:00～14:50	15:10～16:00
理	学部説明		学部説明		学部説明
		数学体験	物理体験	数学体験	物理体験
		化学体験	生命理学体験	化学体験	生命理学体験
社会	学部説明	社会体験	学部説明	社会体験	学部説明
		現代文化体験	メディア体験	現代文化体験	メディア体験
法	学部説明	法体験	学部説明	法体験	学部説明
		国際体験	政治体験	国際体験	政治体験
観光	学部説明	観光体験	学部説明	観光体験	学部説明
		交流体験		交流体験	

（2）8月4日（金）池袋キャンパス

	1	2	3	4	5
	10:00～10:50	11:00～11:50	12:40～13:30	14:00～14:50	15:10～16:00
文	学部説明	キリスト教体験	学部説明	キリスト教体験	学部説明
		英米体験	ドイツ体験	英米体験	ドイツ体験
		フランス体験	日本文学体験	フランス体験	日本文学体験
		文芸・思想体験		文芸・思想体験	
		世界史体験	日本史体験	世界史体験	日本史体験
			超域文化体験		超域文化体験
		教育体験		教育体験	
異文化	学部説明	異文化体験	学部説明	異文化体験	学部説明
現代心理	心理説明	心理体験	心理説明	心理体験	心理説明
	映像身体説明	映像身体体験	映像身体説明	映像身体体験	映像身体説明
GLAP	GLAP説明	GLAP体験	GLAP説明	GLAP体験	GLAP説明

（3）8月5日（土）池袋キャンパス

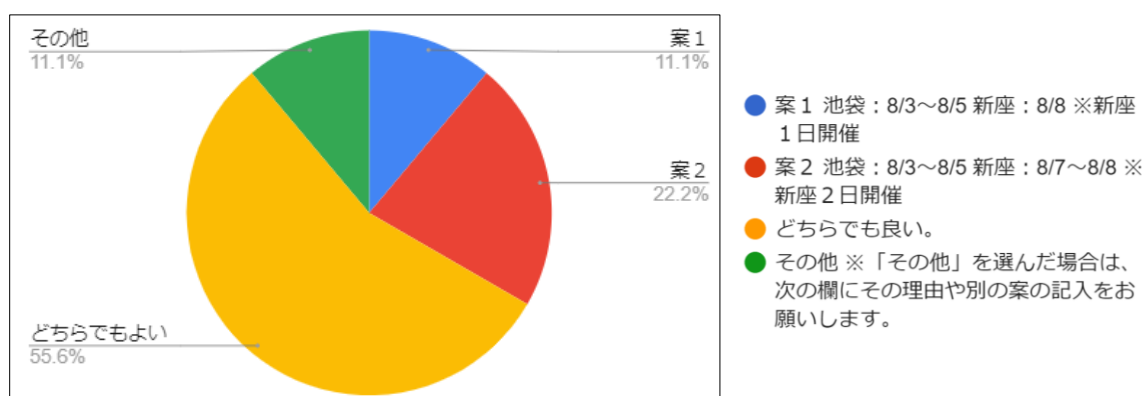
	1	2	3	4	5
	10:00～10:50	11:00～11:50	12:40～13:30	14:00～14:50	15:10～16:00
経済	学部説明	経済体験	学部説明	経済体験	学部説明
		経済政策体験	会計体験	経済政策体験	会計体験
経営	学部説明	経営体験	学部説明	経営体験	学部説明
		国際経営体験		国際経営体験	
コミュニティ福祉	学部説明	福祉体験	学部説明	コミ政体験	学部説明
			コミ政体験		福祉体験
スポーツウエルネス	学部説明	体験授業	学部説明	体験授業	学部説明

(4) 8月7日(月)・8日(火) 新座キャンパス

	1	2	3	4	5
	10:00～10:50	11:00～11:50	12:40～13:30	14:00～14:50	15:10～16:00
観光	学部説明	観光体験	学部説明	観光体験	学部説明
		交流体験		交流体験	
コミュニティ福祉	学部説明	福祉体験	学部説明	コミ政体験	学部説明
			コミ政体験		福祉体験
現代心理	心理説明	心理体験	心理説明	心理体験	心理説明
	映像身体説明	映像身体体験	映像身体説明	映像身体体験	映像身体説明
スポーツウェルネス	学部説明	体験授業	学部説明	体験授業	学部説明

4. 回答内容

(1) 開催日程について



※「その他」を選択したご意見

新座は2日開催を希望いたします。その場合、8月3日(木)、4日(金)を新座、8月5日・7日・8日を池袋開催ということでご検討をお願いできますでしょうか。

理由：

- ①新座を月曜日・火曜日の連日開催にしても効果が薄いのではないかな。
- ②池袋で開催される前に新座で開催することで来客を増やすことが可能になるのではないかな。

(2) 2023年度のオープンキャンパス開催に向けてご意見

- ・予定されている模擬授業2つの他に、もう一つDLP用の模擬授業を実施したい。
- ・コロナ前に実施していたポスター発表を実施したい。
- ・オンデマンド動画を配信・掲載したい。
- ・学部独自のオンラインコンテンツも実施したい。
- ・学部独自のプログラムを行うかについては検討中です。
- ・学部説明・模擬授業以外の学部独自プログラムも実施したい。
- ・具体的に来年度に向けて協議したわけではないが、学部独自のプログラム、例えば、施設ツアーを実施したい。
- ・学部説明と模擬授業以外に学部独自のプログラムの実施を検討している。
- ・学部独自のオンラインコンテンツの作成を検討している。
- ・オンラインコンテンツ(たとえば動画)について、新たに作成することには消極的です。とくに本年度のような春休み中(2022年3月)の出演教員・出演学生募集には無理があったためです。ただし、これまでに作成した動画等が有効に活用できるのであれば使用することに反対はありません。
- ・日曜日の開催は難しいでしょうか。事務体制上のご負担が大きくなることは考慮しなけれ

ばなりません。最も効果が高いのは日曜日であるように思いますので、新座で日曜日開催できるのであれば期待したいところです。日曜日の開催が難しい場合、土曜日の開催を、池袋・新座で隔年で実施するというのはいかがでしょうか、という意見も出されました。

以上



立教大学 異文化コミュニケーション学部

College of Intercultural Communication
RIKKYO UNIVERSITY

Japanese

English

学部



学部案内

About Us

カリキュラム

Curriculum

教員・研究

Faculty & Research

海外留学

Study Abroad

キャリア

Career

キャンパスライフ

Campus Life

入学案内

Admissions

トピックス

Topics

SOLUTIONS IN DIVERSITY

「ちがひ」から、つくる。



トピックス

2022年度講演会・シンポジウム（開催情報）

トピックス

2023

2022

2021

2020

2019

2018

2017

2016

2015

2022年度講演会・シンポジウム（開催情報）

2023年2月19日

公開講演会

～言語と社会や文化をくつなぐ～：世界と切り結ぶ異文化コミュニケーション～

2022年10月14日（金）17:30～19:30 開催終了

「翻訳：実務者と研究者の関係を再考する」

詳細は[こちら](#)

2022年12月15日（木）18:00～19:40 開催終了

公開講演会「自分事として考えるロヒンギャ難民問題」

詳細は[こちら](#)

2023年2月18日（土）14:00～16:30 開催終了

公開講演会「演劇と抵抗：48/イスラエルでパレスチナ人のナラティヴを表現する取り組み」

詳細は[こちら](#)

キャリアシンポジウム

2022年10月29日（土）9:30～12:30

「問われる異文化コミュニケーションのカー国際協力×通訳・翻訳」

詳細は[こちら](#)

キャリア講演会

2023年1月21日（土）13:30～15:00

「グローバルに働いて何？～異文化体験のその先にあるキャリア～」

詳細は[こちら](#)

○サイトマップ

○お問い合わせ

○学生支援募金のお願い

○立教大学

立教大学 異文化コミュニケーション学部

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1 TEL：03-3985-4824

学部案内	カリキュラム	教員・研究	海外留学	キャリア	キャンパスライフ	入学案内
学部について 教育の特色	カリキュラム構成 Dual Language Pathway 取得できる資格（専門職への道） 授業紹介	教員紹介 教員インタビュー 学部紀要	多様な留学制度 留学レポート	キャリアサポート インタビュー	地域貢献 実践的な活動 学生生活 🔗 異文化コミュニケーション学部の学生団体	入試案内 🔗 5年一貫プログラム 奨学金 🔗 資料請求 🔗 オープンキャンパス 🔗 デジタルパンフレット 🔗

©2023 The College of Intercultural Communication, Rikkyo University

公開講演会「翻訳：実務者と研究者の関係を再考する」

異文化コミュニケーション学部 主催

使用言語：英語（通訳なし）

INFORMATION

 2022年10月14日（金）17:30～19:30

 池袋キャンパス マキムホール（15号館）2階 M202教室

公開講演会「翻訳：実務者と研究者の関係を再考する」

～学部公開講演会『言語と社会や文化をくつなぐ：世界と切り結ぶ異文化コミュニケーション』の一環として～

異文化コミュニケーション学部・研究科では、2016年度より通訳者・翻訳者を養成するカリキュラムを実施する一方、通訳翻訳研究分野で活発な研究活動を展開してきた。研究対象とする事象に自ら実践者として関与する研究者が大多数を占めるという特徴を持つ通訳翻訳研究（Translation and Interpreting Studies）では、「理論・研究と実践の架橋」が主題の一つとなってきた。翻訳理論家のチェスタマン（Andrew Chesterman）と欧州委員会翻訳者のワグナー（Emma Wagner）との対話に基づくCan Theory Help Translators?: A Dialogue Between the Ivory Tower and the Wordface（2002年）が刊行されて20年。機械翻訳の急速な展開やコロナ禍で加速したネット上のコミュニケーションの進展を背景とし、翻訳をとりまく環境は大きく変化した。翻訳の「民主化」、プロでない翻訳者（non-professional translators）、災害やパンデミックなどの危機に対応する翻訳（crisis translation）、機械翻訳と人手翻訳の関係などに注目が集まる中、翻訳の実務者コミュニティと研究者コミュニティの関係についてあらためて議論する機会を設ける。本講演会では、本学国際学術研究交流制度2022年度招へい研究員であるアンソニー・ピム教授（メルボルン大学）に、「翻訳者と研究者との『正しい』関係」についてお話しいただく。ピム教授は世界で最も影響力のある翻訳研究者の一人として、常に刺激的な議論を先導してきた。学生、研究者だけでなく、実務者、一般参加者にとっても、示唆に富む講演会になると考える。

講師

メルボルン大学言語・言語学部教授

Anthony Pym（アンソニー・ピム）氏

オーストラリア・パース出身。1985年、フランス・社会科学高等研究院（École des hautes études en sciences sociales）で社会学博士号を取得。現在、メルボルン大学言語・言語学部教授。元・欧州翻訳学会会長。世界で最も著名な翻訳研究者の一人。書籍・論文の引用件数の多さでも翻訳研究分野では比類のない存在。代表的著作として *Exploring Translation Theories*（2010/2014）（邦訳『翻訳理論の探究』）、*On Translator Ethics*（2012）、*Method in Translation History*（1998/2014）など。

詳細情報

名称

公開講演会「翻訳：実務者と研究者の関係を再考する」

内容

<プログラム>

17:30～19:00 アンソニー・ピム教授による講演

使用言語：英語（通訳なし）、後日ビデオ配信

「On the correct relation between translators and academics」

要旨：国際的に見て、現在、大学・大学院の翻訳通訳プログラム卒業生の3分の2は翻訳者・通訳者以外の仕事に従事している。また、世界で日々生み出される翻訳のうちプロ翻訳者によるものは1%に満たない。つまり、翻訳に関する論考から恩恵を受けるかもしれない人々はプロ翻訳者だけでなく広範囲に及ぶ可能性がある。こうした状況に留意した新たな角度から翻訳の歴史的・文化的側面を考察することで、研究者・実務者両方に恩恵をもたらす関係を築く道筋が模索できる。

19:00～19:30 質疑応答

使用言語：英語（通訳なし）

対象者

本学学生、教職員、校友、一般

申し込み

事前申し込み 不要

参加費 無料

主催

異文化コミュニケーション学部

お問い合わせ

学部事務4課 異文化コミュニケーション学部担当

E-mail:ibunkagakubu@rikkyo.ac.jp

TEL:[03-3985-4824](tel:03-3985-4824)

Copyright © Rikkyo University. All Rights Reserved.



RIKKYO'S SOCIAL MEDIA



公開講演会「自分事として考えるロヒンギャ難民問題」

異文化コミュニケーション学部 主催

事前申込要

INFORMATION



2022年12月15日（木）18:00～19:40



ハイブリッド型開催（対面・オンライン）

池袋キャンパス マキムホール（15号館）3階 M301教室

公開講演会「自分事として考えるロヒンギャ難民問題」

～学部公開講演会『言語と社会や文化をくつなぐ：世界と切り結ぶ異文化コミュニケーション』の一環として～

UNHCRによると、2022年、難民や国内避難民などの強制移動者数は1億人を突破し、過去70年間で最大となった。国民国家からの庇護を前提とした社会秩序から外れた人びとの不安や不満、厳しい生活状況を放置すれば、民族間・宗教間の断絶が深まり、国際社会全体が不安定化する恐れがあることから、複合的な難民研究の重要性が高まりを見せている。

日本においてもウクライナやアフガニスタンからの難民受け入れを巡り、難民制度や受入実施体制に関する議論が熱を帯びている。しかしながら一方で、日本の難民認定者数が極めて限られていることなどの理由から、実際に難民となって日本で暮らす人びとのストーリーを直に聞く機会は限られている。それゆえ、国際的には極めて大きな課題でありながら、日本では難民問題を身近な問題として捉えることが困難な状況が生まれている。

本公開講演会は、難民として日本に暮らす長谷川留理華氏をお招きし、ロヒンギャ難民を事例に、難民となった人びとが母国を離れ、第三国へとたどり着き、社会に適応するまでの軌跡を当事者の視点から論じ、日本の難民受入課題とともに理解を深めることを目的とする。また、日本の移民・難民研究を専門とする武庫川女子大学の加藤丈太郎氏の発表、および異文化コミュニケーション学部・研究科の学生らとの討論を通じて、どうすれば難民問題を日本社会が「自分事」として捉えることが可能になるのか、議論を深めたい。

講師

2023/03/15 14:48	公開講演会「自分事として考えるロヒンギャ難民問題」 立教大学
在日ロヒンギャ難民、ロヒンギャ語翻訳家、無国籍ネットワーク理事 長谷川 留理華 氏	
ミャンマー北西のラカイン州（アラカン）に生まれる。1992年に首都ヤンゴンに家族とともに移る。身の安全のためロヒンギャ民族であることを公にせずに生活を送る。2001年に度重なる迫害や差別から家族とともに来日。2013年に日本人となる。現在、在日ビルマ・ロヒンギャ協会、無国籍ネットワーク理事。ロヒンギャ語の翻訳等の業務を行うかたわら、早稲田大学、立教大学、上智大学、獨協大学等で講演。NHK ETV、OUTUBEの報道チャンネル等の番組に出演して自身の体験した社会問題を広く伝える活動を行っている。	
武庫川女子大学専任講師 加藤 丈太郎 氏	
1981年東京都生まれ。武庫川女子大学文学部英語文化学科専任講師。早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士後期課程修了。博士（学術）。専門は移民研究、国際労働移動、国際社会学、多文化共生論。2017年3月までNGOにおいて非正規移民に在留資格を求める活動に従事。2017年4月に研究の道に転じ、現在は主にベトナムから日本への国際労働移動による日本・ベトナム社会への影響を研究している。また、大学生と共に国際移動・多文化共生のあり方を考えている。主な著作に、『日本の非正規移民―「不法性」はいかにつくられ維持されるか』（単著、2022、明石書店）、『多文化共生 人が変わる、社会を変える』（共著、2018年、凡人社）『ロヒンギャ問題とは何か——難民になれない難民』（日下部尚徳・石川和雅編著、第6章分担執筆、2019、明石書店）がある。	
本学異文化コミュニケーション学部4年次 リュウ イオギ（LIU YIDI）さん	
本学大学院異文化コミュニケーション研究科博士課程前期課程2年次 川野 優希 さん	

詳細情報

名称

公開講演会「自分事として考えるロヒンギャ難民問題」

内容

＜プログラム＞
18:00～18:15
ロヒンギャ難民問題の概要説明ークーデター以降の動向も踏まえてー
（日下部尚徳）
18:15～18:45
ミャンマーの少数民族ロヒンギャとして生まれたわたしが日本で生きて、今語りたいことーいじめと差別を乗り越えてー（長谷川留理華氏）
18:45～19:10
移民・難民との共生に向けてー私たちにできることを考えるー（加藤丈太郎氏）
19:10～19:25
異文化コミュニケーション学部・研究科の学生との討論

19:25～19:40

質疑応答

対象者

本学学生、教職員、校友、一般

申し込み

事前申し込み 必要

参加費 無料

以下のwebサイトよりお申し込みください。

→ [申込みはこちら](#) 

主催

異文化コミュニケーション学部

お問い合わせ

学部事務4課 異文化コミュニケーション学部担当

E-mail:ibunkagakubu@rikkyo.ac.jp

TEL:[03-3985-4824](tel:03-3985-4824)

開室時間：平日9:00～17:00、土曜9:00～12:30

Copyright © Rikkyo University. All Rights Reserved.



RIKKYO'S SOCIAL MEDIA    

公開シンポジウム「演劇と抵抗：48/イスラエルでパレスチナ人のナラティヴを表現する取り組み」

科学研究費学術変革領域研究(A)「紛争影響地域における信頼・平和構築」主催

使用言語：英語（通訳あり） 事前申込要

INFORMATION

 2023年2月18日（土）14:00～16:30（13:30開場）

 池袋キャンパス 5号館1階 5125教室

イスラエル国内で、パレスチナ人のナラティヴをどうしたら語ることができるのか。テルアヴィヴを拠点に活動する劇作家で俳優のエイナット・ヴァイツマン氏をゲストに迎え、演劇を通してパレスチナ人の声をイスラエル社会に響かせる活動を事例に考える。エイナット氏は、「パレスチナ・イヤーゼロ（Palestine, Year Zero）」（2016年）や「占領の囚人たち（Prisoners of the Occupation）」（2019年）、「革命の作り方（How to Make a Revolution）」（2021～22年）など、イスラエル軍によるパレスチナ自治区への軍事侵攻や、パレスチナ人政治囚、イスラエルとパレスチナ自治政府の治安協力をテーマとした演劇を精力的に発表してきた。また、イスラエル南部ネゲヴのベドウィンの村で、アートを通じた人権活動にも関与している。パレスチナ／イスラエルを舞台に、芸術を通して紛争を語り、社会を変えようとする活動について、講演と対談により報告する。

講師

劇作家、俳優、人権活動家

エイナット・ヴァイツマン（Einat Weizman）氏

1973年生まれ。イスラエルのテルアヴィヴを拠点に、イスラエル社会で顧みられることが稀な社会問題を演劇活動のなかで扱う。演者としてイスラエル国内の映画やテレビで活動するにとどまらず、パレスチナ人の人権状況を扱った演劇を多数演

2023/03/15 14:48

公開シンポジウム「演劇と抵抗：48/イスラエルでパレスチナ人のナラティヴを表現する取り組み」 | 立教大学

出。2017年には演出作『パレスチナ・イヤーゼロ』が東京でも上演された。テルアヴィヴ大学で修士号取得、大学等で演劇のコースも担当し、2022年11月イスラエル総選挙ではアラブ系政党バラドからリスト第6位で出馬。「占領の囚人たち」は、2023年2月17日から26日まで、東京下北沢の「劇」小劇場で上演される。

通訳者

日英アラビア語通訳者・翻訳者

渡辺 真帆 氏

東京外国語大学アラビア語専攻卒。パレスチナ・ヨルダン川西岸地区ビールゼイト大学留学。2016年よりフリーランスで通訳を行う。芸術・文化交流・学術イベント等の通訳実績多数。エイナット・ヴァイツマン作の演劇作品『パレスチナ、イヤーゼロ』『占領の囚人達』翻訳。

詳細情報

名称

公開シンポジウム「演劇と抵抗：48/イスラエルでパレスチナ人のナラティヴを表現する取り組み」

対象者

本学学生、教職員、校友、一般

申し込み

事前申し込み 必要

参加費 無料

【定員】

60名

以下のwebサイトよりお申し込みください。

→ [申込みはこちら](#)

主催

科学研究費学術変革領域研究（A）「紛争影響地域における信頼・平和構築」

共催

異文化コミュニケーション学部

備考

→ [イスラーム信頼学](#)

お問い合わせ

アジア地域研究所所長、異文化コミュニケーション学部教授
石井 正子

E-mail:masang@rikkyo.ac.jp

Copyright © Rikkyo University. All Rights Reserved.



RIKKYO'S SOCIAL MEDIA



特外生イベント実施報告（細田学園高校との共同イベント）

イベント名：International Exchange Event with High School Students

日時：2023 年 1 月 20 日（金）17:00～18:30

場所：立教大学池袋キャンパス 5209、5210 教室

参加者：立教 7 名（内特外生 5 名（学部間 4 名・大学間 1 名））

細田学園 34 名（生徒 32 名、引率教員 2 名）



当日の流れ

16:50	集合@校門前
17:00	スタート 全体へ挨拶
17:05	グループ分け
17:10	自己紹介（ネームプレートづくり）
17:30	ゲーム開始（A風船パレー Bカードゲーム）
17:55	交代（Aカードゲーム B風船パレー）
18:20	ゲーム終了 全体へ挨拶 アンケートお願いする 終わり次第机等の片付け（全員）
18:30	解散

ゲームについて

7グループに分かれてゲームを行います。
「※1グループにつき細田生3～5人、留学生1人」
グループはこちらで決めてあります。

日本人の学生さんもしらっしゃいます。
安心して失敗を恐れずに積極的に
会話、意思疎通をしてみてください。

★イベント前またはイベント最中に何か困ったこと、
質問などがあれば遠慮なくこちらまでお願いします!!
※ 2・1階 2・2話川、保原 2・6号（当日はネームプレートつけてます!!）

○資料 40 日本企業のグローバル戦略に関する研究

(独立行政法人労働政策研究・研修機構 (190329)) 【抜粋】

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 40

2 出典

独立行政法人労働政策研究・研修機構ウェブサイト

3 書類等の利用範囲

調査シリーズ No. 190 日本企業のグローバル戦略に関する研究 (P1, 28, 47, 90 等)

<https://www.jil.go.jp/institute/research/2019/190.html>

4 その他の説明

異文化コミュニケーション学部 of 教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

○資料 41 日本企業のグローバル戦略に関する研究（2）

（独立行政法人労働政策研究・研修機構（200307））【抜粋】

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 41

2 出典

独立行政法人労働政策研究・研修機構ウェブサイト

3 書類等の利用範囲

資料シリーズ No. 229 日本企業のグローバル戦略に関する研究（2）（P5, 23～25 等）

<https://www.jil.go.jp/institute/siryo/2020/229.html>

4 その他の説明

異文化コミュニケーション学部 of 教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

○資料 42 2021 年度日本企業の海外事業展開に関するアンケート調査（JETRO）【抜粋】

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 42

2 出典

独立行政法人日本貿易振興機構ウェブサイト

3 書類等の利用範囲

[報告書版] 2021 年度ジェトロ海外ビジネス調査 日本企業の海外事業展開に関するアンケート調査
(P2, 15, 21 等)

https://www.jetro.go.jp/ext_images/_Reports/01/12f5036312ce9e76/20210064rev2.pdf

4 その他の説明

異文化コミュニケーション学部 of 教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

○資料 43 人手不足に対する企業の動向調査（2022 年 10 月）

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 43

2 出典

TDB Economic Online

3 書類等の利用範囲

人手不足に対する企業の動向調査（2022 年 10 月）

<https://www.tdb-di.com/special-planning-survey/sp20221130.php>

4 その他の説明

異文化コミュニケーション学部 of 教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

○資料 44 日経新聞記事（2022 年 10 月 21 日）

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 44

2 出典

日経新聞（2022 年 10 月 21 日）

3 書類等の利用範囲

記事見出し「宿泊・飲食の人手不足 深刻」

4 その他の説明

異文化コミュニケーション学部 of 教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

○資料 45 人手不足に対する企業の動向調査（東京都）

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 45

2 出典

TDB Economic Online

3 書類等の利用範囲

人手不足に対する企業の動向調査（東京都）

https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/s180301_98.pdf

4 その他の説明

異文化コミュニケーション学部 of 教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

○資料 46 観光関連産業の需要回復に向けた人材確保支援（東京都）

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 46

2 出典

東京都ウェブサイト

3 書類等の利用範囲

報道発表資料『新規事業「観光関連産業の需要回復に向けた人材確保支援事業」を実施します』

<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2022/12/15/11.html>

4 その他の説明

異文化コミュニケーション学部 of 教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

○資料 47 東京グローバル人材育成指針（東京都教育委員会）（令和 4 年 3 月）（抜粋）

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 47

2 出典

東京都ウェブサイト

3 書類等の利用範囲

東京グローバル人材育成指針（東京都教育委員会）（令和 4 年 3 月）（P2, 3, 6～8 等）

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/administration/general/regular_meeting/2022/files/announcement20220322/04_2.pdf

4 その他の説明

異文化コミュニケーション学部 of 教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

○資料 48 公立学校教員採用候補者選考結果（東京都）

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 48

2 出典

東京都ウェブサイト

3 書類等の利用範囲

報道発表資料『令和 4 年度東京都公立学校教員採用候補者選考（5 年度採用）の結果について』

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/administration/general/regular_meeting/2022/files/announcement20220322/04_2.pdf

4 その他の説明

異文化コミュニケーション学部 of 教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

○資料 49 教員確保策充実の方向性について（東京都教育委員会）

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 49

2 出典

東京都ウェブサイト

3 書類等の利用範囲

報道発表資料『教員確保策充実の方向性について』

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/press/press_release/2023/files/release20230112_02/bessi.pdf

4 その他の説明

異文化コミュニケーション学部 of 教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

資料 50 学位授与の方針の学修成果と

「東京グローバル人材育成方針」が掲げる「4つの TARGET」との関係

学位授与の方針の学修成果	「東京グローバル人材育成方針」が掲げる 「4つの TARGET」
①論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。	2 国内外の課題を解決する創造的・論理的思考力の育成 3 世界の中の一員としての自覚と自己の確立
②自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。	3 世界の中の一員としての自覚と自己の確立 4 多文化共生の精神の涵養と協働する力の育成
③グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。	1 主体的に学び続ける態度と総合的な英語力の育成
④多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、それを踏まえて行動することができる。	1 主体的に学び続ける態度と総合的な英語力の育成 4 多文化共生の精神の涵養と協働する力の育成
⑤日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	3 世界の中の一員としての自覚と自己の確立 4 多文化共生の精神の涵養と協働する力の育成
⑥異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	2 国内外の課題を解決する創造的・論理的思考力の育成 4 多文化共生の精神の涵養と協働する力の育成
⑦教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	3 世界の中の一員としての自覚と自己の確立
⑧文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。	3 世界の中の一員としての自覚と自己の確立 4 多文化共生の精神の涵養と協働する力の育成

○資料 51 外国人留学生の就職関係（文部科学省）

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 50

2 出典

東京都ウェブサイト

3 書類等の利用範囲

外国人留学生の就職関係

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1370919.htm

4 その他の説明

異文化コミュニケーション学部 of 教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

○資料 52 新輸出大国コンソーシアム事業 高度外国人材活用資料集（JETRO）（抜粋）

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 52

2 出典

独立行政法人日本貿易振興機構ウェブサイト

3 書類等の利用範囲

高度外国人材活用資料集（P2, 4 等）

https://www.jetro.go.jp/ext_images/theme/hr/data/data.pdf

4 その他の説明

異文化コミュニケーション学部 of 教育研究上の目的が、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを説明するために、上記資料を引用した。

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	ニシハラ レンタ 西原 廉太 ＜令和3年4月1日＞	61	博士 (神学)		立教大学学長 (令和3.4～令和7.3)